岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 62

蓮池尻遺跡
新庄尾上遺跡ほか
美野条里遺跡
二反田B遺跡ほか

昭和60年度圃場整備事業に
伴う確認調査

1986年3月

岡山県教育委員会

序

本報告書には、圃場整備事業実施計画に伴う蓮池尻遺跡（真備町）、新庄尾上遺跡ほか（御津町）、美野条里遺跡（勝央町）、二反田B遺跡ほか（鏡野町）の確認調査結果を収載しました。

これらの確認調査は、いずれも圃場整備事業の実施に先だって埋蔵文化財の保護、保存の資料を得て、圃場整備事業との調整を図るため、昭和60年度国庫補助事業として行われたものであります。

調査の結果、蓮池尻遺跡では縄文時代後期と弥生時代中期から中世までの集落址約28haを、新庄尾上遺跡ほかでは弥生時代中期から中世までの集落址約4.7haを、美野条里遺跡では約30haを、二反田B遺跡ほかでは弥生時代中期から中世までの集落址約5.4haを確認することができました。

これらの成果を収めた本報告書が、文化財の保護、保存のために活用され、また、地域の歴史を研究する資料として役立てていただければ幸いと存じます。

最後に、発掘調査ならびに報告書の作成にあたって、岡山県文化財保護審議委員をはじめ、関係の町教育委員会および同文化財保護審議委員ならびに土地所有者等関係各位から賜りました多大な御指導と御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和61年３月

岡山県教育委員会

教育長　宮　地　暢　夫

蓮池尻遺跡

例　言

1．本報告書は岡山県教育委員会が昭和60年度国庫補助を受けて実施した妹・尾崎地区（真備町）県営圃場整備事業に伴う「蓮池尻遺跡（はすいけじり）」の確認発掘調査の成果を収載したものである。

2．遺跡は吉備郡真備町大字妹字蓮池に所在する。

3．現地調査は、専門委員の指導・助言のもとに、岡山県古代吉備文化財センター職員高畑知功が担当し、昭和60年11月21日から昭和61年２月３日まで実施した。なお、真備町教育委員会、真備町産業課より援助を受けた。

4．本報告書の執筆、編集は高畑知功が行い、遺物写真は古代吉備文化財センター職員井上　弘が撮影した。

5．本報告書の作成は昭和61年２月に、古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－３）にて行い、遺物、記録類は同所に保管している。

6．本報告書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は第１図から第５・８・９・51図が真北、他は磁北である。

7．本報告書第２図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図（箭田）を複製したものである。

8．本報告書の図版22に使用した写真は東京国立博物館の提供によるものである。

目　　次

序

例　言

目　次

第１章　地理的、歴史的環境 …… 7

第２章　調査の経緯 …… 9

第３章　発掘調査の概要 …… 12

　第１節　遺跡の位置 …… 12

　第２節　調査の方法と概要 …… 12

第４章　まとめ …… 36

図　目　次

第１図　蓮池尻遺跡位置図…… 7
第２図　周辺遺跡分布図（１／25,000）… 8
第３図　調査区小字名……11
第４図　妹地区トレンチ位置図
　（１／10,000）……11
第５図　大武谷川周辺微高地・遺跡想定区
　（１／500）……13
第６図　油田地区Ｔ－28出土遺物(1／4)…14
第７図　油田地区Ｔ－26出土遺物(1／3)…15
第８図　背谷川周辺微高地・遺跡想定図
　（１／500）……16
第９図　蓮池の樋想定位置図(1／3,000)…17
第10図　蓮池Ｔ－52(1／80) ……18
第11図　蓮池Ｔ－51(1／80) ……18
第12図　蓮池Ｔ－50(1／80) ……18
第13図　蓮池Ｔ－51(1／80) ……18
第14図　蓮池地区Ｔ－51出土遺物(1／4)…19
第15図　蓮池地区Ｔ－51出土遺物(1／4)…20
第16図　市場Ｔ－１(1／60) ……21
第17図　新郷Ｔ－３(1／60) ……21
第18図　渡りＴ－６(1／60) ……21
第19図　渡りＴ－９(1／60) ……22
第20図　夜出Ｔ－22(1／60) ……22
第21図　退りＴ－25(1／60) ……22
第22図　退りＴ－26(1／60) ……23
第23図　油田Ｔ－27(1／60) ……23
第24図　油田Ｔ－28(1／60) ……23
第25図　寺前Ｔ－30(1／60) ……24
第26図　浜Ｔ－32(1／60) ……24
第27図　皿田Ｔ－41(1／60) ……24
第28図　蓮池Ｔ－96(1／60) ……25
第29図　殿田Ｔ－43(1／60) ……25
第30図　竹西Ｔ－44(1／60) ……25
第31図　竹西Ｔ－45(1／60) ……26
第32図　蓮池Ｔ－46(1／60) ……26
第33図　蓮池Ｔ－47(1／60) ……26
第34図　蓮池Ｔ－48(1／60) ……27
第35図　蓮池Ｔ－49(1／60) ……27
第36図　蓮池Ｔ－53(1／60) ……27
第37図　沖田Ｔ－62(1／60) ……28
第38図　池熊Ｔ－75(1／60) ……28
第39図　池熊Ｔ－76(1／60) ……28
第40図　沖田Ｔ－78(1／60) ……29
第41図　油田Ｔ－80(1／60) ……29
第42図　殿田Ｔ－84(1／60) ……29
第43図　殿田Ｔ－85(1／60) ……30
第44図　寺前Ｔ－86(1／60) ……30
第45図　渡りＴ－88(1／60) ……30
第46図　蓮池Ｔ－95(1／60) ……31
第47図　沖田Ｔ－100(１／60) ……31
第48図　皿田Ｔ－101(１／60) ……31
第49図　トレンチ出土遺物(1／4)……32
第50図　トレンチ出土遺物(1／4)……33
第51図　妹・尾崎地区遺跡想定図
　（１／10,000）……37

図　版　目　次

図版1　1．吉備郡真備町大字妹・尾崎地区空中写真(1／20,000)
図版2　1．妹地区の条里（南から）
　　2．妹地区の条里（北から）
図版3　1．渡り、西代地区（北東から）
　　2．油田地区（東から）
図版4　1．殿田、蓮池、池熊地区（西南西から）
　　2．浜、松本、鶏田、中山地区（南西から）
図版5　1．寺前地区（東から）
　　2．沖田地区（南々西から）
図版6　1．蓮池地区（北々東から）
　　2．皿田地区（南西から）
図版7　1．油田地区T－28土層断面（南西から）
　　2．池熊地区T－75出土土壙（南々西から）
図版8　1．蓮池地区T－51溝内遺物出土状況（南から）
　　2．蓮池地区T－51柱穴掘り方内遺物出土状況（南から）
図版9　1．蓮池地区T－51溝内遺物出土状況（東北東から）
　　2．蓮池地区T－51溝、柱穴完掘状況（東から）
図版10　1．市場T－1（南から）
　　2．新郷T－2（北から）
　　3．新郷T－3（西から）
　　4．西代T－4（北西から）
　　5．渡りT－7（南西から）
　　6．岩崎T－8（西から）
　　7．渡りT－9（南から）
　　8．渡りT－10（南東から）
図版11　1．郷ノ木T－11（南西から）
　　2．宮地T－14（南西から）
　　3．寺坂T－15（北西から）
　　4．布引T－16（南東から）
　　5．夜出T－19（北から）
　　6．夜出T－20（南々東から）
　　7　夜出T－21（北東から）
　　8．夜出T－22（北から）
図版12　1．夜出T－23（南から）
　　2．磯柳T－24（西北西から）
　　3．退りT－25（南東から）
　　4．退りT－26（南西から）
　　5．油田T－27（南東から）
　　6．油田T－28（北東から）
　　7．寺前T－30（南東から）
　　8．浜T－31（南西から）
図版13　1．浜T－32（北西から）
　　2．浜T－33（南東から）
　　3　松本T－34（東南東から）
　　4．松本T－35（南東から）
　　5．松本T－36（東南東から）
　　6．中山T－38（東南東から）
　　7．皿田T－41（北西から）
　　8．皿田T－42（南東から）
図版14　1．殿田T－43（東から）
　　2．竹西T－44（南東から）
　　3．竹西T－45（南東から）
　　4．蓮池T－46（南東から）
　　5．蓮池T－47（南西から）
　　6．蓮池T－48（南東から）
　　7．蓮池T－50（西南西から）
　　8．蓮池T－51（南から）
図版15　1．蓮池T－52（西南西から）
　　2．蓮池T－55（西南西から）
　　3．杉T－58（北々西から）
　　4．込山T－59（南西から）
　　5．沖田T－62（南東から）
　　6．尾崎・丸田T－65（南西から）
　　7．尾崎・丸田T－66（南西から）
　　8．尾崎・丸田T－67（北東から）
図版16　1．尾崎・内山T－68（北から）
　　2．尾崎・内山T－69（北から）
　　3．内山T－71（南西から）
　　4．渡りT－72（南西から）
　　5．渡りT－73（南々西から）
　　6．渡りT－74（北西から）
　　7．池熊T－75（西から）
　　8　池熊T－76（南東から）
図版17　1　沖田T－78（南東から）
　　2．沖田T－79（南々西から）
　　3．油田T－80（西から）
　　4．油田T－81（北西から）
　　5．油田T－83（南西から）
　　6．殿田T－84（北々東から）
　　7．殿田T－84（東南東から）
　　8．殿田T－85（南西から）
図版18　1．寺前T－86（南西から）
　　2．妹・内山T－87（南西から）
　　3．渡りT－88（北西から）
　　4　渡りT－89（北西から）
　　5　渡りT－90（南東から）
　　6．渡りT－91（南東から）
　　7．皿田T－94（南東から）
　　8．池熊T－98（南東から）
図版19　1．蓮池T－95（北東から）
　　2　蓮池T－96（北東から）
　　3．池熊T－97（南西から）
　　4．池熊T－98（南西から）
　　5．竹西T－99（南東から）
　　6　皿田T－101(北東から）
　　7．蓮池T－51（南東から）
　　8　磯柳T－24（西南西から）
図版20　1．池熊T－76出土遺物
　　2．蓮池T－51出土遺物
図版21　1．蓮池T－51・油田T－28出土遺物
　　2．退りT－26出土遺物
図版22　1．吉備郡真備町大字妹字蓮池出土銅鐸（大正四年出土）

表　目　次

表－1　トレンチ調査一覧表 …… 34

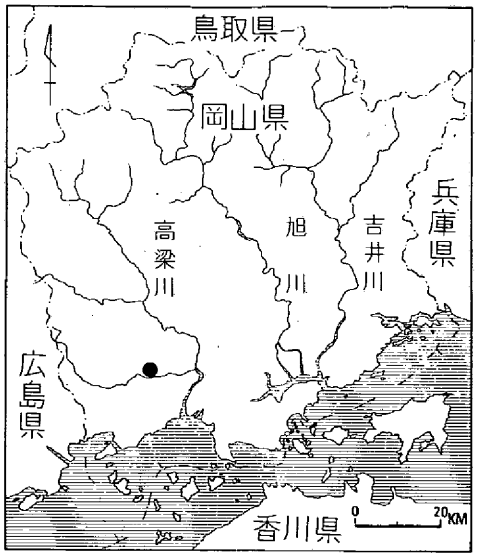
第１章　地理的・歴史的環境

遺跡の所在する吉備郡真備町は岡山県の南西部に位置する。吉備真備公以前、下道氏の氏寺として建立されたと考えられている吉備寺の所在する箭田を中心として、東西に幅約8.7㎞で南北に幅約7.8㎞、横に長い形状を呈し、２市３町に接している。高梁川を境として清音村に接し、西は鷲峰山を境として矢掛町、南は弥高山、大平山、愛宕山を境として倉敷市と船穂町、北は高山で総社市と接している。

これらの山塊より流出する大武谷川、背谷川、内山谷川、真谷川、末政川等の支流をまとめて町内ほぼ中位部を東西に貫流する小田川は、東流して高梁川に注いでいる。

小田川を中心とする沖積作用によってできた平野と、各支流の扇状堆積による低地が西より東に行くにしたがい広がっており、妹、尾崎、服部、箭田、有井、下二万、辻田等がそれにあたる。これらの低地は現在も大部分が田圃に利用されており、集落は丘陵裾部に集中している。

高梁川に合流する小田川下流域の地を占める真備町は、古代吉備の中心的な地域である総社平野の西端部に位置し、古代文化の中枢域の一角を占める。そこで、真備町内の遺跡を昭和50年３月発行の岡山県遺跡地図から抽出すると、総数180か所を数えることができる。町内では今回の確認調査まで、旧石器・縄文時代の遺構・遺物は発見されておらず、弥生時代前期についても同様であった。弥生時代中期以後の遺物は若干であるが確認されており、なかでも妹の平野部出土の突線鈕の突線六区流水文銅鐸は著名である。高さ48.6㎝、身高34.6㎝、重量4.681㎏をはかる。弥生時代中・後期の表面観察による遺跡の分布範囲は町内４つの地域を中心にまとまりを見せている。小田川右岸の下二万の周辺３か所、末政川上流の市場・岡田で４か所、高馬川両岸の箭田で３か所、妹・尾崎で３か所の計13か所である。この分布は弥生時代終末期の特殊器台を使用した墳墓の分布とも比較的合致する分布傾向を示し、市場では立坂遺跡、箭田では特殊器台転用の土器棺を出土した西山遺跡、妹・尾崎では前方後方形の黒宮大塚が所在する。

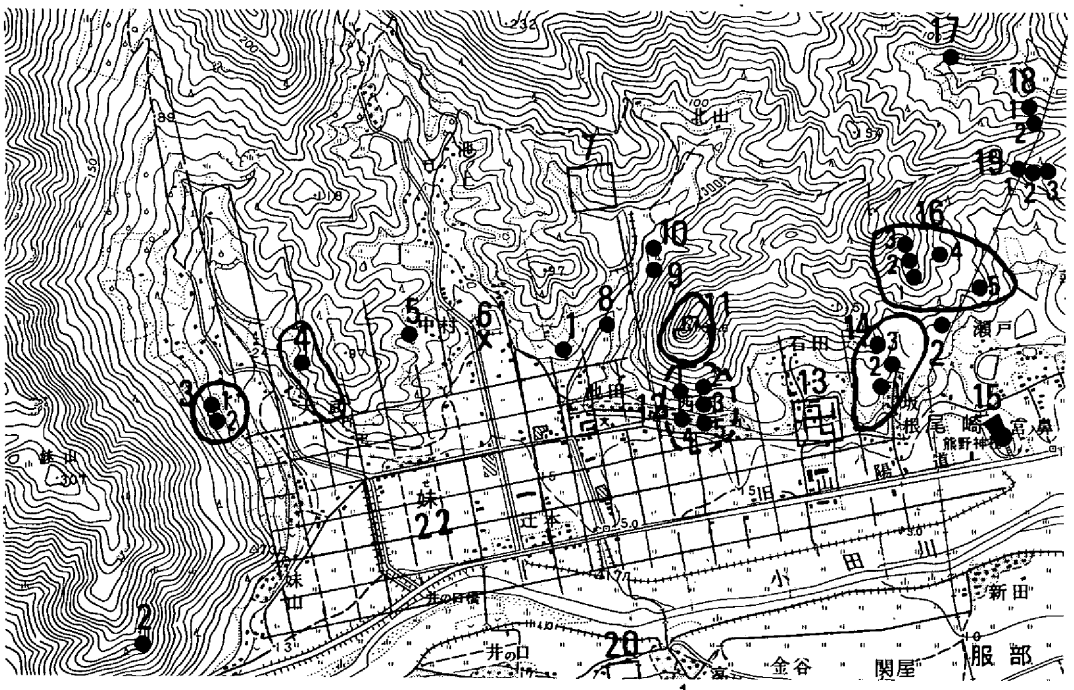


第１図　蓮池尻遺跡位置図

古墳時代で前半期古墳は明確化しえず、数基の方墳が有井・下二万等に分布しているようで

ある。その後の小規模な円墳で内部主体に竪穴式石室、組合箱式石棺等を有する一群は妹・箭田・岡田・下二万に数基づつ点在している。5世紀末～6世紀を前後する時期には下二万に比較的短い前方部をつけた全長約45ｍの天狗山古墳があらわれており、小田川・高梁川の合流点南側に位置する南山丘陵の重要性を示唆している。そこより西方に約1㎞の所に二万大塚が所在する。全長約45ｍをはかり、よく開いた前方部を斜面上部方向に配し、典型的な後期の前方後円墳の形状を呈している。内部主体は横穴式石室が記録されている。ついで小田川左岸に巨大な横穴式石室を有する箭田大塚古墳が忽然と出現する。造出し付きの円墳であり、全長約50ｍ、墳高約9.5ｍ、石室全長19.1ｍ、玄室長8.4ｍ、玄室幅3ｍ、玄室高3.8ｍをはかり、玄室内に三基の組合せ石棺が残る。総社市三須こうもり塚古墳と並んで全国的にも屈指の規模を誇る。玄室長はこうもり塚をうわまわるものである。小規模な横穴式石室墳は町内ほぼ全域に分布し、その総数約80基以上を数える。末政川を囲む市場南北の丘陵部、および箭田、尾崎に集中分布する傾向がうかがえる。

奈良時代では小田川北岸に吉備寺址、岡田廃寺、南岸に八高廃寺等が2.5㎞間の狭い範囲内に建立されている。今回の調査対象地は八高廃寺の対岸の妹・尾高の平野部がそれにあたる。



第2図　周辺遺跡分布図（$\frac{1}{25,000}$）

1. 内山の装飾須恵器出土地
2. 妹山祭祀遺跡
3. 郷木古墳群(古墳後期)
4. 油田古墳群(古墳後期)
5. 古墳（箱式石棺）
6. 蓮池尻遺跡(弥生)
7. 呉妹廃寺(平安)
8. 内山古墳(古墳後期)
9. 内山池東古墳
10. 内山池東古墳(古墳後期)
11. 鳥ケ岳城跡
12. 西開古墳群(古墳後期)
13. 高徳型(平安～中世)室町？
14. 坂根古墳群(古墳後期)
15. 黒宮大塚(弥生)
16. 瀬戸古墳群
17. 高馬古墳(古墳後期)
18. 矢砂大池古墳(古墳後期)
19. 向坂古墳群(古墳後期)
20. 八高廃寺(白鳳)
21. 「矢田部益足買地券」刻字博推定出土地
22. 妹・尾崎の条里遺構

第2章　調査の経緯

昭和59年9月28日付けで倉敷地方振興局長より、文化財保護法第57条の3の規定にもとづき協議がなされた。

内容は、昭和60年度より昭和65年度終了予定にて真備町妹農地部分（72ha）の区画整理を目的とする県営圃場整備事業を実施するにあたり、農地内に含まれる旧山陽道、条里制跡、銅鐸出土地（蓮池尻遺跡）の取扱いについてである。

岡山県教育委員会は工事施行前に遺跡の規模・性格等を明らかにして、遺跡の保護・保存を講ずる基礎資料を得るため、昭和60年度国庫補助を受けて発掘調査を実施するに至る。

発掘調査は岡山県文化財保護審議会・専門委員の指導、助言を得て岡山県古代吉備文化財センターが昭和60年11月21日から昭和61年2月3日まで実施した。調査にあたっては真備町教育委員会、真備町建設産業部産業課をはじめ地権者等関係各位には多大のご協力を得た。また、発掘作業にあたっては地元有志の方々にご協力を得た。記して厚くお礼申し上げます。

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　松元昭憲（昭和60年12月15日まで）

　　高橋誠記（昭和60年12月16日から）

次　　長　　橋本泰夫

総務課長　　佐々木　清

調査課長　　河本　清

文化財保護主任　　高畑知功（調査担当）

発掘作業員

阿部五六、石井　勇、井上貞恵、片岡幾男、門野元一、木村武夫、木村静夫、竹下いとの、竹下正迅、竹下政美、竹下美代吉、武本忠一、服部弘恵、水川四郎、山下孝恵

報告書作成協力者

佐野公子、竹本聡美、前原節子

日誌抄

昭和60年

11月21日（木）　器材搬入。

22日（金）　現地確認とトレンチ位置を設定。地権者、関係各位に挨拶。

25日（月）　T－1～3掘開〃始終了。

26日（火）　T－1～3・5写真撮影。T－4～9掘り下げ、完掘途中。

27日（水）　T－4・6・10写真撮影。T－11・12・13掘り下げ開始。T－1・2・3断面実測。

28日（木）　T－11・12・13・14・15掘り下げ。T－9遺物検出、写真撮影。

29日（金）　T－8・11・12・13・14・15・16写真撮影。T－19～29設定。T－14・16・17・18・24完掘。T－20・23掘開〃始。

12月2日（月）　T－19～23・24完掘。T－19～24写真撮影。T－26・27掘開〃始。T－30～36設定。T－6・8実測。

3日（火）　T－25～29・31掘開終了。T－26陶馬出土する。T－28～31掘開〃始。T－37～40設定。T－22実測。

4日（水）　T－24～28写真撮影。T－30・32掘り下げ。

5日（木）　T－41～45設定。T－30・32～35掘開終了。T－38～40掘開〃始。

6日（金）　T－28実測追加、写真撮影、分層による遺物取上げ。T－30写真撮影。T－31～36壁清掃。T－39・40溝出土。T－37・38・42掘り下げ。

9日（月）　T－46～54まで設定。T－37・38・41～43壁仕上げ。T－41・43～46掘開〃始。T－31～38写真撮影。本日背谷川をこしてT－44・45と進む。

10日（火）　T－55～60設定。T－31～33・35・41・42実測。T－46～48・50・54掘開終了。T－44・45・46壁仕上げ。T－38・41～46写真撮影。銅鐸出土地区に入る。

11日（水）　T－43～47実測。T－48・49・52～54掘開終了。T－51掘開〃始、遺物出土。T－47・48・50写真撮影。

12日（木）　T－51掘り下げ。T－49・52・53壁面実測。T－52写真撮影。

16日（月）　T－61・62設定。T－55・56・58掘開〃始。T－59・61開始。T－51包含層掘り下げ。

17日（火）　T－63～68設定する。T－51黒色土掘り下げ。写真撮影。T－59・61・62掘開終了。

18日（水）　本日にて一応トレンチ73本を設定し終る。掘開は64本が終了している。実測は50本、写真撮影もしかり。T－70～73設定。T－60・64・68・70掘開終了。T－69・73掘開〃始。T－51掘り下げ遺物検出。T－50・52実測。T－55・58・59・60写真撮影。

19日（木）　T－51に集中。黒色土除去、溝検出、写真撮影。T－48実測終了。油田地区写真撮影。

20日（金）　T－71～73掘開終了。T－51写真撮影。T－65～67掘開〃始。T－59～63実測。T－62写真撮影。

23日（月）　T－65・67掘開終了。T－68～73削り、写真撮影。T－51北側トレンチ掘開。夜出より埋め戻し開始。

24日（火）　T74・65～67写真撮影。T－75・76掘開終了。T－19・23埋め戻し。T－68・69・72・73実測。

25日（水）　妹山地区の埋め戻しに入る。T－75削り出し、土壙・柱穴検出。T－76掘り下げ、実測、写真撮影。T－61実測終了。T－77掘り下げ。T－78設定掘り下げ開始。

26日（木）　埋め戻し。T－77掘開終了。実測、写真撮影。T－78掘開〃始。

昭和61年

1月6日（月）　大武池下より埋め戻し開始。T－78掘り下げ、高台付杯等出土。大武、油田地区周辺トレンチ設定。午前中産業課へ、計15トレンチを掘開の主旨を伝える。油田地区にT－80～83を設定。

7日（火）　T－78柱穴掘り下げ。T－78の南小トレンチ。T－11・13・25・26埋め戻し。T－84掘開、写真、実測終了。

8日（水）　T－29より埋め戻し。

9日（木）　T－87掘開、写真、実測終了。T－30・10・7埋め戻し終了。文化財審議委員の現場視察。埋め戻し、大武谷川を越えて左岸にくる。

13日（月）　T－80・81・82掘り下げ、写真撮影、実測終了。T－31～36埋め戻し。

16日（木）　T－36～39・43・82・84・85埋め戻し。T－51実測、遺物取り上げ終了。

17日（金）　T－40～45・63・75・79埋め戻し。T－51清掃、写真撮影、実測補足終了。

20日（月）　T－46・47・48・50・52・62・64・77・78埋め戻し。

21日（火）　T－48・49・51・52・80埋め戻し。

22日（水）　T－53～54埋め戻し。T－83掘開。平野部の地形略図終了。

23日（木）　T－56～61・68～73・76・87埋め戻し。

24日（金）　T－88～99まで設定。T－65～67・83埋め戻し。T－88～90開始。

27日（月）　T－88～92・96埋め戻し終了。T－94・95埋め戻し途中。T－93～98まで設定。

28日（火）　T－94・95・97～101掘開終了。T－86・93・94実測、写真撮影。

29日（水）　T－95～101実測、写真撮影終了。大武よりT－94まで埋め戻し。

30日（木）　T－93より東に埋め戻し。T－102設定。大武、妹山地区より田面レベルを入れる。

31日（金）　T－101埋め戻し。T－102掘開、写真撮影。

2月3日（月）　現場器材撤収。報告書作成に入る。

蓮池尻遺跡
第3図　調査区小字名
第4図　妹地区トレンチ位置図（1/10,000）
0
100
200
300
400
500

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の位置

遺跡は吉備郡真備町大字妹小字蓮池、大字尾崎に所在する。小田川の北岸に形成された沖積地と山麓および南流する大武谷・背谷・内山谷川の扇状地からなり、従来より銅鐸出土地として周知されていた蓮池尻遺跡も含まれている。他に旧山陽道、条里遺構等の存在が古くから取り上げられていた地域でもある。

東西、北面に山々を控え、南面に小田川を望む約1.4×1.3㎞の三角形状の広大な平野、および大武谷川、背谷川、内山谷川の両岸狭長平野が対象地にあたる。その三角形の頂点より中央を貫流して背谷川が、そして西端を流れる大武谷川、東端を流れる内山谷川も同様に平野部を貫流して小田川に注いでいる。平野部は北に偏した主軸を基準にする一辺約108ｍの大きい升目が整然と並び、南北８升、東西12升（圃場整備地区に限定）、約50の升目を数えることができる。軸線の方位はあくまで小田川の流路、丘陵の形状に左右されているようである。

現在の集落はそれらの周縁山麓部分に妹山・大武・池の上・内山・池田等の部落は遺跡と重複するものと考えられる。

旧山陽道は高馬山から南に延びる丘陵山裾に沿って尾崎、妹の平野部を東西に横切り、再び鷲峰山より南に延びる妹山丘陵の裾と南下して矢掛町に入っていたと考えられる。

第２節　調査の方法と概要

今回の発掘調査は圃場整備事業が計画されている範囲内、および周知の遺跡を中心に実施した。

まず、通年施行域である平野部西南端の西代（にしだい）地区よりトレンチ調査を開始し、大武谷川東岸を夜出（よいで）地区まで上り、再び西岸を浜地区まで下る。松本（まつもと）・中山（なかやま）・鶏田（にわとりだ）・殿田（とのだ）・皿田（さらだ）・竹西（たけのにし）・蓮池（はすいけ）地区を北上し、再び内山谷川右岸の沖田（おきだ）・池熊（いけぐま）を上り、内山谷川左岸を南下して尾崎丸田にて試掘を終了する。

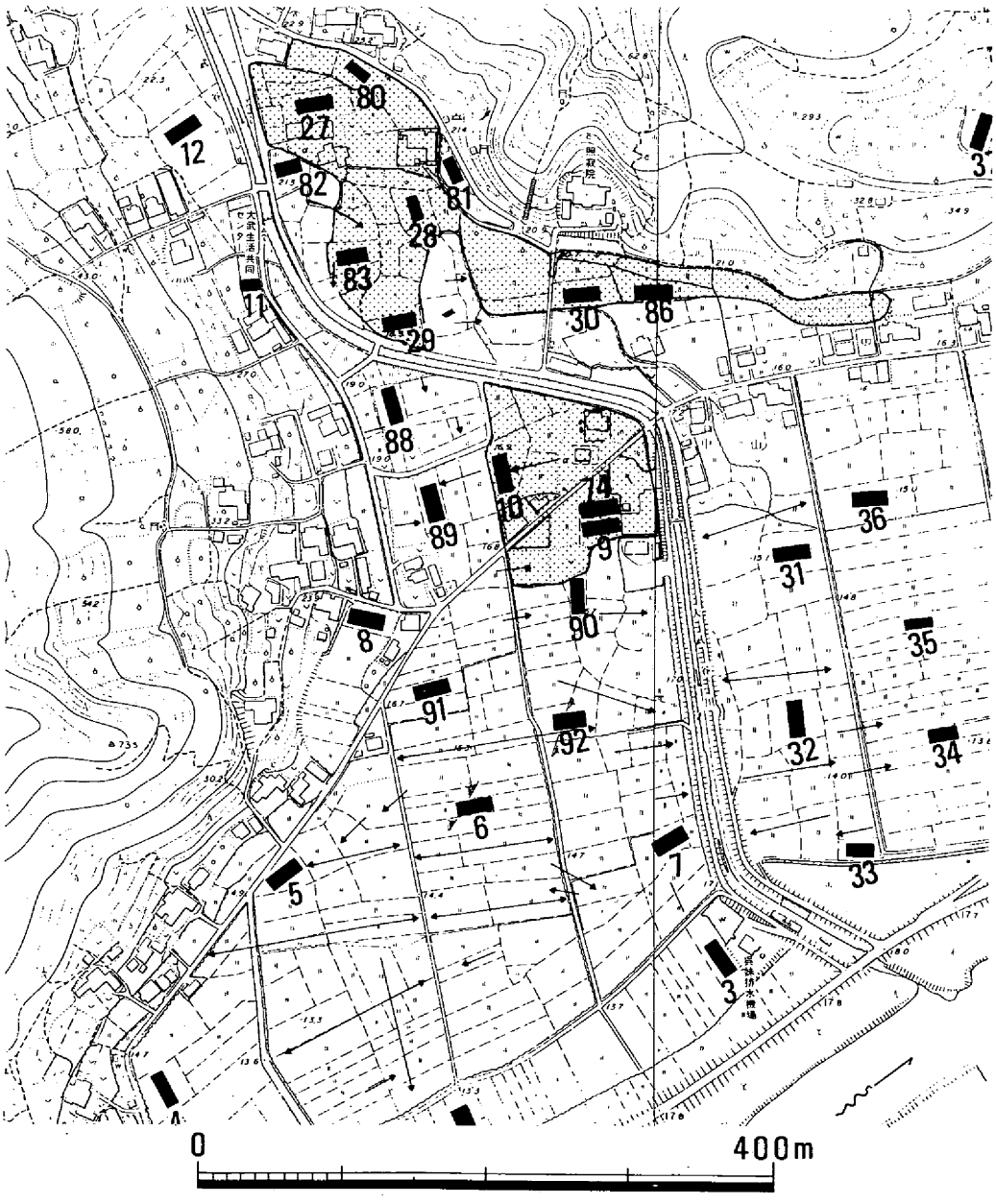
トレンチ規模は1.5×４ｍ、深さ１ｍを基調とし、任意に拡幅を行い総数102本を掘開した。その面積は約620㎡である。

西代・渡（わた）り地区以外の整備後の田面レベルは未定であるが、油田（あぶらだ）・寺前（てらまえ）・渡り（一部）・蓮池・殿田・中山・鶏田・皿田・竹西・池熊・沖田等の遺跡地では非常に浅い場所で遺構が確認される地区が存在し、整備に関連しては充分な検討が必要であろう。

1．油田（あぶらだ）・寺前（てらまえ）・中山（なかやま）調査区（第５～７図）

これらの地区は高山から南に高さを減じながら延びる丘陵裾部と大武谷川間に位置する。照寂院西側の丘陵斜面には比較的大型の横穴式石室等が所在する。

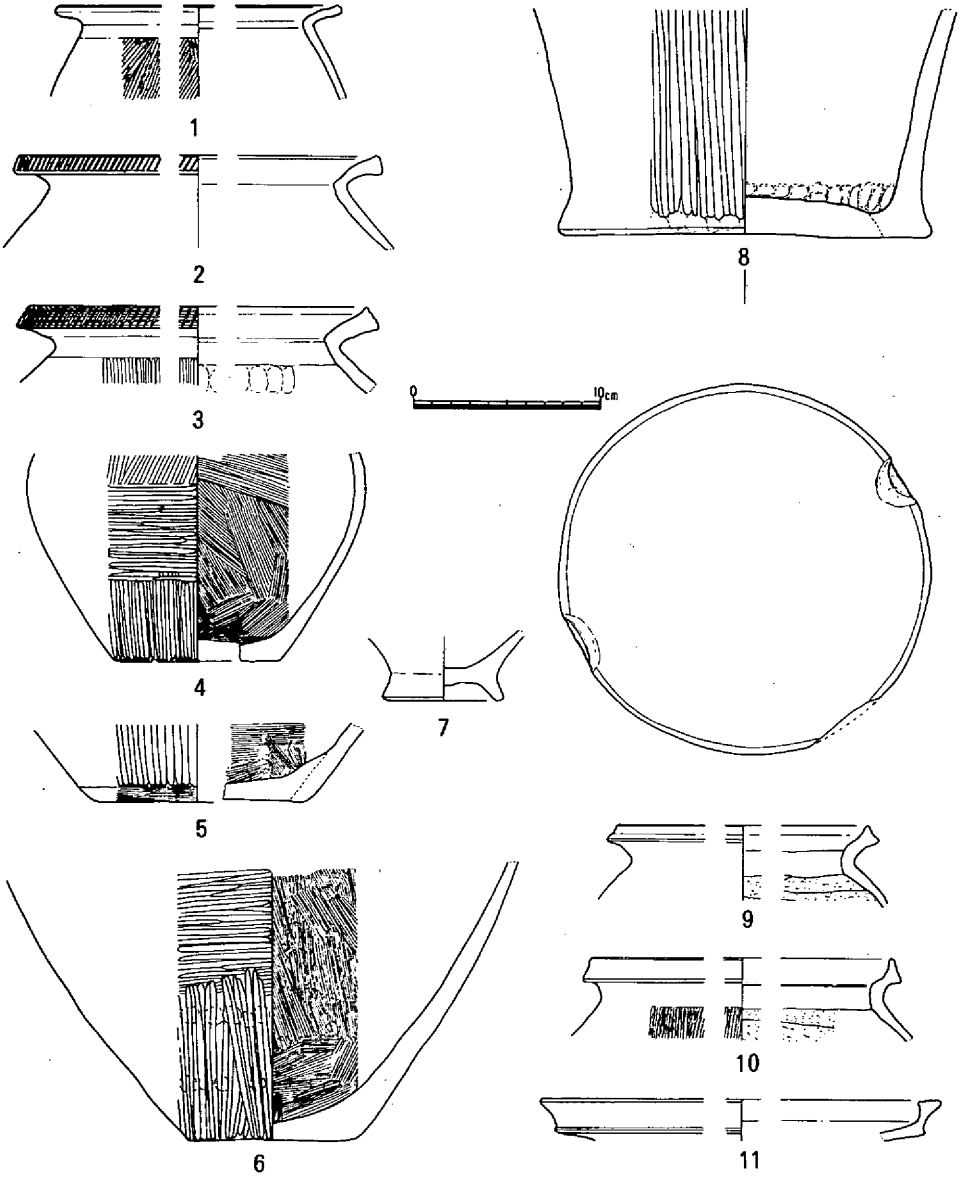
油田調査区では７本のトレンチを設定掘開し、T－27、82、83では大武谷川の氾濫原および遺跡地縁辺と考えられる土層を看取した。T－28、29、80では包含層ならびに遺構面を確



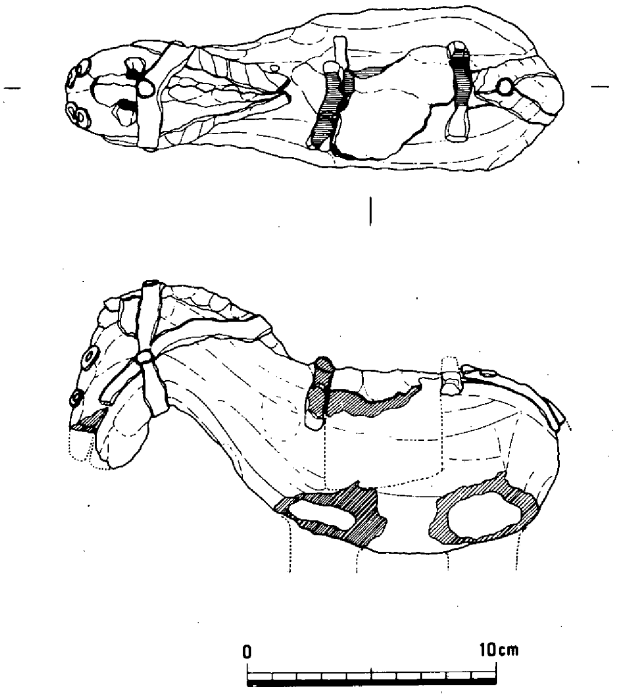
第５図　大武谷川周辺微高地・遺跡想定図（$\frac{1}{500}$）

認した。なかでもT－28は耕作土直下に溝等の遺構が検出され、弥生時代中期前半の甕・壺等を出土している。また、洪水砂層中には弥生時代後期前半の甕・高杯等が出土しており、マンガン等の付着が認められた。

寺前調査区は油田の東側一段高所にあたり、大武谷川の氾濫などがおよばない地区と考えられる。2本のトレンチを設定掘開し、T－30から溝等の遺構面、T－86からは約9kgの奈良～平安時代の遺物103～105、108～116が認められ、表土下70cmにて柱穴等も検出されて



第6図　油田地区T－28出土遺物（$\frac{1}{4}$）



第７図　油田地区Ｔ－26出土遺物（$\frac{1}{3}$）

いる。その出土状況、周辺地形等から奈良期を中心とする建物跡の存在が想定できる。

中山調査区は寺前の東側にあたり、地形の条件等より寺前調査区の関連遺構の存在が考えられる。

退り調査区は鷲峰山西側斜面端にあたり、斜面部からの崖錐堆積、大武谷川の氾濫等により形成されている。それらの礫に混入して－90cmより陶馬（第７図）が検出されている。その形状は重厚な感を受け、硬度に焼きあがっており、首、尻部には淡緑色の自然釉が認められる。面繋、尻繋、手綱、鞍部が具体的に造られており、その形状をよく留めている。口、耳、前輪、後輪、尾、脚部が欠損しており、体部は中空にて腹、尻部に穴が認められる。重量は約810ｇをはかる。奈良時代の所産であろうか。

２．渡（わた）り調査区（第５図）

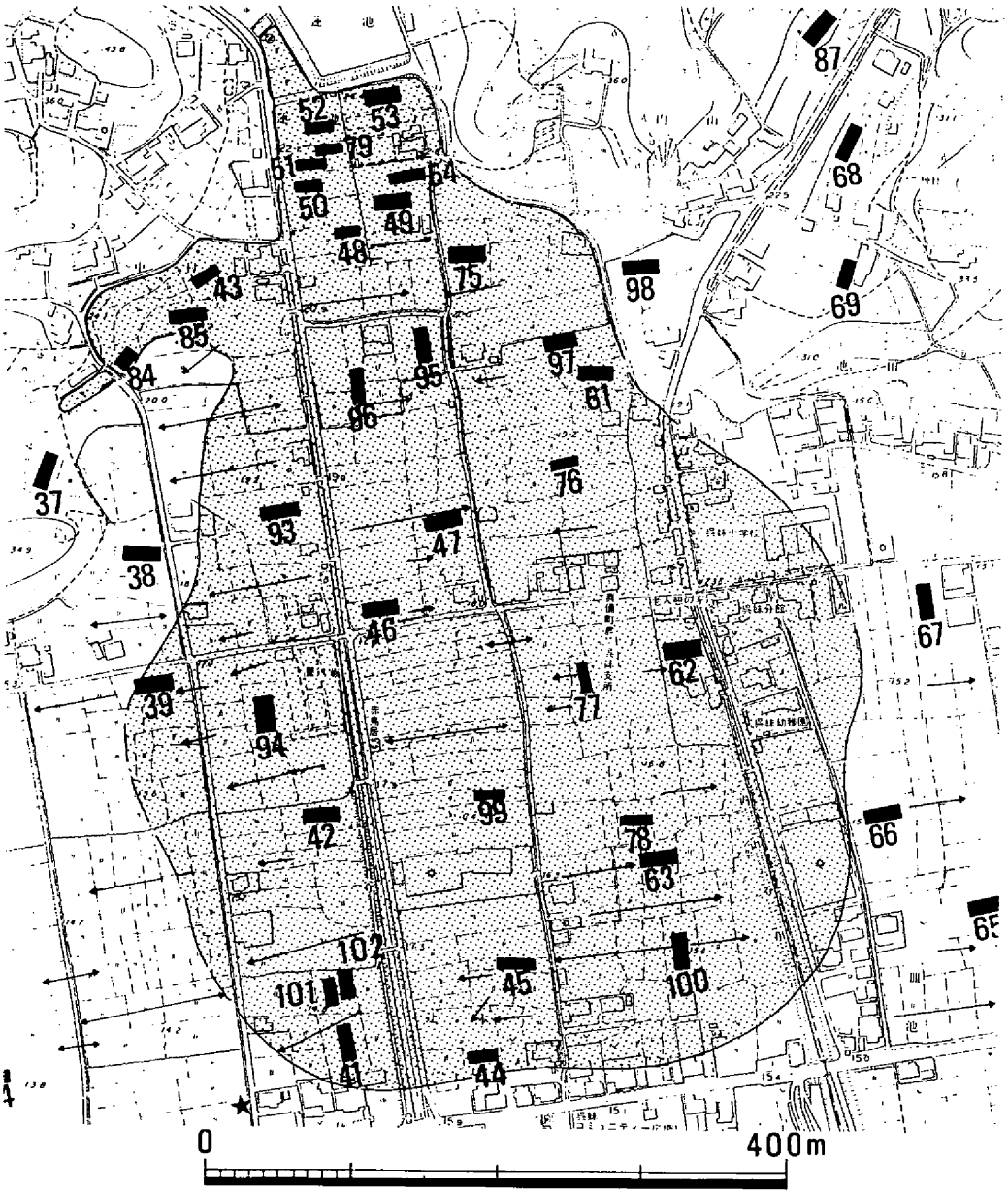
大武谷川が南流し、油田にて東に方向を変化させ、再び流路を南に変える屈曲部右岸に位置する。10本のトレンチを設定掘開し、Ｔ－９・74・88・より遺構を検出した。Ｔ－９・77は弥生時代中期前半の溝状遺構が耕土直下より遺物73～79を伴ってあらわれている。Ｔ－88からは幅約2.5～3.0ｍをはかる近世の東西溝が検出されている。Ｔ－89では崖錐堆積の礫が多く認められ、Ｔ－６・７・90～92では南に下降する粘土の堆積、および洪水砂層が存在する。これらから、かつての大武谷川はＴ－９・74等を中心とする地区を挾む格好で現在の大武谷川と妹山山裾をはいながら呉妹排水機場に向う２本の河道に分流していた可能性が考えられる。

３．殿田（とのだ）・蓮池（はすいけ）・池熊（いけぐま）調査区（第８～15図）

平野の中央上部にあたり、蓮池の中心に最も安定した丘陵端部、微高地と考えられる。合計22本のトレンチを設定掘開し、殿田調査区のＴ－43・84・85からは遺物包含層、遺構面を検出した。Ｔ－43では柱穴、Ｔ－84では複雑な形状の土壙・柱穴が地山上より掘りこまれ、

平安時代の土器、鉄滓等が出土している。T－85では－60cmにて竪穴式住居の壁帯溝と考えられる小溝が一部検出されており、谷を挟んで全域に遺構の存在が想定できる。

蓮池調査区は現在東京国立博物館に所蔵されている「備中呉妹銅鐸」が大正４年12月に発見された地域であり、現在も出土地点を示す木碑が背谷川左岸に建てられている。銅鐸は増築工事中の蓮池樋門部掘開途中に表土より約２尺許りを掘り下げた位置に埋没していたことが記録されている。今回の調査では、まず、蓮池から背谷川に抜かれている樋の正しい位置



第８図　背谷川周辺微高地・遺跡想定図（$\frac{1}{500}$）

岡吉調第　637 号
昭和61年　3月31日

各　位　殿

岡山県古代吉備文化財センター
所 長 高 橋 誠 記

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　62」の配布について

このたび、標記の報告書を刊行しましたので、贈呈します。
文化財保護行政のための一助として、ご活用いただければ幸いです。
なお、お手数ですが、受領書を下記あてに　御返送くださいますようお願いします。

記

〒701-01　岡山市西花尻１３２５－３
岡山県古代吉備文化財センター

受　領　書

年　月　日

岡山県古代吉備文化財センター
所 長 高 橋 誠 記 殿

住所

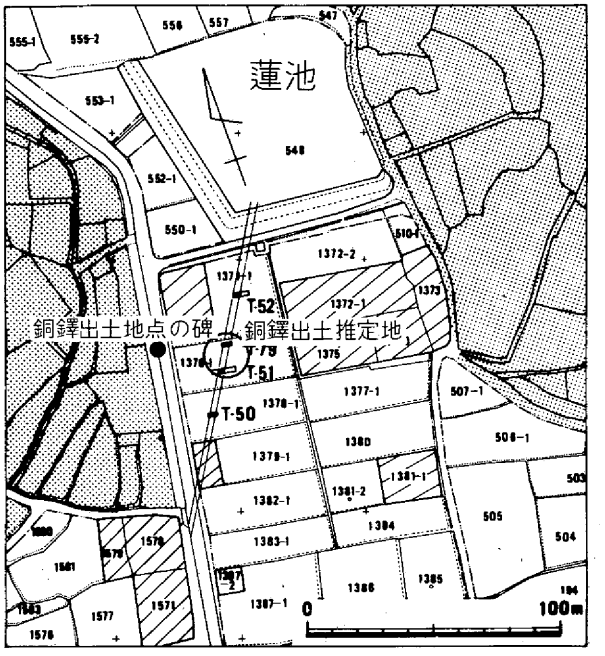
氏名　　印

下記のとおり受領しました。

記

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　62」

を知るために、現在の出水口から大武谷川壁面にのぞいている土管をにらんでT－50、51、52、79の4本のトレンチを設定した（第9図）。4本とも樋の掘り方プランを把握することができ、なかでもT－51においては表土直下22cmにて包含層と遺構面を確認できた。遺構では「L」字状に曲がる約8mの溝が一本検出されており、幅65～90cm、深さ約30mを測り比較的多くの土器片14・16・18・19・21・22・23・24・25・28・30・31・32・39・41（第14図）が溝内より出土している。13・15・17はP－8内出土であり、他は包含層中および樋の掘り方内埋土出土である。37・40～55までの破片の多くは器面が摩滅しており、土器が移動したことを物語っている。同じく包含層中より分銅形土製品半欠1点、磨製石庖丁破片1点、サヌカイト製石鏃3点が出土している。



第9図　蓮池の樋想定位置図（$\frac{1}{3,000}$）

樋の掘り方は表土下約3mまでおよび、その中央に土管を据えることによって機能している。

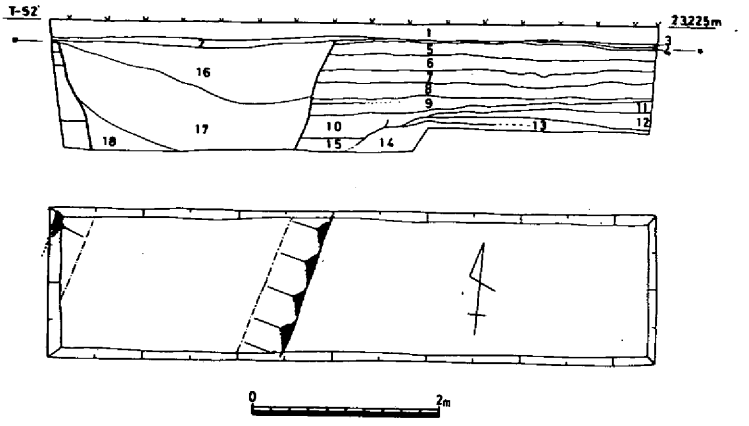
3．池熊（いけぐま）調査区（第8図）

蓮池調査区の東側にあたり、5本のトレンチを設定掘開し、微高地と内山谷川の氾濫部分を確認した。T－75では耕作土直下に弥生時代中期末～後期後半の土壙、柱穴を検出し、蓮池調査区から小さい谷を隔てて継続する地区であることが判明した。また、T－76では表土下42mにて縄文時代後期（中津式）の包含層を確認する。東から西に向って10度角で傾斜しており、8層（第39図）がそれにあたる。この傾斜から蓮池調査区と池熊調査区の間に現在の蓮池部分を南流した谷川が存在していた可能性がうかがえる。その谷部はT－49とT－76間あたりと推定できそうであり、T－77付近で分流して背谷川、内山谷川に合流していたことも考えられる。T－98では内山谷川の氾濫を受けた状況が認められた。

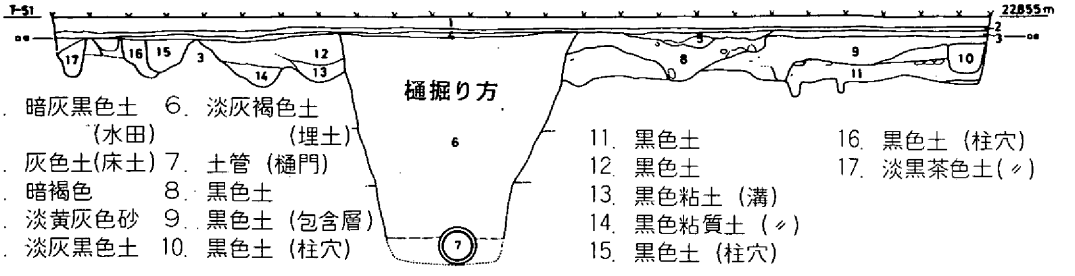
4．皿田（さらだ）・竹西（たけのにし）・沖田（おきた）調査区（第8図）

背谷川の両岸、赤鳥居の所在地東西がその地区にあたり、殿田、蓮池、池熊から継続する同一の微高地と考えられる。

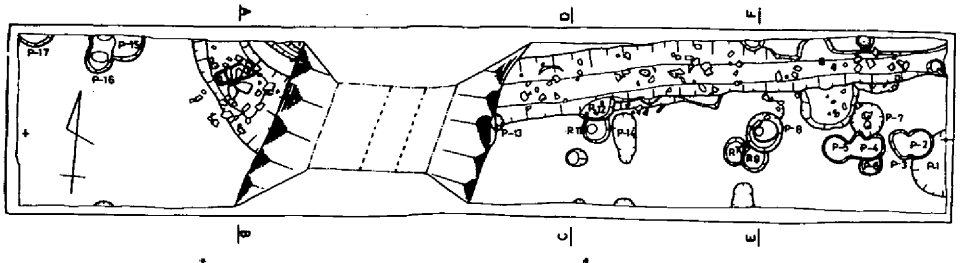
1. 灰黒色土（水田）
2. 灰色砂質土
3. 灰色土
4. 褐色土（床土）
5. 灰褐色土
6. 暗灰色土
7. 暗灰黒色土
8. 黒色土
9. 暗灰色砂
10. 黒色砂質土
11. 黒色砂質土
12. 明灰色微砂
13. 明灰色粘質微砂
14. 暗灰色粘質微砂
15. 灰色荒砂
16. 淡灰褐色砂礫土（埋土）
17. 灰褐色砂礫土（〃）
18. 淡灰色砂礫土（〃）



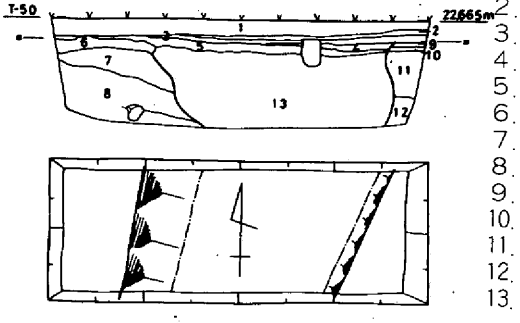
第10図　蓮池Ｔ－52（$\frac{1}{80}$）



1. 暗灰黒色土（水田）
2. 灰色土(床土)
3. 暗褐色
4. 淡黄灰色砂
5. 淡灰黒色土
6. 淡灰褐色土（埋土）
7. 土管（樋門）
8. 黒色土
9. 黒色土（包含層）
10. 黒色土（柱穴）
11. 黒色土
12. 黒色土
13. 黒色粘土（溝）
14. 黒色粘質土（〃）
15. 黒色土（柱穴）
16. 黒色土（柱穴）
17. 淡黒茶色土(〃)

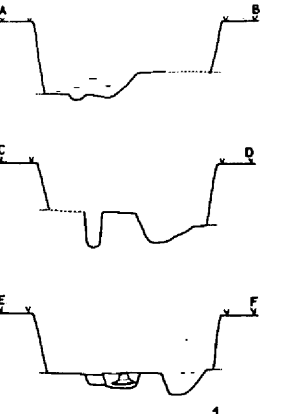


第11図　蓮池Ｔ－51（$\frac{1}{80}$）

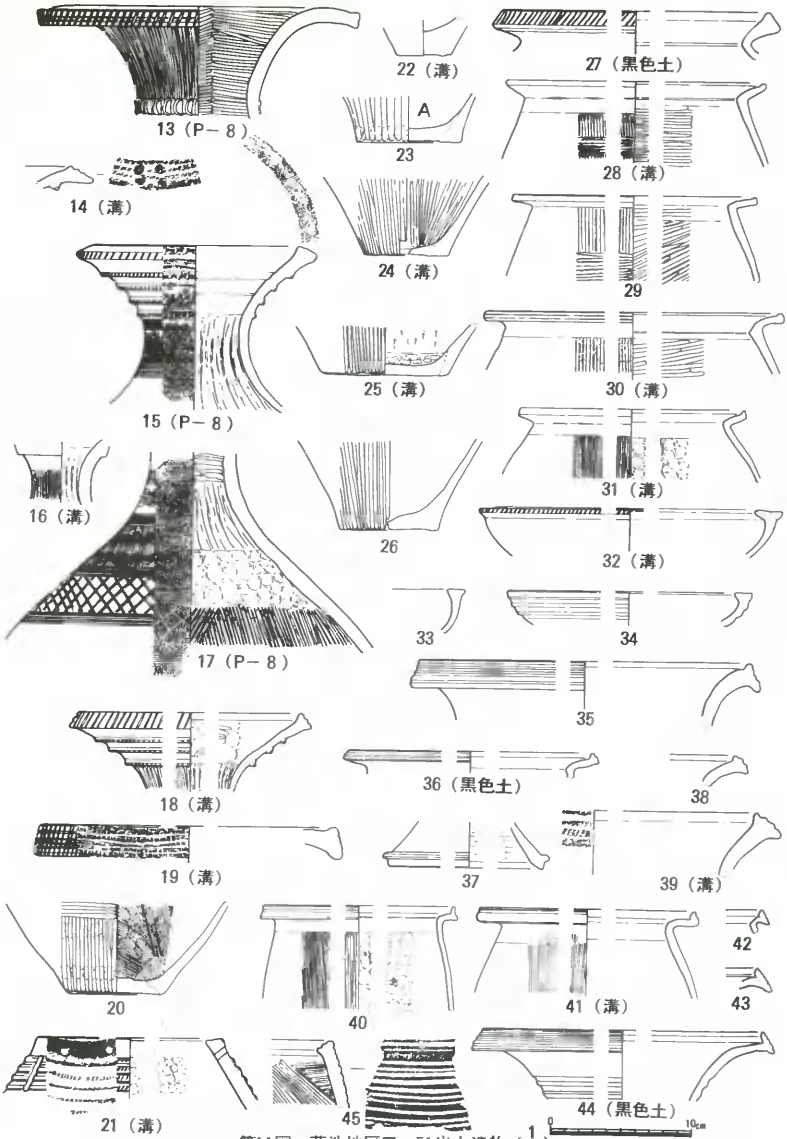


第12図　蓮池Ｔ－50（$\frac{1}{80}$）

1. 灰黒色土（水田）
2. 暗灰色土（床土）
3. 灰色土（床土）
4. 灰色土
5. 灰褐色ブロック土
6. 褐色砂質土
7. 灰色砂
8. 砂礫
9. 灰色粘質微砂
10. 褐色砂
11. 淡褐色砂
12. 灰白色砂
13. 淡灰褐色砂礫土（埋土）



第13図　蓮池Ｔ－51（$\frac{1}{80}$）

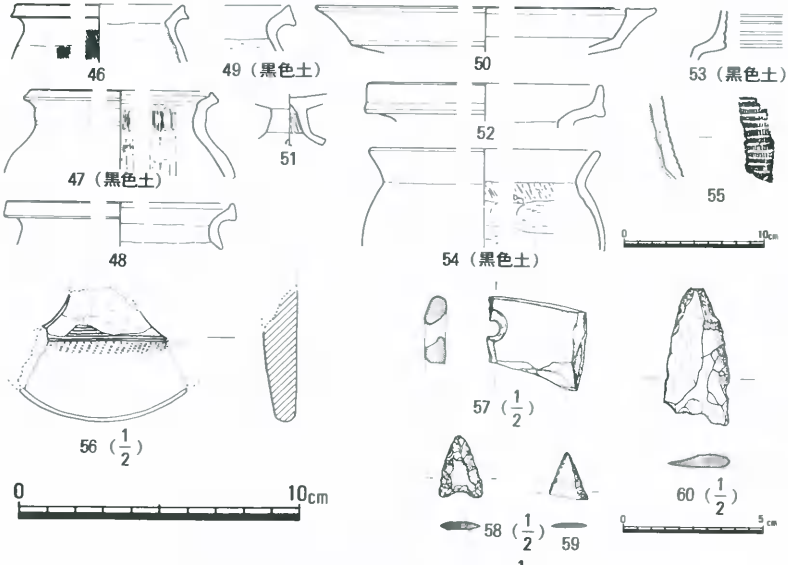


第14図　蓮池地区T－51出土遺物（$\frac{1}{4}$）

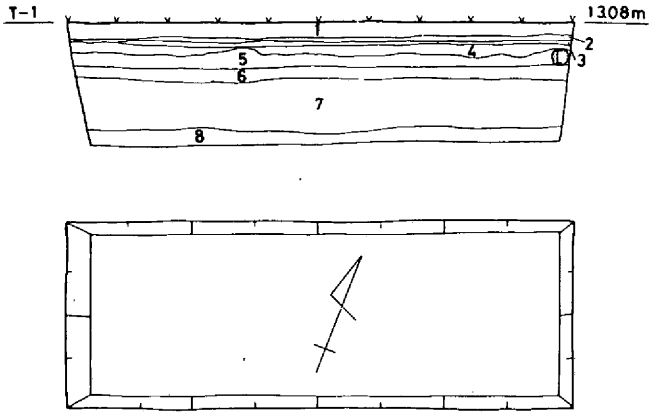
皿田調査区では５本のトレンチを設定掘開し、T－42・94では安定した微高地を確認した。T－41・101・102では溝、土壙等の遺構が存在する微高地が確認され、T－102が最も高所で南西に緩かに下降していくことが判明した。T－40では洪水砂と湧水が確認されており、この地区までは微高地が延びないことが理解できる。

竹西調査区では３本のトレンチを設定掘開し、T－45では溝状の遺構を確認したが、沖・皿田調査区ほど遺構密度は高くないものと考えられる。

沖田調査区では６本のトレンチを設定掘開し、一部旧河道を含むが非常に安定した微高地であることを確認できた。T－77では洪水砂が全土層に認められ、弥生時代中・後期土器片が比較的多く検出された。しかし、これらはマンガン粒等が付着しており、上流より移動してきた事実を物語っている。T－78では表土下20ｍで遺物包含層と遺構面を検出しており、５本の柱穴が確認されている。遺物は７世紀後半の須恵器99～102・106、砥石等が出土しており、この時代の集落址の存在が想定できる。T－63、100に向って微高地が若干の削平を受けているが、集落址が延びていたものと考えられる。また、鶏田・尾崎丸田調査区にも微高地の一部がかかるものと想定できる。

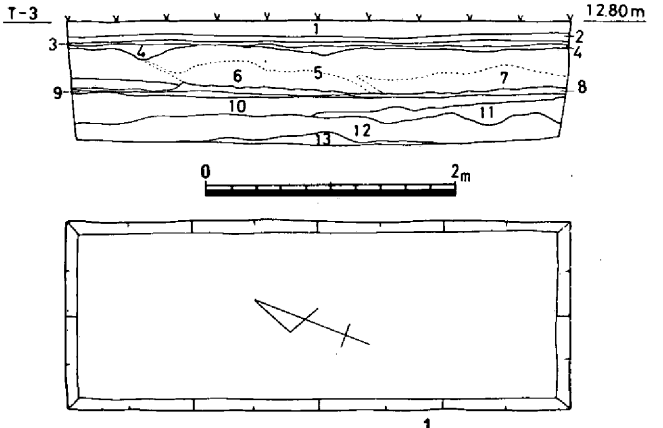


第15図　蓮池地区T－51出土遺物（1/4）



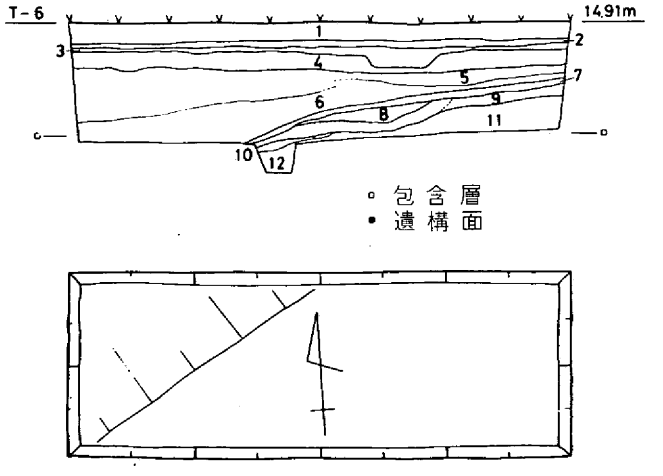
1. 淡黒青灰色微砂（水田）
2. 淡灰色微砂（床土）
3. 茶褐色砂(〃)鉄分を含む
4. 暗灰褐色砂(マンガンを含む)
5. 暗茶灰黒色砂(〃)
6. 灰色微砂(上面に荒砂層)
7. 茶灰色粘質微砂
   (配石・瓦等出土あり)
8. 茶灰色砂(T－2で青磁片出土)

第16図　市場T－1 $(\frac{1}{60})$



1. 淡黒青灰色微砂（水田）
2. 淡灰色微砂（床土）
3. 茶褐色砂
4. 灰色粘質微砂
5. 暗茶色土
6. 淡灰白色砂（荒砂）
7. 荒砂と上位土との混土
8. 灰褐色粘質土（床土）
9. 褐色粘質土
10. 灰茶色微砂(Mn)流れ
11. 暗灰茶色粘質と微砂
12. 暗茶色砂
13. 茶色砂

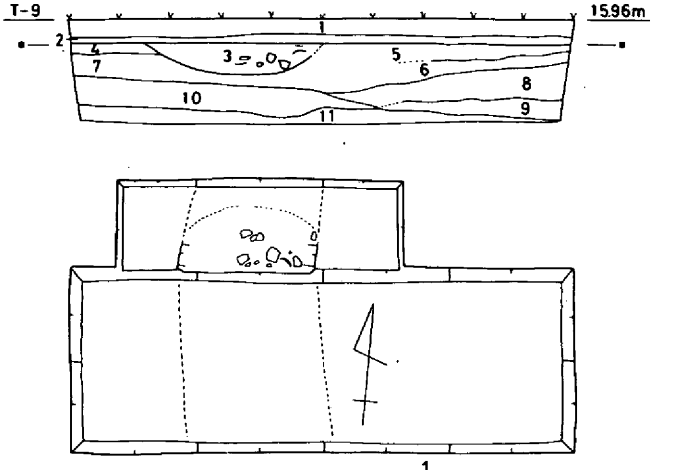
第17図　新郷T－3 $(\frac{1}{60})$



1. 暗灰黒色微砂（水田）
2. 灰色微砂（床土）
3. 淡灰色砂
4. 茶褐色砂
5. 灰色粘
6. 灰色砂（荒）
7. 褐色微砂質土
8. 灰茶色粘質微砂
9. 淡灰色粘質砂土
10. 灰黒色粘土
11. 灰色砂
12. 灰色粘質砂

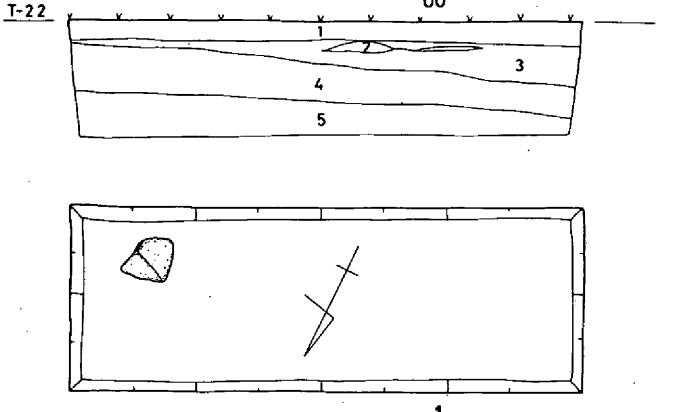
第18図　渡りT－6 $(\frac{1}{60})$

1. 淡灰黒色微砂（水田）
2. 茶褐色粘質土（床土）
3. 灰色粘土（溝）
4. 灰褐色砂
5. 茶灰色粘質土
6. 灰色粘質土
7. 灰色荒砂
8. 淡灰色粘質土
9. 灰色砂
10. 茶褐色荒砂（Fe）
11. 白色荒砂



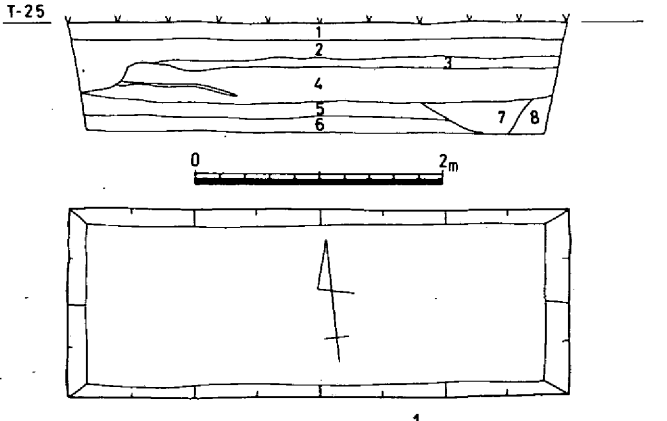
第19図　渡りＴ－９（$\frac{1}{60}$）

1. 暗灰黒色微砂（畑）
2. 褐色砂
3. 暗灰色砂
4. 褐灰色荒砂（Fe）
5. 灰色砂（Mn）

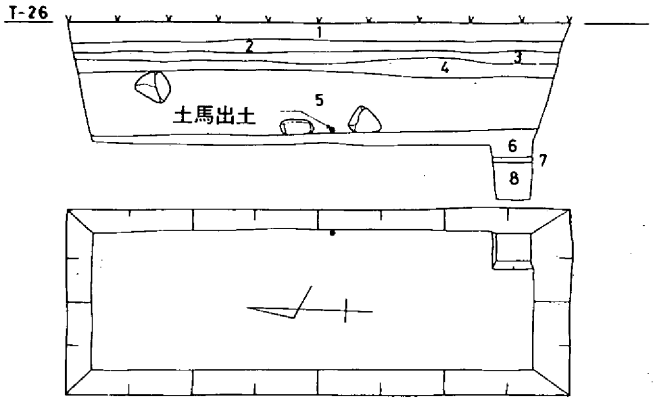


第20図　夜出Ｔ－22（$\frac{1}{60}$）

1. 暗灰黒色土（水田）
2. 明茶褐色土（客土）
3. 灰茶色微砂
4. 灰茶色微砂（包含層）
5. 礫　層
6. 明褐色土(地山ブロックを含む)
7. 明茶褐色粘質土
8. 茶灰色砂

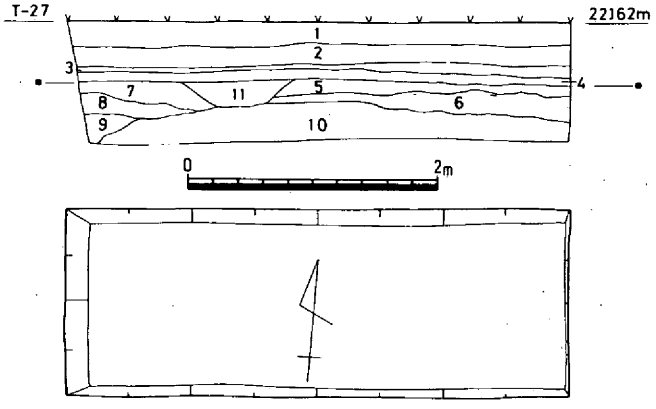


第21図　退りＴ－25（$\frac{1}{60}$）



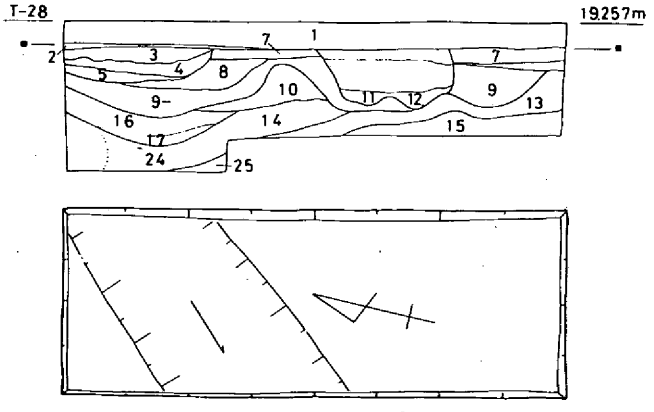
1. 暗灰黒色土（水田）
2. 暗灰色土（床土）
3. 灰色土
4. 灰褐色土
5. 礫層（10～50cm）
6. 灰白色砂（粒子均一）
7. 明褐色微砂
8. 青灰色粘質微砂

第22図　退りＴ－26（$\frac{1}{60}$）



1. 暗淡黒色土（水田）
2. 灰色粘質土（水田の互層）
3. 茶褐色土（Mn）
4. 灰茶色砂
5. 淡黒色土（砂まじり）
6. 黒色土十明褐色土（粘質）
7. 灰茶色土
8. 黒色土
9. 黒色粘質土
10. 灰黒色粘質土十褐色粘質土
11. 淡灰黒色土

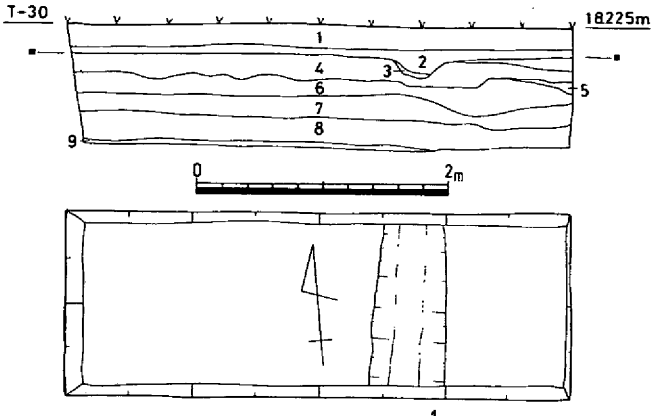
第23図　油田Ｔ－27（$\frac{1}{60}$）



1. 黒灰色土（水田）
2. 灰色土（遺構面）
3. 黒色粘土
4. 暗灰色粘土
5. 灰褐色砂（溝）
7. 暗茶褐色粘質土
8. 灰黄白色粘土
9. 灰茶色粘質土（土器を含む）
10. 灰黄白色粘土
11. 褐色砂（溝）
12. 〃　（土器を含む）
13. 灰黄白色粘土（グライ化）
14. 淡灰茶色粘質砂
15. 淡灰黒色粘質土
16. 明灰色粘質微砂
17. 灰黒色微砂
24. 暗青灰色粘質砂（土器を含む）
25. 青灰色粘質砂

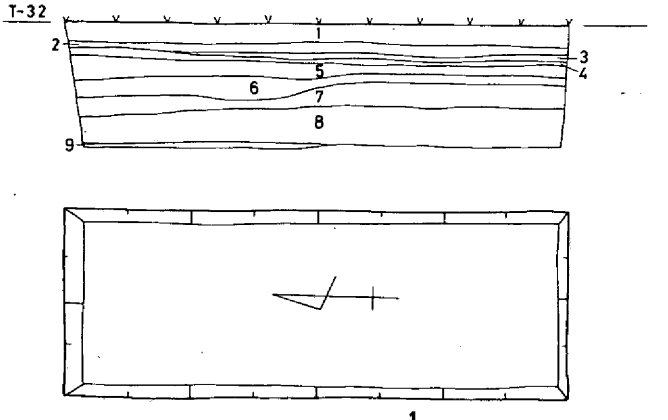
第24図　油田Ｔ－28（$\frac{1}{60}$）

1．暗灰黒色土（水田）
2．灰色土（硬質）
3．灰褐色粘質土（溝）
4．茶褐色砂
5．灰色砂（洪水）
6．灰色粘質微砂
7．灰褐色粘質微砂
8．灰色砂（荒砂）
9．砂（細い）



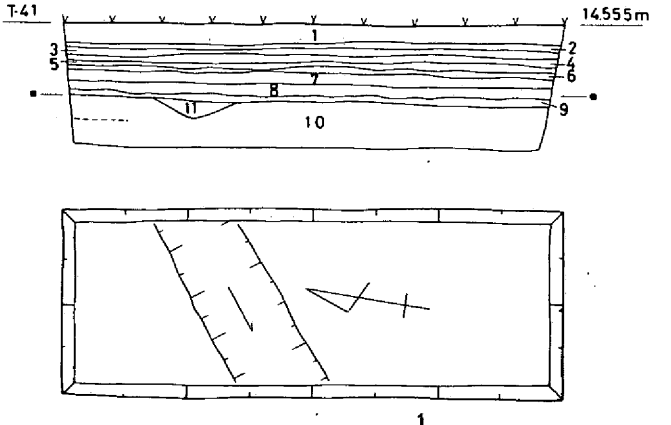
第25図　寺前T－30（$\frac{1}{60}$）

1．暗灰黒色土（水田）
2．灰色土
3．暗茶灰色砂
4．褐色粘土（床土）
5．灰褐色粘質砂
6．灰色砂
7．褐灰色粘質砂
8．褐灰色粘質微砂土
9．灰色砂

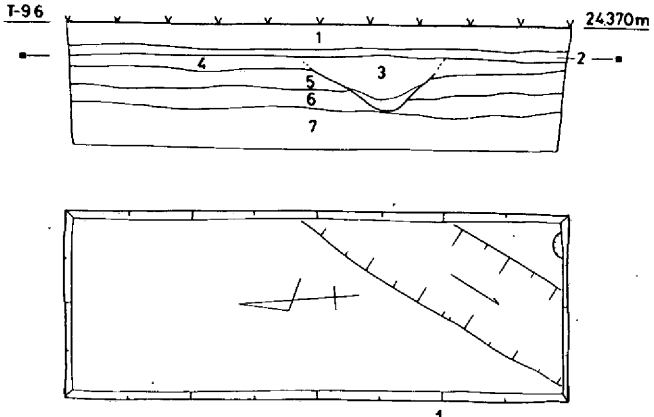


第26図　浜T－32（$\frac{1}{60}$）

1．暗黒灰色土（畑）
2．灰色土
3．褐色粘質土（床土）
4．灰色土（Mn）
5．淡褐色土
6．淡灰色砂
7．淡茶灰色土
8．暗茶灰色土
9．黒色土
10．茶褐色粘質砂質土
11．暗質砂

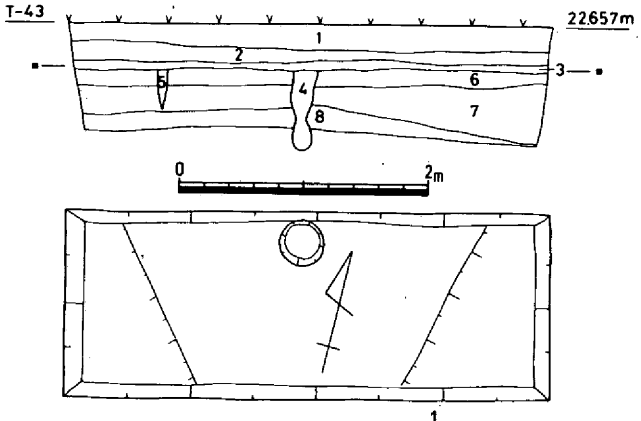


第27図　皿田T－41（$\frac{1}{60}$）



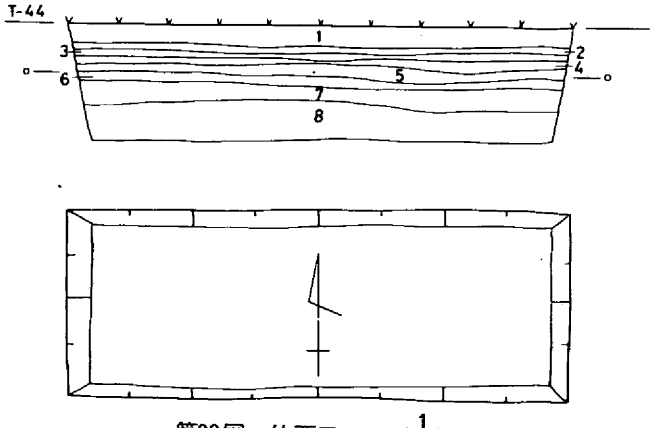
1. 黒灰色土（水田）
2. 黄褐色土（床土）
3. 灰茶色土（砂）
4. 淡茶色砂質土
5. 茶色砂質土
6. 暗茶褐色粘質土
7. 暗黄褐色粘土

第28図　蓮池T－96（$\frac{1}{60}$）



1. 暗黒青灰色土（水田）
2. 褐色土（床土）
3. 暗灰色粘土
4. 灰黒色土（柱穴）
5. 淡灰黒色土（杭）
6. 暗黄褐色砂（遺構面）
7. 茶灰色砂
8. 黄褐色粘質微砂（基盤層）

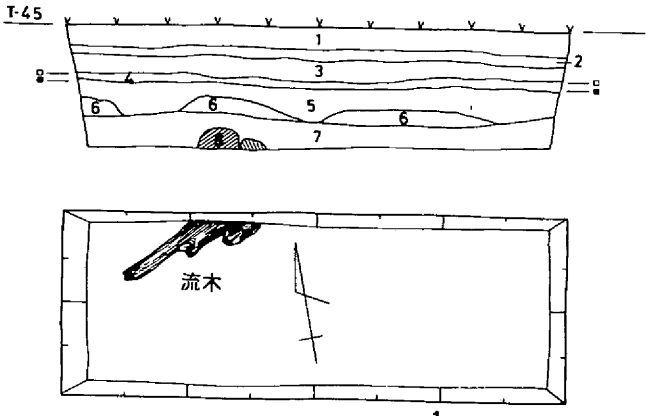
第29図　殿田T－43（$\frac{1}{60}$）



1. 暗黒灰色土（水田）
2. 灰色土（床土）
3. 灰褐色土
4. 暗灰色粘質土
5. 暗褐色砂土
6. 暗茶褐色灰色粘質土（硬質）
7. 暗灰色砂（荒砂）
8. 灰色・砂

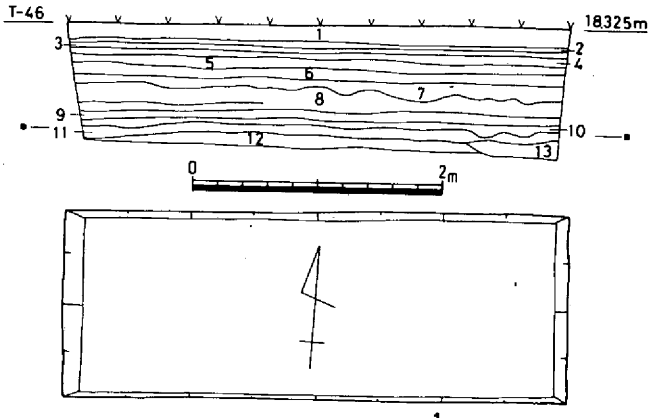
第30図　竹西T－44（$\frac{1}{60}$）

1. 暗黒灰色土（水田）
2. 褐色土（床土）
3. 淡茶灰色粘質土
4. 黒灰色土
5. 灰褐色粘質砂
6. 暗灰色砂
7. 灰色微砂
8. 木



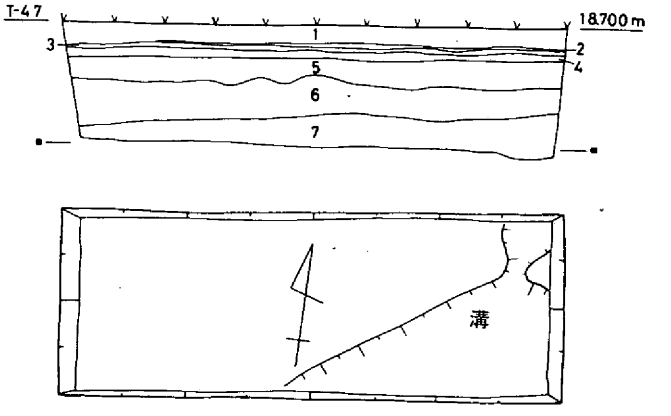
第31図　竹西T－45（$\frac{1}{60}$）

1. 暗黒灰色土（水田）
2. 淡灰色土
3. 褐色土（床土）
4. 淡茶灰色土
5. 灰色砂質土
6. 淡褐灰色砂質土
7. 暗灰色砂（荒砂）
8. 暗茶灰色粘質土（洪水）
9. 茶褐色粘質土（洪水）
10. 灰色砂（荒砂）
11. 暗茶灰色粘質土
12. 暗黄褐色粘質土
13. 灰色砂（洪水）

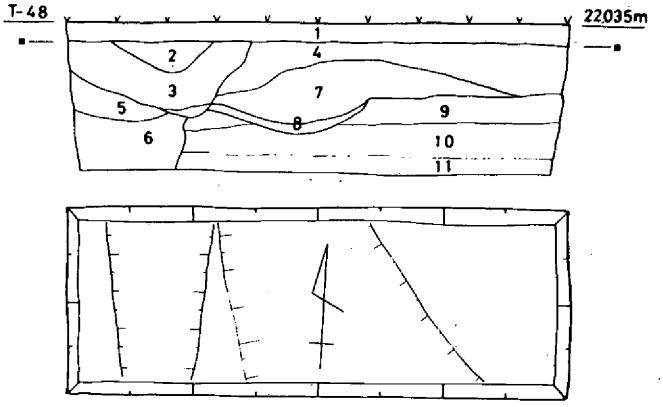


第32図　蓮池T－46（$\frac{1}{60}$）

1. 暗黒灰色土（水田）
2. 灰色砂質土
3. 褐色粘質土（床土）
4. 淡茶灰色粘質土
5. 灰色砂質土（Mn）
6. 暗褐色砂質土
7. 灰色砂（洪水）

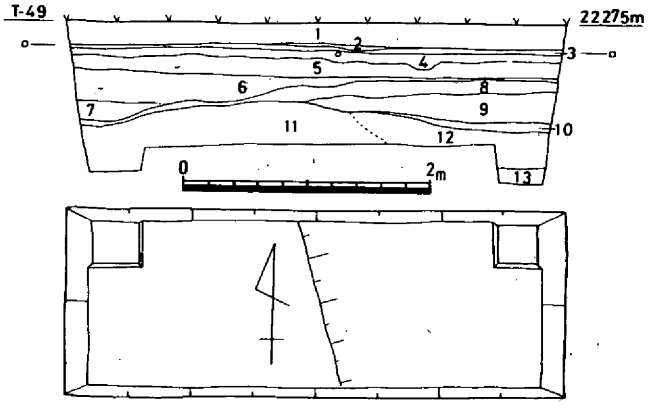


第33図　蓮池T－47（$\frac{1}{60}$）



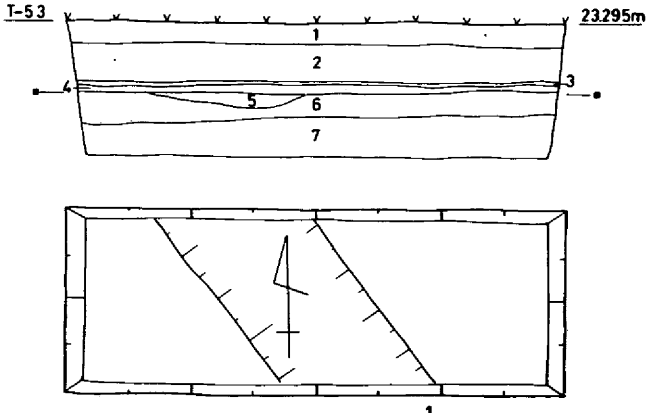
1. 暗茶灰色土（畑）
2. 黒色土（溝）
3. 暗灰色砂（〃）
4. 淡暗灰色微砂
5. 灰白色砂（洪水）
6. 灰色砂　（〃）
7. 灰色砂
8. 暗灰色砂（溝）
9. 暗黄褐色粘土
10. 黒灰褐色粘土
11. 灰褐色粘土

第34図　蓮池Ｔ－48（$\frac{1}{60}$）



1. 黒灰色土（水田）
2. 灰色土
3. 褐色土（床土）
4. 淡黒色土（包含層）
5. 淡茶灰色粘質土
6. 褐色砂
7. 茶灰色微砂
8. 明茶灰色微砂
9. 淡黄灰色微砂
10. 灰黒色土
11. 灰色砂
12. 暗灰色粘質砂
13. 黒色ピート

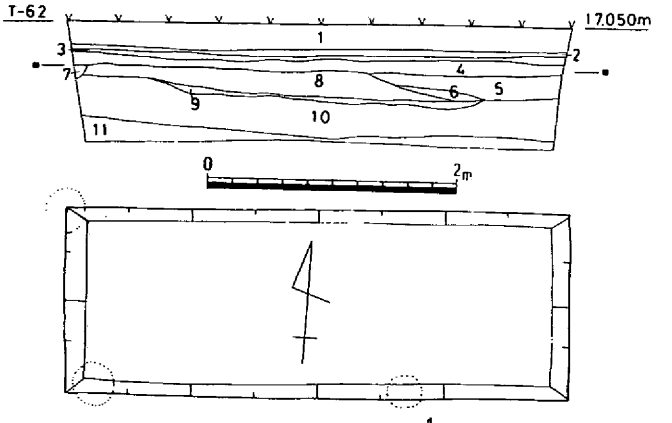
第35図　蓮池Ｔ－49（$\frac{1}{60}$）



1. 暗黒灰色土（水田）
2. 淡灰茶色土
3. 灰色土（水田）
4. 褐色土（床土）
5. 暗茶褐色土（溝）
6. 灰色砂
7. 黒色粘土

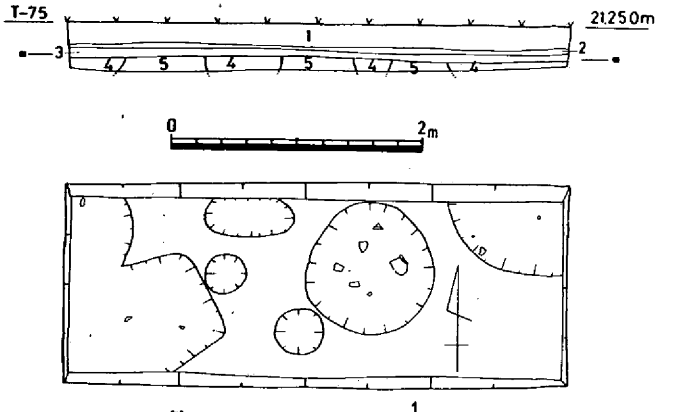
第36図　蓮池Ｔ－53（$\frac{1}{60}$）

1. 暗黒灰色土（水田）
2. 灰色砂
3. 灰褐色土（床土）
4. 褐色土
5. 暗灰黒色砂質土（包含層）
6. 茶褐色土（　〃　）
7. 暗灰黒色土（柱穴）
8. 淡茶褐色砂質土（遺構面）
9. 灰白色砂
10. 黄灰色粘質微砂（Mn・洪水）
11. 灰色砂（洪水）



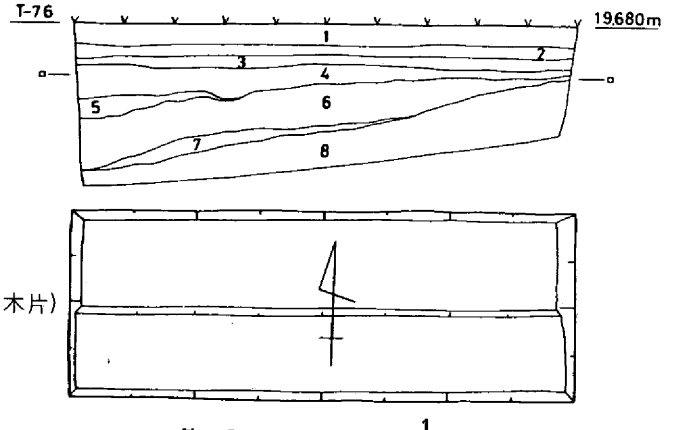
第37図　沖田T－62（$\frac{1}{60}$）

1. 暗灰黒色土（水田）
2. 灰色土
3. 褐色土（床土）
4. 黒色土（土壙・柱穴）
5. 黒灰色土（包含層）

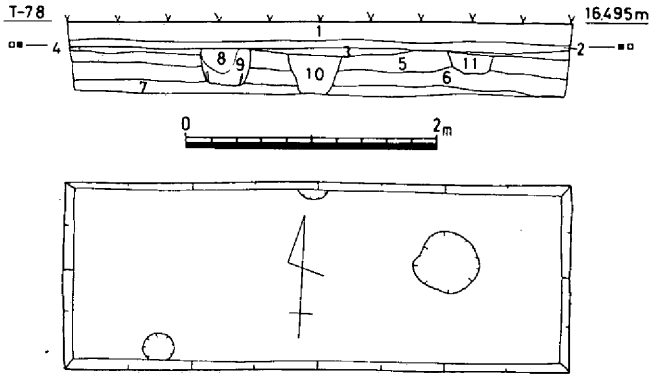


第38図　池熊T－75（$\frac{1}{60}$）

1. 暗灰黒色土（水田）
2. 灰色砂
3. 褐色砂（床土）
4. 灰色砂（荒砂）
5. 黄灰色粘質微砂
6. 明黄灰色微砂（洪水）
7. 灰色微砂（ピート）
8. 黒色粘質砂土（縄文後期土器・木片）

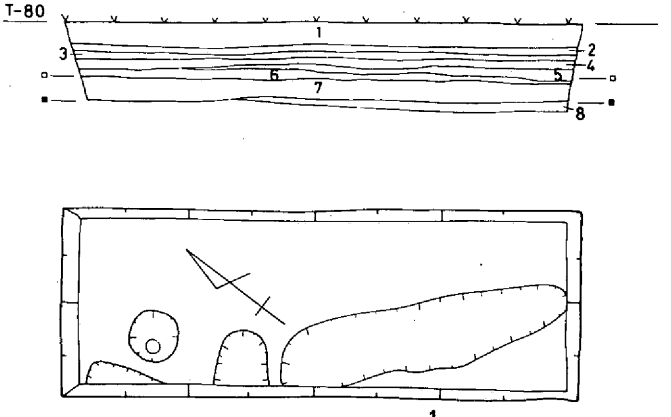


第39図　池熊T－76（$\frac{1}{60}$）



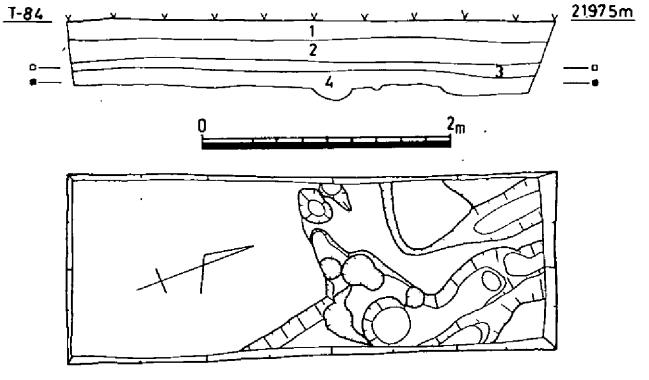
1. 暗灰色土（水田）
2. 褐灰色砂（床土）
3. 灰色砂
4. 淡黒色砂質土（遺構面）
5. 灰黒色砂質土
6. 淡灰黒色砂質土
7. 暗黄褐色粘質土

第40図　沖田T－78（$\frac{1}{60}$）



1. 暗灰黒色土（水田）
2. 灰色砂質土
3. 淡褐色砂質土
4. 灰色砂
5. 灰褐色土
6. 褐色土（Fe）
7. 暗茶灰褐色土（包含層）
8. 暗黄褐色砂質土（遺構面）

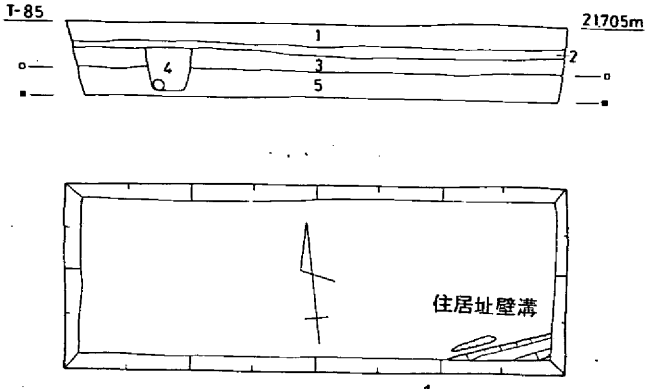
第41図　油田T－80（$\frac{1}{60}$）



1. 暗青灰色土
2. 暗黄褐色粘質砂土（水田互層）
3. 灰色粘質土
4. 暗灰茶褐色土（包含層）

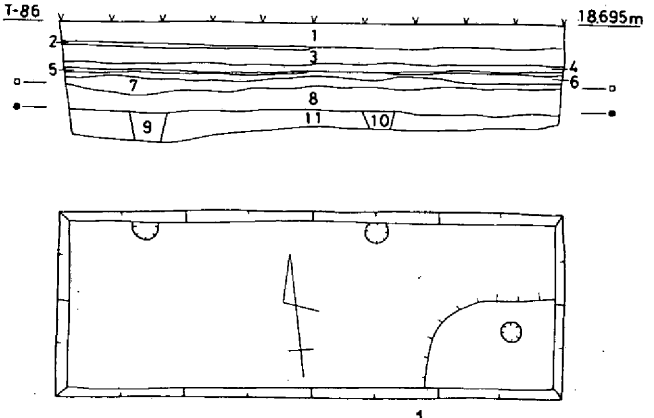
第42図　殿田T－84（$\frac{1}{60}$）

1. 暗灰黒色土（水田）
2. 暗黄褐色土（床土）
3. 灰茶色土
4. 暗渠（竹筒）
5. 暗灰茶色砂質土



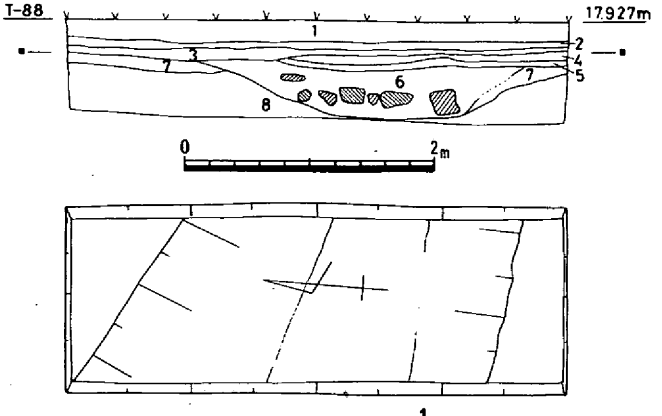
第43図　殿田T－85（$\frac{1}{60}$）

1. 灰黒色土（畑）
2. 灰色土
3. 暗黄褐色土
4. 褐色土（Mn）
5. 褐灰色土（Fe）
6. 茶灰色土
7. 暗茶灰色土
8. 黒色土（包含層）
9. 暗灰色土（柱穴）
10. 暗灰色土（〃）
11. 暗灰茶色土（遺構面）

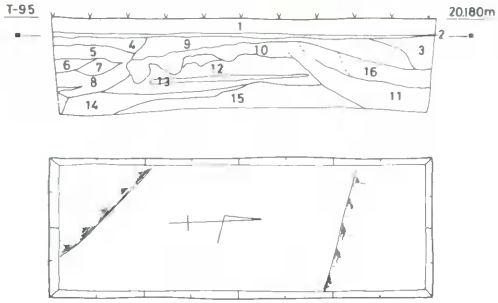


第44図　寺前T－86（$\frac{1}{60}$）

1. 灰黒色土（水田）
2. 明灰色土
3. 明褐色土（床土）
4. 灰黒色土
5. 灰黄色微砂
6. 淡灰色土（溝）
7. 淡灰黒色土
8. 灰色微砂

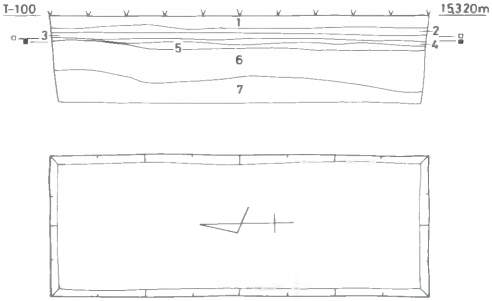


第45図　渡りT－88（$\frac{1}{60}$）



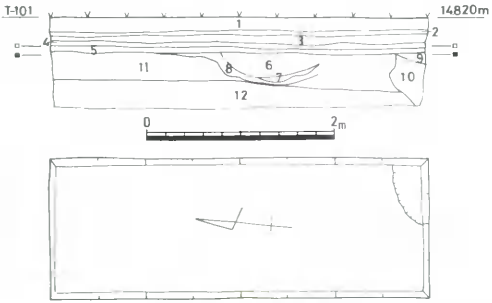
第46図　蓮池T－95（$\frac{1}{60}$）

1　暗黒灰色土（水田）
2　淡灰褐色土（床土）
3　褐色砂（荒砂）
4　茶灰色土
5　褐色砂
6　淡褐色砂
7　黄褐色砂
8　褐色砂
9　灰色砂
10　暗茶灰色粘質土
11　黒色粘質灰色砂（溝）
12　灰色砂
13　灰色砂
14　黒灰色粘質微砂（ピート）
15　灰色砂（ピート）



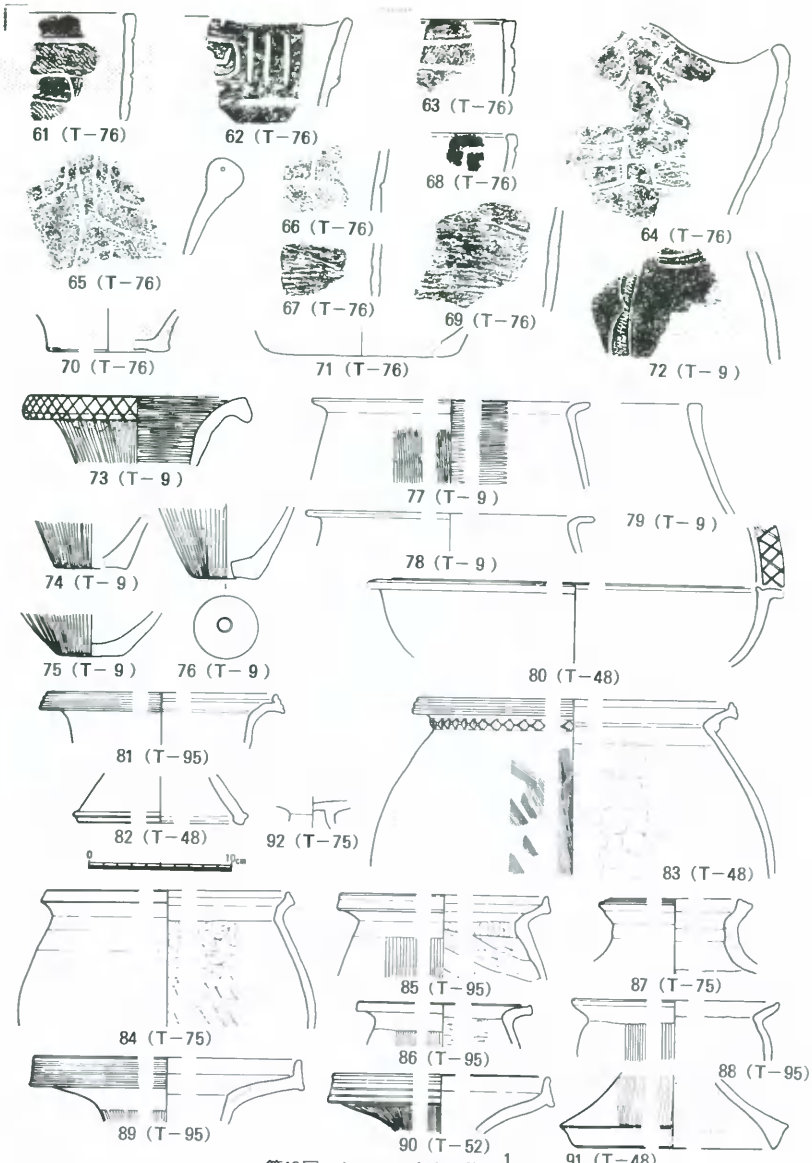
第47図　沖田T－100（$\frac{1}{60}$）

1　灰黒色土（水田）
2　暗灰色土
3　褐色土（床土）
4　灰黒色土（包含層）
5　灰色砂
6　淡茶褐色砂質土（微高地）
7　灰茶褐色砂質土（Mn）

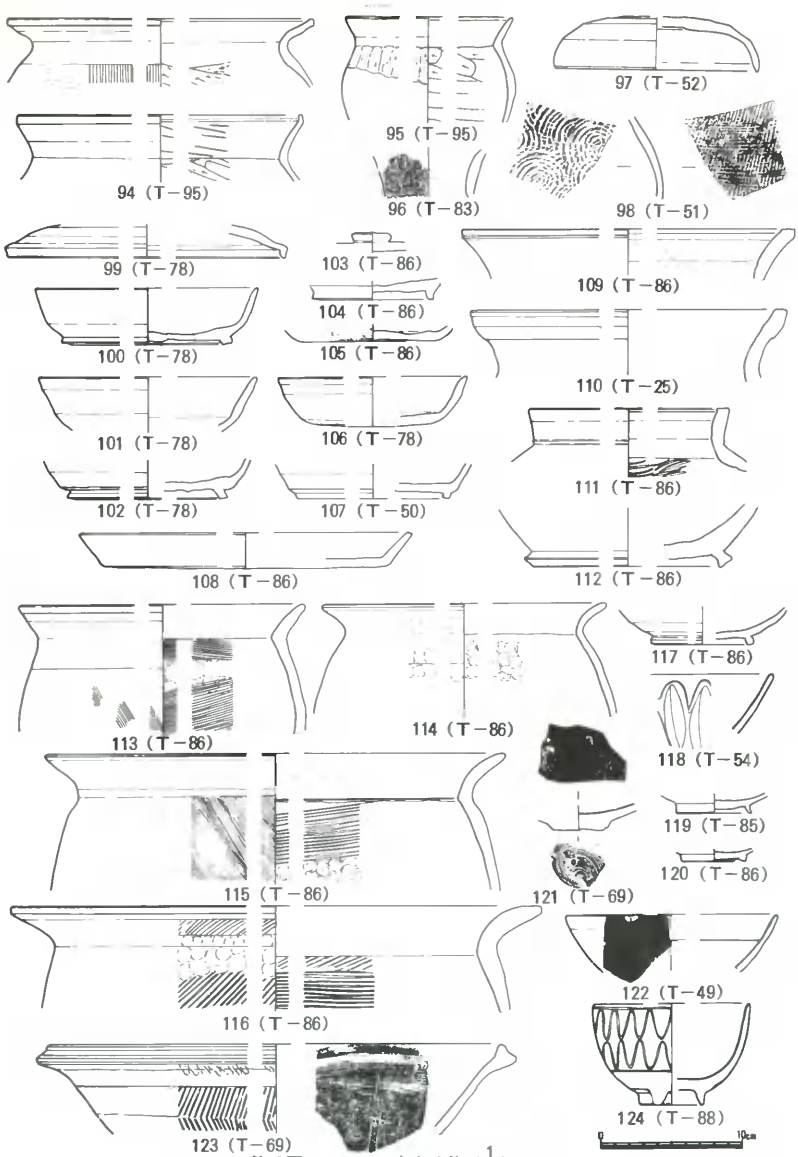


第48図　皿田T－101（$\frac{1}{60}$）

1　灰黒色土（水田）
2　暗黄褐色土（床土）
3　灰色土
4　淡褐色土（Fe）
5　暗灰色土
6　黄茶褐色砂質土（土壙）
7　灰色砂質土
8　黄褐色土
9　淡黒茶色砂質土
10　暗黒灰色土（土壙）
11　黄褐色砂質粘土（遺構面）
12　黄褐色砂質土



第49図　トレンチ出土遺物（$\frac{1}{4}$）



第50図　トレンチ出土遺物（$\frac{1}{4}$）

表－1　トレンチ調査一覧表

トレンチ番号	小字	番地	水田レベル(m)	包含層上面(cm)	遺構面(cm)	掘削底(cm)	遺構	遺物	重量(g)	備考
1	市場	3056-1	13.08	－	－	－100	－	○唐津（鉢）　○瓦（丸・平）　○小皿 ○鉄片	1,940	○小田川の氾濫冠水地区 ○微砂が多い
2	新郷	2807	13.05	－	－	－100	－	○唐津？　○青磁	40	○　〃 ○　〃
3	〃	2776	12.80	－	－	－100	－	○須恵器甕		○　〃 ○　〃
4	西代	2838	13.33	－	－	－100	－	○須恵器甕	95	○湧水　○○次的な遺物堆積
5	〃	2849-1	14.40	－	－	－100	－			○湧水
6	渡り	2742-1	14.91	－90	－90	－104	－	○縄文土器小片	140	○南西に流れた河道跡 ○粘土層が多い
7	〃	2723	13.46	－	－	－100	－			○湧水
8	岩崎	2876	17.88	－	－	－18	－			○丘陵部を削平して水田化
9	渡り	2680	15.96	－	－20	－84	○溝	○弥生中期土器甕・壺　○縄文土器鉢 ○鉄滓	1,751	○鉄・マンガンの付着
10	〃	2656	16.844	－	－	－100	－			○粘土層が中心
11	郷ノ木	2536	－	－	－	－100	－			○下層は砂・礫が多い
12	〃	2632-2	－	－	－	－100	－			○湧水
13	〃	2619	－	－	－	－100	－			
14	宮地	2485	－	－	－	－100	－	○羽釜　○伊万里	260	○礫が多い
15	寺坂	2461		－	－	－20	－			○丘陵部を削平して水田化
16	布引	2326-1	－	－	－	－100	－			○谷間にて礫多い
17	〃	2311-1	－	－	－	－20	－			○丘陵部を削平して水田化
18	〃	2305-1	－	－	－	－20	－			○　〃
19	夜出	2263	－	－	－	－100	－			○荒砂・礫が多い
20	〃	2234	－	－	－	－40	－			○丘陵部を削平して水田化
21	〃	2173	－	－	－	－100	－			○湧水　○荒砂・礫が多い
22	〃	2166	－	－	－	－94	－			○荒砂・粘土が中心
23	〃	2154	－	－	－	－100	－			○荒砂が中心
24	磯郷	2097-5	－	－	－	－100	－			○耕土直下に礫が多い
25	道り	2056	－	－	－	－90	－	○須恵器壺・杯蓋片（5C末～8C）	140	○土器は磨滅が著しい
26	〃	2039	－	－	－	－100	－	○土馬		○礫が多く，土馬はその中に混入
27	池田	1978-3	－	－	－50	－99	○溝	○弥生中期土器壺　○鉄片	30	○遺構面下に包含層
28	〃	1965	19.257	－	－20	－120	○溝，土壙	○弥生中期土器壺・甕・高杯　○須恵器	8,690	○耕作土直下より遺構面
29	〃	1958-1	18.507	－	－	－96	－	○須恵器甕	70	○－70cmで微高地状の上面
30	寺前	1928-1	18.225	－	－23	－100	○溝			○南北溝
31	〃	1889-1	－	－	－	－98	－			○粘土層が中心　○湧水
32	〃	1894	－	－	－	－101	－			○湧水　○－60cmに水田層がある
33	〃	1900	－	－	－	－100	－			○土層が西に傾斜している ○下位は洪水砂層
34	松本	1858-1	－	－	－	－100	－			○耕作土直下洪水砂層 ○湧水
35	〃	1867-1	－	－	－40	－98	○溝			○幅100cm，深さ20cmの南北溝 ○下位は洪水砂層
36	〃	1875	－	－	－	－100	－			○粘土中心にて下位洪水砂層　○湧水
37	中山	1718-1	－	－	－	－100	－	○亀山焼スリ鉢　○早島式土器 ○鉄滓	560	○谷部奥に製鉄関連遺構ありか
38	〃	1733	17.93	－	－	－100	－	○須恵器甕	50	○土器の磨滅が著しい
39	鶴田	1779-1	16.522	－	－100	－100	○溝			○荒砂の入った溝
40	〃	1822-2	－	－	－	－100	－			○湧水
41	皿田	1501	14.555	－	－58	－102	○溝	○弥生中期壺	20	○土器の磨滅が著しい　○東西溝
42	〃	1524-1	15.995	－	－	－96	－			○西側に大きく傾斜する土層 ○洪水砂中心
43	殿田	1581	22.657	－	－38	－96	○柱穴	○亀山焼甕　○内黒	130	○丘陵部の削平を受ける
44	竹西	1442-1	－	－40	－	－94	－			○土器小片を含む
45	〃	1436	－	－40	－45	－100	○溝？			○下位に流木を含む
46	蓮池	1412-1	18.325	－	－84	－104	－	○弥生後期土器甕	10	○暗灰色砂中より土器出土
47	〃	1406-1	18.700	－	－98	－106	○溝？	○弥生土器	45	○遺構面まで砂の堆積
48	〃	1382-1	22.035	－	－17	－124	○溝	○弥生中期土器甕・壺・高杯	710	○旧河道上に南北溝がある
49	〃	1380	22.275	－20	－	－130	－	○弥生中期土器　○青磁	450	○土器磨滅が著しい ○東側に傾斜する土層ある
50	〃	1378-1	22.665	－	－22	－116	○土壙	○須恵器杯身・鉢　○弥生後期土器	190	○蓮池の掘削方あり
51	〃	1376-1	22.855	－22	－22	－236	○溝，柱穴	○弥生中・後期土器　○石鏃	30,027	○「L」字形に曲る溝あり ○厚い遺物包含層
52	〃	1371-1	23.225	－	－24	－140	○土壙	○唐津　○須恵器 ○弥生中・後期土器壺・甕・高杯 ○須恵器杯蓋　○砥石(2)	285	○T－5同様に掘削方あり

蓮　池　尻　遺　跡

トレンチ番号	小字	地番	水田レベル(cm)	包含層上面(cm)	遺構面(cm)	掘底(cm)	遺構	遺物	重量(g)	備考
53	蓮　池	1372-1	23,295	－	－57	－110	○溝	○弥生後期土器　○須恵器甕	285	○湧水
54	〃	1377-1	21,870	－	－	－110	－	○早島式土器　○青磁	110	○湧水　○T－53に類
55	〃	561	－	－	－	－100	－			
56	坂　本	1258	－	－	－	－100	－	○須恵器甕　○弥生後期土器甕・椀	90	
57	蓮　池	584-1	－	－	－	－	－			○未掘
58	杉	619-1	－	－	－	－98	－	○亀山焼甕　○伊万里　○早島式土器	205	○下位は礫層　○洪水砂層
59	込　山	689-1	－	－	－	－100	－	○伊万里	10	○　〃　○　〃
60	諏訪下	1133-1	－	－	－	－95	－	○須恵器　甕	100	○　〃　○　〃
61	池　熊	188-1	－	－32	－60	－100	○溝？	○サヌカイト　○縄文晩期土器	20	○湧水
62	沖　田	127-1	17,050	－	－3	－99	○柱穴	○弥生中期土器　6層　○土鍋　5層	105	○内山谷川の東岸
63	〃	100	15,880	－24	－28	－100	○溝	○須恵器壷　○土鍋　○唐津	325	○安定した微高地か？
64	〃	54-1	－	－	－	－100	－	○須恵器　甕	60	○湧水
65	尾崎，丸田	2394	－	－	－	－100	－			○　〃
66	〃	2434	－	－	－	－100	－			○　〃
67	〃	2445-1	－	－	－	－100	－			○　〃　○黒色土が下位にある
68	尾崎，内山	2519-1	－	－	－	－98	－	○早島式土器椀　唐津 ○弥生中期土器甕	280	○二次的な堆積土中に土器 ○砂が中心
69	〃	2500	－	－	－	－99	－	○唐津皿　○亀山焼スリ鉢 ○弥生中期土器甕	550	○　〃 ○　〃
70	妹，円山	252	－	－	－	－100	－			○湧水
71	内　山	261	－	－	－	－100	－			○造成土
72	渡　り	2710	－	－	－	－99	－			○畑地　○砂が中心になる
73	〃	2729	－	－	－	－98	－			○岩石を多く含む
74	渡　り	2680	－	－	－20	－20	○溝，柱穴			○耕土直下遺構面　○削平を受けている
75	池　熊	505	21,250	－	－23	－40	○土壙 ○柱穴	○弥生後期土器　○須恵器甕 ○サヌカイト	1,960	○弥生時代の集落址
76	〃	176	19,680	－42	－	－131	－	○縄文後期土器鉢 ○鉄滓	1,100	○西側に傾斜する谷部開口 ○縄文後期包含層
77	沖　田	116	17,425	－	－	－119	－	○サヌカイト　○弥生時代中・後期土器 ○早島式土器	1,300	○耕作土より下位まで荒砂 ○洪水砂層
78	〃	111	16,495	－20	－20	－61	○柱穴	○須恵器杯身　○砥石　○早島式土器	5,670	○須恵器多い　○奈良時代の集落址
79	蓮　池	1376-1	22,855	－22	－	－22	－	○弥生後期土器甕　○弥生中期土器	50	○T－51と同じ状況である
80	油　田	1987-1	22,162	－44	－64	－70	○土壙，柱穴	○弥生中期土器　石鏃	1,560	○削平を受けている
81	〃	1951	－	－	－	－47	○溝	○唐津　伊万里　○弥生中期土器	270	○現代の畑地
82	〃	1976-1	－	－	－	－100	－			○洪水砂層
83	〃	1968-1	－	－	－	－60	－	○亀山焼甕　○弥生中期土器甕 ○須恵器（5C末～奈良）	720	○土器の磨滅が著しい ○大武谷川の氾濫原
84	殿　田	1575-1	21,975	－40	－52	－64	○溝，土壙 ○柱穴	○早島式土器　○亀山焼　○鉄滓 ○内黒土器　○灰釉	800	○平安時代の遺構
85	〃	1576	21,705	－38	－60	－61	○住居址？	○早島式土器　○須恵器杯蓋　○羽 ○サヌカイト　○亀山焼　○弥生中期土器	2,910	○製鉄関連遺構の存在
86	寺　前	1926	18,695	－50	－70	－96	○柱穴	○須恵器(奈良～平安)　○土師器甕 ○鉄滓　○備前焼　○伊万里	8,710	○奈良～平安時代の集落址
87	妹，内山	237	－	－45	－75	－150	○水田？	○青磁　○須恵器　○早島式土器	590	○第6層が水田層の可能性
88	渡　り	2645	17,927	－	－29	－84	○溝	○弥生後期土器　○亀山焼　○伊万里 ○唐津	230	○近世の東西溝
89	〃	2654-3	16,844	－	－	－95	－			○大武谷川の氾濫原　○礫が多い
90	〃	2686	15,53	－	－	－84	－	○須恵器	25	○南側に傾斜する土層
91	渡　り	2710-1	15,84	－	－	－98	－			○粘土が中心
92	〃	2715	15,13	－	－	－78	－			○東側に傾斜する土層　○旧河道
93	殿　田	1557	18,770	－	－	－60	－	○弥生前期土器　高杯　○早島式土器 ○須恵器	280	○－35cmにて，安定しな微高地か？
94	皿　田	1537-1	16,725	－37	－50	－100	－			○－45cmにて，安定した微高地か？
95	蓮　池	1392	20,180	－	－21	－105	○溝	○弥生中・後期土器　○古　前期土器 甕	1,360	○何度も洪水を受けている
96	〃	1390	24,370	－	－27	－100	○溝，柱穴			○南西に流れる溝
97	池　熊	190-1	－	－30	－	－101	－	○弥生中・後期土器甕 ○古墳前期土器壷	460	○洪水砂が中心
98	〃	195-1	－	－	－	－100	－	○弥生中・後土器壷・甕　亀山焼	270	○内山谷川の氾濫原
99	竹　西	1425-2	16,580	－	－33	－52	－			○－33cmにて，安定した微高地か？
100	沖　田	90	15,320	－24	－28	－96	－			○－28cmにて，安定した微高地か？
101	皿　田	1510	14,820	－31	－38	－98	○土壙			○安定した微高地
102	〃	1510	14,820	－	－20	－20	○溝	○弥生中期土器壷	110	○　〃

第4章　ま　と　め

今回の真備町妹、尾崎地区の確認調査は計102本のトレンチを掘開することにより大略ではあるが、遺跡の存在、規模、内容についての具体性を把握することができた。

沖田、寺前、中山調査区で約25,400㎡、渡り調査区で約12,160㎡、殿田、蓮池、池熊、皿田、竹西、沖田、丸田、鶏田調査区で約246,000㎡の遺跡地を確認した。総面積は約283,560㎡にものぼり、従来より発見例が希少であり、具体性の伴わなかった真備町の平野部に住居址、建物址、溝等の遺構を中心とした弥生時代中期～中世までの居住域が存在することが判明した。

妹、尾崎（旧吳妹村）の平野は大武谷川、背谷川、内山谷川の三河川を囲む山々の崖錐堆積物と小田川の氾濫堆積物により形成された沖積扇状地である。そして、遺跡地の分布は大武谷川、背谷川両岸周辺を中心に形成されており、その分布域もまた小田川の氾濫沖積作用と大きく関連して存在している。現在の田面海抜高約15.0～15.3ｍ付近を平野部で拾ってゆくと、その等高線は蛇行して東流する小田川の流路平面形と同形状を呈していることがわかる。とりわけ、その形状が顕著に表われているのは大武谷川・背谷川間の松本調査T－36北側の畦畔に認められ、現在の小田川からさらに北方約300ｍ付近まで河道（第51図）が入りこんでいたことが理解できる。

遺跡地はこの河道の入りこんだ東西両岸に位置しており、西岸に弥生時代中期・白鳳時代の遺構、遺物を主にする油田、寺前、中山、渡りの調査区が所在する。また、東岸には縄文時代後期・弥生時代中・後期、古墳時代前期、白鳳時代の遺構・遺物を主にする殿田、蓮池、池熊、皿田、竹西、沖田、丸田、鶏田調査区が所在する。前者は丘陵端および微高地上、後者は微高地を中心に営なまれている。さらに現在の田面海抜高および遺構の分布から平野部の古地形を復原してみると、大武谷川により形成された微高地と、背谷川により形成された微高地の２者が存在する。その微高地間に位置する松本調査区の田面海抜高は低く、低地の形状を呈しており、両者の微高地端の流水をまとめて小田川に注ぎ込む流路として機能していた可能性が強い。妹山東側裾部を通過して小田川に注ぎ込む流路の存在も考えられる。蓮池調査区を中心とする後者は広大な微高地（750×500ｍ）が想定でき、現在機能している背谷川筋が微高地高所にあたり、東西、南に緩かに下降してゆくさまが看取できる。また、背谷川、内山谷川間の池熊調査区には田面の低位部が北より南に帯状に認められ、蓮池築造前に流路として機能していた痕跡を残しているものと考えられる。T－76では河道の左岸肩部が検出されており、水田面より130ｍ下の黒色包含層中より縄文時代後期（中津式）の土器片（1,100ｇ）がまとまって出土している。この事実はT－76北側に縄文時代以降安定した微高地の存在を考えることが可能

であり、東は呉妹小学校東端、南は県道倉敷、井原線近くまでの範囲が推定できる。

蓮池を中心とするこの地区では現在、東京国立博物館にある「備中呉妹銅鐸」「土馬」、「瑞」が大正四年に出土しており、場所は吉備郡呉妹村大字妹池ノ上字梨ノ木、1377番地が記されている。銅鐸出土の状況は耕地の表土より約二尺許を掘り下げた位置から出土しており、上部を東南に横向に埋没し周囲の土色が変化していたことが記録されている。出土地の記載では増築工事中の蓮池から樋尻を距る20余間の所に當り、放水口を延長する必要性から土管埋没の施行中その掘開線に於いて発見されている。そして、石、その他の材料にて囲んだり、保護の痕跡が認められないことから自然に埋没したものと判断されている。

今回の発掘調査は、その状況の具体性を追求把握することに重点を置いた。まず、銅鐸出土地番である1377番地の水田を発掘したが樋の痕跡は認めることができず、すぐ西側の水田1378－1、1376－1、1371－1において蓮池より背谷川に放水する樋の掘り方を確認した。早速、蓮池尻より20余間（約36ｍ）を押さえるとＴ－51を設定掘開した1376－１番地の水田北端と、1371－１番地の水田南端あたりの可能性がうかびあがる（第９図）。Ｔ－51 では表土下22～60cmにて包含層および溝、柱穴等の遺構を確認した。この深さは銅鐸出土地点の深さ２尺に近い数値を示しており、あるいは何らかの遺構に伴って銅鐸が出土した可能性も考えられる。ま

第51図　妹・尾崎地区遺跡想定図（$\frac{1}{10,000}$）

た、溝内出土遺物は弥生時代中期中葉の菰池期古相が中心を占め、若干新相が混入している状況である。また、包含層中であるが分銅形土製品の下半部が出土しており、菰池期に属すると考えられる。その他では弥生時代中期後半から後期後半までの磨滅した土器片が多少出土してえり、この時期までの集落址が想定できる。なお、銅鐸出土地を示すために建てられている木碑の場所は農作業の妨げになるという理由で田圃内より外に移動されたものである。

沖田調査区のT－78では7世紀後半期を中心にする須恵器等が多く、従来この平野では周知されている時代の遺構の存在が具体化し、寺前調査区のT－86出土の須恵器、ならびに対岸の八高廃寺との関連も興味深いものである。

さて、発掘調査の概要で個々の地区の概観についてのべましたが、さらにトレンチ一覧表を併用していただき、妹・尾崎平野の持つ歴史的事実をとりあげ、真備町の生立を具体化する展望を期するものです。

一応、羅列に終始しましたが、72haのうち0.06haの確認調査ゆえに多くの不安を残していることも事実であり、とくに山陽道・条里遺構については現在も重複しながら機能している可能性が考えられ、今後の圃場整備計画の実施に際して倉敷地方振興局、真備町産業課、真備町教育委員会、岡山県文化課等の関係機関の連絡，協議の励行を切願するものであります。

参考・引用文献

藤原音松　「備中呉妹銅鐸発掘地踏査報告」考古学雑誌第八巻第二号　1917年

間壁忠彦　『真備町史』第2篇　1979年

池邊　彌　『和名類聚抄郷名考證』　1966年

永山卯三郎　『岡山縣農地史』　1979年

日名静一　『穴門山神社文徴録』　1937年

永山卯三郎　『吉備郡史』上巻　1971年

中野雅美　「箭田大塚古墳」　真備町教育委員会　1984年

正岡睦夫・山磨康平・平井　勝　「西山遺跡」　真備町教育委員会　1979年

図版1

1．吉備郡真備町大字妹・尾崎地区空中写真（$\frac{1}{20,000}$）

図版 2

1.　妹地区の条里（南から）

2.　妹地区の条里（北から）

図版3

1.　渡り・西代地区（北東から）

2.　油田地区（東から）

図版4

1.　殿田・蓮池・池熊地区（西南西から）

2.　浜・松本・鶏田・中山地区（南西から）

図版5

1.　寺前地区（東から）

2.　沖田地区（南々西から）

図版6

1.　蓮池地区（北々東から）

2.　皿田地区（南西から）

図版7

1.　油田地区　T－28　土層断面（南西から）

2.　池熊地区　T－75　出土土壙（南々西から）

図版8

1.　蓮池地区　T－51　溝内遺物出土状況（南から）

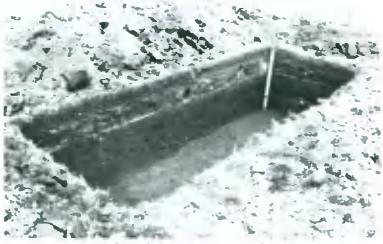
2.　蓮池地区　T－51　柱穴掘り方内遺物出土状況（南から）

図版 9

1.　蓮池地区　T－51　溝内遺物出土状況（東北東から）

2.　蓮池地区　T－51　溝，柱穴完掘状況（東から）

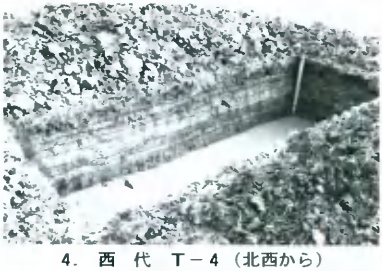
図版10



1．市　場　T－1（南から）

2．新　郷　T－2（北から）

3．新　郷　T－3（西から）



4．西　代　T－4（北西から）

5．渡　り　T－7（南西から）

6．岩　崎　T－8（西から）

7．渡　り　T－9（南から）

8．渡　り　T－10（南東から）

図版11

1.　郷ノ木　T－11（南西から）

2.　宮　地　T－14（南西から）

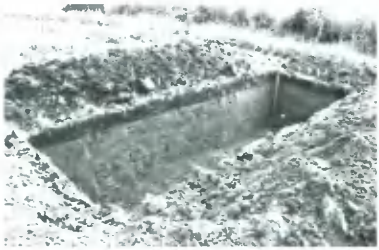
3.　寺　坂　T－15（北西から）

4.　布　引　T－16（南東から）

5.　夜　出　T－19（北から）

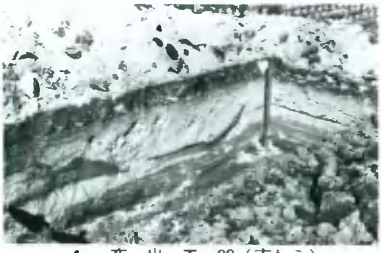
6.　夜　出　T－20（南々東から）

7.　夜　出　T－21（北東から）

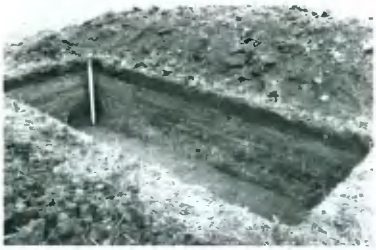


8.　夜　出　T－22（北から）

図版12

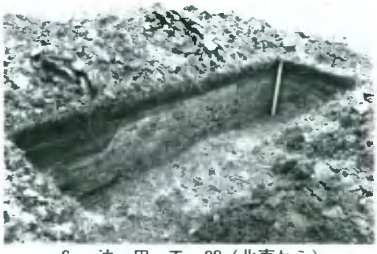


1．夜　出　T－23（南から）



5．油　田　T－27（南東から）

2．磯　柳　T－24（西北西から）



6．油　田　T－28（北東から）

3．退　り　T－25（南東から）

7．寺　前　T－30（南東から）

4．退　り　T－26（南西から）

8．浜　T－31（南西から）

図版13

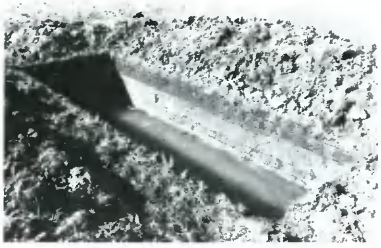
1．浜　T－32（北西から）

2．浜　T－33（南東から）

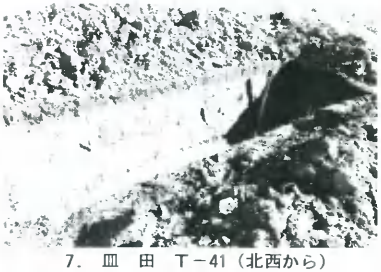
3．松　本　T－34（東南東から）

4．松　本　T－35（南東から）

5．松　本　T－36（東南東から）



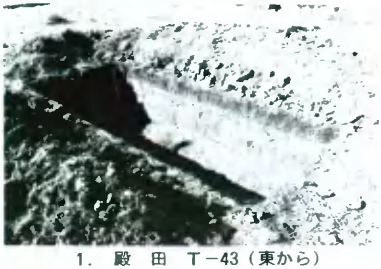
6．中　山　T－38（東南東から）



7．皿　田　T－41（北西から）

8．皿　田　T－42（南東から）

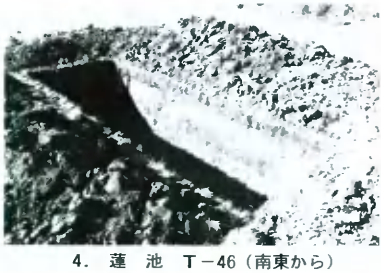
図版14



1. 殿　田　T－43（東から）

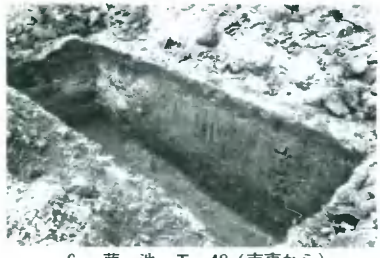
2. 竹　西　T－44（南東から）

3. 竹　西　T－45（南東から）

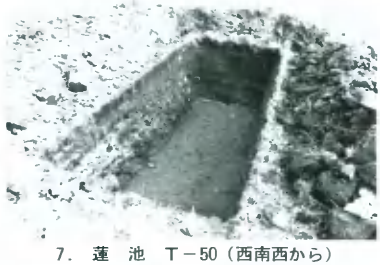


4. 蓮　池　T－46（南東から）

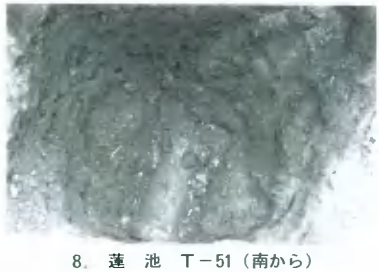
5. 蓮　池　T－47（南西から）



6. 蓮　池　T－48（南東から）



7. 蓮　池　T－50（西南西から）



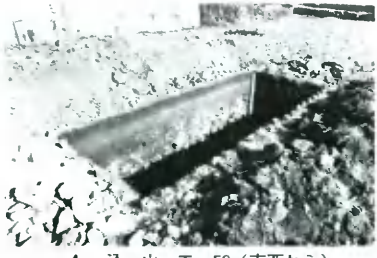
8. 蓮　池　T－51（南から）

図版15

1．蓮　池　T－52（西南西から）

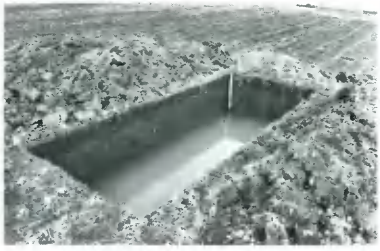
2．蓮　池　T－55（西南西から）

3．杉　T－58（北々西から）



4．込　山　T－59（南西から）

5．沖　田　T－62（南東から）



6．尾崎・丸田　T－65（南西から）

7．尾崎・丸田　T－66（南西から）

8．尾崎・丸田　T－67（北東から）

図版16

1.　尾崎・内山　T－68（北から）

2.　尾崎・内山　T－69（北から）

3.　内　山　T－71（南西から）

4.　渡　り　T－72（南西から）

5.　渡　り　T－73（南々西から）

6.　渡　り　T－74（北西から）

7.　池　熊　T－75（西から）

8.　池　熊　T－76（南東から）

図版17

1.　沖　田　T－78（南東から）

2.　沖　田　T－79（南々西から）

3.　油　田　T－80（西から）

4.　油　田　T－81（北西から）

5.　油　田　T－83（南西から）

6.　殿　田　T－84（北々東から）

7.　殿　田　T－84（東南東から）

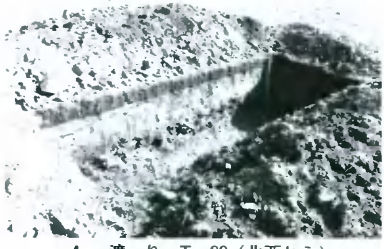
8.　殿　田　T－85（南西から）

図版18

1.　寺　前　T－86（南西から）

2.　妹・内山　T－87（南西から）

3.　渡　り　T－88（北西から）



4.　渡　り　T－89（北西から）

5.　渡　り　T－90（南東から）

6.　渡　り　T－91（南東から）

7.　皿　田　T－94（南東から）

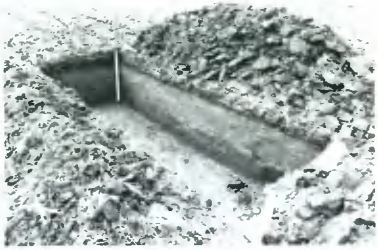
8.　池　熊　T－98（南東から）

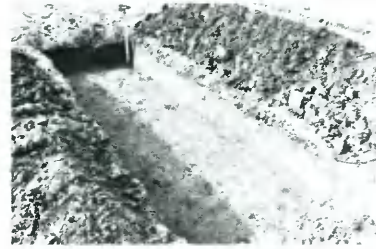
図版19

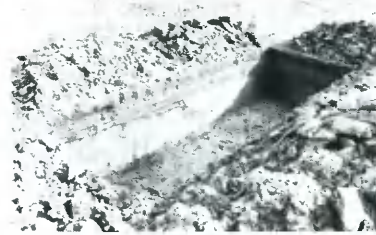
1．蓮　池　T－95（北東から）

2．蓮　池　T－96（北東から）

3．池　熊　T－97（南西から）


4．池　熊　T－98（南西から）


5．竹　西　T－99（南東から）

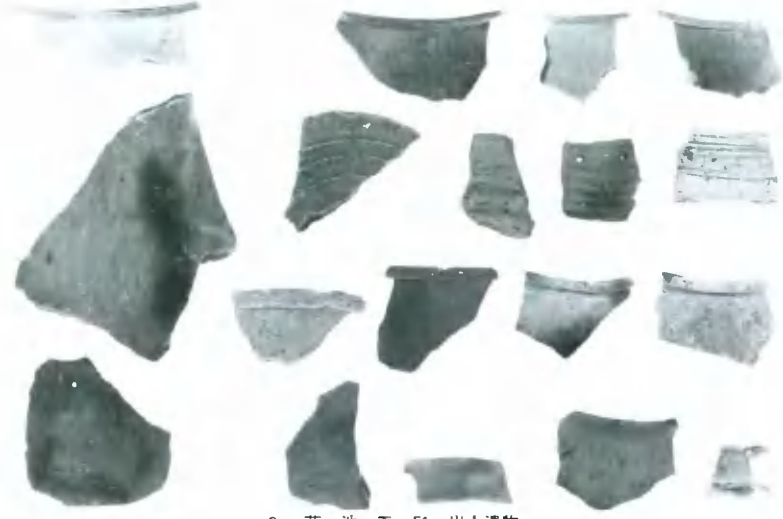

6．皿　田　T－101（北東から）

7．蓮　池　T－51（南東から）

8．磯　柳　T－24（西南西から）

図版20

1．池　熊　T－76　出土遺物



2．蓮　池　T－51　出土遺物

図版21

1．蓮　池　T－51・油　田　T－28出土遺物

2．退　り　T－26　出土遺物

図版22

1．吉備郡真備町大字妹字蓮池出土銅鐸（大正四年出土）

新庄尾上遺跡ほか

例　言

1. 本書は、御津町伊田、新庄、平岡西、石上地区一帯における県営圃場整備事業に伴い、昭和60年度国庫補助を受けて実施した「新庄尾上遺跡ほか」の発掘調査概要報告書である。

2. 遺跡は御津郡御津町新庄ほかに所在する。

3. 発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員平井泰男が担当し、専門委員の指導、助言を得て、昭和60年11月25日から昭和61年２月３日まで実施した。

4. 本書の執筆・編集は平井が行った。尚、遺物写真については岡山県古代吉備文化財センター職員井上　弘が撮影した。遺物、記録類は岡山県古代吉備文化財センターに保管している。

5. 本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は、第１～６、12、16、29～31図が真北であり、他は磁北である。

6. 本書第２図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の50,000分の１地形図（岡山北部、福渡）を複製したものである。

目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的・歴史的環境……65
第２章　調査の経緯……69
　第１節　調査に至る経緯……69
　第２節　調査体制および日誌抄……69
第３章　発掘調査の概要……74
　第１節　宅美池遺跡……74
　第２節　塚の谷遺跡……79
　第３節　伊田沖遺跡……82
　第４節　新庄尾上遺跡……89
第４章　まとめ……107

図　目　次

第１図　遺跡位置図（黒丸印）……65
第２図　御津町内遺跡分布図（一部）（1／50,000）……66
第３図　圃場整備対象範囲図（1／50,000）……71
第４図　宅美池遺跡、塚の谷遺跡、伊田沖遺跡周辺地形図（1／10,000）……72
第５図　新庄尾上遺跡周辺地形図（1／7,500）……74
第６図　宅美池遺跡、塚の谷遺跡トレンチ設定図（1／3,000）…75
第７図　宅美池遺跡トレンチ1,3 断面図（1／80）……76
第８図　宅美池遺跡トレンチ2,4,5,6,7断面図（1／60）……77
第９図　宅美池遺跡トレンチ8,9 断面図（1／60）……78
第10図　塚の谷遺跡トレンチ1,2,3,4,5 断面図（1／60）……80
第11図　塚の谷遺跡トレンチ6,7 断面図（1／60）……81
第12図　伊田沖遺跡トレンチ設定図（1／2,000）……83
第13図　伊田沖遺跡トレンチ1,2,3 平・断面図（1／80）……84
第14図　伊田沖遺跡トレンチ4,5,7 平・断面図（1／80）……86
第15図　伊田沖遺跡トレンチ6,8,9,10,11,12平・断面図(1／80)……88
第16図　新庄尾上遺跡トレンチ設定図（1／5,000）……90
第17図　新庄尾上遺跡トレンチ1,2,3,4,5 平・断面図(1／80）…91
第18図　新庄尾上遺跡トレンチ6,7,8,9,10平・断面図(1／80）…94
第19図　新庄尾上遺跡トレンチ11,12,13,14,15 平・断面図（1／80）……95
第20図　新庄尾上遺跡トレンチ16,17,18,19,23,24　平・断面図（1／80）……96
第21図　新庄尾上遺跡トレンチ20,21，22平・断面図(1／80）…97
第22図　新庄尾上遺跡トレンチ25,26断面図（1／80）……98
第23図　伊田沖遺跡トレンチ３竪穴式住居内出土遺物(1)(1／4)…99
第24図　伊田沖遺跡トレンチ３竪穴式住居内出土遺物(2)(1／4)・100
第25図　伊田沖遺跡トレンチ３竪穴式住居内出土遺物(3)（1／4，1／2)……101
第26図　宅美池遺跡（84)，伊田沖遺跡（60～83,85,86）トレンチ出土遺物(1／4)……102
第27図　新庄尾上遺跡トレンチ出土遺物（1／4)……103
第28図　宅美池遺跡（111)，伊田沖遺跡（110)，新庄尾上遺跡（112）出土石器(1／3)……104
第29図　宅美池遺跡推定遺跡範囲図（1／4,000)……109

第30図　伊田沖遺跡推定遺跡範囲図（1／3,000）……109
第31図　新庄尾上遺跡推定遺跡範囲図（1／5,000）……110

図　版　目　次

図版1　遺跡周辺地形（航空写真）（1／20,000，昭和60年4月現在）
図版2-1，宅美池遺跡遠景（東から）
2，塚の谷遺跡遠景（西から）
図版3-1，宅美池遺跡T-1（南から）
2，宅美池遺跡T-2（南東から）
3，宅美池遺跡T-3（南から）
4，宅美池遺跡T-4（北西から）
5，宅美池遺跡T-5（北西から）
6，宅美池遺跡T-6（南西から）
7，宅美池遺跡T-7（西から）
8，宅美池遺跡T-8（西から）
図版4-1，宅美池遺跡T-9（東から）
2，塚の谷遺跡T-1（南から）
3，塚の谷遺跡T-2（北から）
4，塚の谷遺跡T-3（南東から）
5，塚の谷遺跡T-4（北西から）
6，塚の谷遺跡T-5（北西から）
7，塚の谷遺跡T-6（北西から）
8，塚の谷遺跡T-7（南東から）
図版5-1，伊田沖遺跡遠景（南から）
2，伊田沖遺跡T-1（南東から）
図版6-1，伊田沖遺跡T-3（南東から）
2，伊田沖遺跡T-3竪穴式住居上層上器溜り（西から）
図版7-1，伊田沖遺跡T-3竪穴式住居遺物出土状況（東から）
2，伊田沖遺跡T-4（北東から）
図版8-1，伊田沖遺跡T-5（南東から）
2，伊田沖遺跡T-7（北西から）
図版9-1，伊田沖遺跡T-2（北から）
2，伊田沖遺跡T-5東壁断面（西から）
3，伊田沖遺跡T-6（北西から）
4，伊田沖遺跡T-8（西から）
5，伊田沖遺跡T-9（北東から）
6，伊田沖遺跡T-10(北西から）
7，伊田沖遺跡T-11(北西から）
8，伊田沖遺跡T-12 柱穴（西から）
図版10-1，新庄尾上遺跡遠景（北東から）
2，新庄尾上遺跡遠景（北西から）
図版11-1，新庄尾上遺跡遠景（西から）
2，新庄尾上遺跡T-4（北東から）
図版12-1，新庄尾上遺跡T-5（南北から）
2，新庄尾上遺跡T-6（南西から）
図版13-1，新庄尾上遺跡T-10(北西から）
2，新庄尾上遺跡T-12(北西から）
図版14-1，新庄尾上遺跡T-18(南から）
2，新庄尾上遺跡T-20(北西から）
図版15-1，新庄尾上遺跡T-21(北から）
2，新庄尾上遺跡T-1（北西から）
3，新庄尾上遺跡T-2（南から）
4，新庄尾上遺跡T-3（南西から）
5，新庄尾上遺跡T-7（北から）
図版16,1，新庄尾上遺跡T-8（北西から）
2，新庄尾上遺跡T-9（西から）
3，新庄尾上遺跡T-11(南西から）
4，新庄尾上遺跡T-13(北から）
5，新庄尾上遺跡T-14(北から）
6，新庄尾上遺跡T-15(西から）
7，新庄尾上遺跡T-16(南西から）
8，新庄尾上遺跡T-17(西から）
図版17-1，新庄尾上遺跡T-19(南西から）
2，新庄尾上遺跡T-22(北から）
3，新庄尾上遺跡T-23(北西から）
4，新庄尾上遺跡T-24(西から）
5，新庄尾上遺跡T-25(西から）
6，新庄尾上遺跡T-26(北東から）
7，新庄尾上遺跡発掘風景
8，新庄尾上遺跡埋めもどし風景
図版18　伊田沖遺跡T-3竪穴式住居内出土遺物(1)
図版19　伊田沖遺跡T-3竪穴式住居内出土遺物(2)
図版20　伊田沖遺跡（1～13,16），宅美池遺跡（14），新庄尾上遺跡（15,17,18）出土遺物

表　目　次

表－1　トレンチ調査概要一覧表……104
表－2　遺物観察表……105

第１章　地理的・歴史的環境

遺跡の所在する御津郡御津町は、岡山県の中央部からやや南東寄りに位置し、東部は赤磐郡赤坂町と山陽町、西部は御津郡加茂川町と岡山市、南部は岡山市、北部は御津郡建部町と接している。

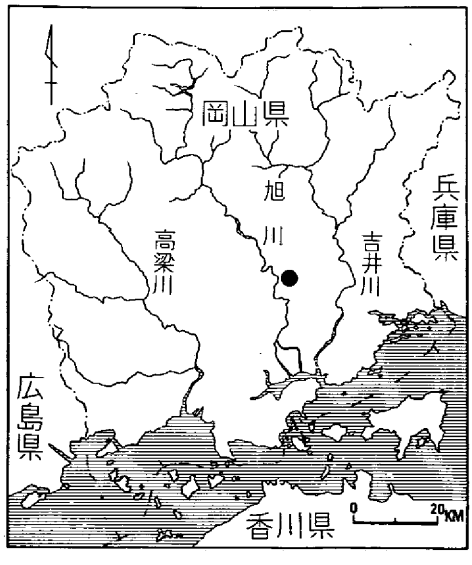
面積は約114㎢を有し、町の西北部には吉備高原に連なる標高400ｍ前後の高い山々がみられるが、他の多くは比較的低平な山地や丘陵が広がっており、全面積の約80％を山地が占めている。

一方、町の東部には岡山県の三大河川のひとつである旭川が、北部と南部で大きく蛇行しながら町を二分する形で南流し、周辺にいくつかの氾濫原や沖積地、河岸段丘を形成している。さらに、西北部からは宇甘川が、また北東部からは新庄川がそれぞれ山地の間をぬうような形で流れ、町の中央部で旭川に合流し、周辺に小規模な平野を形成している。こうした平野部のなかでは、旭川が町の南部で大きく東へ蛇行する西岸部に広がる宇垣の平野が最も大きく、ついで新庄川流域の新庄および伊田の平野がある。

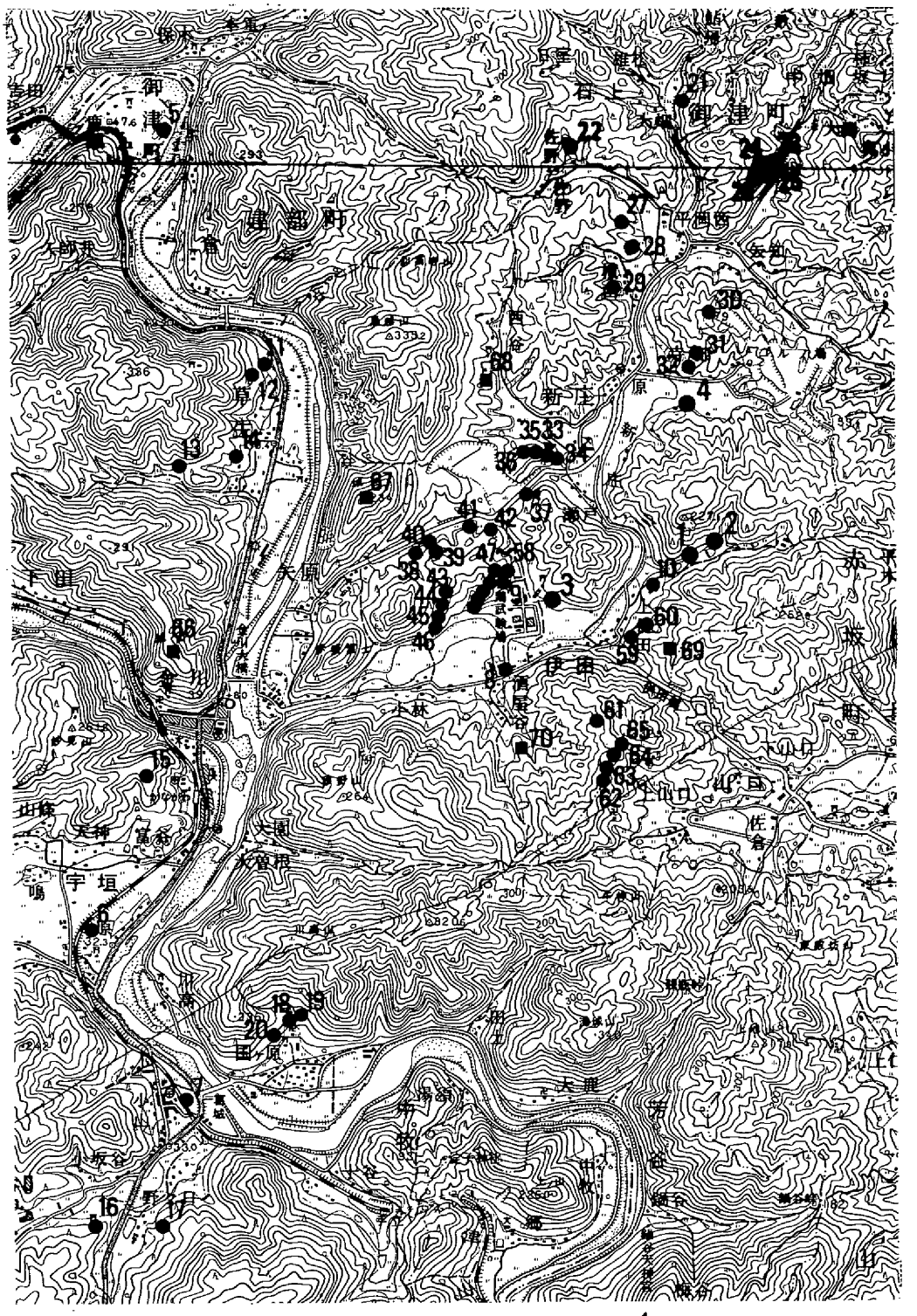
今回調査を実施した諸遺跡が位置する地域は、町の北東部にあたり、花崗岩質の標高100～200mの山地と新庄川が形成した小規模な沖積地および扇状地が広がる地形を呈している。

このような地理的環境をもつ御津町内において、遺跡は現在約100遺跡が知られている。

これらのなかで最も古いものは、伊田の岩井山丘陵南端部において出土したと伝えられる縄文時代後期の一片の土器片があるが、偶然の採集品であり詳細は明らかでない（註１）。現在確実な遺跡としては縄文時代晩期のものが最も古く、鹿瀬遺跡、原遺跡、野々口遺跡、酒屋谷遺跡が知られている。鹿瀬遺跡は、町の北端部で旭川が東に大きく蛇行した西岸の河岸段丘に所在し、土器片が出土している。原遺跡は、町の中央部の旭川西岸に広がる沖積地に位置し、昭和26年頃から瓦粘土採掘時に土器や石器が出土して注目された。昭和33年、鎌木義昌氏、江坂進氏によって出土した土器に関する共同研究が発表され（註２）、縄文時代晩期の「原下層式」設定の契機となった遺跡である。野々口遺



第１図　遺跡位置図（黒丸印）



第2図　御津町内遺跡分布図（一部）（$\frac{1}{50,000}$）

跡は、原遺跡の南東約1.5kmの旭川西岸の河岸段丘に位置し、瓦粘土採掘中に土器包含層および木の葉、ドングリなどが見つかっている。

弥生時代の遺跡としては、旭川流域に位置する前述の鹿瀬遺跡、原遺跡（註３）、野々口遺跡が縄文時代から引き続き営まれているのに加えて、町の北東部を流れる新庄川を見下す山麓に中期から後期にかけての遺跡である岩井山遺跡、上伊田遺跡（伊田大谷遺跡、註４）、宅美池遺跡、新庄尾上遺跡などが確認されている。これらのうち岩井山遺跡は、昭和50年に発掘調査が実施され、中期後半の竪穴式住居２軒が検出されている（註５）。こうした弥生時代の遺跡は、原遺跡、岩井山遺跡を除くと偶然に土器などが採集されているものが多く実態は明らかでないが、未発見の遺跡も含め、旭川以外の小河川の流域にも弥生時代の人々が生活を営み始めたことをうかがうことができる。

町内における古墳は約90基が現在確認されている。これらの古墳の分布をみると、その大部分が旭川、宇甘川、新庄川の流域の丘陵上に位置しており、その流域に広がる平野を生産基盤として古墳時代の人々が生活していたことが知られる。

これらの分布状況をもう少し詳しくみると、旭川水系に約20基、宇甘川水系に約20基であるのに対して新庄川水系では約50基が確認されている。このうち旭川流域の草生、宇垣、野々口、国ケ原などの平野を基盤とする古墳については前半期のものはあまり知られておらず、後期古墳が主体をなしているのに対し、宇甘川流域では全長44ｍを測る前方後円墳の菅２号墳をはじめ、一辺約10mの方墳である菅１号墳や小形円墳の中泉２号墳などの前半期古墳が存在し、引き続き後期古墳が造営されている。さらに、最も数の多い新庄川流域においては、新庄川中流域に

---

1. 宅美池遺跡（弥生～中世）
2. 塚の谷遺跡（古墳）
3. 伊田沖遺跡（弥生～中世）
4. 新庄尾上遺跡（弥生～中世）
5. 鹿瀬遺跡（縄文～弥生）
6. 原遺跡（縄文～中世）
7. 野々口遺跡（縄文～弥生）
8. 酒屋谷遺跡（縄文～古墳）
9. 岩井山遺跡（弥生～平安）
10. 上伊田遺跡（弥生）
11. 宇条１号墳
12. 宇条２号墳
13. いかとう古墳
14. 平野古墳
15. 金川古墳
16. 恋坂古墳
17. 虫名古墳
18. 香雲寺裏１号墳
19. 香雲寺裏２号墳
20. 国ケ原神社西古墳
21. 火の釜古墳
22. 佐野古墳
23. 一本松１号墳
24. 一本松２号墳
25. 一本松３号墳
26. 一本松４号墳
27. 須道山古墳
28. 八幡神社古墳
29. 鍛治久古墳
30. 天狗古墳
31. 熊野神社古墳
32. 経畔古墳
33. 天神鼻１号墳（前方後円墳）
34. 天神鼻２号墳
35. 天神鼻３号墳
36. 天神鼻４号墳
37. 八つ塚古墳（前方後円墳）
38. 岩井山18号墳
39. 岩井山19号墳
40. 岩井山20号墳
41. 岩井山21号墳
42. 岩井山22号墳
43. 岩井山14号墳
44. 岩井山15号墳
45. 岩井山16号墳
46. 岩井山17号墳

47～58. 岩井山２～13号墳

59. 祇園古墳
60. 宇那山古墳
61. しんのう塚古墳
62. 殿谷１号墳
63. 殿谷２号墳
64. 殿谷３号墳
65. 殿谷４号墳
66. 金川城（玉松城）
67. 熊谷城
68. 西谷城
69. 宇那山城
70. 殿谷城

広がる新庄平野を西から見下す丘陵上に、全長約20.5mの前方後円墳である天神鼻1号墳および全長約33mを測る前方後円墳の八つ塚古墳が近接して存在し、周辺にも前半期の古墳が知られている。これらのうち八つ塚古墳の南西の伊田の平野を見下す丘陵上に位置する岩井山古墳群の第2～8号墳は昭和50年に発掘調査が実施され、箱式石棺や石蓋土壙を内部主体とする五世紀代の方墳であることが明らかとなっている（註5）。このような古墳のあり方からみて古墳時代においては新庄川流域が他に比べて優勢であったものと考えられる。

古代から中世の遺跡も原遺跡、岩井山遺跡で奈良・平安時代の遺物が知られている他、五輪塔、宝篋印塔なども確認されているが、特に鎌倉～戦国時代においては、河川および陸上の交通の要衝地であることから、戦国期の岡山県下最大級の城郭構造をもつ金川城（玉松城）をはじめ、徳倉城、虎倉城、熊谷城、殿谷城など多くの山城が構築されている。

註

（註1）この土器片については、『岩井山古墳群』（後掲）および『御津町史』（後掲）に拓本が掲載されている。

（註2）「岡山県御津町原遺跡－縄文晩期の土器を中心として－」『瀬戸内考古学』第2号 瀬戸内考古学会　1958年3月

（註3）原遺跡に関しては、現在県営圃場整備に伴う発掘調査が実施されており、弥生時代の竪穴式住居、土壙、柱穴など数多くの遺構、遺物が検出されている。なお、昭和57年度に実施された原遺跡の確認調査については下記の報告書がある。
「原遺跡」『小阪部・永富遺跡、備中平遺跡、原遺跡、昭和57年度圃場整備に伴う確認調査』　岡山県教育委員会　1983年3月

（註4）『岡山県遺跡地図第四分冊』（岡山県教育委員会、1976年3月）では「上伊田遺跡」と記載されているが、『岩井山古墳群』（後掲）および『御津町史』（後掲）では「伊田大谷遺跡」とよばれている。

（註5）『岩井山古墳群』　御津町教育委員会　1976年5月

参 考 文 献

(1)『御津町史』　御津町　1985年3月

(2)『岡山県遺跡地図　第四分冊』　岡山県教育委員会　1976年3月

(3)『金川古墳　御津町埋蔵文化財発掘調査報告2』　御津町教育委員会　1982年3月

第2章　調査の経緯

第1節　調査に至る経緯

御津郡御津町伊田、新庄、平岡西、石上地区一帯において県営圃場整備事業が計画されたのに伴い、昭和59年12月17日付けで岡山地方振興局長より文化財保護法第57条3にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。内容は、県営圃場整備事業予定地内において周知されている宅美池遺跡（御津町伊田）、新庄尾上遺跡（御津町新庄）の取扱いについてである。関係者による協議の結果、これらの遺跡については、(1)工事着手前に確認調査を実施する。(2)調査の結果、重要な遺構等が発見された場合は別途協議することとなった。また、御津町伊田に所在する塚の谷遺跡についても、遺跡の広がりが圃場整備予定水田に及ぶ可能性があるため、確認調査の対象とすることになった。この協議結果にもとづき、岡山県教育委員会は、工事施行前に遺跡の規模、状況等を明らかにし、遺跡の保護・保存を講ずるための基礎資料を得るため、昭和60年度国庫補助を受けて発掘調査を実施することになった。

なお、御津町伊田字沖に所在する伊田沖遺跡については、宅美池遺跡、塚の谷遺跡の確認調査を実施中に新しく発見された遺跡（弥生時代から中世の土器散布地）であり、当該地が、圃場整備予定地内に位置し、すでに一部では圃場整備工事が実施中であり、緊急に保存協議のための資料を得る必要があったため、遺跡発見届および昭和60年度文化財保存事業計画変更承認申請等々の手続きをとり、当初の発掘調査計画に加えて調査を実施することとした。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが実施した。発掘調査期間は、昭和60年11月25日から昭和61年2月3日である。

調査にあたっては岡山県文化財保護審議会専門委員の指導・助言を得た。また、御津町役場、御津町教育委員会をはじめ地権者等関係各位からは多大の御協力を得た。さらに、発掘作業に従事していただいた地元有志の方々にも協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

第2節　調査体制および日誌抄

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所長　松元昭憲（昭和60年12月15日まで）

　　高橋誠記（昭和60年12月16日から）

次長　橋本泰夫

総務課長　佐々木　清

調査課長　河本　清

文化財保護主事　平井泰男（調査担当）

発掘作業員

家光三志、石川富雄、石原藤江、卯善常雄、江田英男、大森文香、宇野治郎、宇野延夫、友森冨貴子、内藤賢吉、西崎里志、林胖、林恭子、花房義資、松尾千鶴子、安宗貞男。

報告書作成協力者

竹本聡美、前原節子、佐野公子、大林洋子

日誌抄

昭和60年

11月25日(月)　宅美池遺跡調査開始。T- 1 掘り下げ。

26日(火)　宅美池遺跡　T- 1,2 掘り下げ。

27日(水)　宅美池遺跡　T- 3,4 掘り下げ。

28日(木)　宅美池遺跡　T- 4,5 掘り下げ。

29日(金)　宅美池遺跡　T-6～8 掘り下げ。

30日(土)　宅美池遺跡　T- 8 掘り下げ。

　　塚の谷遺跡　T- 1 掘り下げ。

12月2日(月)　宅美池遺跡　T- 7 断面実測。

　　塚の谷遺跡　T- 2,3 掘り下げ。

3日(火)　塚の谷遺跡　T-2～6 掘り下げ。

4日(水)　塚の谷遺跡　T-5～7 掘り下げ。

5日(木)　宅美池遺跡　T- 9 掘り下げ。T- 4, 5,7 埋めもどし。

6日(金)　塚の谷遺跡　T- 5,6,8 断面実測。T- 5,8 埋めもどし。

7日(土)　塚の谷遺跡　T- 2,3 断面実測，埋めもどし。

9日(月)　宅美池遺跡　T- 1 平・断面実測，埋めもどし。

10日(火)　宅美池遺跡　T- 1 埋めもどし。

　　塚の谷遺跡　T-2～6 断面実測。T-1～3,5,6 埋めもどし。

11日(水)　宅美池遺跡　T- 9 断面実測，埋めもどし。

　　塚の谷遺跡　T- 7 断面実測。T-4,6, 7 埋めもどし。

　　新庄尾上遺跡へ移動。

12日(木)　新庄尾上遺跡（以下昭和61年1月22日まで同じ）　トレンチ設定。

　　T-1～6 掘り下げ。

13日(金)　図面整理。

16日(月)　T-1～6 掘り下げ。T- 4 平面実測。

17日(火)　T-1～9 掘り下げ。

18日(水)　T-2, 5, 8, 9 掘り下げ。

19日(木)　T- 10～17掘り下げ。

20日(金)　T- 10～17掘り下げ。

21日(土)　T- 5, 8～9,11～14掘り下げ。

23日(月)　T- 5,9,10～12,15 掘り下げ。

　　T- 8,13,14 断面実測。

24日(火)　T- 5,10～12,15,17掘り下げ。

　　T- 9, 12 断面実測。

25日(水)　T- 5,10,11,17掘り下げ。

26日(木)　T- 5,10,11,16～18掘り下げ。

昭和61年

1月7日(火)　T-16,18掘り下げ。T-10～12 平面実測。T- 8,9,13埋めもどし。

8日(水)　T-19～21掘り下げ。T-10,11断面実測。

9日(木)　T-20～22掘り下げ。T- 5,6 平面実

測。

10日(金) T-18,20～22掘り下げ。

11日(土) 図面整理。

13日(月) T-22,23掘り下げ。T-22平面実測。
T-5～7,52断面実測。
T-10～14埋めもどし。

14日(火) T-23,24掘り下げ。T-15～17断面実測。T- 5～7,10,22埋めもどし。

16日(木) T-24掘り下げ。T- 2,19,20,23断面実測。T-15～17,19埋めもどし。

17日(金) T-24,25掘り下げ。T-20平面実測。
T- 1,18,21断面実測。
T-20,23埋めもどし。

18日(土) 図面整理。

20日(月) T-25掘り下げ。T-18,21平面実測。
T- 3,4,24断面実測。
T- 1～4,21埋めもどし。

21日(火) T-26掘り下げ。T-25断面実測。
T-18,24,25埋めもどし。

22日(水) T-26断面実測，埋めもどし。
伊田沖遺跡へ移動。

23日(木) 伊田沖遺跡（以下1月31日まで同じ）
T-1～5 掘り下げ。

24日(金) T-1～5 掘り下げ。

25日(土) 図面整理。

27日(月) T- 1，3～8 掘り下げ。

28日(火) T-1～8 掘り下げ。T- 1,8 平面実測。

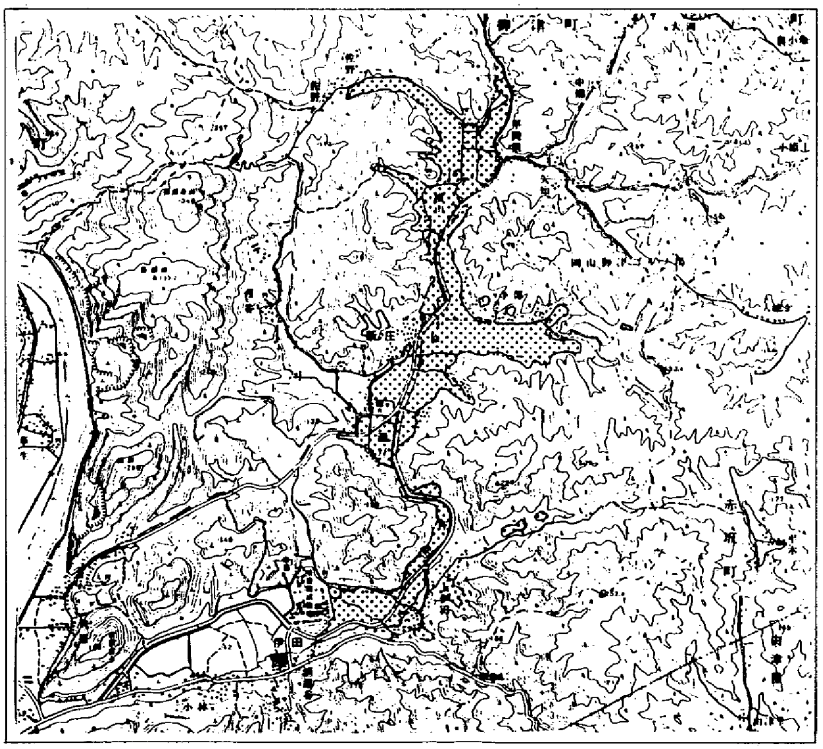
29日(水) T-2～4,6,7 掘り下げ。T- 1,8断面実測。

30日(木) T- 3,5,7 掘り下げ。T-2,4平面実測。
T-4～6 断面実測。

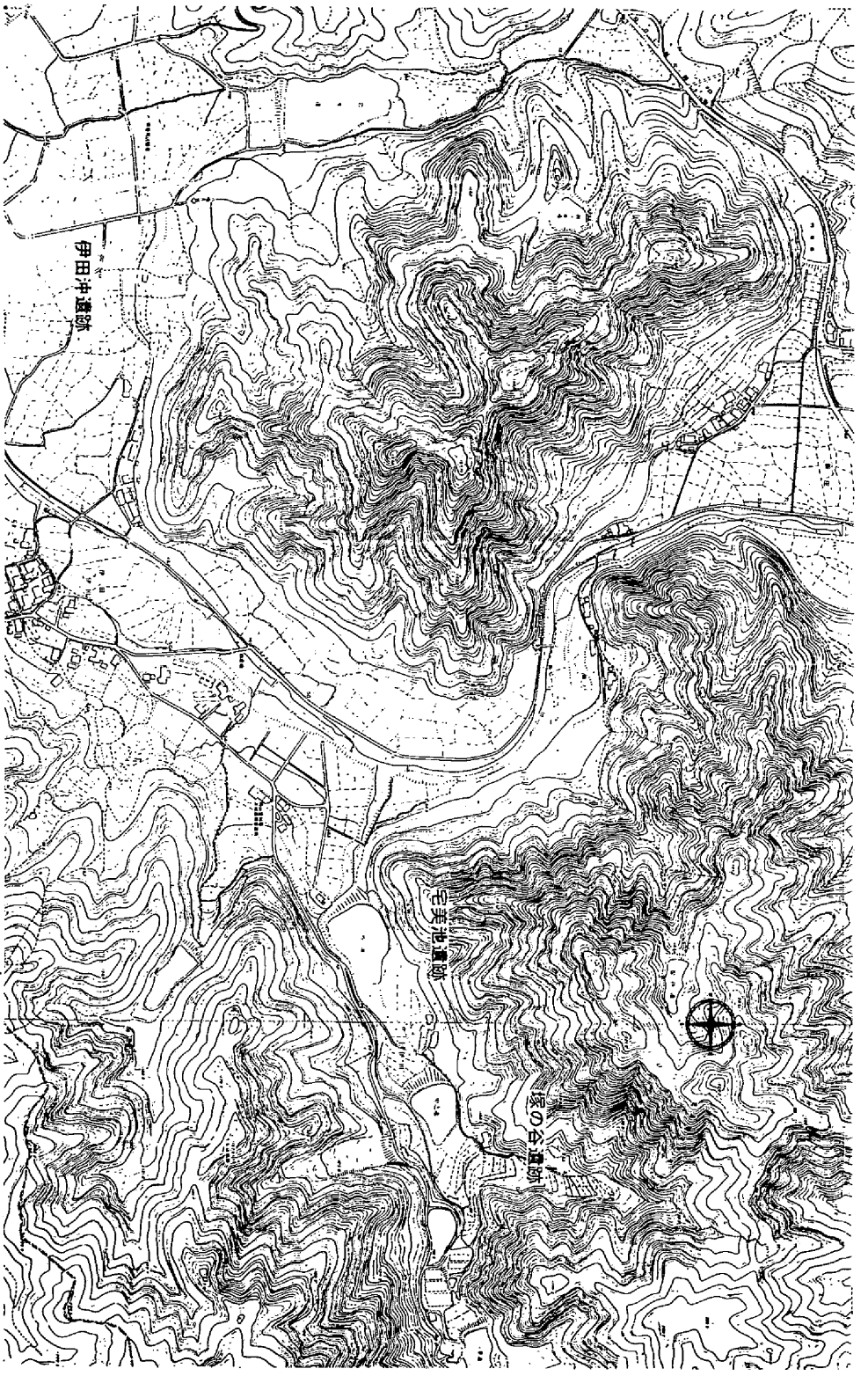
31日(金) T- 3 掘り下げ，平・断面実測。
T- 5,7 平面実測。T- 2,7 断面実測。
発掘器材片付け。

2月3日(月) 発掘器材片付け、撤収。

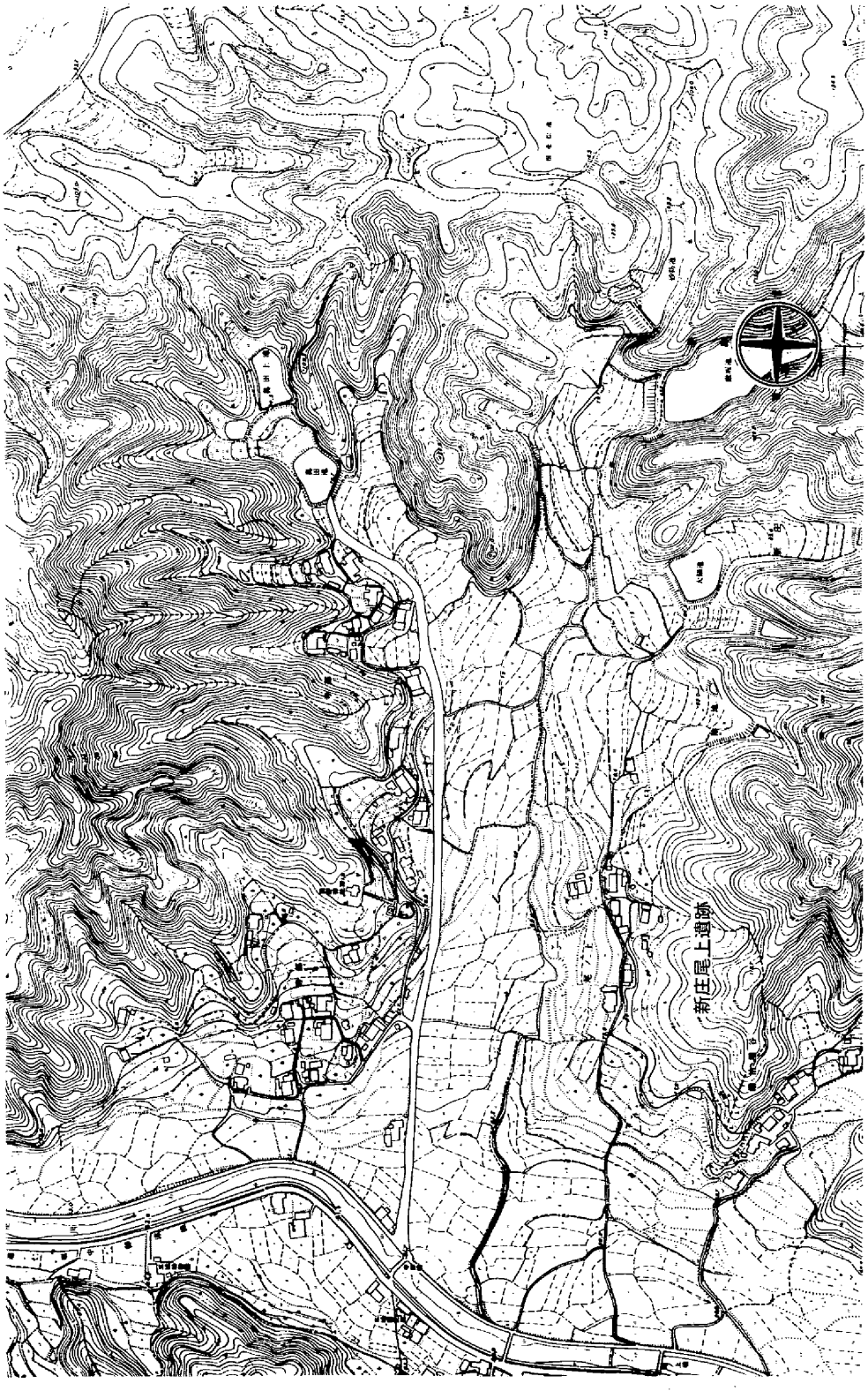
4日(火)～28日(金) 調査報告書の作成。



第3図 圃場整備対象範囲図（$\frac{1}{50,000}$）



第4図　宅美池遺跡，塚の谷遺跡，伊田沖遺跡周辺地形図（$\frac{1}{10,000}$）



第5図　新庄尾上遺跡周辺地形図（$\frac{1}{7,500}$）

第3章　発掘調査の概要

第1節　宅美池遺跡

〔1〕遺跡の位置　（図版2－1）

遺跡は御津町伊田字上伊田に所在する。

町の北東部を流れる新庄川の下流域に広がる伊田の平野の北西端の東に、幅約100m、全長約1,000mの狭少な谷がある。この谷の西端部に現在「巧池」が築かれており、この「巧池」の北岸に弥生土器が発見され遺跡の存在が明らかとなった。この地点は、現在では池となっているが、本来は北にある標高227mの山から南東にのびる丘陵の端部にあたるものと考えられる。周辺には、北東約300mに第2節で述べる塚の谷遺跡が、また南西約300mに弥生時代中期から後期の土器、石器が出土している上伊田遺跡（伊田大谷遺跡）が存在している。

発掘調査の対象となったのは、遺跡が発見された丘陵の東に広がる圃場整備計画のある水田である。

〔2〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田に、2×20mのトレンチ1本、2×10mのトレンチ1本、2×6mのトレンチ1本、2×5mのトレンチ6本の合計9本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認と土層観察、および図面作成、写真撮影等を行った（第6図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ1　（第7図，図版3－1）

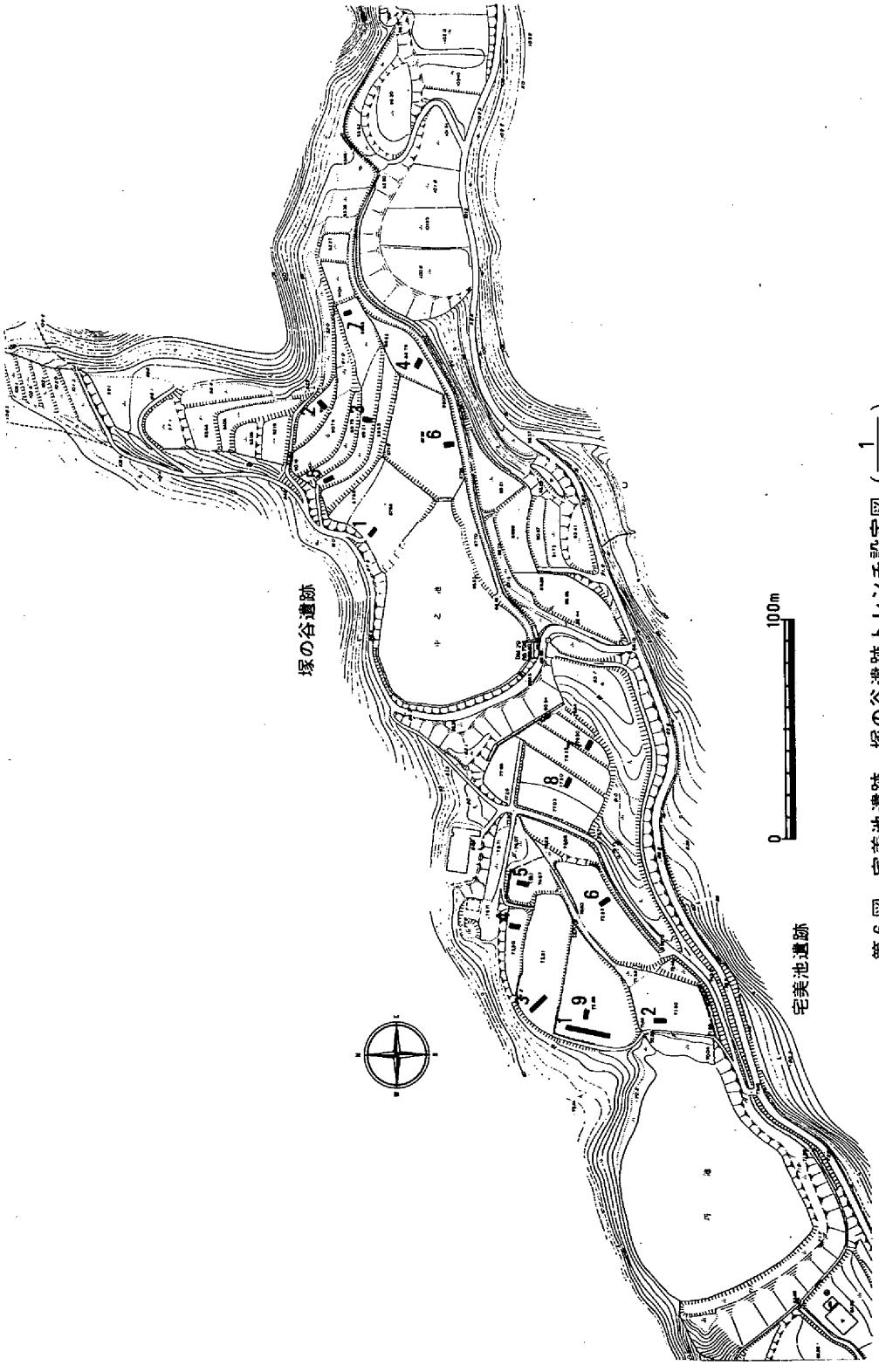
約90cmの掘り下げを行った。その結果、南半部では現表土面マイナス約20～25cmから黄褐灰色、黄灰色を呈する細砂、粗砂などが堆積している。北半部では、マイナス約20cmから約70cmの厚さで黒灰褐色および暗褐灰色砂質土がみられ、少量の遺物を包含している。

遺構は、南半部において近代のものと考えられる石垣状の石列がL字形に検出されたにすぎない（図版3－1）。遺物は、数片の土師器、須恵器、須恵質土器、近世・近代陶磁器の他に、出土層位は明確でないが、サヌカイト製の石匙（第28図,111）が出土している。

トレンチ2　（第7図，図版3－2）

約80cmの掘り下げを行った。その結果、遺構および遺物包含層は存在せず、現水田耕作土直下から粗砂および細砂がほぼ水平に堆積していた。遺物も、流れ込みと考えられる近世・近代の陶磁器片が3片出土したにすぎない。

トレンチ3　（第8図，図版3－3）



第6図　宅美池遺跡，塚の谷遺跡トレンチ設定図（$\frac{1}{3,000}$）

最深部で約100cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は現代に近い時期と考えられる溝が検出されたのみである。また、中世ではないかと考えられる遺物包含層（７、15、16、19層）が、トレンチの中央部から南東端において確認された。この遺物包含層には、最も浅い部分で現表土面マイナス約15cmで達する。地山は、北西から南東にむかって緩やかに傾斜している。遺物は、弥生土器、須恵器、中世土器などが少量出土している。

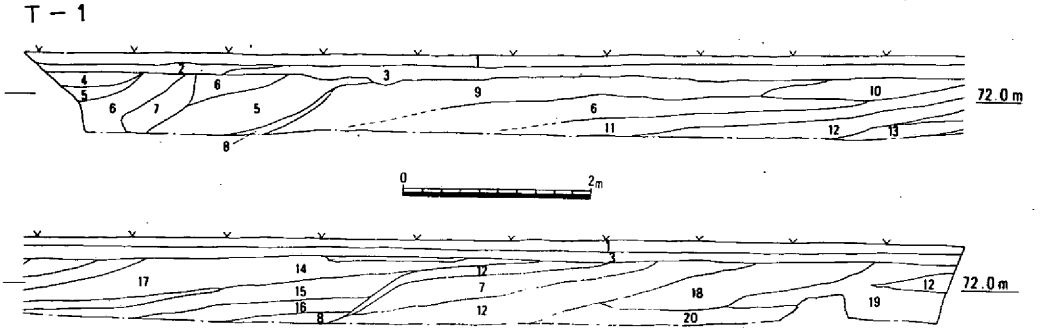
トレンチ４（第８図，図版３－４）

最深部で約110cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は存在しなかったが、中世と考えられる遺物包含層（７層）が確認された。最も浅い部分で、現表土面からマイナス約35cmで遺物包含層に達する。地山は、北から南へ傾斜している。遺物は、須恵質土器片が出土している。

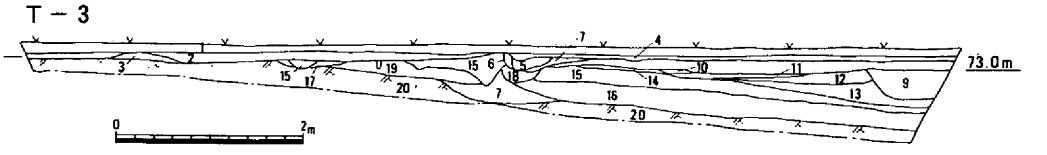
トレンチ５　（第８図，図版３－５）

約70cmの掘り下げを行ったが、遺構および遺物包含層は存在せず、現表土面マイナス約40cmから細砂および10～30cm前後の礫を含む粗砂が堆積していた。遺物は出土しなかった。

トレンチ６　（第８図，図版３－６）



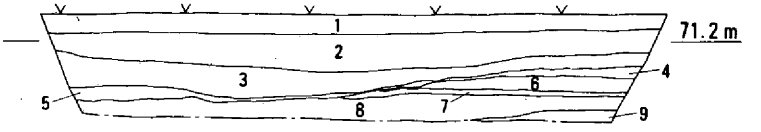
1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．灰色砂質土
3．淡灰色砂質土
4．黄灰色粗砂
5．淡黄褐灰色粗砂
6．黄褐灰色細砂
7．暗褐灰色砂質土
8．褐灰色粗砂
9．黄灰色粘質粗砂
10．黄灰色細砂
11．淡褐灰色粘質細砂
12．黒灰褐色砂質土
13．黄褐灰色粗砂(礫含)
14．淡黄褐灰色砂質土
15．暗黄褐灰色粗砂
16．黄褐灰色粗砂
17．黄灰褐色砂質土(礫多含)
18．黄褐灰色砂質土(礫含)
19．黄褐灰色礫まじり粗砂
20．褐灰色礫まじり粗砂



1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．淡灰色砂質土(Fe)
3．淡灰褐色砂質土
4．灰色粘質土(水田耕土)
5．黄青灰白色砂質土
6．灰色粘質土
7．淡灰色砂質土
8．黄灰白色砂質土
9．淡黄灰色細砂(礫含)
10．淡黄灰色粘質土
11．淡黄灰色砂質土
12．灰白色細砂
13．褐灰白色砂質土
14．灰褐色砂質土
15．黒灰褐色砂質土
16．淡黒灰褐色砂質土
17．暗褐灰色砂質土
18．淡灰色粘質土
19．褐灰色砂質土
20．黄褐灰色土

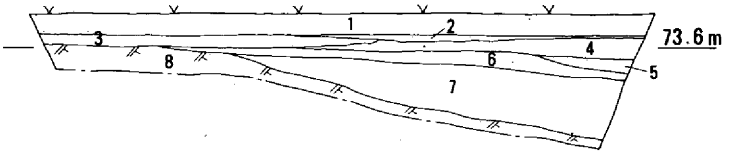
第７図　宅美池遺跡トレンチ1，3断面図（$\frac{1}{80}$）

T－2



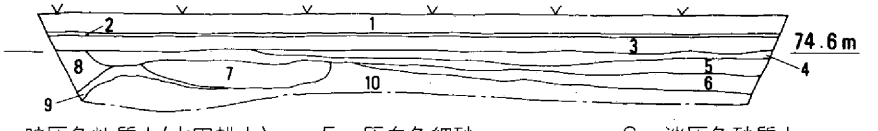
1．暗灰色粘質土（水田耕土）
2．淡黄灰色粗砂(Fe，小礫含)
3．淡灰色粗砂
4．黒色粗砂
5．灰白色細砂
6．茶色粗砂
7．黄灰白色粗砂
8．淡青灰色粘質粗砂
9．灰白色粗砂

T－4



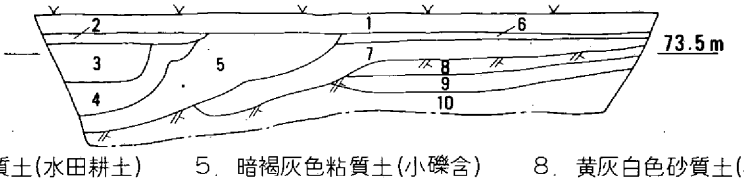
1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．青灰白色砂質土
3．黄灰色砂質土（Fe）
4．黄茶灰色砂質土(Fe，Mn)
5．灰白色砂質土
6．褐灰色砂質土
7．黒灰褐色砂質土
8．黄褐灰色土（地山）

T－5



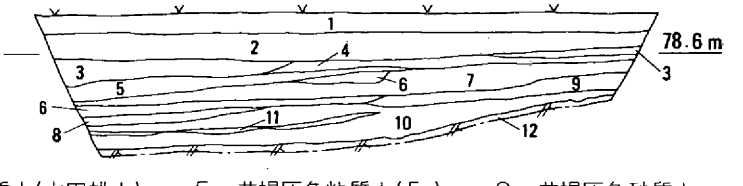
1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．青灰白色砂質土
3．黄灰色砂質土(Fe)
4．褐灰色砂質土
5．灰白色細砂
6．黄茶色細砂(Fe，Mn)
7．暗褐灰色砂質土
8．淡灰色砂質土
9．暗黄橙色砂質土(Fe，Mn)
10．淡褐灰白色粗砂（礫まじり）

T－6

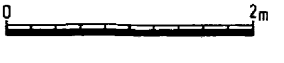


1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．黄褐灰色粘質土
3．灰色粘質土(小礫含)
4．灰褐色粘質土(小礫含)
5．暗褐灰色粘質土(小礫含)
6．黄灰白色砂質土(Fe)
7．淡褐灰色砂質土(Mn)
8．黄灰白色砂質土(小礫含)
9．黄灰色砂質土
10．灰黄白色砂質土

T－7



1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．黄灰色砂質土(Fe)
3．淡灰色砂質土
4．淡褐灰色粘質土
5．黄褐灰色粘質土(Fe)
6．褐灰色砂質土
7．黒灰褐色砂質土
8．淡黄灰色砂質土
9．黄褐灰色砂質土
10．黒灰褐色砂質土
11．褐灰白色砂質土
12．黄灰褐色砂質土(地山)



第8図　宅美池遺跡トレンチ2，4，5，6，7断面図（$\frac{1}{60}$）

最深部で約100cmの掘り下げを行った。その結果、北西部では現表土面マイナス約90cmまで現代に近い時期と考えられる削平が及んでいる。遺構および遺物包含層は存在しなかった。

トレンチ７　（第８図，図版３－７）

最深部で約110cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は存在せず、遺物も時期不詳（古墳時代か）の土器片がわずかに出土したにすぎず、明確な遺物包含層も確認できなかった。

トレンチ８（第９図，図版３－８）

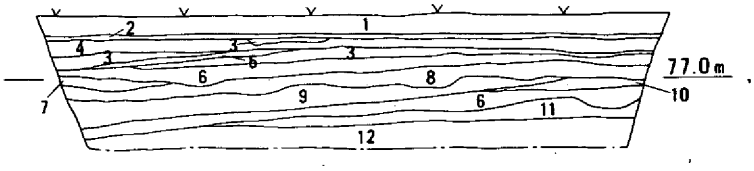
約110cmの掘り下げを行った。その結果、遺構は存在せず、遺物も時期不詳の土器小片がわずかに出土したにすぎず、明確な遺物包含層も確認できなかった。

トレンチ９　（第９図，図版４－１）

約110cmの掘り下げを行った。全体に石が多く検出され、特に西半部には径50cm前後の石が大量に堆積していた。遺構は存在せず、遺物は13層から弥生～中世の土器が少量出土している（第26図84）。

以上のように、今回のトレンチ調査においては、すべてのトレンチで古い遺構は存在しなかったが、中世ではないかと考えられる遺物包含層がトレンチ３、４で確認された。こうしたことから、遺跡は、トレンチ３、４の周辺および北側の山裾から西側の丘陵先端部に存在しているものと考えられる。一方、トレンチ２、５を結ぶ地域は谷部に、またトレンチ６～８の地域はその谷にむかって下がる丘陵斜面にあたり、遺跡は存在していないものと考えられる。

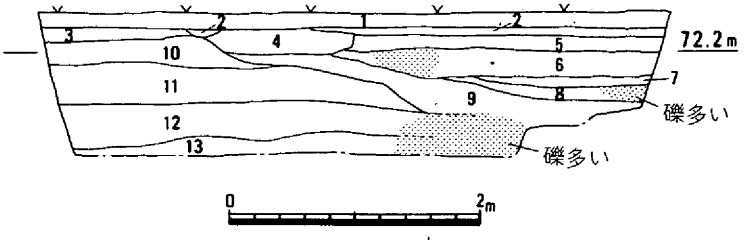
Ｔ－８



7．淡褐灰色砂質土
8．灰白色粗砂
9．褐灰白色細砂
10．灰色微砂
11．褐灰白色粗砂
12．淡黄褐灰色粗砂

1．暗灰色粘質土(水田耕土)　3．淡灰色砂質土　5．褐灰色砂質土
2．青灰白色砂質土　4．黄灰白色砂質土(Fe)　6．暗灰褐色砂質土

Ｔ－９



7．淡褐灰色粘質細砂
8．黄褐灰色粗砂
9．褐灰色砂質土
10．黄灰白色砂質土
11．褐灰白色砂質土(礫含)
12．褐灰色砂質土(〃)
13．黒褐灰色砂質土

1．暗灰色粘質土(水田耕土)　3．淡灰色砂質土　5．灰黄色粗砂
2．灰色砂質土　4．淡褐灰色砂質土　6．褐灰黄色細砂

第９図　宅美池遺跡トレンチ８，９断面図（$\frac{1}{60}$）

第２節　塚の谷遺跡

〔１〕遺跡の位置　（図版２－２）

遺跡は、御津町伊田字上伊田に所在する。

第１節で述べた宅美池遺跡の北東約300ｍに位置する。宅美池の東の北東約200ｍに築かれている中之池の北側の山裾に、一見円墳状の小丘が東の山塊とつながっており、近くから須恵器を採集したと言われている（昭和49年度に実施された分布調査カードの記載による）。

発掘調査の対象となったのは、遺跡の南方に広がっている圃場整備計画のある水田および畑である。

〔２〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田および畑に２×５ｍのトレンチ６本、２×４ｍのトレンチ１本を設定し、遺構・遺物の確認と土層観察および図面作成、写真撮影等を行った（第６図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ１　（第10図，図版４－２）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約25cmから粗砂が、またその下層には粘土混りの粗砂が堆積していた。遺構は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる近世以降の土鍋、備前焼、磁器片が７片出土しているにすぎない。

トレンチ２　（第10図，図版４－３）

約100cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約20cmから地山と考えられる土層が認められ、遺構は存在せず、遺物も畑耕作土中から明治以降と考えられる備前焼片が１片出土したにすぎない。当該地は現在果樹園となっており、開墾の際の削平が地山まで及んだものと考えられる。

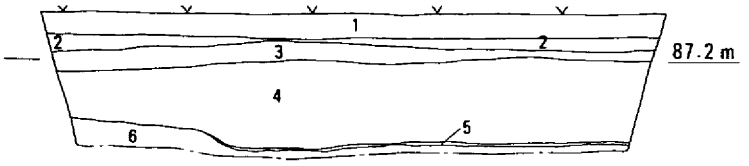
トレンチ３　（第10図，図版４－４）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、浅い部分で現表土面マイナス約25cmから粗砂が堆積しており、マイナス約90cmで一部地山（６層）が認められた。下層からは湧水があり遺構は存在しなかった。また遺物も流れ込みと考えられる土師器小片、および備前焼小片が各１片出土したにすぎない。

トレンチ４　（第10図，図版４－５）

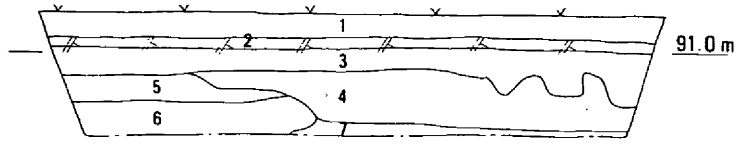
約65cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約30cmから細砂および粗砂が堆積していた。10cm前後の礫も多く混っており、最下層ではグライ化している。また、下層からは著しい湧水がみられた。遺構は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる時期不詳の土師器が３片出土したのみである。

T－1



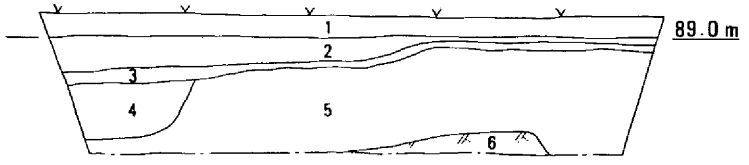
1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．黄灰色粘土まじり砂質土
3．灰白色粗砂
4．淡灰色粘土まじり粗砂
5．茶色粗砂(Fe)
6．淡青灰色粗砂まじり粘土

T－2



1．暗灰色粘質土(畑耕土)
2．黄褐灰色砂質土(Fe)
3．淡褐灰色砂質土(礫含)
4．黄褐灰色砂質土(礫含)
5．褐灰白色細砂
6．淡褐灰色粗砂
7．褐灰色砂質土

T－3

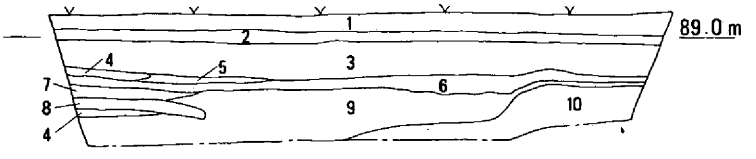


1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．淡灰色砂質土
3．灰黄色砂質土(Fe)
4．淡灰褐色粗砂
5．淡黄褐灰色粗砂
6．黄灰白色土(地山)

T－4

1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．暗青灰色粘質土(〃)
3．淡灰色砂質土
4．黄褐灰色砂質土
5．灰白色細砂,淡灰色粗砂,礫
6．茶色粗砂(Fe Mn)
7．青灰色粗砂(グライ化)

T－5



1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．淡灰色砂質土
3．灰色砂質土(Fe)
4．灰白色粗砂
5．褐灰白色砂質土
6．褐灰色砂質土(Mn)
7．淡褐灰色砂質土
8．黒灰褐色砂質土
9．淡青灰色粘質粗砂
10．青灰色粗砂まじり粘質土

第10図　塚の谷遺跡トレンチ 1, 2, 3, 4, 5 断面図 ($\frac{1}{60}$)

トレンチ５　（第10図，図版４－６）

約100㎝の掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約60㎝からは粗砂層がみられ、北西部ではグライ化している部分もあり、湧水もみられた。北半部には、現表土マイナス約60㎝から30～50㎝の礫が多くみられた。遺構は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる近世以降の磁器小片が２片出土したのみである。

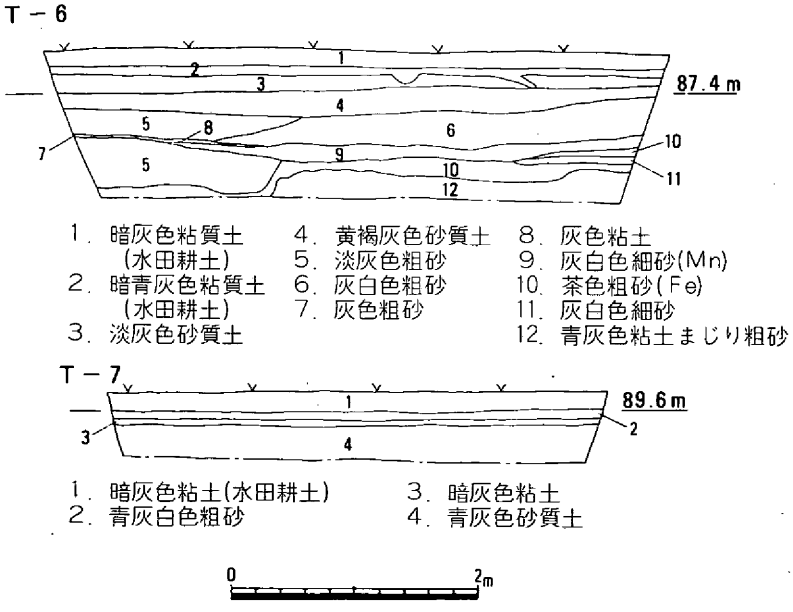
トレンチ６　（第11図，図版４－７）

約120㎝の掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約50㎝から細砂、粗砂が堆積しており、下層では一部グライ化しており、湧水もみられた。遺構は存在せず、遺物も出土しなかった。

トレンチ７　（第11図，図版４－８）

約55㎝の掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約15㎝からグライ化した粗砂および砂質土層がみられ、湧水が激しく掘り下げが困難な状況を呈していた。遺構は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる土師器小片が１片出土したのみである。

以上のように、当該調査範囲には遺構および遺物包含層は確認されず、遺物も流れ込みと考えられる土器片が少量出土したにすぎない。多くは細砂、粗砂が厚く堆積しており、旧地形は北および東の狭い谷から土砂が流れ込んで形成された谷部を呈していたものと考えられる。



第11図　塚の谷遺跡トレンチ6,7断面図（$\frac{1}{60}$）

第3節　伊田沖遺跡

〔1〕遺跡の位置

遺跡は、御津町伊田字沖に所在する。

町の北東部を流れる新庄川の下流域には、町内でも有数の平野が形成されている。遺跡は、この平野の北東部、標高181mの山から南にのびる丘陵の端部に位置する。現在の状況でいえば、岡山県養鶏試験場の北東部、伊田八幡宮の南東部にあたる。周辺の遺跡としては、谷を隔てた西方約500mの丘陵上に、弥生時代中期後半の竪穴式住居の発見された岩井山遺跡、および5世紀代と考えられている岩井山2～8号墳、横穴式石室内に土師質亀甲形陶棺が出土した岩井山12号墳、横穴式石室内に須恵質陶棺が出土したといわれる岩井山13号墳、岩井山14号墳（円墳）、15、16号墳（方墳）などが存在している。

〔2〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、土器が採集されている水田を中心にして、2×5m のトレンチ7本、2×4m、1×15 m、1×10 m、1×9m、1×5m のトレンチ各1本を設定し、遺構・遺物の確認と土層観察および図面作成、写真撮影等を行った（第12図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。尚、トレンチを設定した水田では、すでに圃場整備工事に伴って水田耕土が除去されている部分が多い。

トレンチ1　（第13図，図版5－2）

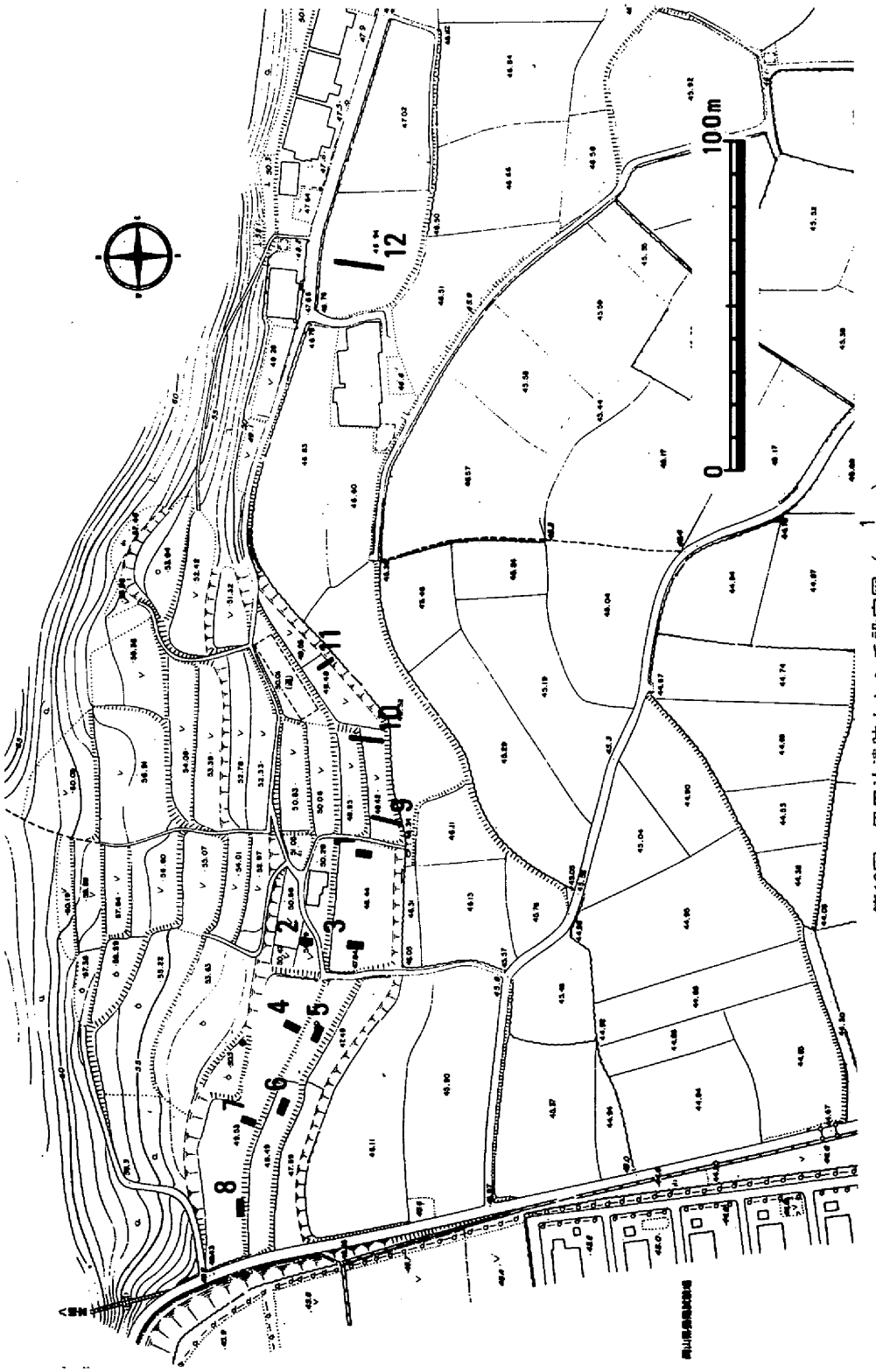
最深部で約75cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕土直下から遺構（柱穴）および遺物包含層（5層）が確認された。時期は、明確ではないが古墳時代から中世のものではないかと考えられる。地山は、北から南へむかって緩やかに傾斜している。遺物は、弥生時代から中世にかけての土器片が少量出土している。

トレンチ2　（第13図，図版9－1）

最深部で約110cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約45cmで小石をつめた暗渠排水を検出した。この暗渠排水は、この地点にかつて存在していたという民家に関連するものではないかと考えられる。また、現表土面マイナス約70cmから遺物包含層（4，5，6層）および柱穴らしい遺構を確認した。時期は明確ではない。遺物は弥生時代から近世・近代にいたる土器片が少量出土している。

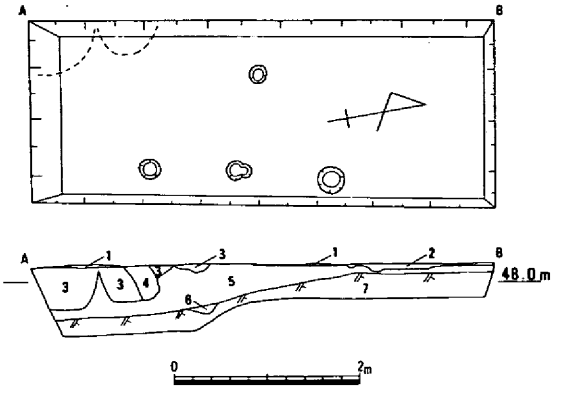
トレンチ3　（第13・23～26図，図版6・7－1）

約100cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土直下に中世と考えられる遺物包含層（5層）および柱穴が確認された。さらに、その下層には竪穴式住居が1軒検出された。方形を呈すると考えられ、最深部で床面まで約50cmが残存している（6層）。この住居址埋土上層



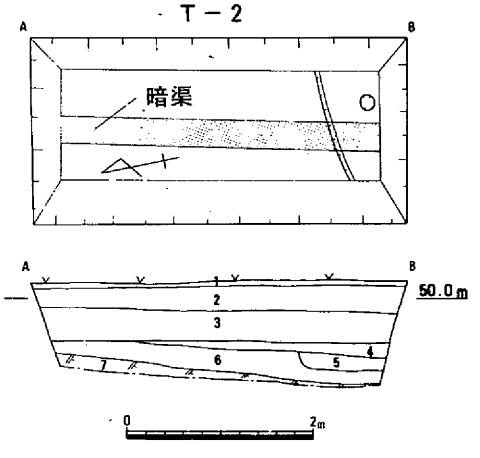
第12図　伊田沖遺跡トレンチ設定図（$\frac{1}{2,000}$）

T－1



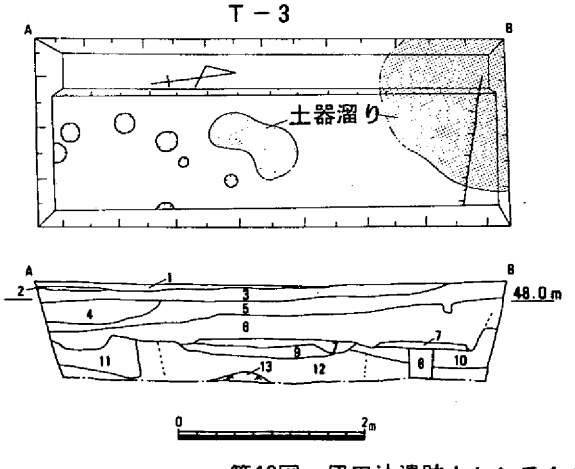
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 淡灰色砂質土
3. 暗灰褐色砂質土
4. 暗褐灰色砂質土
5. 淡灰色粗砂(包含層)
(暗灰褐色砂質土ブロックまじり)
6. 黄褐灰色砂質土
7. 褐灰黄色砂質土(地山)

T－2



1. 黒色土(畑耕土)
2. 暗黄褐灰色砂質土
3. 黄褐灰色砂質土
4. 灰褐色砂質土，灰白色細砂
(中世包含層か)
5. 灰褐色砂質土
6. 褐灰色砂質土(炭粒含)
7. 黄灰白色土(礫を含む)(地山)

T－3



1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰白色粘質土
3. 灰白色砂質土(Mn粒)
4. 黄褐灰白色砂質土
5. 淡褐灰色砂質土
6. 暗灰褐色砂質土(炭含)(竪穴式住居)
7. 褐灰色砂質土(炭含)
8. 暗黄褐灰色砂質土
9. 淡灰色粗砂
10. 黄褐灰色砂質土
11. 褐灰色砂質土(黄褐灰白色粗砂まじり)
12. 暗黄褐灰色砂質土
13. 黄褐灰白色粗砂

第13図　伊田沖遺跡トレンチ1, 2, 3平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

において土器溜り状に（図版６－２）、また床面から10cm前後の高さから遺物が多く出土した（図版６－１）。遺物には、少量の須恵器（杯蓋・身、壺、甕）と土師器の壺、甕、高杯、甑、手づくね土器、製塩土器（第25図38）および鉄器（刀子か）がある（第23，24，25図，**3・4・7・9～10・17・20・23・24・29・30・35・36・39・45・59**が上層土器溜り出土土器）。特に、手づくね土器は完形のものが多く、総数で50個体以上出土しており、一部のものには口縁部が片口状になっているものもある（第24図，**42・48・51・53**）。時期は５世紀後半から末と考えられる。また、時期は不明確であるが鉄滓（約200g）が出土している。

トレンチ４　（第14・26図，図版７－２）

最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土下マイナス約５cmから遺物包含層（14層）が確認された。また、マイナス約15cmで地山を掘り込んで柱穴および直径15cm前後の杭穴（？）を伴う浅い溝が検出された（柵か？）。時期は不詳である。地山は、トレンチのほぼ中央部から南に大きく下がっているが、これは中世以降の削平によるものと考えられる。遺物は、弥生時代から近世・近代にいたる土器、陶磁器および鉄器、サヌカイト片などが少量出土している。第26図79・80は魚住焼と考えられる。

トレンチ５　（第14・26図，図版８－１・９－２）

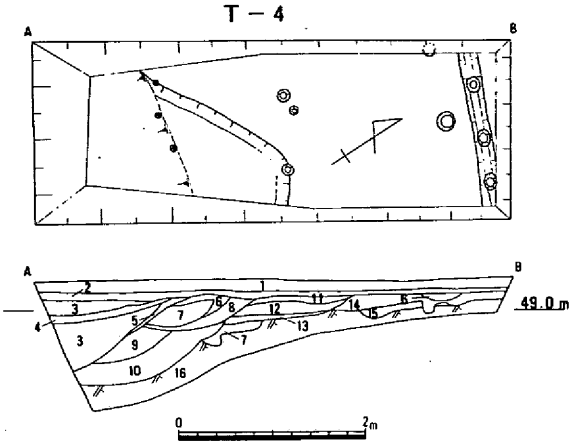
最深部で約170cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土直下からマイナス約25cmから中世ではないかと考えられる遺物包含層（３，５層）、またマイナス約60cmで古墳時代ではないかと考えられる遺物包含層（９層）および柱穴（８層）等の遺構を確認した。さらに、マイナス約110cmからは弥生時代中期と考えられる遺物包含層（12層）が認められ、マイナス約150cmで地山に達する。遺物は、丹塗り土師器高杯（第26図，**75**）や備前焼擂鉢（**86**）など弥生時代から、近世、近代にいたる土器片および鉄器、鉄滓(270g)、サヌカイト片などが出土している。

トレンチ６　（第15・26図，図版９－３）

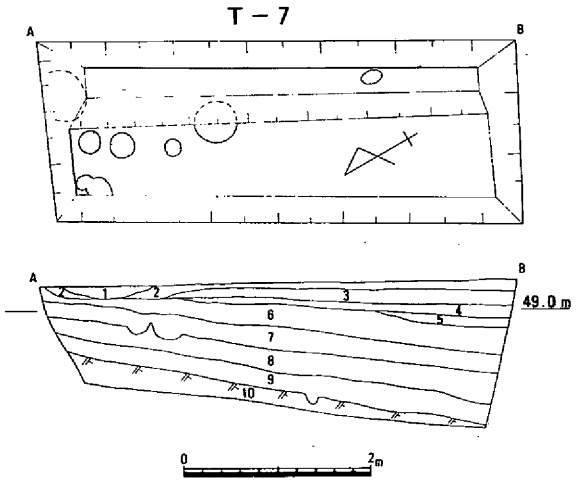
最深部で約180cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土下マイナス約20cmで中世ではないかと考えられる遺物包含層（２，３層）が確認された。その下層にも弥生時代および古墳時代と考えられる遺物包含層（４，５，６層）があり、マイナス約110cmから弥生時代中期と考えられる遺物包含層（７層）を確認した。遺物は、７層から弥生時代前期、中期前半の土器片が出土している他に、古墳時代から近世・近代にいたる土器、陶磁器および鉄器、鉄滓（約750g）や土錘（中世）が出土している。第26図77は白色砂粒（長石粒か）を多く含む胎土をもつ須恵器で時代は不詳である。

トレンチ７　（第14・26図，図版８－２）

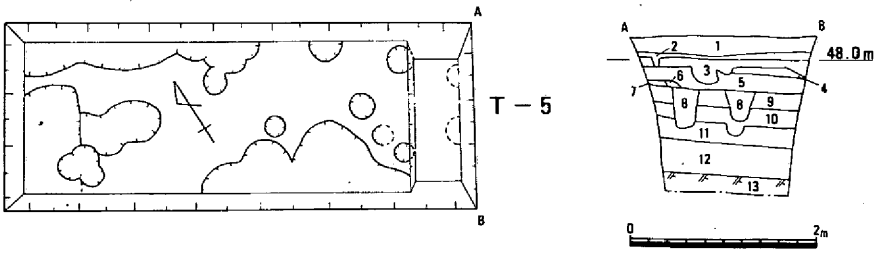
最深部で約160cmの掘り下げを行い、現水田耕作土下からマイナス約20cmで中世ではないか



1. 淡灰色砂質土
2. 黄褐灰色砂質土(Fe, Mn)
3. 淡灰色砂質土(Mn)
4. 黄色ブロック土まじり淡灰色砂質土
5. 褐灰白色砂質土
6. 灰白色砂質土
7. 淡灰褐色砂質土
8. 淡灰色砂質土
9. 淡褐灰色砂質土
10. 灰色粘質土
11. 灰白色粗砂(Mn)
12. 淡灰色粗砂(Mn)
13. Fe, Mn層
14. 灰褐色砂質土(包含層)
15. 黄灰白色砂質土
16. 灰黄色土(地山)



1. 灰白色粗砂
2. 淡灰色砂質土
3. 灰黄色砂質土(Fe)
4. 褐灰白色砂質土(Mn, 包含層)
5. 淡褐灰色砂質土(〃)
6. 褐灰色砂質土(包含層)
7. 黒灰褐色砂質土(〃)
8. 暗灰褐色砂質土(〃)
9. 黒灰褐色砂質土(〃)
10. 黄褐灰色砂質土(地山)



1. 灰色砂質土
2. 褐灰黄色砂質土(Fe)
3. 灰白色粗砂(Mn, 包含層)
4. 淡灰色砂質土(〃)
5. 褐灰色砂質土(〃)
6. 褐灰色粘質土(包含層)
7. 淡灰色粗砂(〃)
8. 暗褐灰色粘質土(炭・焼土粒, 柱穴)
9. 暗黄灰褐色砂質土(〃)
10. 黄褐灰色砂質土(〃)
11. 暗灰褐色粘質土(包含層)
12. 灰黒色粘質土(〃)
13. 黄灰褐色砂質土(地山)

第14図　伊田沖遺跡トレンチ4, 5, 7 平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

と考えられる遺物包含層（４，５層）を確認した。その下層においても、弥生時代から古墳、奈良、平安時代ではないかと考えられる遺物包含層を確認した（６，７，８層）。また、マイナス約40cmで柱穴を検出した。さらに、北端部ではマイナス約50cmから弥生時代中期と考えられる遺物包含層（９層）および柱穴が確認できた。北端部ではマイナス約70cmで地山に達した。これらの遺物包含層および地山は南に向って緩やかに傾斜している。遺物は弥生時代前期から、近世、近代にいたる土器、陶磁器が出土している。また、鉄滓が約5,550gと多量に出土しており、炉壁もみられる。鉄滓の時期は不明確であるが、中世の可能性も考えられる。

トレンチ８　（第15図，図版９－４）

約40cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土直下からマイナス約20cmで地山に達する。この地山面において柱穴２本が検出されたが、時期は不明である。

トレンチ９　（第15図，図版９－５）

最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、最も浅い部分で現表土面マイナス約25cmから弥生時代および古墳時代と考えられる遺物包含層（３，４層）が確認された。また、地山面において弥生時代或いは古墳時代と考えられる柱穴１本を検出した。遺物は、弥生時代から中世にいたる土器片が少量出土している。

トレンチ10　（第15・26図，図版９－６）

最深部で約110cmの掘り下げを行った。その結果、最も浅い部分では現表土面マイナス約35cmで弥生時代から古墳時代と考えられる遺物包含層が確認された（３，４，５層）。また、地山面において弥生時代或いは古墳時代と考えられる柱穴２本を検出した。遺物は弥生時代から近世・近代にいたる土器、陶磁器、およびサヌカイト片が少量出土している。

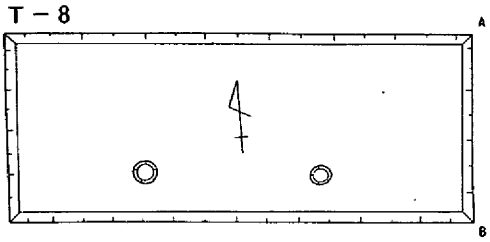
トレンチ11　（第15図・26・28図，図版９－７）

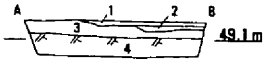
最深部で約185cmの掘り下げを行ない、最も浅い部分で現表土面マイナス約30cmで弥生時代から古墳時代と考えられる遺物包含層が確認された（３，４，５層）。遺物は、手づくね土器（第26図，11）や丹塗り土師器高杯(76)など弥生時代から中世の土器片および石器（サヌカイト製スクレイパー，第28図，110)、鉄滓（約290g)、土錘（中世）が出土している。

トレンチ12　（第10・26図，図版９－８）

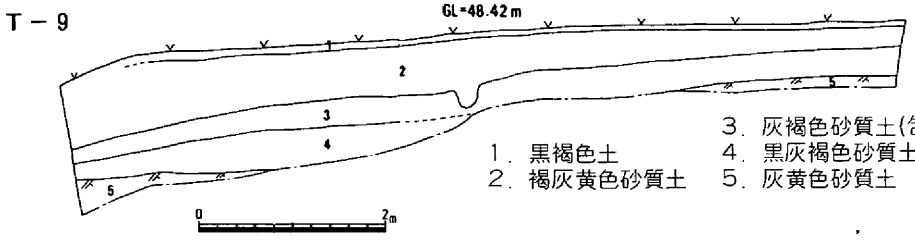
約60cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕土直下マイナス約10cmから中世の遺物包含層および柱穴等の遺構が検出された。柱穴内からは中世の小皿，杯（第26図，81～83)が出土した。この下層においては、おもに粗砂や微砂が堆積しており遺構、遺物は確認されなかった。

以上のことから、今回トレンチを設定した地域およびその周辺においては、弥生時代から中世にいたる集落跡の存在が想定できる。

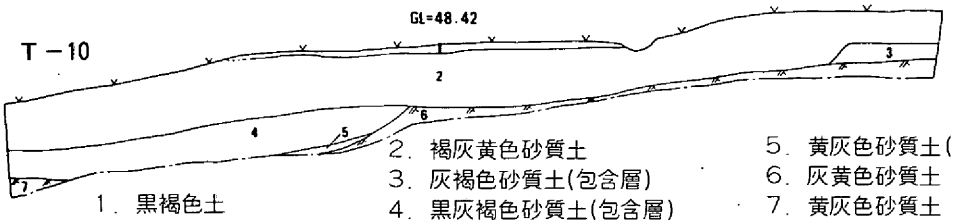




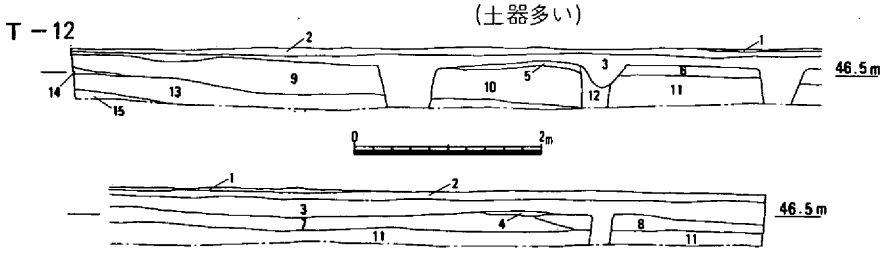
1．暗灰色粘質土(水田耕土)
2．灰色粘質土
3．黄褐灰色砂質土
4．黄灰白色土(地山)



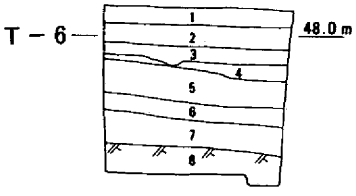
1．黒褐色土
2．褐灰黄色砂質土
3．灰褐色砂質土(包含層)
4．黒灰褐色砂質土(〃)
5．灰黄色砂質土 (地山〃)

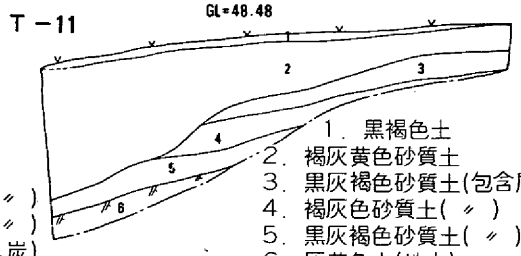


1．黒褐色土
2．褐灰黄色砂質土
3．灰褐色砂質土(包含層)
4．黒灰褐色砂質土(包含層)
(土器多い)
5．黄灰色砂質土(包含層)
6．灰黄色砂質土
7．黄灰色砂質土



1．淡灰色粘質土
2．灰黄色粘土
3．灰色粘質土
4．石溜り
5．黄色粘質土
6．灰白色粘質土
7．黄灰白色砂質土
8．淡灰色粗砂
9．灰白色粘土
10．灰色粗砂
11．灰白色微砂
12．淡褐灰色粘質土(柱穴)
13．灰白色粗砂
14．暗灰色細砂
15．灰色粘土





1．黄灰色砂質土
2．灰白色粗砂(Mn,包含層)
3．褐灰白色砂質土(〃)
4．褐灰色砂質土(〃)
5．暗褐灰色粘質土(〃)
6．暗灰褐色粘質土(〃)
7．灰黒色粘質土(〃,炭)
8．黄褐灰色砂質土(地山)

1．黒褐色土
2．褐灰黄色砂質土
3．黒灰褐色砂質土(包含層)
4．褐灰色砂質土(〃)
5．黒灰褐色砂質土(〃)
6．灰黄色土(地山)

第15図　伊田沖遺跡トレンチ 6, 8, 9, 10, 11, 12平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

第４節　新庄尾上遺跡

〔１〕遺跡の位置

遺跡は、御津町新庄字尾上に所在する。

町の北東部を流れる新庄川の中流域に位置する新庄地区には小規模な平野が形成されており、この平野の北東部から東にむかって幅約200m，長さ約500mにわたって谷水田が広がっている。遺跡は、この谷水田にむかって北向きにのびた丘陵の裾部に位置する。遺跡発見の契機となったのは宅地造成であり、弥生土器および遺物包含層が確認されている。発掘調査の対象となったのは、この丘陵裾部に営まれている圃場整備予定地の水田および畑である。現状では、比高差約10ｍを測る丘陵裾部に幅の狭い水田、畑が階段状につくられている。

〔２〕発掘調査の方法と調査結果の概要

発掘調査は、対象となる水田および畑に２×５ｍ のトレンチ22本、２×４ｍ のトレンチ３本、２×３ｍ のトレンチ１本を設定し、遺構・遺物の確認と土層観察および図面作成、写真撮影等を行った（第16図）。

各トレンチの調査結果の概要は以下のとおりである。

トレンチ１　（第17図，図版15－２）

最深部で約170cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約20cmから90cmまでは客土が認められ、この客土の下層に中世ではないかと考えられる遺物包含層および柱穴状の遺構が確認された（７，11，14層）。また、最下層には弥生時代或いは古墳時代と考えられる遺物包含層（15層）も認められた。遺物は弥生時代から近世・近代にいたる土器・陶磁器およびサヌカイト片、鉄滓（約160g）が少量出土している。

トレンチ２　（第17図，図版15－３）

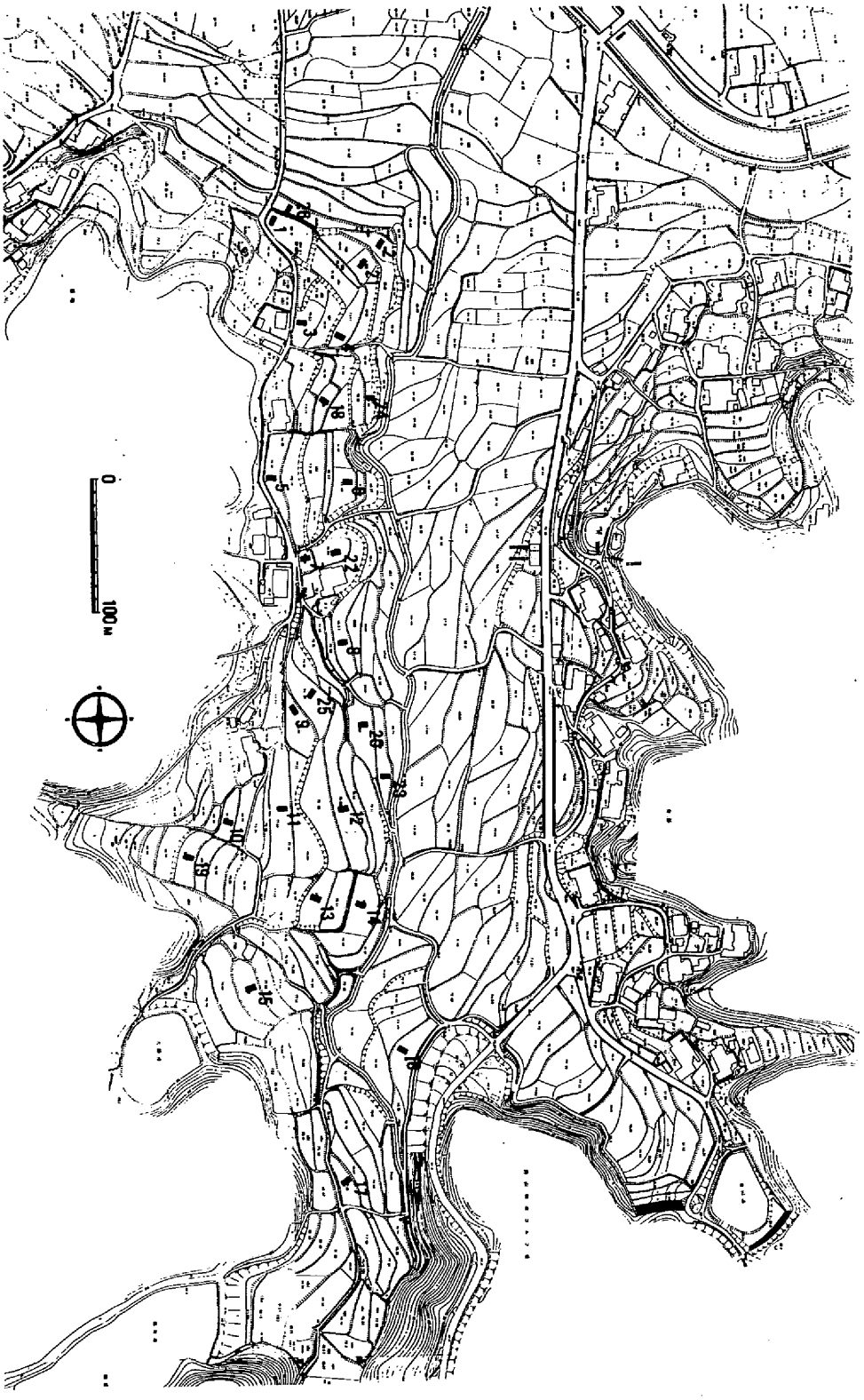
約90cmの掘り下げを行い、現表土面マイナス約30cmから中世ではないかと考えられる遺物包含層（９層）が認められた。その下層にも遺物包含層（10層）があるが、時期は明らかでない。遺物は弥生時代から近世・近代にいたる土器および鉄滓（約250g）が少量出土している。

トレンチ３，７　（第17・18図，図版15－４・５）

現水田耕作土直下に地山が検出され、遺構および遺物包含層は存在しなかった。水田造成時における削平によって遺跡は削られて消失しているものと考えられる。

トレンチ４　（第17図，図版11－２）

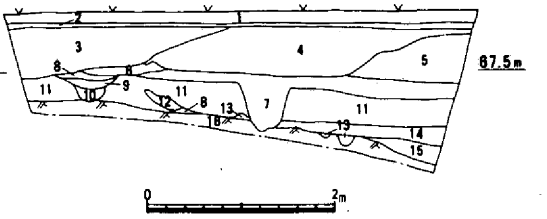
約40cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面からマイナス約20cmで地山に達し、この地山を掘り込んだ遺構（柱穴）が確認された。柱穴の時期は遺物が無く明確ではないが、ほぼ弥生時代から古墳時代のものと考えられる。



第16図　新庄尾上遺跡トレンチ設定図（$\frac{1}{5,000}$）

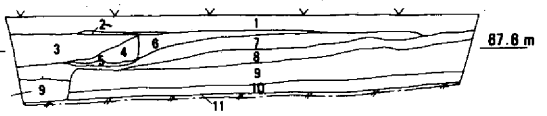
T－1

1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 黄灰色砂質土
3. 黄褐色粘質土(客土)
4. 黄白色マサ土(客土)
5. 暗灰色粘質土 黄褐灰色粘質土 (客土)
6. 淡灰色砂質土
7. 淡褐灰色粘質土(包含層)
8. 褐灰白色砂質土
9. 黄灰色砂質土
10. 暗褐灰色砂質土(暗渠)
11. 淡灰褐色粘質土(包含層)
12. 黄色砂質土
13. 黄褐灰色砂質土
14. 灰褐色粘質土(包含層)
15. 暗褐灰色粘質土(〃)
16. 黄色砂質土(地山)



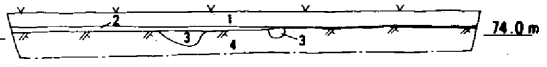
T－2

1. 暗灰色砂質土(畑耕土)
2. 灰色砂質土
3. 黄色砂質土 暗灰色粘質土 (客土)
4. 淡褐灰色砂質土
5. 灰白色細砂
6. 黄灰色砂質土
7. 淡灰色砂質土
8. 黄褐灰白色砂質土
9. 褐灰色砂質土(包含層)
10. 暗褐灰色砂質土(〃)
11. 黄色土(地山)



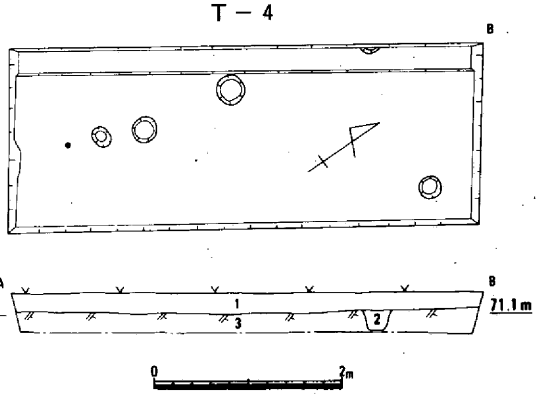
T－3

1. 暗灰色粘質土 (水田耕土)
2. 黄橙色砂質土
3. 灰色砂質土 (水田耕土) (黄橙色砂質土まじり)
4. 黄橙色土 (地山)



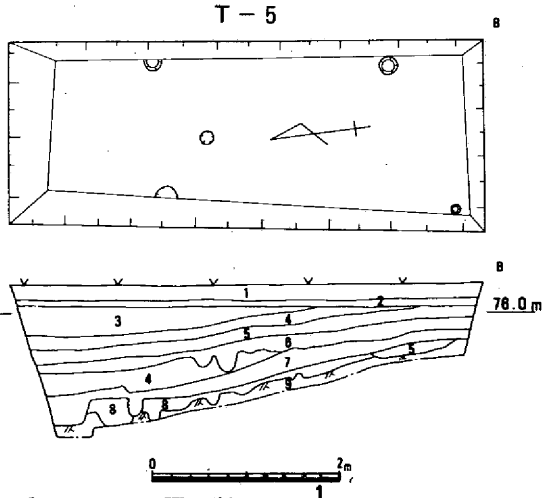
T－4

1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 黄褐灰色粘質土(柱穴)
3. 黄橙色砂質土(地山)



T－5

1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 淡灰色砂質土
3. 褐灰黄色砂質土
4. 淡褐灰色粘質土(包含層)
5. 黄褐灰色粘質土(〃)
6. 黒褐灰色粘質土(〃)
7. 黄灰褐色粘質土(〃)
8. 淡褐黄灰色粘質土
9. 淡灰黄色粘質土



第17図　新庄尾上遺跡トレンチ 1, 2, 3, 4, 5 平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

トレンチ５　（第17図，図版12－１）

最深部で約160cmの掘り下げを行い、現表土面マイナス約25cmから中世ではないかと考えられる遺物包含層（４層）が認められた。その下層においても遺物包含層および柱穴等の遺構が検出された。図の７層は、出土遺物から弥生時代後期前半の時期と考えられる。これらの遺物包含層および地山は、南から北へ緩やかに傾斜している。遺物は弥生土器、須恵器、奈良・平安と考えられる丹塗り土師器、中世土器、陶磁器および鉄滓（約40g）が出土している。

トレンチ６　（第18図，図版12－２）

最深部で約90cmの掘り下げを行い、現表土面マイナス約35cmから遺物包含層（６層）および柱穴等の遺構を確認した。時期は明確ではない。遺物は奈良・平安と考えられる丹塗り土師器皿（第27図，96）や車輪文タタキをもつ須恵器（95）などが出土している。

トレンチ８　（第18図，図版16－１）

約110cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約20cmから土器を含む砂質土層（３，４，５，６層）が堆積しているが、二次的な包含層と考えられる。最下層は粗砂でグライ化しており、湧水がみられた。

トレンチ９　（第18図，図版16－２）

最深部で約230cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約130cmから遺物包含層（７，８，９層）が確認された。特に９層には土器が多く、時期は弥生時代後期前半と考えられる。遺物は、白磁碗（第27図，107）をはじめ弥生時代から近世・近代にいたる土器、陶磁器片および鉄滓（約30g）が少量出土している。

トレンチ10　（第18図，図版13－１）

最深部で約60cmの掘り下げを行った。その結果、南端部では現表土面マイナス約15cmで地山に達し、この地山面において柱穴および竪穴式住居が検出された。竪穴式住居はトレンチの北端部において一部分が確認されたものでほぼ円形を呈し、壁体溝が明瞭に検出された。残存状態はあまり良くなく、床面から15cm前後が残っているにすぎない。時期は明確ではないが、竪穴式住居は弥生時代、他の柱穴は弥生時代および古墳時代のものと考えられる。

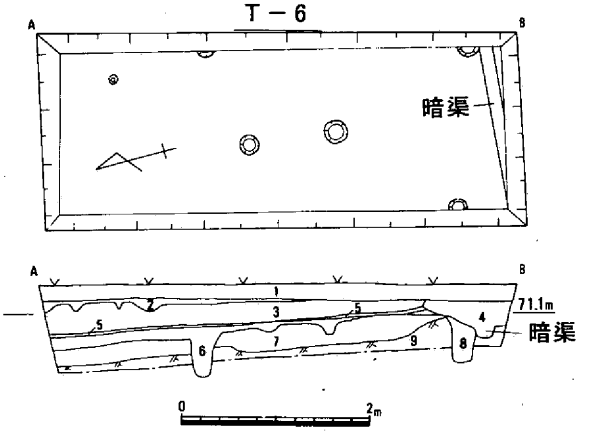
トレンチ11　（第10図，図版16－３）

約170cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約65cmで古墳時代後半と考えられる遺物包含層（９層）を確認した。その下層においても弥生時代から古墳時代と考えられる遺物包含層および柱穴等の遺構を確認した（10～13層）。遺物は、白磁碗（第27図，106）をはじめ弥生時代中期から近世・近代にいたる土器、陶磁器が少量出土している。

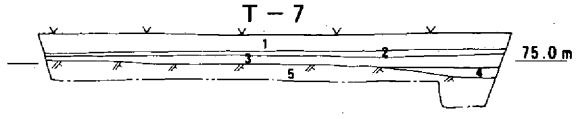
トレンチ12　（第19図，図版13－２）

約80cmの掘り下げを行った。その結果、最も浅い部分で現表土面マイナス約25cmから中世で

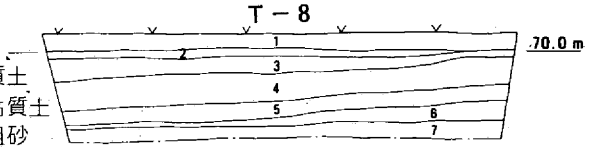
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰白色砂質土
3. 灰白黄色砂質土(客土)
4. 淡灰色砂質土
5. 暗灰色粘質土
6. 褐灰色砂質土(包含層)
7. 灰黄色砂質土
8. 黒灰褐色砂質土(柱穴)
9. 黄色粘質土



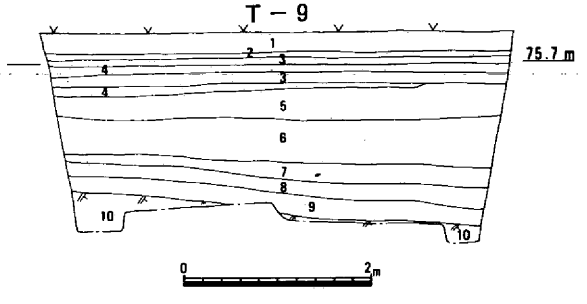
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 黄橙色砂質土(Fe)
3. 淡灰色砂質土
4. 褐灰白色砂質土
5. 黄色土(地山)



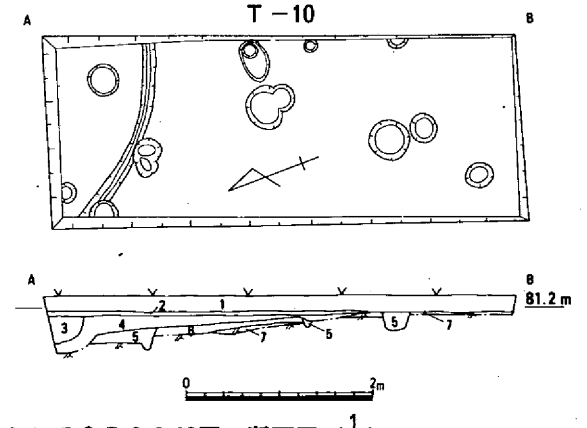
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰黄色粘土(Fe)
3. 灰白色粘質土
4. 淡灰色粘質土
5. 灰白色粘質土
6. 黒灰白色粘質土
7. 黄灰白色粗砂



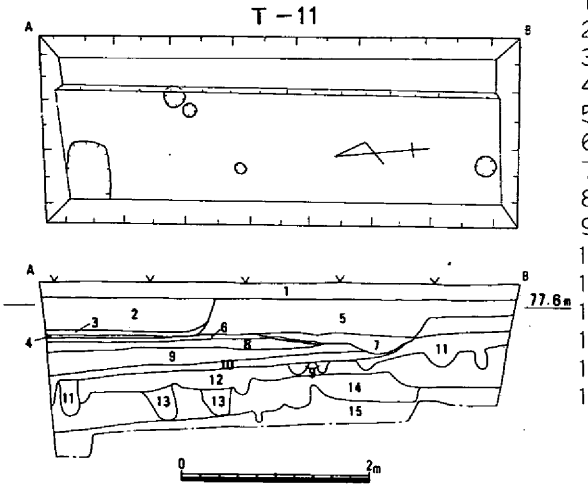
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 淡青灰色粘質土(〃)
3. 灰黄色砂質土(Fe)
4. 淡灰色砂質土(Mn)
5. 灰色細砂(〃)
6. 淡灰色細砂
7. 褐灰色粘質土(包含層)
8. 黒灰褐色粘質土(〃)
9. 褐灰色砂質土(〃)
10. 灰黄色砂質土(地山)



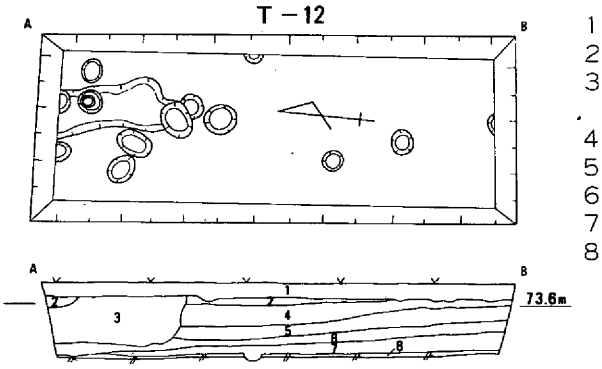
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰黄色砂質土(Fe)
3. 淡灰色砂質土(黄橙色砂質土ブロック含)
4. 淡灰色砂質土
5. 褐灰色砂質土
   (竪穴式住居，柱穴)
6. 黄褐灰色砂質土
7. 黄橙色砂質土(地山)



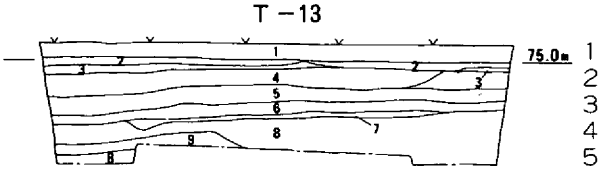
第18図　新庄尾上遺跡トレンチ6, 7, 8, 9, 10平・断面図 $(\frac{1}{80})$



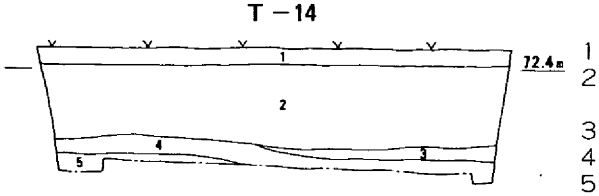
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰色砂質土(灰褐色砂質土ブロック含)
3. 灰色細砂
4. 灰白色細砂
5. 淡灰色砂質土
6. 灰黄色砂質土(Fe層)
7. 灰色砂質土
8. 黄灰色砂質土
9. 褐灰色粘質土(包含層)
10. 黒褐灰色粘質土(　〃　)
11. 灰褐色粘質土(　〃　)
12. 黄灰褐色粘質土(　〃　)
13. 黄褐灰色粘質土(　〃，炭粒)
14. 淡黄灰褐色粘質土
15. 黄灰褐色砂質土



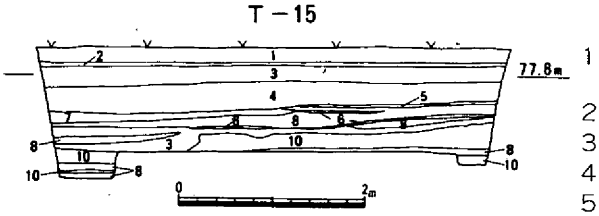
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 淡青灰色砂質土
3. 灰黄色砂質土
(灰褐色砂質土ブロックまじり)
4. 黄灰色砂質土(包含層)
5. 淡灰色砂質土(　〃　)
6. 褐灰白色砂質土(　〃　)
7. 灰褐色砂質土(　〃　)
8. 黄色砂質土(地山)



1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 暗青灰色粘質土(　〃　)
3. 灰黄色砂質土(Fe)
4. 淡灰色砂質土
5. 褐灰色砂質土
6. 暗褐灰色砂質土
7. 灰黒色粘質土
8. 灰白色粗砂
9. 灰色粘質土



1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 灰褐色砂質土,灰白色粗砂,
灰白色細砂が縞状に堆積
3. 淡灰褐色粘質土(下位の一部グライ化)
4. 淡灰色細砂(固い)
5. 灰白色粗砂



1. 暗灰色粘質土
(水田耕土)
2. 淡青灰色砂質土
3. 灰色砂質土
4. 淡灰色砂質土
5. 灰白色粘質微砂
6. 灰色粘質微砂
7. 灰白色細砂
8. 灰白色粗砂
9. 黄褐灰色細砂
10. 暗青灰色粘質土

第19図　新庄尾上遺跡トレンチ11,12,13,14,15平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

はないかと考えられる遺物包含層（５層）が確認された。その下層においても遺物包含層（６、７層）があり、７層では土器が多く出土した。また、遺構は、現表土面マイナス約70cmで検出された地山面において柱穴等が確認された。時期は、弥生時代から古墳時代と考えられる。遺物は弥生時代から近世・近代の土器、陶磁器が少量出土している。

トレンチ13,14,15,16,17,19 （第19・20図，図版16－４～８，17－１）

130～180cmの掘り下げを行い、いずれも粗砂、細砂を中心とした土層が堆積しており、遺構は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる土器、陶磁器片が少量出土したのみである。

トレンチ18 （第20図，図版14－１）

最深部で約70cmの掘り下げを行った。その結果、現表土面マイナス約30cmから遺物包含層（６層）および柱穴、溝等の遺構が確認された。溝は、幅22～45cm、深さ15cm前後を測り、弥生時代後期のものと考えられる。柱穴の時期はほぼ弥生時代から古墳時代と考えられる。

トレンチ20 （第21図，図版14－２）

最深部で約180cmの掘り下げを行い、現表土面マイナス約45cmから遺物包含層を確認した（６，７層）。時期は弥生時代から古墳時代と考えられる。また、マイナス約85cmで炉および柱穴２本を検出した。炉は、約85×60cmを測る不整楕円形を呈し、色調は灰橙色や黄灰色で、非常に固く焼けている。炉は地面が直接焼けたもので、掘り方等は確認できなかった。また炉の周辺には５cm前後の炭片が多く散布していた。柱穴は、いずれも直径25cm前後を測り、埋土中に炭、焼土片が多くみられることから炉と関連するものと考えられる。また、炉の上面から１～２cmの高さでサヌカイト製の石器（第28図，**112**）が出土している。これらの炉および柱穴の時期は明確ではないが、ほぼ弥生時代のものと考えられる。

トレンチ21 （第21図，図版15－１）

最深部で約55cmの掘り下げを行った。その結果、地山面において柱穴が検出された。柱穴内には出土遺物がほとんど無いため時期は明確でない。遺物は土器、陶磁器、サヌカイト片がごく少量出土している。

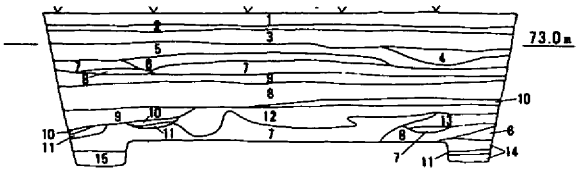
トレンチ22 （第21図，図版17－２）

最深部で約105cmの掘り下げを行った。現表土面マイナス約60cmで地山に達し、この地山を掘り込んで溝、土壙などが検出された。これらの溝、土壙は出土遺物などから近世以降のものと考えられる。また、北西端部で検出された落ち込み（６層）は、溝や土壙よりは古いが、時期は明確でない。遺物は古墳時代から近世・近代の土器、陶磁器片が少量出土している。

トレンチ23 （第20図，図版17－３）

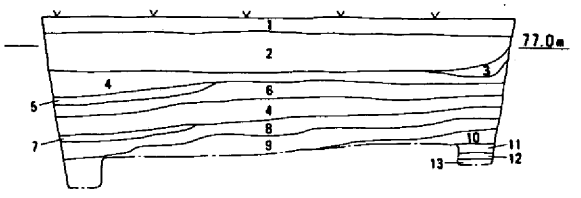
最深部で約140cmの掘り下げを行った。その結果、遺構および遺物包含層は存在せず、遺物も流れ込みと考えられる土器片が少量出土したのみである。なお、図の10層はピート層で、木

T－16



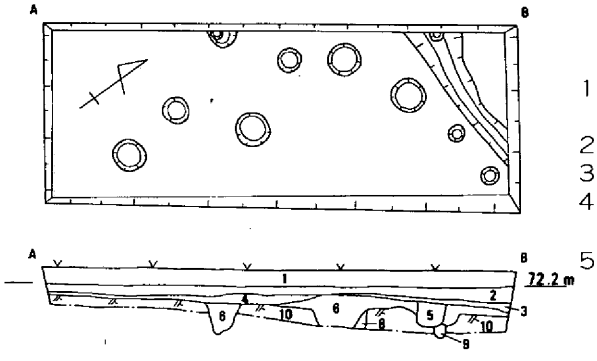
1. 暗灰色粘質土（水田耕土）
2. 淡青灰色砂質土
3. 淡灰色砂質土
4. 淡褐灰色砂質土
5. 黄灰色砂質土（Fe）
6. 灰色砂質土
7. 灰白色粗砂
8. 淡灰色細砂
9. 灰色細砂
10. 灰白色微砂
11. 灰色粘質土
12. 淡緑灰色粘質細砂
13. 暗灰色砂質土
14. 灰白色細砂
15. 淡緑灰色粘質土

T－17



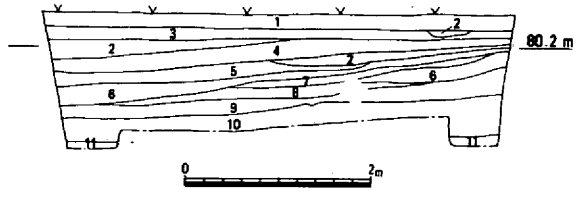
1. 暗灰色粘質土（水田耕土）
2. 灰褐色砂質土（客土）
3. 褐灰色砂質土
4. 淡灰色砂質土
5. 淡褐灰色砂質土
6. 褐灰白色砂質土
7. 暗褐灰色砂質土
8. 灰白色粗砂
9. 黄灰白色粘質微砂
10. 灰白色細砂
11. 褐灰色粘質微砂
12. 灰白色粘質土
13. 灰黄色細砂

T－18

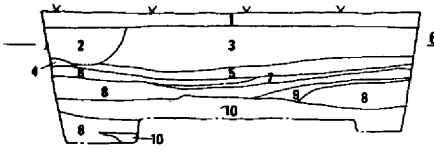


1. 暗灰色粘質土（水田耕土）
2. 黄灰色砂質土（Fe）
3. 淡灰色砂質土
4. 淡褐灰色砂質土（Mn）
5. 黒褐灰色砂質土（柱穴）
6. 褐灰色砂質土
7. 暗褐灰色砂質土
8. 淡褐灰色砂質土
9. 暗褐灰色粘質土
10. 褐灰黄色砂質土

T－19

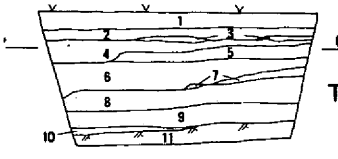


1. 暗灰色粘質土（水田耕土）
2. 淡灰色砂質土
3. 黄灰色砂質土（Fe）
4. 灰色砂質土
5. 黄灰色砂質土（Fe）
6. 褐灰色砂質土
7. 褐灰白色砂質土
8. 淡褐灰色砂質土
9. 青灰色粗砂
10. 暗灰色粘土
11. 灰白色粗砂



T－23

1. 暗灰色砂質土（水田耕土）
2. 灰色砂質土
3. 褐灰色砂質土
4. 黄灰色砂質土（Fe）
5. 淡灰色砂質土
6. 淡灰色粗砂
7. 黒灰色粘質土
8. 灰白色粗砂
9. 黒灰色砂質土
10. 灰黒色ピート

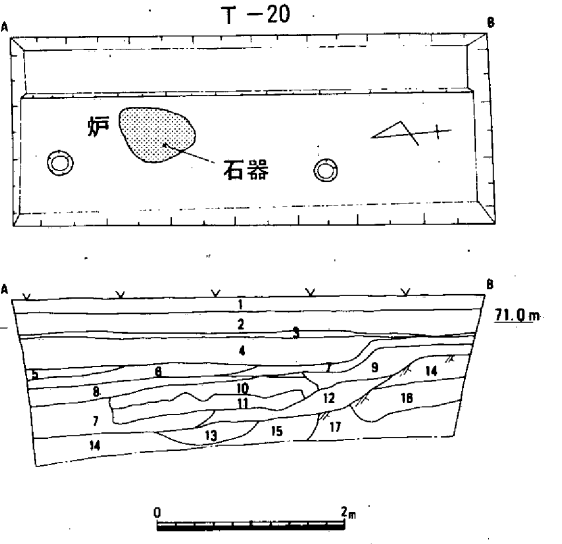


T－24

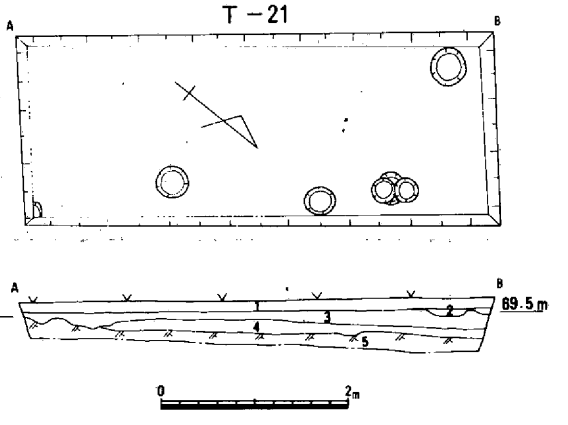
1. 暗灰色粘質土（水田耕土）
2. 灰白色砂質土（Fe）
3. 灰白色砂質土（Mn）
4. 淡灰色砂質土（〃）
5. 灰色砂質土（〃）
6. 淡灰色砂質土
7. 灰色砂質土（包含層）
8. 褐灰色砂質土（〃）
9. 灰褐色砂質土（〃）
10. 灰黄橙色砂質土（Fe）
11. 灰褐色砂質土（地山）

第20図　新庄尾上遺跡トレンチ16, 17, 18, 19, 23, 24平・断面図（$\frac{1}{80}$）

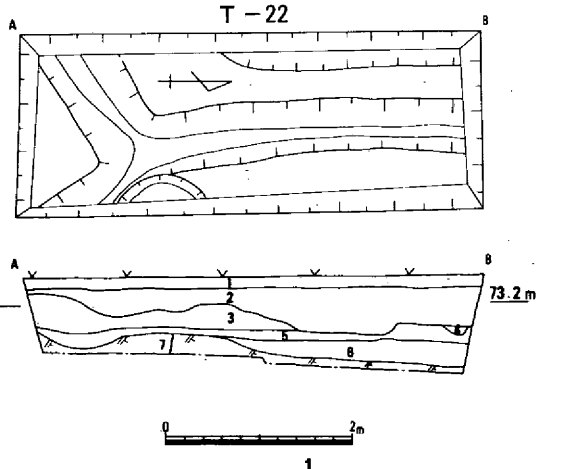
1. 暗灰色粘質土(水田耕土)
2. 黄色砂質土,淡褐灰色砂質土,
   暗灰色粘質土(客土)
3. 青灰色粘質土(水田耕土)
4. 黄灰色砂質土
5. 灰色砂質土
6. 淡褐灰色砂質土(下層に炭,包含層)
7. 褐灰色砂質土(Mn粒,包含層)
8. 淡黄褐灰色砂質土
9. 褐灰白色砂質土
10. 暗褐灰色砂質土
11. 灰白色粗砂
12. 淡灰色砂質土
13. 褐灰白色粗砂
14. 黄褐灰色砂質土
15. 淡灰色粘質土
16. 黄灰色砂質土
17. 黄色砂質土



1. 暗灰色砂質土
   (畑耕土)
2. 灰色砂質土
3. 黄橙色砂質土,
   灰色砂質土(客土)
4. 淡褐灰色砂質土
5. 黄橙色砂質土(地山)



1. 暗灰色砂質土(畑耕土)
2. 淡灰色砂質土
   (黄色粘質土ブロックまじり)
3. 灰色砂質土
4. 灰白色砂質土
5. 暗灰色砂質土
6. 黄灰褐色粘質土
7. 橙黄色土(地山)



第21図　新庄尾上遺跡トレンチ20,21,22平・断面図 ($\frac{1}{80}$)

片（桜など）や木の葉などが出土した。

トレンチ24　（第20図，図版17－４）

約140cmの掘り下げを行った。その結果、最も浅い部分で現表土面マイナス約60cmから古墳時代後半と考えられる遺物包含層が確認された（７，８，９層）。遺構は存在せず、遺物は古墳時代から近世・近代にいたる土器、陶磁器片および鉄滓（約115g）が少量出土している。

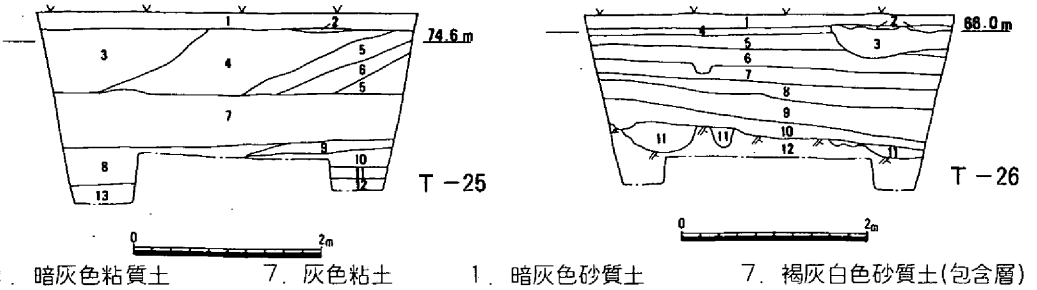
トレンチ25　（第22図，図版17－５）

最深部で約205cmの掘り下げを行った。その結果、現水田耕作土直下から約70cmの厚さで客土が堆積しており、その下層に遺物が出土する灰色粘土層があるが、これは二次的な包含層と考えられる。遺構は存在しない。

トレンチ26　（第22図，図版17－６）

最深部で約185cmの掘り下げを行い、現表土面マイナス約30cmから中世と考えられる遺物包含層（６層）を、またその下層にも遺物包含層（７～10層）を確認した。10層は出土遺物から弥生時代後期と考えられ、その下面において、柱穴、土壙などの遺構を確認した。遺物は弥生時代後期から近世・近代にいたる土器、陶磁器および鉄滓（約345g）が出土している。

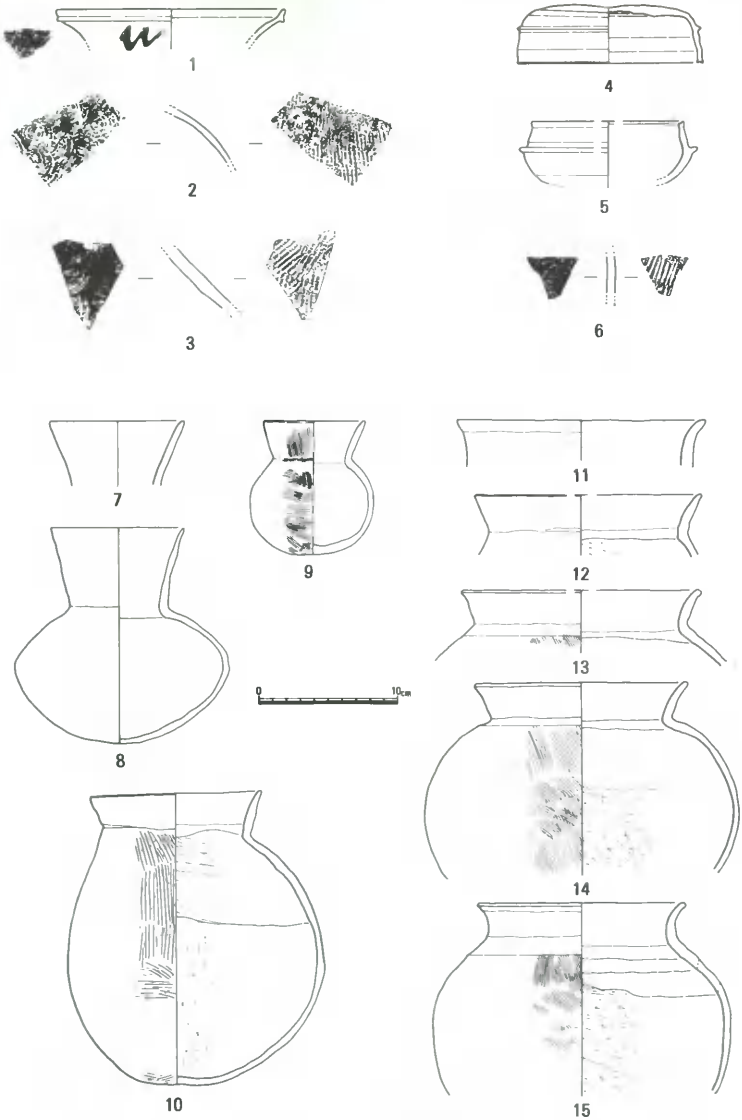
以上のことから、遺跡は、遺構および遺物包含層が確認されたトレンチ1,2,4～6,18,21,20の周辺とトレンチ10～12,20の周辺の大きく２か所に存在しているものと考えられる。そして、トレンチ3,7,22の周辺については本来遺跡は存在していたものの後世において削平されているものと考えられる。またトレンチ8,25や13～15,19の周辺は南からのびる谷部に、またトレンチ16,17,23の周辺は東からのびる谷部に位置し、遺跡は存在しないものと考えられる。



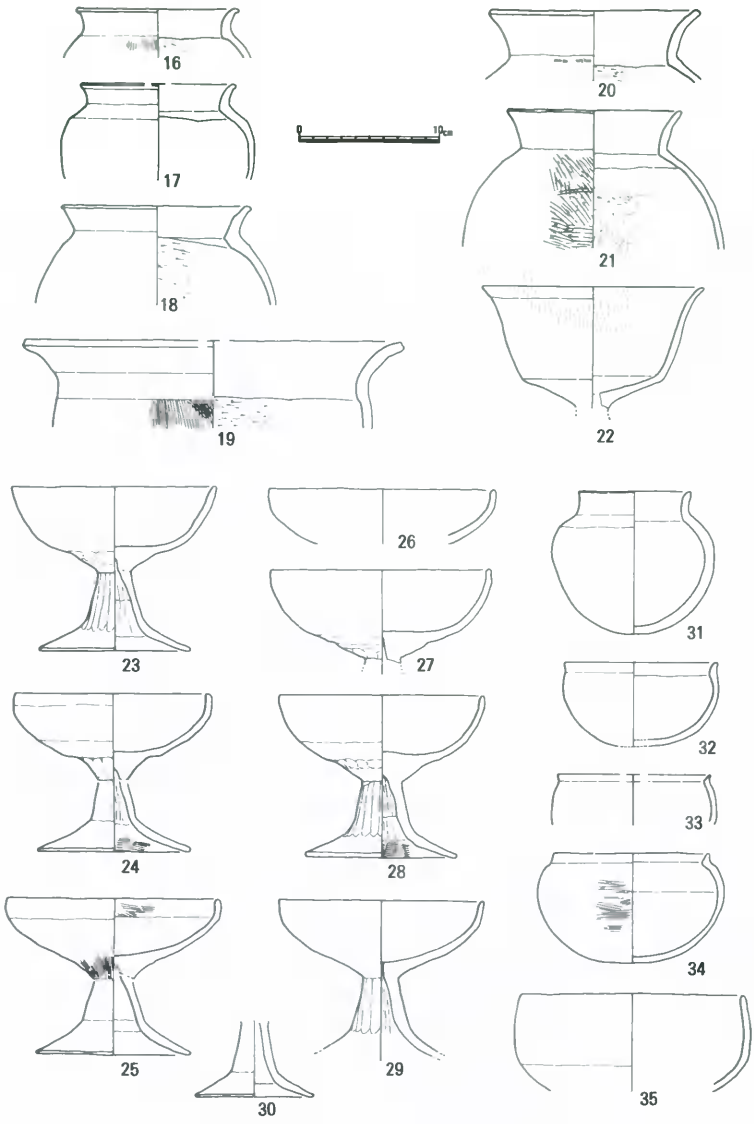
1．暗灰色粘質土（水田耕土）
2．灰色砂質土
3．褐灰白色砂質土(客土)
4．灰色砂質土(〃)
5．淡灰色砂質土(〃)
6．黄橙色砂質土(〃)
7．灰色粘土
8．淡灰色砂質土
9．暗灰褐色粘質土
10．淡灰色粗砂
11．灰黒色砂質土
12．暗灰黄色砂質土
13．褐灰色粘質土

1．暗灰色砂質土（畑耕土）
2．灰色砂質土
3．黄灰色マサ土(客土)
4．黄灰白色砂質土(Fe)
5．褐灰白色砂質土
6．黄褐灰色砂質土(包含層)
7．褐灰白色砂質土(包含層)
8．淡褐灰色砂質土(〃)
9．褐灰色砂質土(〃)
10．黒褐灰色砂質土(〃)
11．灰褐色粘質土(遺構)
12．黄灰褐色砂質土

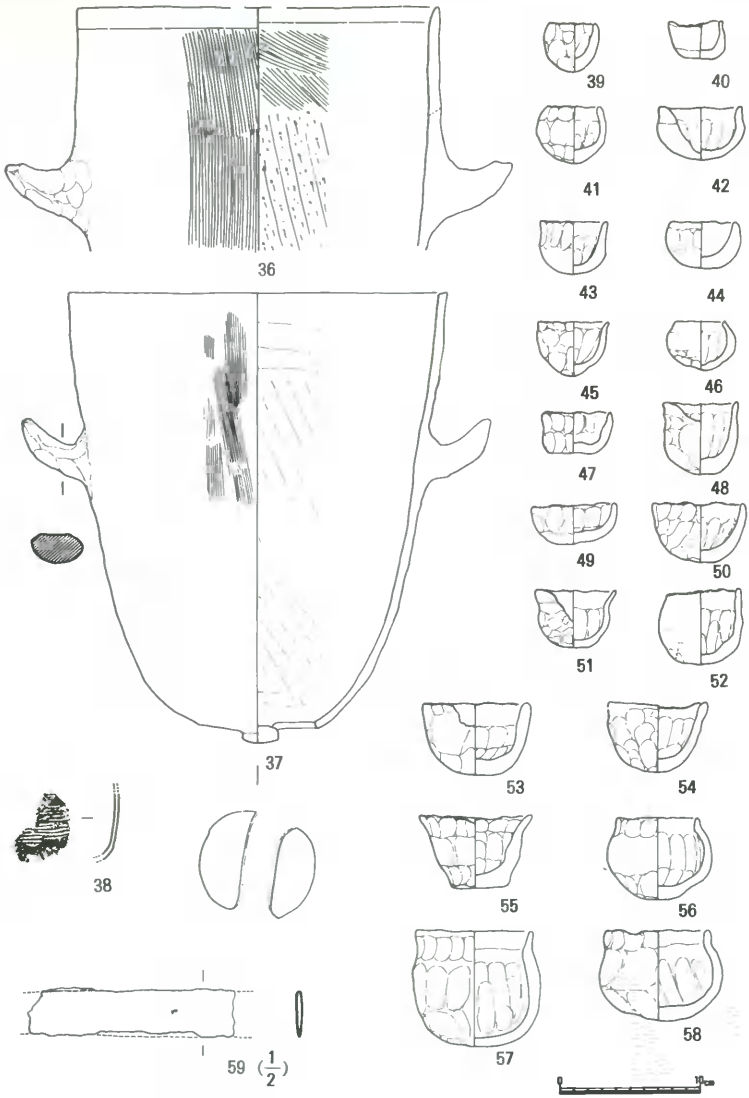
第22図　新庄尾上遺跡トレンチ25,26断面図（$\frac{1}{80}$）



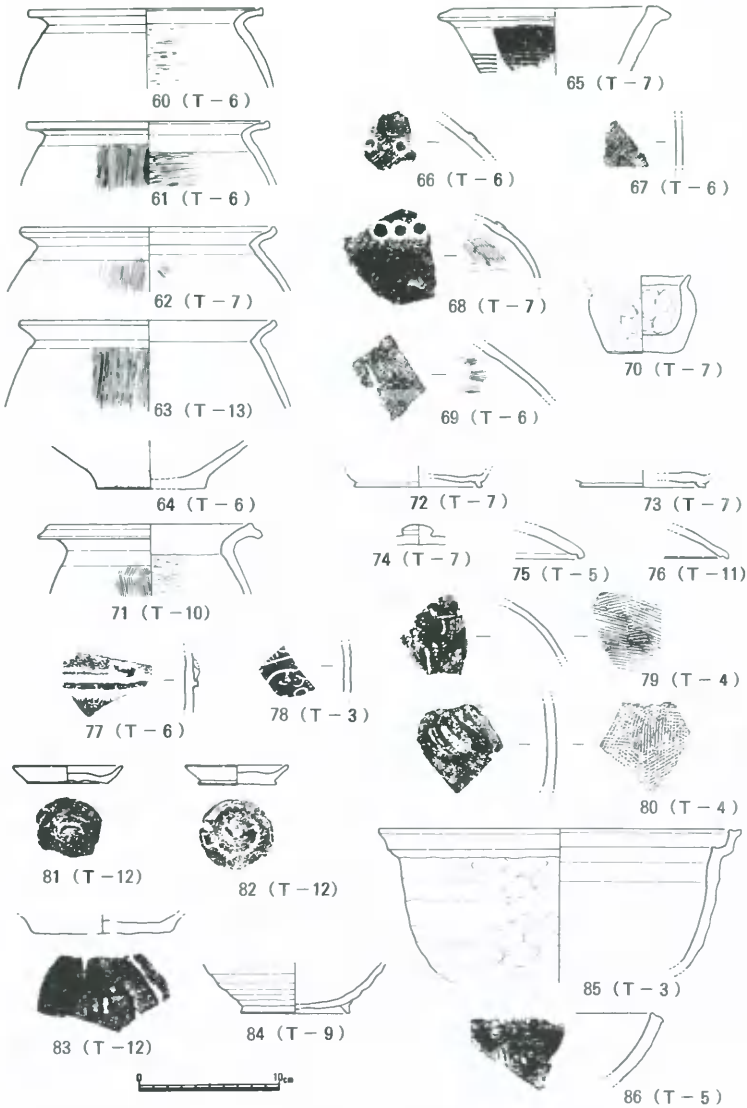
第23図　伊田沖遺跡トレンチ3　竪穴式住居内出土遺物(1)（$\frac{1}{4}$）



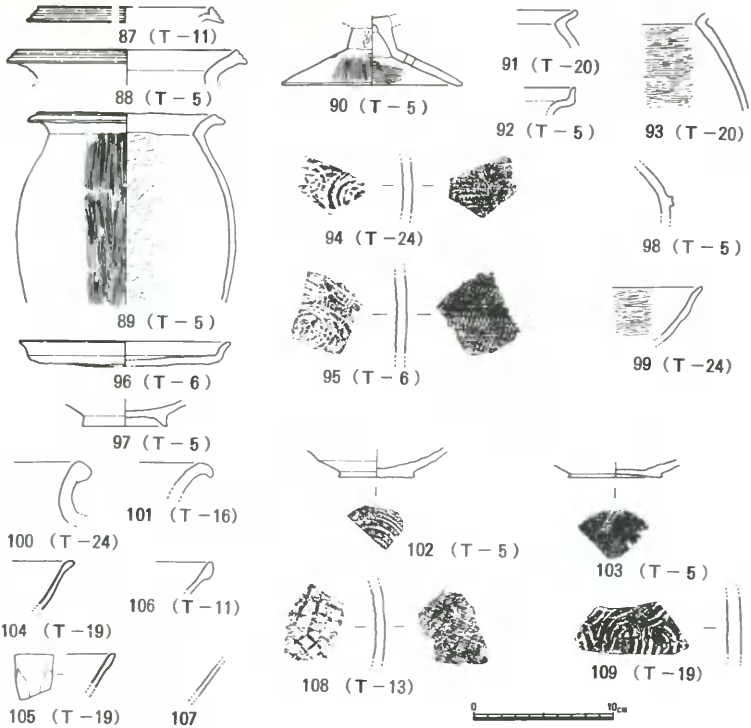
第24図　伊田沖遺跡トレンチ３　竪穴式住居内出土遺物(2)（$\frac{1}{4}$）



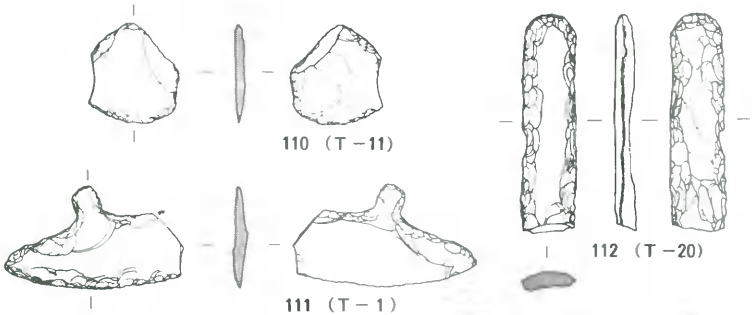
第25図　伊田沖遺跡トレンチ３　竪穴式住居内出土遺物(3) (1/4, 1/2)



第26図　宅美池遺跡（84），伊田沖遺跡（60～83,85,86）トレンチ出土遺物（$\frac{1}{4}$）



第27図　新庄尾上遺跡トレンチ出土遺物（$\frac{1}{4}$）



第28図　宅美池遺跡（111），伊田沖遺跡（110），新庄尾上遺跡（112）出土石器（$\frac{1}{3}$）

表—1　トレンチ調査概要一覧表

宅美滝遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量	現表土レベル(m)	遺構，遺物包含層までの深さ(cm)
1	無	無	土師器，須恵器，須恵質土器，近世・近代磁器，石匙	僅少	72.55	−
2	無	無	近世・近代陶磁器	僅少	71.50	−
3	無	有	弥生土器，土師器，須恵器，中世土器，近世・近代磁器	少量	73.21	− 15
4	無	有	須恵質土器	僅少	73.90	− 35
5	無	無	なし	−	74.97	−
6	無	無	土師質土器	僅少	73.82	−
7	無	無	土師質土器	僅少	78.90	−
8	無	無	土師質土器	僅少	77.50	−
9	無	無	弥生から中世の土器，近世・近代磁器，鉄釘	少量	72.55	−

塚の谷遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量	現表土レベル(m)	遺構，遺物包含層までの深さ(cm)
1	無	無	近世・近代土器，陶磁器	僅少	87.58	−
2	無	無	近代備前焼	僅少	91.91	−
3	無	無	土師質土器，備前焼	僅少	89.21	−
4	無	無	土師質土器	僅少	88.79	−
5	無	無	近世・近代磁器	僅少	89.21	−
6	無	無	なし	−	87.92	−
7	無	無	土師質土器	僅少	89.65	−

伊田沖遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量	現表土レベル(m)	遺構，遺物包含層までの深さ(cm)
1	柱穴	有	弥生中期土器，須恵器，中世土器	少量	48.44	− 25
2	柱穴	有	弥生土器，土師器，中世土器	少量	50.19	− 65
3	竪穴式住居，柱穴	有	弥生土器，手づくね土器，須恵器，土師器，中世土器，鉄器，鉄滓(200 g)	特に多量	48.44	− 25
4	柱穴，溝	有	弥生土器，須恵器，中世土器，鉄器，サヌカイト片	少量	49.53	− 30
5	柱穴	有	弥生土器，須恵器，土師器，中世土器，鉄滓（270 g）	中量	48.40	− 40
6	無	有	弥生前期・中期土器，須恵器，中世土器，鉄滓（750 g）	中量	48.49	− 40
7	柱穴	有	弥生前期・中期土器，須恵器，丹塗り土師器，鉄滓（5550 g）	多量	49.53	− 40
8	柱穴	無	中世須恵質土器	僅少	49.53	− 40
9	柱穴	有	弥生土器，土師器，須恵器，中世土器	少量	48.42	− 25
10	柱穴	有	弥生後期土器，土師器，中世土器	少量	48.42	− 35
11	無	有	弥生中期・後期土器，須恵器，丹塗り土師器，鉄滓（290 g）	多量	48.48	− 30
12	柱穴	有	須恵器，中世土器	少量	46.94	− 20

新庄尾上遺跡

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量	現表土レベル(m)	遺構，遺物包含層までの深さ(cm)
1	柱穴？	有	弥生土器，須恵器，土師器，中世土器，鉄滓（160 g）サヌカイト片	中量	68.16	− 65
2	無	有	弥生土器，須恵器，中世土器，鉄器，鉄滓（250 g）	少量	67.96	− 30
3	無	無	近世・近代磁器，古銭（寛永通宝），鉄器	僅少	74.33	−
4	柱穴	無	土師質土器，須恵質土器	僅少	71.41	−
5	柱穴	有	弥生後期土器，須恵器，丹塗り土師器，中世土器，鉄器，鉄滓（40 g）	多量	76.30	− 25
6	柱穴	有	須恵器（車輪文タタキ），丹塗り土師器皿，中世土器	少量	71.40	− 35
7	無	無	なし	−	75.24	−
8	無	無	中世土器，近世陶器，鉄釘	僅少	70.27	−
9	無	有	弥生中期・後期土器，須恵器，早島式土器，瓦質鍋，白磁碗，鉄滓（30 g）	中量	76.03	−130
10	竪穴式住居，柱穴	無	なし	−	81.49	−
11	柱穴	有	弥生中期・後期土器，丹塗り土器，須恵器，中世土器，白磁碗	中量	77.92	− 65
12	柱穴	有	須恵器，土師質土器，備前焼，石鏃，サヌカイト片	中量	73.83	− 25
13	無	無	弥生土器，須恵質土器，近世・近代磁器	少量	75.32	−
14	無	無	備前焼擂鉢，近世・近代磁器	僅少	72.64	−
15	無	無	須恵器，近世・近代陶磁器	少量	78.14	−
16	無	無	中世土師質土鍋，備前焼甕，近世・近代磁器，鉄片	僅少	73.84	−
17	無	無	須恵器，早島式土器，近世・近代陶磁器	少量	77.81	−
18	柱穴，溝	有	弥生後期土器，土師質土器，須恵質土器	僅少	72.36	− 30
19	無	無	須恵器，中世土器，青磁蓮弁文碗，明青磁	少量	81.90	−
20	柱穴，炉	有	弥生中期土器，須恵器，早島式土器，石器，サヌカイト片	中量	71.30	− 45
21	柱穴	無	土師質土器，近世・近代磁器，サヌカイト片	僅少	69.68	−
22	溝，土壙	無	須恵器，中世羽釜，近世・近代陶磁器	少量	73.54	−
23	無	無	弥生土器，中世土器	少量	70.25	−
24	無	有	須恵器（車輪文タタキ），早島式土器，中世羽釜，瓦器椀，鉄滓（115 g）	少量	68.58	− 60
25	無	無	須恵器，中世土器，白磁碗，近世・近代陶磁器	少量	74.84	−
26	柱穴	有	弥生後期土器，須恵器，早島式土器，天目，鉄滓（345 g）	中量	66.28	− 30

表一2　遺物観察表

番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	壺	16.2	—	—	○頸部外面にクシ描き文。	暗灰色	微砂少量	堅緻	○内外面自然釉。
2	〃	—	—	—	○内面青海波タタキすり消し。	青灰色	〃	〃	○外面自然釉。
3	甕	—	—	—	○　〃	暗青灰色	微砂	〃	
4	杯蓋	13.6	4.2	—	○ヘラ削り右方向。	暗灰色	微砂少量	〃	
5	杯身	—	—	—		青灰色	微砂	〃	
6	甕	—	—	—	○内面ユビナデ。	灰褐色	〃	〃	
7	壺形土器	9.4	—	—		黄灰白色	〃	良好	○水こしに近い。
8	〃	9.4	20.2	—	○底部外面ユビナデ。	暗橙色	〃	〃	○丹塗り。
9	〃	7.2	9.5	—	○外面やや粗いハケメ。	灰橙色	〃	〃	
10	甕形土器	12.2	—	—	○外面粗いハケメ。内面板ナデ，ヘラ削り。	灰白色	〃	〃	○赤茶色粒含む。
11	〃	—	—	—	○口縁部内外面ヨコナデ。	橙色	細砂	〃	
12	〃	—	—	—	○体部内面ヘラ削り。	橙灰白色	微砂	〃	
13	〃	—	—	—	○体部外面ハケメ，内面ユビナデ。	〃	〃	〃	
14	〃	15.0	—	—	○体部外面粗いハケメ。	橙褐灰色	細砂	〃	
15	〃	14.8	—	—	○　〃	〃	微砂	〃	○体部外面煤。
16	〃	11.4	—	—	○体部外面ハケメ。	黄灰白色	〃	〃	
17	〃	—	—	—	○体部内面ヘラ削り。	灰白色	細砂	〃	
18	〃	13.4	—	—	○　〃	〃	〃	〃	○外面磨滅
19	〃	—	—	—	○体部外面ハケメ。	橙灰白色	〃	〃	○赤茶色粒
20	〃	15.0	—	—	○体部内面ヘラ削り。	灰白色	〃	〃	
21	〃	12.4	—	—	○体部外面ヘラ磨き風の粗いハケメ。	〃	微砂	〃	
22	高杯形土器	16.0	—	—		橙色	水こし	〃	○赤茶色粒
23	〃	14.4	11.5	10.6	○脚部外面面取り痕。	淡灰橙色	微砂	〃	○　〃
24	〃	13.8	11.2	10.6	○裾部内面粗いハケメ。	灰黄橙色	〃	〃	○　〃
25	〃	15.0	11.0	10.8	○杯部下端に粗いハケメ。杯部と脚部で剥離。	淡灰橙色	〃	〃	○　〃
26	〃	16.2	—	—		橙灰白色	〃	〃	○　〃
27	〃	15.8	—	—	○杯部下端外面指頭オサエ。	淡橙灰色	〃	〃	○　〃
28	〃	14.6	11.5	10.8	○脚部外面面取り痕。裾部内面粗いハケメ。	橙黄灰色	〃	〃	○　〃
29	〃	14.4	—	—	○　〃　。杯部内面穿孔。	橙灰白色	〃	〃	○　〃
30	〃	—	—	8.4		黄灰白色	〃	〃	
31	壺形土器	8.0	10.1	—	○調整不詳。	橙灰白色	〃	〃	○赤茶色粒
32	坩形土器	10.0	—	—	○　〃	橙色	水こし	〃	
33	〃	—	—	—	○調整不詳。	橙灰白色	微砂	〃	○赤茶色粒
34	〃	11.4	7.8	—	○体部外面ヘラ磨き風板ナデ。	〃	〃	〃	
35		16.0	—	—		橙色	水こし	〃	○赤茶色粒
36	鉢形土器	—	—	—	○外面粗いハケメ。	黄灰白色	細砂	〃	○把手1つ残存
37	〃	27.0	31.7	—	○内面ユビナデ。	淡橙灰色	微砂	〃	○　〃 ○赤茶色粒
38 39～58	製塩土器 手づくね土器	—	—	—	○外面平行タタキ。内面ユビナデ。 ○内外面指頭オサエ，ユビナデ。42，48，51，53は片口状を呈す。	橙灰白色 灰白色～褐灰色～橙灰白色。	〃 〃 細砂	〃 〃	○赤茶色粒
59	鉄器				○最大幅16mm，厚さ1.5mm。現存長74mm。			〃	○刀子か？
60	甕形土器	16.6	—	—	○体部内面ヘラ磨き。	暗褐灰色	微砂	〃	
61	〃	17.2	—	—	○　〃　。体部外面ハケメ。	褐灰色	〃	〃	

表—2　遺物観察表

番号	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
62	甕形土器	18.1	—	—	○体部内面ハケメか。	淡褐灰色	微砂	良好	
63	〃	18.2	—	—	○体部内面ユビナデか。	橙灰白色	〃	〃	
64	壷形土器	—	—	7.6		淡褐灰色	〃	〃	
65	〃	14.8	—	—	○頸部外面ヘラ描き沈線。	灰白色	〃	〃	
66	〃	—	—	—	○外面円形浮文，クシ描き平行，斜格子文。	〃	〃	〃	
67	〃	—	—	—	○外面クシ描き斜格子文。	褐灰色	〃	〃	
68	〃	—	—	—	○外面円形浮文，刺突文。	灰白色	〃	〃	
69	〃	—	—	—	○外面クシ描き平行，波状文。	暗褐灰色	〃	〃	
70	手づくね土器	—	—	5.0	○内外面指頭オサエ。	黄灰白色	〃	〃	
71	甕形土器	14.0	—	—	○体部外面ハケメ。	黄褐灰色	細砂	〃	
72	杯身	—	—	9.0	○底部内外面ユビナデ。	淡青灰色	微砂	堅緻	
73	〃	—	—	9.0		灰色	〃	〃	
74	杯蓋	—	—	—		青灰色	細砂	〃	
75	高杯形土器	—	—	—		黄灰白色	精製	良好	○内外面丹塗り
76	〃	—	—	—		〃	〃	〃	○〃
77		—	—	—	○外面凸帯，浮文。内面ユビナデ。	青灰色	微砂	〃	○白色粒が多い
78		—	—	—	○外面にヘラ描き文。	橙灰白色	精製	〃	○方向不詳
79，80		—	—	—	○内面青海波タタキのちナデ。	青灰色	微砂	〃	○魚住焼か
81	小皿	7.8	1.2	5.6	○底部外面ヘラ切り。	黄灰白色	〃	〃	
82	〃	7.4	1.4	5.6	○〃	橙褐灰色	〃	〃	○ほぼ完存
83	杯	—	—	—	○底部外面ヘラ切りか。	淡橙色	水こし	〃	
84	〃	—	—	7.8	○〃	青灰色	微砂	やや甘	
85	鍋	26.0	—	—	○体部外面指頭オサエ。内面ナデ。	灰白色	〃	瓦質	
86	擂鉢	—	—	—	○内面に条線。	赤褐灰色	〃	堅緻	○備前焼
87	甕形土器	—	—	—	○口縁端部外面に3条の凹線。	黄灰白色	〃	良好	
88	〃	15.6	—	—	○口縁端部外面に2条の凹線。	灰橙色	細砂	〃	
89	〃	12.6	—	—	○体部外面ハケメ。内面ヘラ削り。	淡灰橙色	〃	〃	
90	高杯形土器	—	—	12.8	○脚部外面ヘラ磨き。裾部内外面ハケメ。	淡橙色	精製	〃	
91	甕形土器	—	—	—		灰白色	微砂	〃	
92	〃	—	—	—	○口縁端部外面クシ描き沈線。	黄灰白色	〃	〃	
93	〃	—	—	—	○体部内面ヘラ磨き。	暗褐灰色	〃	〃	
94，95	甕	—	—	—	○内面に車輪文タタキ。	淡青灰色	〃	堅緻	
96	皿	15.0	—	—	○底部外面ヘラ削りか。	黄褐灰色	精製	良好	○丹塗り
97	杯	—	—	6.0	○底部外面糸切りか。	淡灰色	微砂	やや甘	○須恵質
98		—	—	—	○外面に凸帯。	暗青灰色	〃	堅緻	○〃
99	椀	—	—	—	○外面指頭オサエ。内面ヘラ磨き。	黒色	精製	瓦質	○瓦器
100	壷	—	—	—	○内外面ヨコナデ。	暗灰色	微砂	堅緻	○備前焼
101	甕	—	—	—	○〃	淡灰色	〃	〃	○〃
102	椀	—	—	5.4	○底部外面糸切り。	暗青灰色	〃	〃	○須恵器
103	〃	—	—	6.6	○〃	淡青灰色	〃	〃	○〃
104	碗	—	—	—	○内外面に釉。	暗オリーブ	精良	〃	○明青磁
105	〃	—	—	—	○外面に蓮弁文。	オリーブ色	〃	〃	○青磁蓮弁文碗
106，107	〃	—	—	—	○内外面に釉。	白色	〃	〃	○白磁
108	甕	—	—	—	○内面に格子タタキ。	青灰色	微砂	〃	○須恵質
109	〃	—	—	—	○内面に車輪文タタキか。	〃	〃	〃	○〃
110	石器				○2か所に刃部。最大厚4.5㎜。		サヌカイト		○スクレイパー
111	〃				○最大長96㎜。最大幅53㎜。最大厚7㎜。		サヌカイト		○石匙
112	〃				○最大長11.6㎜。最大幅29㎜。最大厚11㎜。		サヌカイト		○石槍か

第4章　ま　と　め

今回確認調査を実施した遺跡は、御津町伊田に所在する宅美池遺跡、塚の谷遺跡、伊田沖遺跡および御津町新庄に所在する新庄尾上遺跡である。調査の目的は、当該遺跡周辺の水田、畑が県営圃場整備を実施するため、工事施行前に遺跡の規模、状況等を確認し、保護・保存のための基礎資料を作成することであった。

これらの遺跡は、従来土器が採集されていたり遺物包含層が一部確認されていたものであるが、いずれも遺跡の実態は明確ではなかった。今回の調査は圃場整備に伴うもので、対象となったのが圃場整備が実施される予定の土地という制約があるものの遺跡の規模、性格等についての有益な資料を得ることができた。

宅美池遺跡については、圃場整備対象水田地域において、北側の丘陵沿いの水田で遺物包含層が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物包含層の時期は、出土遺物が少なく必ずしも明確ではないが中世ではないかと考えられる。その範囲は約900㎡と推定される（第29図）。遺物包含層までの深さは、最も浅い部分で現表土面からマイナス約15㎝である（トレンチ３）。これ以外の部分は谷部および谷部につながる丘陵の裾部に相当するものと考えられる。こうしたことから遺跡の本体については、かつて土器が採集されている「巧池」の北側の丘陵裾部が想定できる。

塚の谷遺跡については、圃場整備予定水田地域には流れ込みと考えられる遺物が少量出土するものの遺構および遺物包含層は確認されず、遺跡は存在しないと考えられる。各トレンチの状況から、当該地は谷部にあたるものと考えられる。

伊田沖遺跡については、すべてのトレンチにおいて遺構あるいは遺物包含層が確認され、遺物はコンテナ約８箱出土している。多くは現水田耕作土直下から確認され、時期は弥生時代中期から中世と考えられ、当該期の集落跡の存在が想定できる。

検出された遺構、遺物のなかでは、トレンチ３における竪穴式住居やトレンチ12の中世柱穴やトレンチ３、５、６、７、11出土の鉄滓などが注目される。竪穴式住居内には豊富な遺物が出土しており、特に総数50個体以上を数える手づくね土器の出土は、従来類例のあまり知られていないもので貴重な資料となるであろう。また、これらはほぼ５世紀後半から末と考えられるが、御津町においてはこの時期の住居址としては最初の発見であり、周辺の丘陵上に存在する古墳との関連を考えるうえで重要であろう。また、総量で約７㎏を測る鉄滓の出土については、一部にスサ入りの炉壁も認められ、また精錬滓の可能性が強く北側の丘陵部に製鉄跡の存在を想定する根拠となるものである。

こうして想定される遺跡の範囲は圃場整備予定地内においては約11300㎡を測る（第30図）。なお、水田の北の丘陵部については今回の圃場整備事業の対象外であり、現在畑地などになっているが、土器が採集される部分もあり、遺跡が存在することはほぼ間違いないと考えられる。今後の分布調査等によってその実態を明らかにする必要があるであろう。

新庄尾上遺跡については、大きく２ケ所において遺跡の存在が想定できる。遺跡の規模は、西側部分が約20600㎡、東側部分が約14500㎡で合計約35100㎡を測る（第31図）。なお、トレンチ２、26の西部分およびトレンチ１、26南部分については、トレンチは設定していないがそれぞれのトレンチの状況および地形から推定範囲を考えた。

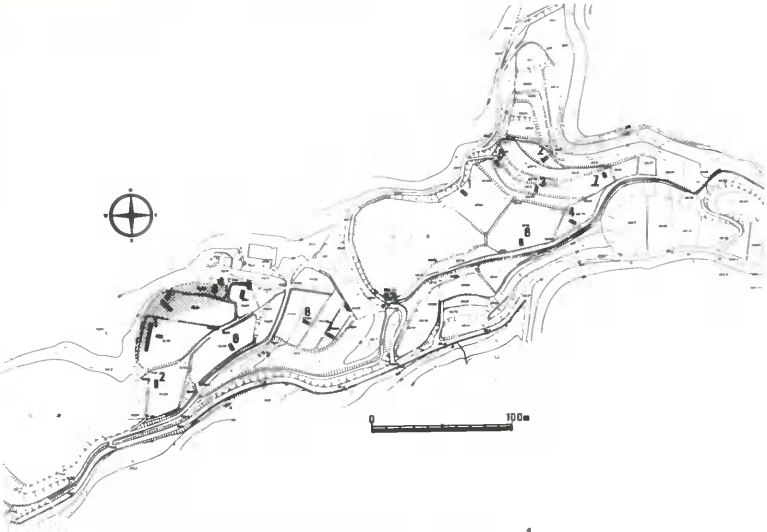
遺跡の内容については、各トレンチで検出された遺構および遺物包含層のあり方から推定できる。すなわち、トレンチ10で検出された竪穴式住居や各トレンチにおける柱穴、溝等の確認によって、弥生時代中期前半から古墳時代を中心に古代、中世にいたる集落跡の存在が考えられる。遺構の密度も高いものと考えられるが、当該地域は比高差が10m前後もあり、水田・畑が階段状に存在しており、遺構や遺物包含層の残存状況は各水田・畑によって異なるあり方を示している。遺物は、土器、石器、鉄滓などがコンテナ約６箱出土している。トレンチ20において出土した石槍状の石器は、先端の刃部が著しくつぶれている。また、鉄滓は炉壁も含んでおり、トレンチ１，２，５，9，24，26から総量で約１kgが出土している。遺跡の南方約200mには現在「鍛冶屋谷」という地名があり、これらとの関連が考えられる。

また、トレンチ８，13,14,15,16,19，23，25においては遺構および遺物包含層は存在せず、おもに粗砂、細砂が堆積しており、旧地形においては谷部などを形成していたものと考えられる。

なお、当遺跡が圃場整備予定地の南側の丘陵上にもひろがることは、今回のトレンチ調査の成果をはじめ、遺跡発見の端緒となった地点や土器の採集される畑の存在や地形などから明らかであり、今後の分布調査等によってその実態を明らかにする必要があるであろう。

以上、今回の確認調査は、小面積のトレンチ調査であり、必ずしも本来の目的である遺跡の規模、状況等を明確に把握することができたとは言い難いが、調査の結果をもとに遺跡範囲等の想定を試みたものである。

今回の調査の契機となった県営圃場整備は計画で総面積80ha以上測る。今回調査を実施した周知の遺跡以外にも新しく遺跡が発見される可能性もあり、今後の関係者間の連絡、協議を徹底する必要があるであろう。

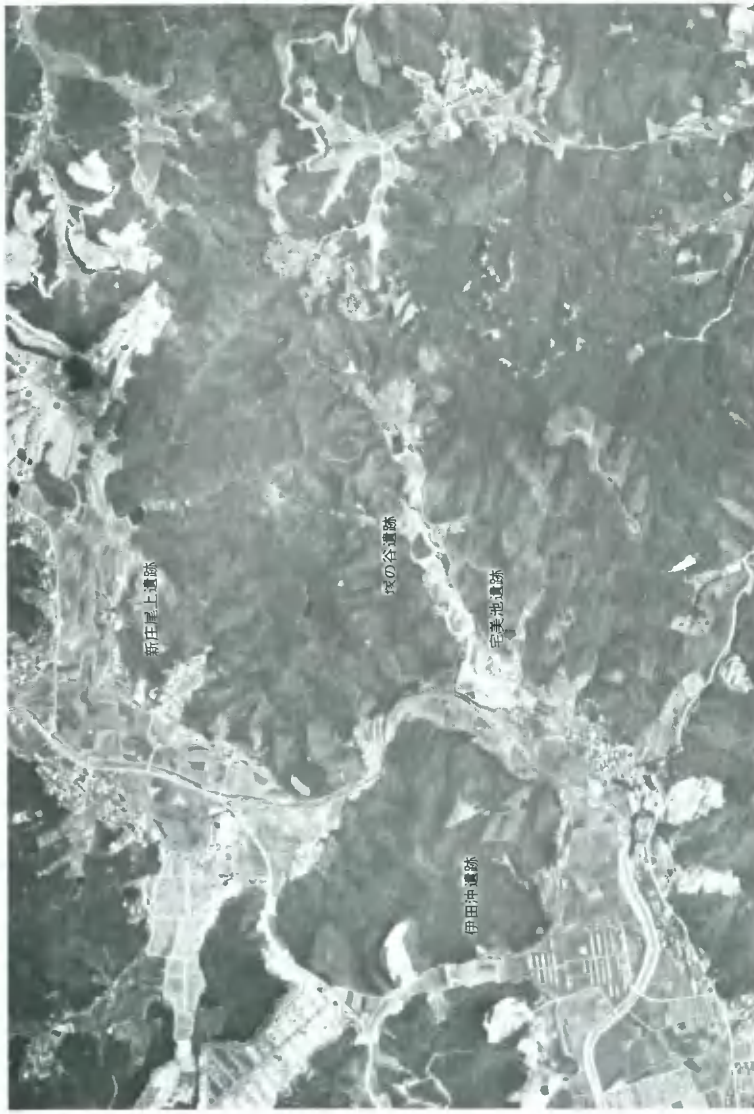


第29図　宅美池遺跡　推定遺跡範囲図（$\frac{1}{4,000}$）

第30図　伊田沖遺跡　推定遺跡範囲図（$\frac{1}{3,000}$）

第31図　新庄尾上遺跡　推定遺跡範囲図（$\frac{1}{5,000}$）

図版 1



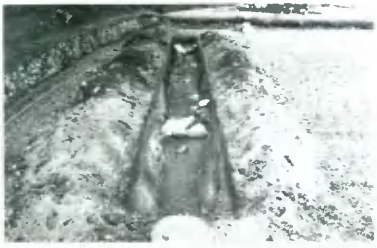
遺跡周辺地形（航空写真）（$\frac{1}{20,000}$，昭和60年 4 月現在）

図版 2

1. 宅美池遺跡遠景（東から）

2. 塚の谷遺跡遠景（西から）

図版 3



1. 宅美池遺跡　T－1（南から）

2. 宅美池遺跡　T－2（南東から）

3. 宅美池遺跡　T－3（南から）

4. 宅美池遺跡　T－4（北西から）

5. 宅美池遺跡　T－5（北西から）

6. 宅美池遺跡　T－6（南西から）

7. 宅美池遺跡　T－7（西から）

8. 宅美池遺跡　T－8（西から）

図版 4

1. 宅美池遺跡　T－9（東から）

2. 塚の谷遺跡　T－1（南から）

3. 塚の谷遺跡　T－2（北から）

4. 塚の谷遺跡　T－3（南東から）

5. 塚の谷遺跡　T－4（北西から）

6. 塚の谷遺跡　T－5（北西から）

7. 塚の谷遺跡　T－6（北西から）

8. 塚の谷遺跡　T－7（南東から）

図版 5

1. 伊田沖遺跡遠景（南から）

2. 伊田沖遺跡　T－1（南東から）

図版6

1. 伊田沖遺跡　T－3（南東から）

2. 伊田沖遺跡　T－3　竪穴式住居上層土器溜り（西から）

図版 7

1. 伊田沖遺跡　T－3　竪穴式住居遺物出土状況（東から）

2. 伊田沖遺跡　T－4（北東から）

図版8

1. 伊田沖遺跡　T－5（南東から）

2. 伊田沖遺跡　T－7（北西から）

図版 9

1. 伊田沖遺跡　T－2（北から）

2. 伊田沖遺跡　T－5　東壁断面（西から）

3. 伊田沖遺跡　T－6（北西から）

4. 伊田沖遺跡　T－8（西から）

5. 伊田沖遺跡　T－9（北東から）

6. 伊田沖遺跡　T－10（北西から）

7. 伊田沖遺跡　T－11（北西から）

8. 伊田沖遺跡　T－12柱穴（西から）

図版10

1. 新庄尾上遺跡遠景（北東から）

2. 新庄尾上遺跡遠景（北西から）

図版11

1.　新庄尾上遺跡遠景（西から）

2.　新庄尾上遺跡　T－4（北東から）

図版12

1. 新庄尾上遺跡　T－5（南西から）

2. 新庄尾上遺跡　T－6（南西から）

図版13

1. 新庄尾上遺跡　T－10（北西から）

2. 新庄尾上遺跡　T－12（北西から）

図版14

1. 新庄尾上遺跡　T－18（南から）

2. 新庄尾上遺跡　T－20（北西から）

図版15

1. 新庄尾上遺跡　T－21（北から）

2. 新庄尾上遺跡　T－1（北西から）

3. 新庄尾上遺跡　T－2（南から）

4. 新庄尾上遺跡　T－3（南西から）

5. 新庄尾上遺跡　T－7（北から）

図版16

1. 新庄尾上遺跡　T－8（北西から）

2. 新庄尾上遺跡　T－9（西から）

3. 新庄尾上遺跡　T－11（南西から）

4. 新庄尾上遺跡　T－13（北から）

5. 新庄尾上遺跡　T－14（北から）

6. 新庄尾上遺跡　T－15（西から）

7. 新庄尾上遺跡　T－16（南西から）

8. 新庄尾上遺跡　T－17（西から）

図版17

1. 新庄尾上遺跡　T－19（南西から）

2. 新庄尾上遺跡　T－22（北から）

3. 新庄尾上遺跡　T－23（北西から）

4. 新庄尾上遺跡　T－24（西から）

5. 新庄尾上遺跡　T－25（西から）

6. 新庄尾上遺跡　T－26（北東から）

7. 新庄尾上遺跡　発掘風景

8. 新庄尾上遺跡　埋めもどし風景

図版18

伊田沖遺跡　T－3　竪穴式住居内出土遺物(1)

図版19

伊田沖遺跡　T－3　竪穴式住居内出土遺物(2)

図版20

伊田沖遺跡（1～13, 16）宅美池遺跡（14）新庄尾上遺跡（15,17,18）出土遺物

美野条里遺跡

例　言

1．本書は岡山県教育委員会が昭和60年度国庫補助を受けて実施した「美野条里遺跡」の発掘調査概要報告書である。

2．遺跡は勝田郡勝央町田井に所在する。

3．発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員松本和男が担当し、専門委員の指導、助言を得て昭和60年6月6日から8月30日まで実施した。

4．発掘調査は岡山県勝英地方振興局、勝央町役場、勝央町教育委員会、地権者等関係各位より絶大なる援助を受けた。

5．本報告書の執筆、編集は松本が行った。報告書作成にあたっては、遺物写真は岡山県古代吉備文化財センター職員井上　弘が撮影した。

6．出土遺物、実測図、写真等は文化財センター（岡山市西花尻1325－3）において一括保管している。

7．本書に使用したレベル高は海抜高である。方位は第1、2、5～11図が真北、他は磁北である。

8．本書第2図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図（真加部）を複製したものである。

目　　次

例　言

目　次

第１章　地理的、歴史的環境 …… 137

第２章　調査の経緯 …… 140

第３章　発掘調査の概要 …… 147

第４章　まとめ …… 154

図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 137

第２図　周辺遺跡分布図（S＝$\frac{1}{25,000}$） …… 138

第３図　美野条里遺跡南側丘陵付近表採遺物 …… 139

第４図　永山卯三郎「岡山県農地史」掲載図 …… 141

第５図　美野条里地形図（S＝$\frac{1}{6,000}$） …… 142

第６図　美野条里地籍図（S＝$\frac{1}{6,000}$） …… 143

第７図　調査地区の灌漑現況図（S＝$\frac{1}{6,000}$） …… 144

第８図　美野条里遺跡調査対象地域（S＝$\frac{1}{30,000}$） …… 145

第９図　トレンチ位置設定図（S＝$\frac{1}{6,000}$） …… 148

第10図　不ふ里が丁、藤生、壱丁田、砂ケ丁、上澤地区トレンチ設定図
（S＝$\frac{1}{2,000}$） …… 149

第11図　発掘調査範囲の古地形図（S＝$\frac{1}{10,000}$） …… 154

第12図　T－１、２、４、５、６、の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 156

第13図　T－８、10、11、12の土層断面図、T－９、13の平、断面図
（S＝$\frac{1}{80}$） …… 157

第14図　T－14、17、18、22、23の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 158

第15図　T－24、25、27の土層断面図、44の平、断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 159

第16図　T－28、29、30、34、35、36、42の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 160

第17図　T－37、38、43、45、46、47の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 161

第18図　T－50、51、52、53、54の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 162

第19図　水田層、水田下層出土遺物 …… 163
第20図　出土遺物 …… 164

図　版　目　次

図版１　美野条里遺跡付近航空写真
図版２　１．遺跡遠景（南西から）
　　２．遺跡遠景（南西から）
　　３．遺跡近景（南西から）
図版３　１．遺跡近景（南から）
　　２．発掘調査風景
　　３．発掘調査風景
図版４　１．Ｔ－１（南西から）
　　２．Ｔ－１近景（南から）
　　３．Ｔ－２（南西から）
　　４．Ｔ－２（西から）
　　５．Ｔ－４（西から）
　　６．Ｔ－５（北東から）
　　７．Ｔ－６（北東から）
　　８．Ｔ－６近景（東から）
図版５　１．Ｔ－７（北東から）
　　２．Ｔ－７近景（北から）
　　３．Ｔ－８（南東から）
　　４．Ｔ－９（南東から）
　　５．Ｔ－９柱穴（東から）
　　６．Ｔ－９近景（南から）
　　７．Ｔ－10（南西から）
　　８．Ｔ－11（南西から）
図版６　１．Ｔ－12（左）、54遠景（右）（北から）
　　２．Ｔ－12（南東から）
　　３．Ｔ－12近景（南から）

4．Ｔ－13（南西から）

5．Ｔ－14（南西から）

6．Ｔ－14（南から）

7．Ｔ－15（南西から）

8．Ｔ－15近景（西から）

図版７　1．Ｔ－17（南東から）

2．Ｔ－17（南から）

3．Ｔ－18（北西から）

4．Ｔ－19（南西から）

5．Ｔ－19近景（西から）

6．Ｔ－20（南東から）

7．Ｔ－20近景（南から）

8．Ｔ－22（南東から）

図版８　1．Ｔ－23（南西から）

2．Ｔ－24遠景（南から）

3．Ｔ－24（北西から）

4．Ｔ－25（南西から）

5．Ｔ－27（北西から）

6．Ｔ－27近景（西から）

7．Ｔ－28（南西から）

8．Ｔ－29（南西から）

図版９　1．Ｔ－29近景（南から）

2．Ｔ－30近景（南から）

3．Ｔ－31（北西から）

4．Ｔ－32（南西から）

5．Ｔ－32近景（南から）

6．Ｔ－33（南西から）

7．Ｔ－34（南西から）

8．Ｔ－35、36の遠景（北西から）

図版10　1．Ｔ－35（南西から）

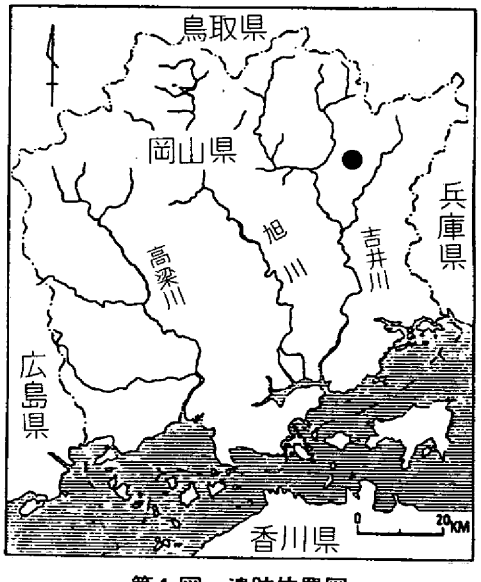
2．Ｔ－35近景（西から）

3．Ｔ－36（北西から）

4．Ｔ－37（南西から）
5．Ｔ－37近景（西から）
6．Ｔ－41（北西から）
7．Ｔ－42（北西から）
8．Ｔ－43（南西から）
図版11　1．Ｔ－44（南西から）
2．Ｔ－44近景（南から）
3．Ｔ－45（北東から）
4．Ｔ－45の近景（東から）
5．Ｔ－40、41の遠景（東から）
6．Ｔ－50近景（南から）
7．Ｔ－51（南西から）
8．Ｔ－51近景（西から）
図版12　1．Ｔ－52（南西から）
2．Ｔ－53（北西から）
3．Ｔ－53（西から）
4．Ｔ－54（南西から）
5．Ｔ－54（南から）
6．Ｔ－56（北西から）
7．Ｔ－57（南東から）
8．Ｔ－58（北東から）
図版13　出土遺物
図版14　出土遺物

第１章　地理的・歴史的環境

美野条里遺跡の存在する勝田郡勝央町は岡山県の北東部に位置し、北は勝北町、奈義町、南は美作町、柵原町、東は勝田町、西は県北最大の都市である津山市と接する面積約54㎢を有する町である。勝田郡奈義町滝山に源を発する滝川は日本原高原を南流し、勝央町美野で平野部を形成し、勝間田を通過して美作町明見で梶並川と合流し、岡山県三大河川の１つである吉井川へ合流するのである。この滝川中流域に形成された美野平野は現在では明瞭な条里制地割の景観が広がっているが、大部分は滝川の幾多の氾濫によって形成されていたことが地形図や航空写真で看取することができる。

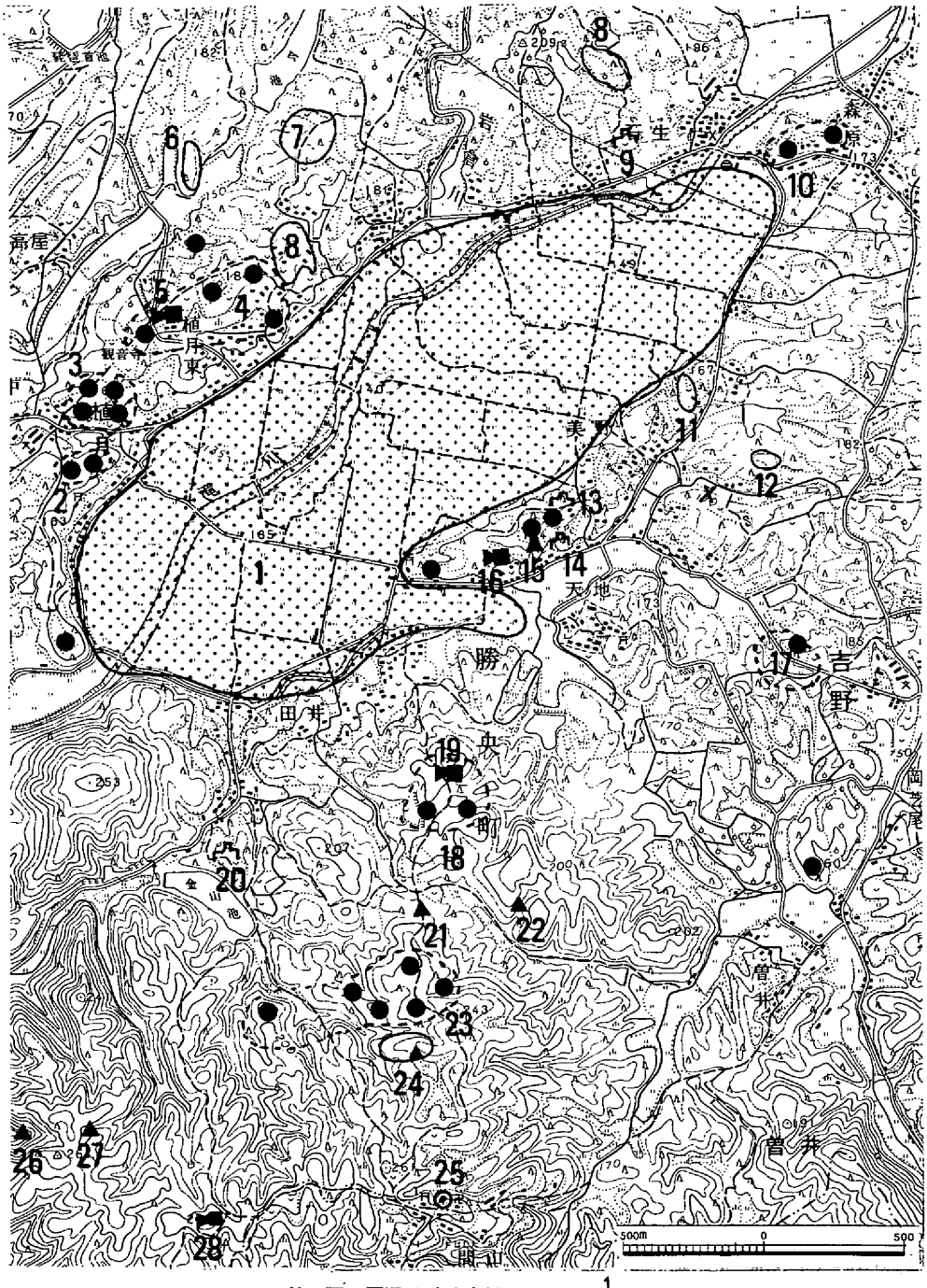


第１図　遺跡位置図

勝央町内には数多くの遺跡が確認されており、各時代ごとに極めて特徴的な遺跡が存在している。町内最古の遺跡は金鶏塚遺跡である。（註１）この遺跡では縄文時代早期の押型文土器が出土している。美野地区でも打製石斧が採集されていることから、この地区にも縄文時代の遺跡が存在するものと思われる。（第３図－１）弥生時代の遺跡は中期以後のものが主流となるが、いづれも低丘陵上や丘陵緩斜面に集落址が存在している。

本遺跡周辺では左岸で清実遺跡（註２）が、植月北地区の念仏塚遺跡（註３）では袈裟襷文銅鐸が出土しており、弥平治地区の弥平治遺跡（註４）では弥生時代後期前半の集落址が調査されている。このように滝川右岸の低丘陵上や勝間田地区、畑屋、東吉田地区等の丘陵上や丘陵緩斜面等に数多く遺跡が所在している。

古墳時代の遺跡は旧植月、吉野村と旧勝間田町地区とに大別される。特に前、中期古墳については各々の地域で前方後円墳や前方後方墳を含む首長墓の変遷が系統的にとらえることが可能な地域である。特に美野平野を見下す西低丘陵には美作地方有数の前方後円墳である植月寺山古墳（全長約90ｍ）が、東低丘陵には美野大塚（前方後円墳、全長約72ｍ）、美野中塚（前方後方墳、全長約45ｍ）、南丘陵には田井高塚古墳（前方後円墳、全長約36ｍ）など４世紀後半から５世紀前半代の古墳が所在しており、美野平野を中心とする一地域の政治単位としての

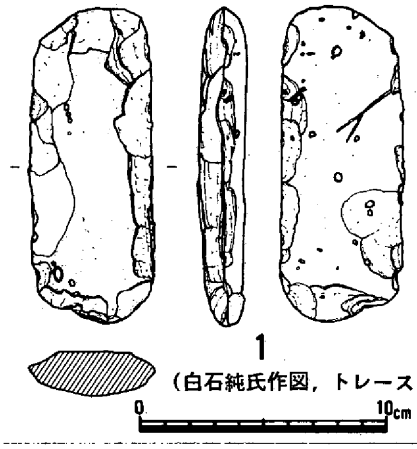


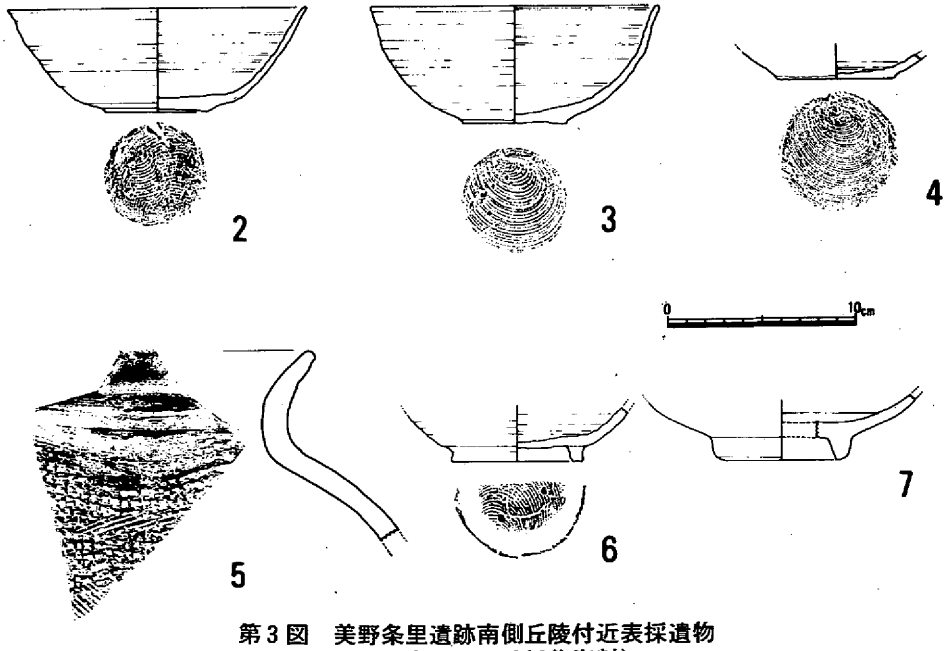
第2図　周辺遺跡分布図（S＝$\frac{1}{25,000}$）

1．美野条里遺跡　2．鎧屺古墳群　3．茶畝古墳群　4．植月東古墳群　5．植月寺山古墳
6．散布地　7．今池南遺跡　8．散布地　9．石生構跡　10．森原古墳群
11．清実遺跡　12．能部遺跡　13．構城跡　14．小風呂山城跡　15．美野高塚古墳
16．美野中塚古墳　17．曽井古墳群　18．田井古墳群　19．田井高塚古墳　20．金山城跡
21．列所窯跡　22．列所窯跡　23．釜ケ谷古墳群　24．釜ケ谷窯址　25．経塚
26．大平山窯址　27．河内奥窯址　28．岡高塚古墳

まとまりを持つ地区を形成しているのである。

古墳時代後期になると横穴式石室墳が全町的に築造され、数多くの群集墳が形成されるとともに、これらの石室内には陶棺を内蔵する古墳が数多くみられるのである。歴史時代の遺跡としては平地区の平遺跡（註５）、勝間田遺跡（註６）があげられる。調査の結果、これらの遺跡からは大型建物群と奈良時代の須恵器、土師器、瓦、陶硯が多数出土している。特に須恵器片には「勝」、「郡」のヘラ書き文字や「郡」の押印がみとめられるものがあることから、勝田郡衙と考えられており、古代における政治、文化の中心地であったことを示している。また、町内には奈良～平安時代にかけての窯址が多数認められる。勝田窯址群の中心をなし、中世の勝間田焼主生産地として発展したところである。本遺跡の南西丘陵では戸岩窯址（註７）が、東南の丘陵斜面においても存在するようである。（註８）このように、本遺跡を囲む丘陵上には数多く遺跡が所在し、少しずつこの地域の実態が明らかになりつつある。





第３図　美野条里遺跡南側丘陵付近表採遺物
（水田人士氏採集資料）

第2章　調査の経緯

岡山県勝英地方振興局は勝央町美野、田井、植月東地区周辺で「県営圃場整備事業」を昭和54年から7ケ年計画で実施しているが、この地区一帯は永山卯三郎氏によって『勝田郡吉野村。植月村に於ける条里図』（註9・第4図）として紹介され、条里遺構がよく残っている地区として著名であった。

当該予定地については、すでに勝英地方振興局が勝央町教育委員会に対して文化財の有無についての照会を行っており、条里遺構については、航空写真を撮影して残すことで町教育委員会と協議済であった。しかしながら、県教育委員会としてはこの対応では不充分であると考えたので、勝英地方振興局、勝央町教育委員会の三者で協議を重ねた結果、昭和57年度通年施行予定地区（第8図）については県文化課の指導によって町教育委員会が昭和57年7月20日～8月5日まで埋没条里の確認調査を実施した。その結果、中世以前には可耕地として利用されたものではなく、確認された埋没水田、畦畔、溝等は全て中世以降の水田であることが判明したのである。（註10）これらの調査結果や現況地形図等での調査によって、昭和58年度、59年度通年施行地区は滝川の氾濫原であるため確認調査は実施しなかったのである。

昭和60年度通年施行予定地である田井地区は、昭和57年度の調査によって確認されなかった古代埋没条里が最も確認される可能性の高い地区と想定したところであるため（註11）、県教育委員会では工事施行前に昭和60年度国庫補助を受けて埋没条里の時期、規模等を確認し、遺跡の保護、保存対策を講じるため発掘調査を実施することになった。

発掘調査は岡山県文化財保護審議会専門委員の指導、助言を得て岡山県古代吉備文化財センターが昭和60年6月6日から8月30日まで実施した。調査にあたっては岡山県勝英地方振興局、勝央町役場、同町教育委員会をはじめ地権者等関係各位には多大の協力を得た。また、発掘作業に従事していただいた地元有志の方々にも協力を得た。記して謝意を表わす。

調査体制

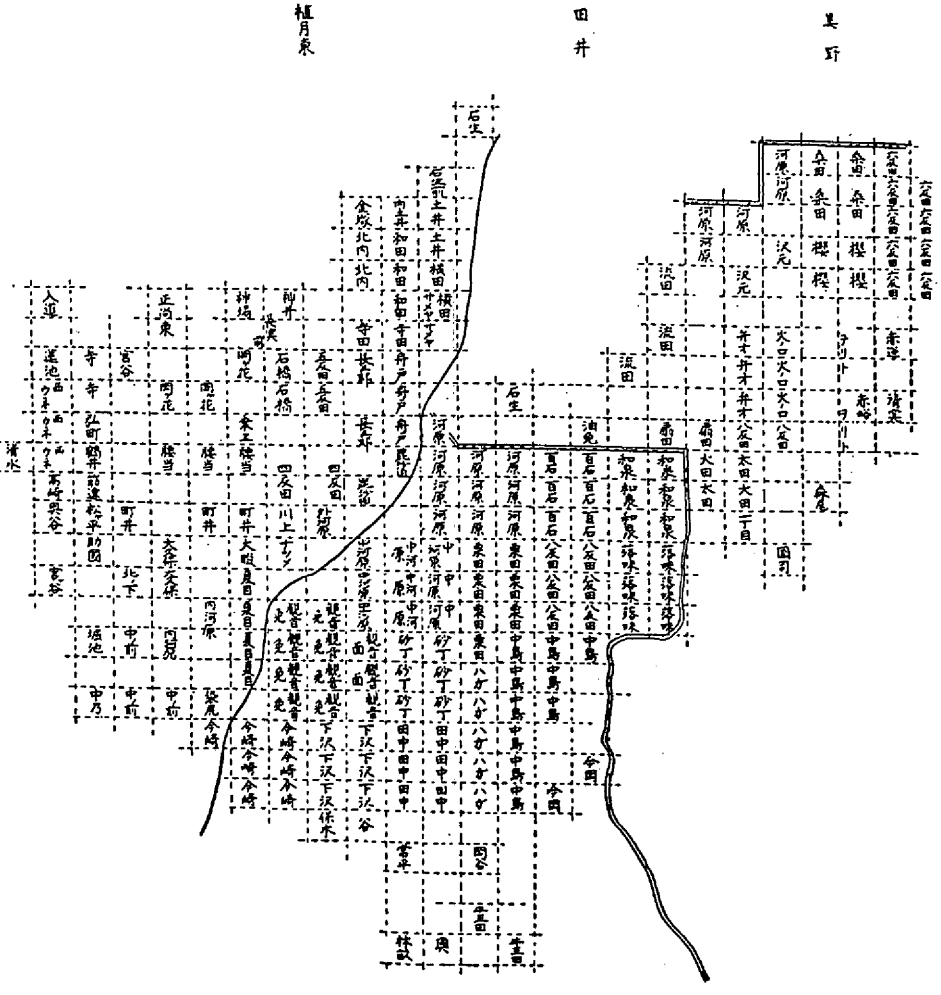
専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

吉野村大字美野、田井ト交界地 植月村大字植月東條里図

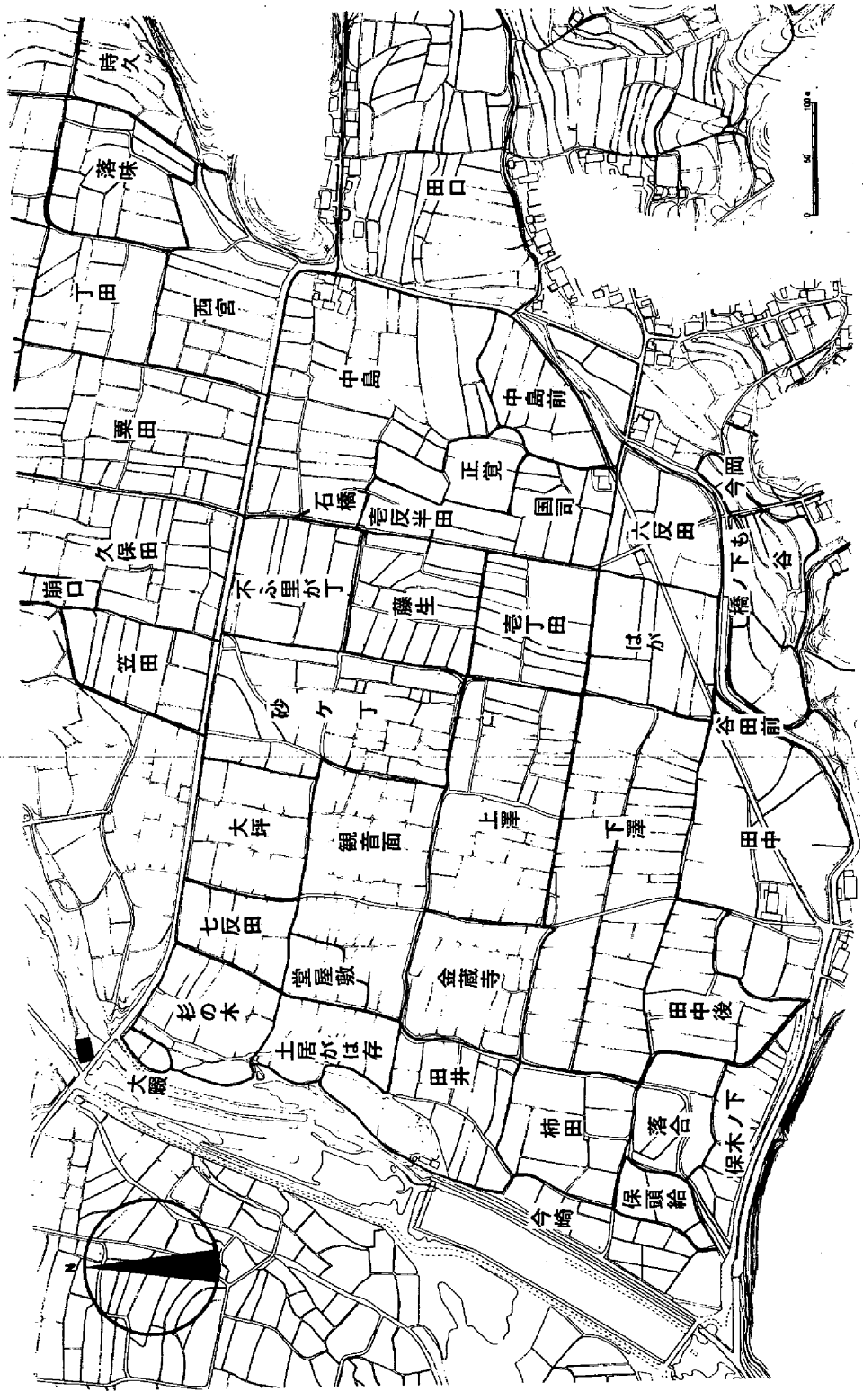


略説

吉野、植月に亘る一帯の耕地は 特に大字田井(田部の轉)に於て井然として一糸乱れざる古條里の區劃を追跡し得ると同時に四反田、五反田、六反田、八丁田、二丁田、大畷横田等の如き條里関係の遺稱また栗田(呉人の土着地)の地名の現存に依て 古條里の遺制を推定し得る

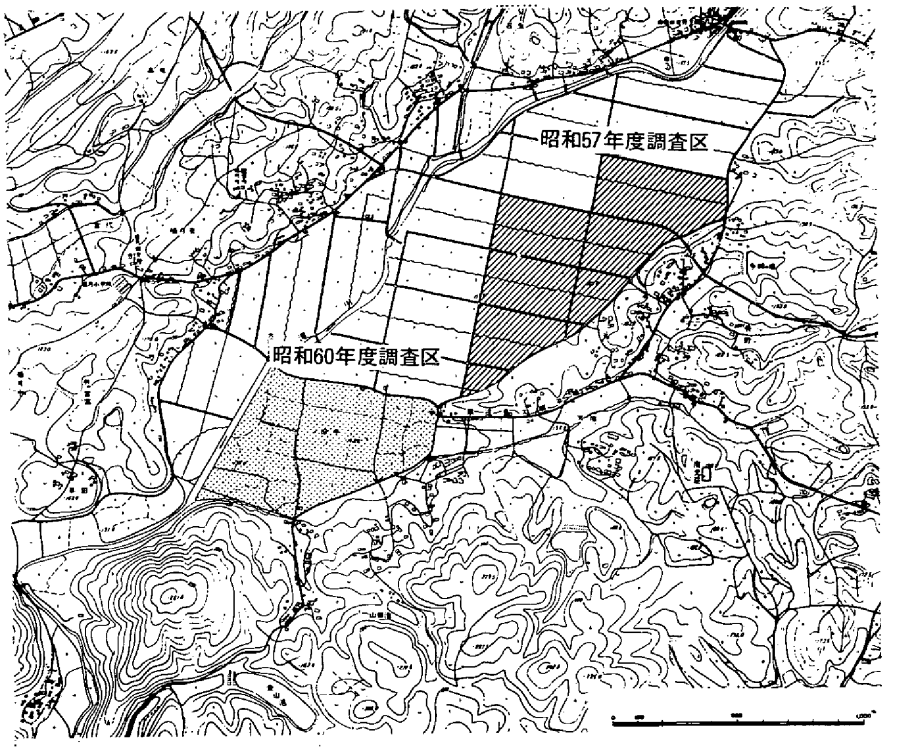
第4図　永山卯三郎「岡山県農地史」昭和27年より

第5図　美野条里地形図（S＝$\frac{1}{6,000}$）



第6図　美野条里地籍図（S＝$\frac{1}{6,000}$）

第7図　調査地区の灌漑現況図（S＝$\frac{1}{6,000}$）



第8図　美野条里遺跡調査対象地域（S＝$\frac{1}{30,000}$）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　松元昭憲（昭和60年12月15日まで）

　　高橋誠記（昭和60年12月16日から）

次　　長　　橋本泰夫

総務課長　　佐々木　清

調査課長　　河本　清

文化財保護主査　　松本和男（調査担当）

発掘作業員

河本　勉、河本仁郎、河本辰雄、河本清三、河本　豪、河本弘雄、河本　都、河本八枝子、影山富美子、影山文枝、河本玉江、河本千鶴、河本和子、市川八重子、岸本静枝、水田君子、水田寿江、水田映子。

日誌抄

昭和60年

6月6日	プレハブ事務所の建設
7日	発掘器材の運搬
10日～14日	トレンチの設定作業。T－1～14の発掘。T－1～10、12、13の断面写真撮影。小字、坪名の調査。
17日～22日	T－14～22の発掘。T－11、14～21の断面写真撮影。T－1、2、4、5、7～9、13～19の断面実測。T－1、2、4、5、8、14、16、19の埋めもどし。
24日～28日	T－22～24の発掘。T－21の断面実測。T－22の断面写真撮影と実測。
7月1日、2日	T－23、24の発掘及び断面写真撮影。遺物、図面の整理。
5日	賃金の支払い
12日	遺物の整理
15日～20日	T－25～34の発掘。T－12、20、23～26、30～32の断面写真撮影と実測。T－11、12、20、23～32の埋めもどし。全体図へのトレンチ位置作成。
23日～25日	T－34～41の発掘。T－33～39の断面写真と実測。T－33～37の埋めもどし。
29日～8月2日	T－40～49の発掘。T－3、40～46の断面写真撮影と実測。T－3、10、37～43、45の埋めもどし。
5日、6日	T47～52の発掘、T－47～52の断面写真撮影と実測。T－48の埋めもどし。
8日～10日	T－53～56の発掘。T－53～56の断面写真撮影と実測。T－55、56の埋めもどし。
12日～13日	T－57の発掘。T－44の埋めもどし。遺物の整理。水系の確認調査。
16日、17日	T－57、58の発掘。T－57の断面写真撮影と実測。T－44、46の埋めもどし。
26日～30日	T－58、59の発掘及び断面写真撮影と実測。遺跡の遠景写真撮影。T－9、47、49、50、51～54、57～59の埋めもどし。

第３章　発掘調査の概要

トレンチ調査の方法と概要

発掘調査は圃場整備を計画している範囲内に限定されるため、調査はこの範囲内における一町四方を区画する畦畔にトレンチを設定した。しかしながら、既存の用水路は下流域で利用されているため切断できない状態であり、また農道として利用している大畦畔についても同様であった。

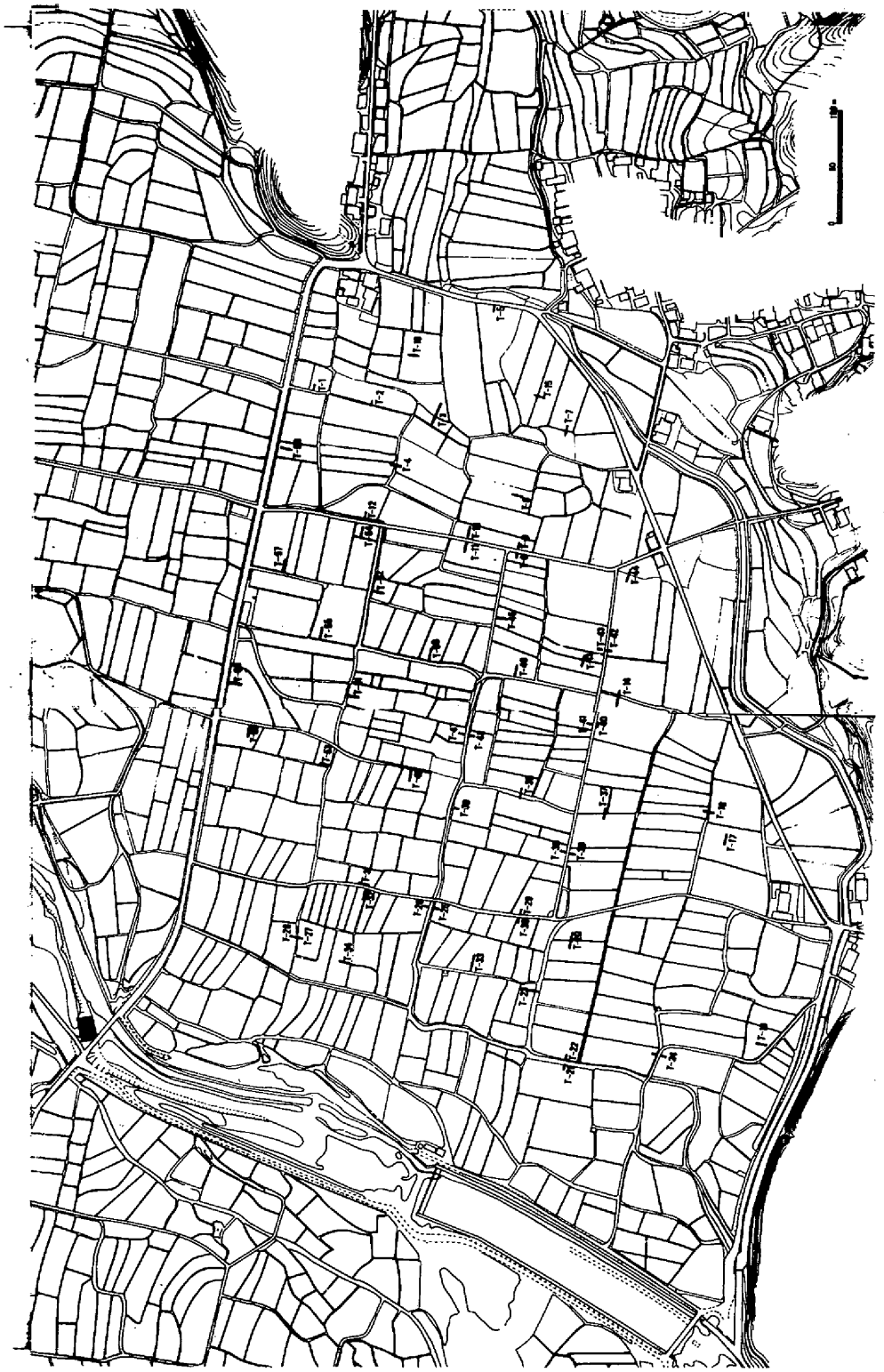
発掘調査は１×５ｍ、１×10ｍ、１×15ｍを基本としたトレンチを合計59ケ所に設定して調査を実施した。方一町で囲む区画畦畔を中心に埋没条里の断面観察を行ったが、確認調査実施面積は約503㎡である。

その結果、当初予想していた古代の埋没条里は確認できなかったが、中世以降の水田、畦等は確認できた。以下調査成果の概要を記したい。

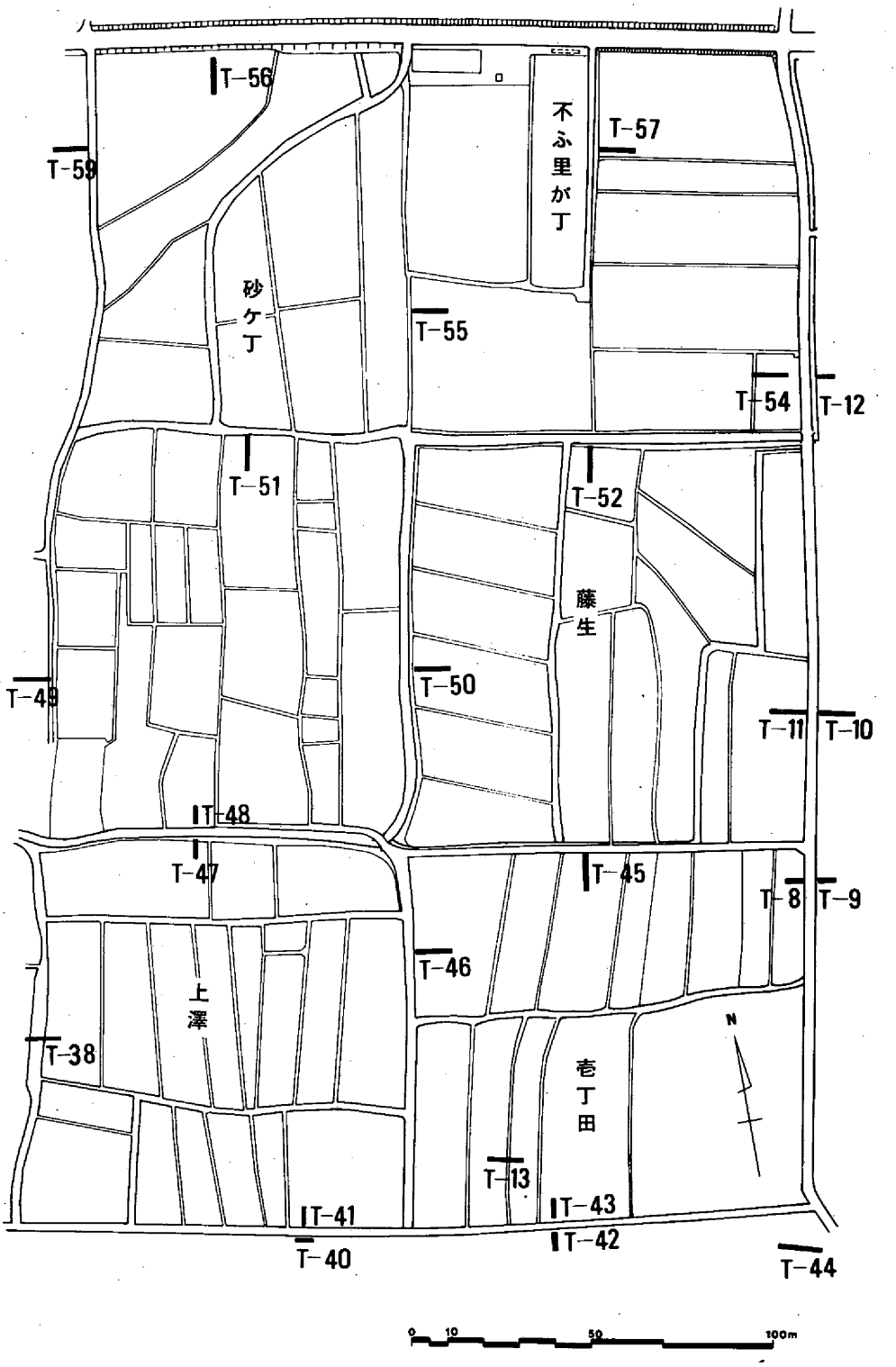
今回の調査対象地区は滝川左岸の田井地区である。地形図、航空写真等によれば左岸部一帯が洪水を受け、条里制地割が乱れていることが明瞭に認められるが、それ以外の坪については、整然とした条里景観がみられるのである。今回調査した地籍図（第６図）の小字名はかつて永山卯三郎氏が調査したもの（第４図）と異なる部分があるが「中島」、「中島前」、「石橋」、「壱反半田」、「正覚」、「国司」、「六反田」、「不ふ里が丁」、「藤生」、「壱丁田」、「はが」、「砂ケ丁」、「大坪」、「七反田」、「杉の木」、「大畷」、「観音面」、「堂屋敷」、「土居がはな」、「田井」、「金蔵寺」、「上澤」、「下澤」、「柿田」、「今崎」、「保頭給」、「落合」、「保木ノ下」、「田中後」、「田中」などを確認した。数詞名は「壱丁田」、「六反田」、「七反田」、のみであり、「保木ノ下」、「保頭給」など中世にみられるものもある。

中島、正覚、中島前地区

この調査区は美野高塚古墳、美野中塚古墳が所在する北東から南西に延びる低丘陵と平野部の変換点付近である。今回の確認調査対象地区では最も高所に位置する平野である。トレンチは９ケ所設定し、T－３、６、16において地山層を確認した。各トレンチは表土層から比較的に浅いところで地山面が検出され、現在の丘陵はかつてはさらに南西に延びていたことが判明した。T－６では柱穴、溝状遺構が確認されている。この旧丘陵の北側トレンチ（T－１、２、４）では基盤が茶褐色砂利層や黒褐色礫層であり、その上部に水田層が認められる。水田層であるT－１の第４層、T－４の第３層は勝間田焼、羽釜片、白磁、中世土師器等が出土してい



第9図トレンチ位置設定図（S＝$\frac{1}{6,000}$）



第10図　不ふ里が丁，藤生，壱丁田，砂ケ丁，上澤地区トレンチ設定図（S＝$\frac{1}{2,000}$）

る。そしてT－4では現在の畦のほぼ真下に位置するところで古い時期の畦と考えられるものを確認している。このトレンチにおける下層水田は暗灰色粘質土（第8層）をカットしてつくられたものであり、第7層、8層が水田（第3層）の畦となっていたようである。南側トレンチのT－5、7、15では基盤がいづれも砂層であり、その上部に水田層が確認される。T－5の第5層（水田）では備前焼、青磁、勝間田焼、須恵器等が出土しており、この付近の平野部は美野地区から流れてくる田井川の氾濫によって形成されたものであることが確認された。

石橋、壱反半田、国司地区

この調査区では3本のトレンチを設定して調査を実施した。T－9、10では表土から約50cm程で地山面が認められ、柱穴が検出された。特にT－10では勝間田焼、青磁片を含む黒色粘質土層と地山面の2層に遺構が存在することが判明した。T－9の第3層は水田層であるが、この土層内から勝間田焼、中世土鍋片が出土しているため、中世以降のものと考えられる。T－12の第3層も水田層であるが、時期は不明である。第6層は大きな円礫を含む砂利層であった。第5層以下は自然堆積層と考えられる。

不ふ里が丁、藤生地区

この調査区は東西、南北いづれの坪区画畦畔も明瞭なところである。トレンチは6本設定した。T－11では第3層、T－52では第4層で水田層が確認されているが、T－11の第4、5層において青磁片、勝間田焼片、中世土鍋片、土師質土器等が出土しているため、T－11の第3層水田は中世以降のものと思われる。これら水田層より以下は自然堆積と考えられる砂利層ないし砂礫層である。

壱丁田、はが、六反田地区

この調査区では7本のトレンチを設定した。T－8の一部と42、44で地山層が確認でき、T－8、13、43では丘陵斜面の状況を呈している。T－42、44では表土直下とその近くにおいて柱穴を検出した。水田層はT－8の第4層、13の第2層、42、43、45、46の第3層、44の第4層で確認されている。T－13の第9層で勝間田焼片、青磁片がT－42～44の水田層からは勝間田焼片、中世土師器、中世土鍋片、中世末～近世の陶磁器が出土している。さらにT－44では現在の畦の下層に古い時期の畦（第3層）を確認することができた。現在の畦のほぼ真下に位置する。水路より西側では水田層は存在しないが、この畦は第4層の水田に対応するものと考えられる。これらの水田層以下は自然堆積層と考えられる砂利層、砂礫層である。

砂ケ丁地区

この調査区には5本のトレンチを設定した。現状では調査区の北東から南西に向けて旧河道痕跡が認められる。水田層はT－53の第4層においてのみ確認されたが、出土遺物は無い。他のトレンチは表土直下から砂礫層もしくは砂層となり、それより以下は自然堆積層と考えられる。

七反田、観音面、堂屋敷地区

この調査区には7本のトレンチを設定した。水田層はT－26、27の第5層、28の第4層、34の第3層、49の第4層で認められた。出土遺物はT－34の水田層から古墳時代後期の須恵器片、勝間田焼片、中世土鍋片、備前焼灯明皿等が出土し、T－27では縄文時代の石匙が出土している。T－27、28の第5層以下は自然堆積層と考えられるシルト層、砂利層が認められた。堂屋敷地内のT－34では屋敷址を想定させる土層、遺構は全く確認できず、水田層から以下には現在の水田造成土層と砂礫層が確認されたのみである。この地に存在したと伝えられる堂屋敷は洪水によって流失したものと考えられる。T－49においても第5層以下は自然堆積層と考えられる砂利層が認められる。

上澤、金蔵寺地区

この調査区には9本のトレンチを設定した。水田層が確認できたのはT－25の第3層、29の第4層、41の第3層であるが、出土遺物は無い。これらの土層以下は自然堆積層と考えられる砂利層や砂礫層となる。T－30、33、35、38、39、47においても現在の耕作土に関係する土層以外は自然堆積層と考えられる砂利層もしくは砂礫層となる。

下澤、柿田地区

この調査区には8本のトレンチを設定した。水田層を確認できたものはT－14の第4層、6層、20で上、下2枚、23の第4、7層、37の第3層である。水田層内には遺物を包含していないが、T－14の第7層から土師器、勝間田焼片、弥生式土器、陶磁器が出土しているため、下層水田は中世以降のものと考えられる。T－23では現在の水路の下層に古い時期の水路の存在を確認した。水路は現在の水路の位置の真下に存在する。旧水路には暗灰色砂利が埋まり、南岸には杭が打ち込まれている。この水路に対応する水田は第7層の水田と考えられる。出土遺物が無いため時期は不明である。T－37では現在の畦畔の真下に古い畦と考えられるものがある。これは水田層である第3層が土層的には分離できなかったが、現在の畦の下でもち上っていることなどから、畦であったと考えられる。これらの土層以下はいづれも自然堆積層と考え

られる砂利層もしくは礫層となる。

田中、田中後、落合地区

この調査区には4本のトレンチを設定した。地形的にも滝川の氾濫源もしくは後背湿地の様相を呈している地区である。水田層はT－17の第3層、4層、18の第9層、10層、19の第5層で確認されている。T－17では2枚の水田層が認められるが、第5層から勝間田焼片、須恵器片が出土することから、いづれも中世以降の水田と考えることができる。T－18、19からは遺物が出土していない。T－18では現在の畦の下層に古い時期の畦（第7層）を確認できた。現在の畦のほぼ真下に位置する。この畦は上層水田（第9層）に対応するものと考えられる。これらの土層以下はT－17、18では自然堆積と考えられる黒色粘質土層と砂利層もしくは砂礫層となる。T－19では微砂層から砂利層へと変化し、後背湿地の様相が認められた。

出土遺物（第19図、20図）

遺物はほとんどのトレンチにおいて出土するが、量的には多くない。出土層位は耕作土層、造成土層、水田層、水田下層内であるが、大部分は造成土層内である。主な遺物としては縄文時代の石器（石匙）、弥生式土器（中期）、須恵器（古墳～平安）、中世土師器、勝間田焼、備前焼、青磁、白磁、中～近世陶磁器がある。

ここでは、埋没条里に関係する水田層及び水田下層内より出土した遺物を一括して説明を加えることにする。

水田層内から遺物が出土したトレンチはT－42～44のみである。（第19図1～10）この水田層では勝間田焼（1～3，5～9）、中世土師器（10）、陶磁器（4）がある。これらの遺物は13世紀～16世紀代のものである。水田下層内から遺物が出土したトレンチはT－10、11、13、14、17である。遺物としては須恵器（11，33，34）、陶磁器（13，19，20，21，24，39，41）、そして勝間田焼がある。大部分は勝間田焼であるが、伊万里焼（40）の出土もみられた。

註

註1　近藤義郎「美作金鶏塚発見の押型文土器」『瀬戸内考古学』第2号　瀬戸内考古学会　1958年3月

註2　昭和60年に広域農道美作台地地区勝央町地内埋蔵文化財発掘調査委員会によって「清実遺跡」の一部が明らかにされている。

註3　近藤義郎「美作国植月の銅鐸」『吉備考古』第83号　吉備考古学会　1951年8月

註4　中野雅美「弥平治・能部遺跡」広域農道美作台地地区勝央町地内埋蔵文化財発掘調査委

員会　1983年3月

註5　田仲満雄、井上弘「平遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』8　岡山県教育委員会1975年3月

註6　岡山県教育委員会「勝間田遺跡緊急発掘調査概要」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』4　1974年3月

註7　昭和59年に勝央町教育委員会によって窯址1基が調査されている。

註8　未踏査ではあるが確認調査中に水田人士氏から教示を受けた。

註9　永山卯三郎「岡山県農地史」1952年刊

註10　江見正己「美野条里確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　岡山県教育委員会1983年刊

註11　註10に同じ

第4章　ま　と　め

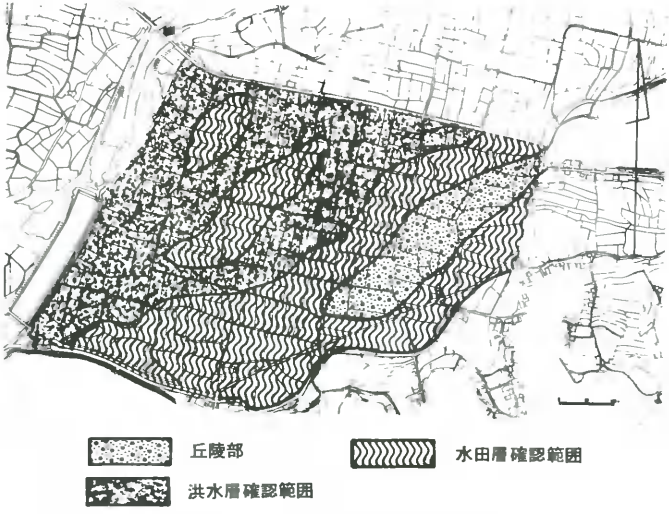
1．調査結果について

美野条里遺跡を考察するには今後さらに検討しなければならないことが多くあるが、昭和57年度（註1）と今回の調査結果をふまえてまとめてみたい。

美野平野に於ける条里制遺構は条里方位の主軸をN10°Eとした地割方位（註2）をもって整然とみることができるが、調査結果をもとに記してみたい。

第3章で記述したように、遺構はT－6、9、10、44など丘陵部で検出されたが、出土遺物が無いため時期は不明である。層位的には古墳時代頃と推察されるものである。

水稲耕作は水田の耕起や漏水の防止、水路の清掃、補修を必ず行なうため、水田層内には年代幅をもつ遺物の出土が認められる。美野に於ける埋没条里の水田層にはいずれも勝間田焼など12世紀後半以降の中世遺物が包含されている。それ以下の層は滝川によって形成された自然堆積の砂利層ないし砂礫層となる。この自然堆積と考えられる基盤の上層には黒色粘質土層ないし暗褐色粘質土層が認められるとともに、同層からは青磁、勝間田焼、陶磁器など中世、近世遺物を包含する自然堆積層と考えられるものが認められた。（T－1、10、11、



第11図　発掘調査範囲の古地形図（$S=\frac{1}{10,000}$）

13、14、17）また、現水田の下層で検出された水路（T－23）、畦（T－4、18、37、44）はいずれも中世遺物を包含する土層もしくはその上層に造られたものであることが確認された。また、今回の調査では第11図にみられるような古地形が推定できた。すなわち、この地区は丘陵と水田に大別され、水田はこの丘陵端部から滝川にかけての範囲に認められたが、洪水のため部分的に水田層が消失している地区も認められた。ちなみに、文禄2年（1593）の大洪水から昭和38年（1963）の大洪水までの約370年間で約71回の記録があり（註3）、平均すれば約5.2年に1回という高率で大被害を受けている。特に町内を北から南に貫流する滝川の氾濫による被害はいつも甚大であったのである。

このような地形的な自然条件による災害状況を考慮すれば、古代の埋没条里は残らなかったと考えることも可能ではない。しかしながら、2回の調査結果からみて、この地区全体が古代に可耕地として利用されていたと思われる痕跡が確認できないことから、現在みられる条里制地割は中世以降に施行されたと考えるのがより妥当と思われる。

2．地割の施行について

この地区の条里制地割復元にあたっては、「杉ノ木」地区に所在する『大縄手橋』が大きな示唆を与えると思われる。すなわち、大縄手とは条里制地割の1つの基準線を示すものであるからである。現地形にみられる地割はこの『大縄手橋』を東西基準線（町道大縄手線）として施行されていたことが地形図において推察することができるのである。このN10°Eに東偏した地割は中世においても同じであったと考えられる。

3．まとめ

この地域は古代においては美作国勝田郡の殖月郷であり，中世は殖月庄である。前述したように、地割が中世以降に施行されたものとすれば、庄園の拡大ないし再開発によって施行されたものと解釈しなければならない。

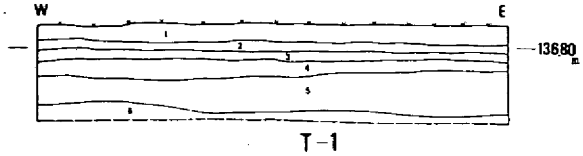
殖月庄は『建内記』の嘉吉2年（1442）4月4日の条に「岡崎新少納言周茂美作国殖月庄へ下向す」とみえるため、藤原北家勧修寺流に属する公家、岡崎氏の家領であったと考えられることから、15世紀代にはすでに開発は完成していたのである。地割施行の開始時期は確定できないが、現地表上に展開する条里景観は大洪水→埋没→再構築を繰り返しながら、近世に再整備されたものが現在まで基本的に持続していたものと推察されるのである。

註

註1　江見正己「美野条里確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　岡山県教育委員会　1983年刊

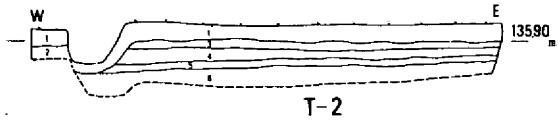
註2　周囲にみられる大形古墳（植月寺山古墳、美野大塚、美野中塚、田井高塚古墳）とは条里方位、時期が合致しない。

註3　勝央町誌発刊委員会　『勝央町誌』　勝央町　1984年刊



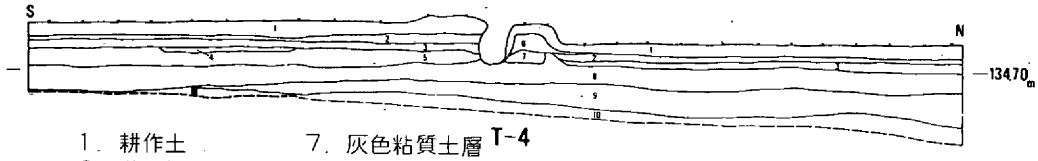
T-1

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰黄色微砂混り土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 茶褐色砂利層



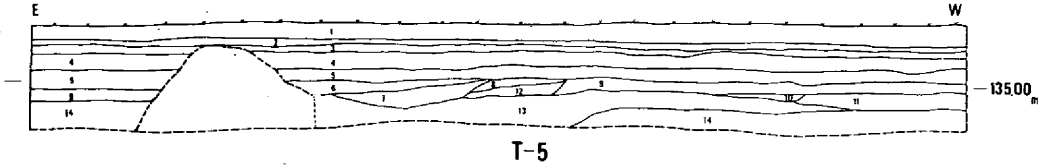
T-2

1. 耕作土層
2. 灰色粘質土層
3. 黄褐色粘質土層
4. 暗灰色粘質土層
5. 茶褐色粘質土層
6. 黒褐色礫層



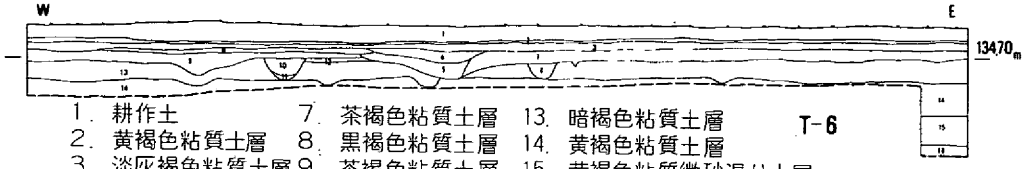
T-4

1. 耕作土
2. 黄灰褐色土層
3. 暗灰褐色粘質土層
4. 黒褐色粘質土層
5. 暗茶褐色粘質土層
6. 灰褐色粘質土層
7. 灰色粘質土層
8. 暗灰色粘質土層
9. 黒色粘質土層
10. 黄茶褐色砂利層



T-5

1. 耕作土
2. 黄灰色粘質微砂混り土層
3. 暗灰褐色土層
4. 黒灰色粘質土層
5. 黒褐色粘質土層
6. 暗褐色粘土層
7. 暗灰色粘土層
8. 灰色粘土層
9. 灰色微砂層
10. 黄灰色細砂層
11. 灰黄色粘土層
12. 灰色中砂層
13. 黄褐色粘土層
14. 黄灰色粘土層

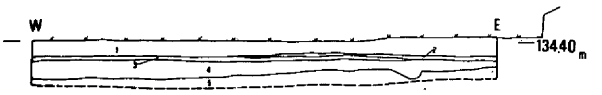


T-6

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 淡灰褐色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 灰茶褐色砂礫層
6. 灰褐色粘質土層
7. 茶褐色粘質土層
8. 黒褐色粘質土層
9. 茶褐色粘質土層
10. 暗灰色粘質土層
11. 黒褐色粘質土層
12. 暗茶褐色粘質土層
13. 暗褐色粘質土層
14. 黄褐色粘質土層
15. 黄褐色粘質微砂混り土層
16. 砂利層

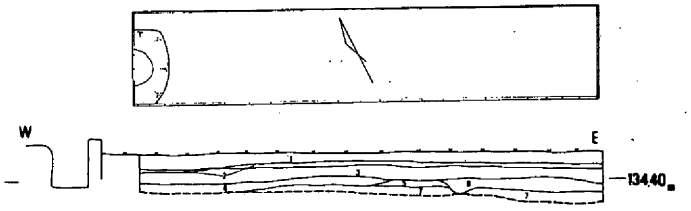
0 2m

第12図　T－1, 2, 4, 5, 6 の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



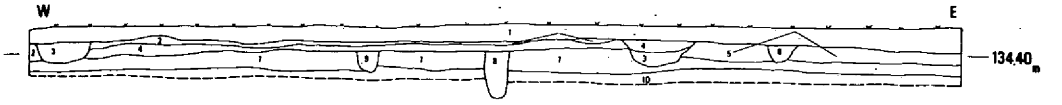
T-8

1. 耕作土
2. 灰色土層
3. 黄褐色粘質土層
4. 暗灰褐色粘質土層
5. 黒褐色粘質土層



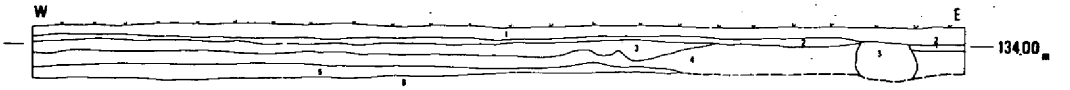
T-9

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 暗褐色粘質土層
5. 淡黄褐色粘質土層
6. 黒色粘質土層



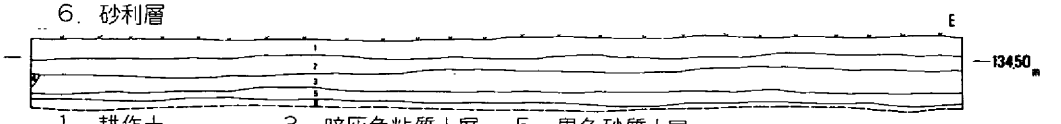
T-10

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 黒色粘質土層
7. 暗褐色粘質土層
8. 暗褐色粘質土層
9. 暗灰色粘質土層
10. 茶色粘質土層



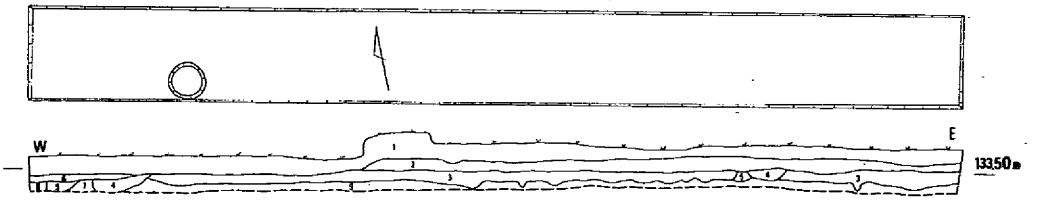
T-11

1. 耕作土
2. 灰色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 暗褐色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 砂利層



1. 耕作土
2. 黄灰色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黄褐色粘質土層
5. 黒色砂質土層
6. 砂利層

T-12

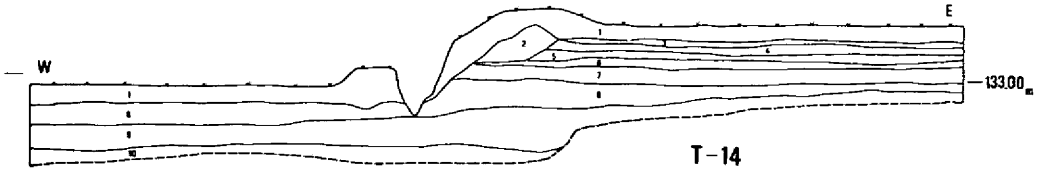


T-13

1. 耕作土
2. 茶褐色粘質土層
3. 黒褐色粘質土層
4. 黒色粘土層
5. 暗褐色粘質土層
6. 灰褐色粘質土層
7. 灰色粘土層
8. 灰色粘質土層
9. 暗灰色粘質土層

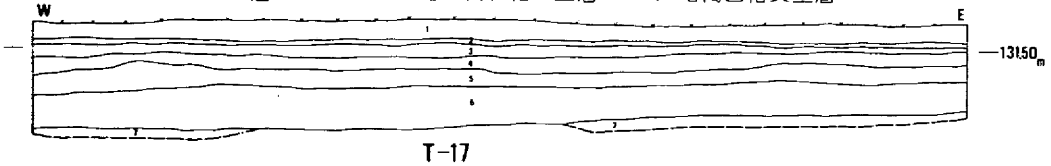
0 2m

第13図　T－8,10,11,12の土層断面図、T－9、13、の平、断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



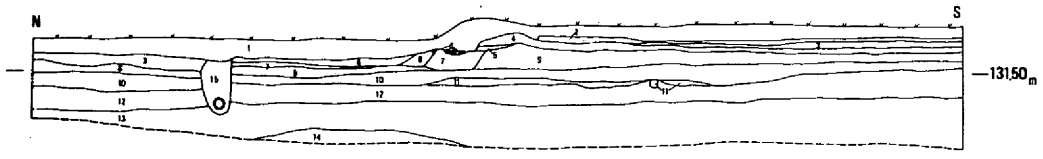
T-14

1. 耕作土
2. 灰褐色粘質微砂混り土層
3. 黄褐色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 黄茶褐色粘質土層
6. 暗灰褐色粘質土層
7. 暗褐色粘質土層
8. 黒色粘質土層
9. 暗褐色粘質土層
10. 灰色砂利層



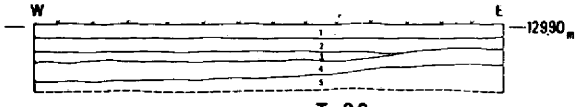
T-17

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質土層
4. 暗灰褐色粘質土層
5. 暗茶褐色粘質土層
6. 黒色土層
7. 灰青色砂礫層



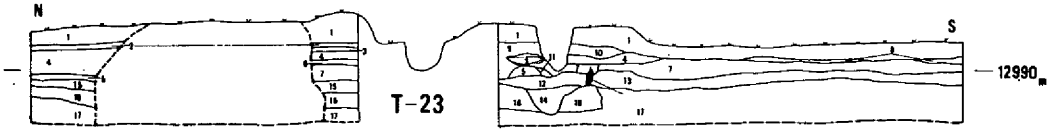
T-18

1. 耕作土
2. 灰黄色粘質土層
3. 黄褐色粘質土層
4. 黄灰褐色粘質土層
5. 黄茶褐色粘質土層
6. 灰色粘質土層
7. 灰褐色粘質土層
8. 茶褐色粘質土層
9. 淡灰褐色粘質土層
10. 暗褐色粘質土層
11. 暗褐色粘質微砂層
12. 黒色粘質土層
13. 黒色粘質土層
14. 茶褐色砂利層



T-22

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質微砂混り土層
4. 暗灰色粘質土層
5. 砂利層

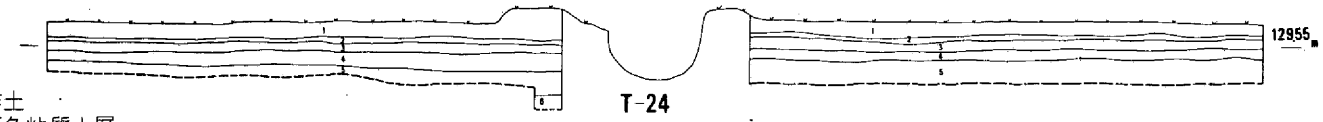


T-23

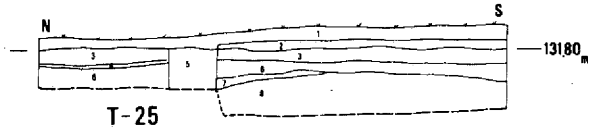
1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質微砂層
4. 灰色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 灰色微砂層
7. 暗灰色粘質土層
8. 黄灰褐色粘質土層
9. 黄褐色微砂層
10. 灰黄色粘質土層
11. 暗灰色粘質微砂層
12. 灰黄色微砂混り砂利層
13. 細砂混り砂利層
14. 暗灰色砂利層
15. 砂利層
16. 灰色粘土層
17. 砂利層

0 2m

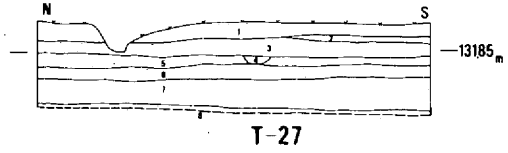
第14図　T－14, 17, 18, 22, 23の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



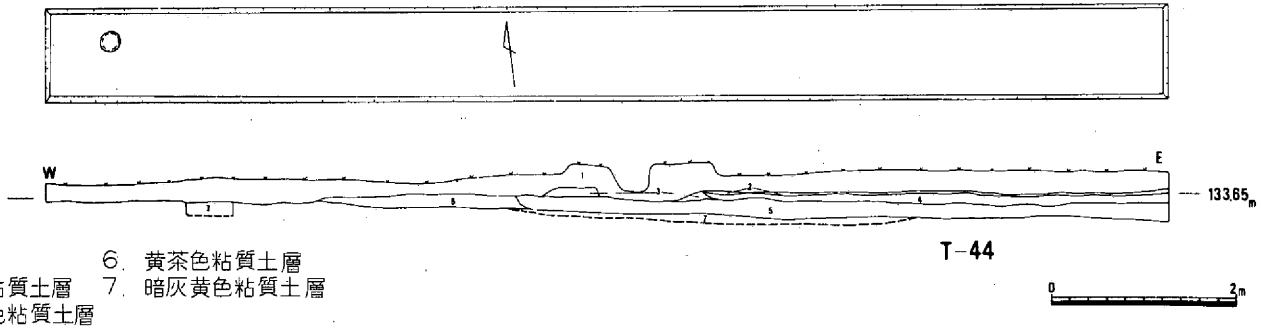
1. 耕作土
2. 黄灰色粘質土層
3. 暗灰褐色粘質土層
4. 黒褐色粘質土層
5. 灰黄色粘質土層



1. 耕作土
2. 灰色粘質土層
3. 暗灰色粘質微砂混り土層
4. 灰色微砂層
5. 暗渠
6. 暗色微砂混り粘質土層
7. 暗色微砂層
8. 砂利層

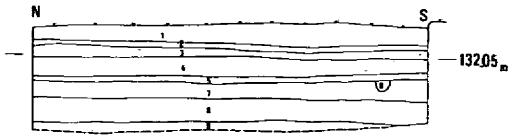


1. 耕作土
2. 灰黄色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 黒色粘土ブロック
5. 暗灰褐色粘土層
6. 暗灰色粘土層
7. 灰色シルト層



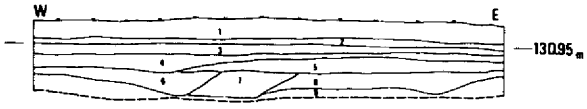
1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗灰褐色粘質土層
4. 暗灰色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 黄茶色粘質土層
7. 暗灰黄色粘質土層

第15図　T－24,25,27,の土層断面，44の平，断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



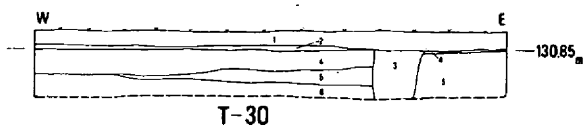
T-28

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 黄褐色粘土層
6. 黒色粘土層
7. 暗灰色粘土層
8. 灰色シルト層
9. 砂利層



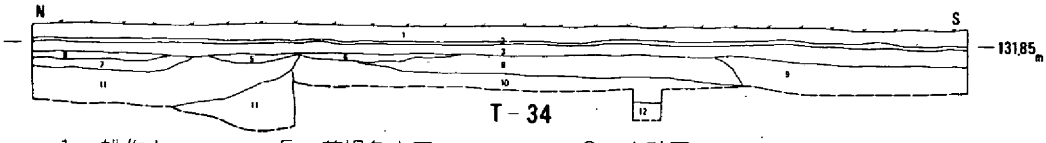
T-29

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰黄褐色粘質土層
4. 暗灰褐色粘質土層
5. 暗褐色粘質土層
6. 灰褐色砂利層
7. 灰黄色砂礫層
8. 暗灰色中砂層
9. 砂利層



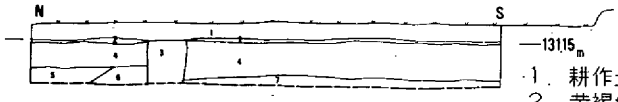
T-30

1. 耕作土
2. 黄灰褐色粘質土層
3. 暗渠
4. 暗褐色粘質土層
5. 灰色粘質微砂層
6. 砂利層



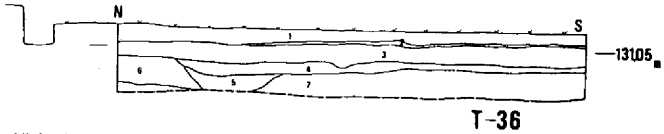
T-34

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黄色粘質土層
5. 茶褐色土層
6. 暗灰色粘質土層
7. 暗灰色粘質土層
8. 暗茶褐色円・角礫層
9. 中砂層
10. 中砂層
11. 暗灰色粘質微砂層
12. 砂利層



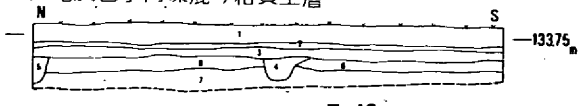
T-35

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗渠
4. 黒色中円・角礫混り粘質土層
5. 灰褐色粘質土層
6. 暗褐色円・角礫混入粘質土層
7. 暗黄褐色砂利層



T-36

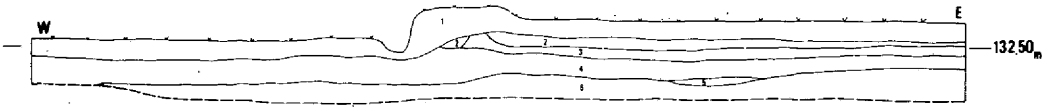
1. 耕作土
2. 黄灰褐色粘質土層
3. 黒色小円礫混り粘質土層
4. 暗灰色小円礫混り粘質土層
5. 灰色粘質細砂混り土層
6. 礫層
7. 砂利層



T-42

1. 耕作土
2. 灰褐色粘質土層
3. 暗灰褐色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 黒色粘質土層
6. 黒色粘質土層
7. 黄茶色粘質土層

第16図　T－28,29,30,34,35,36,42の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）

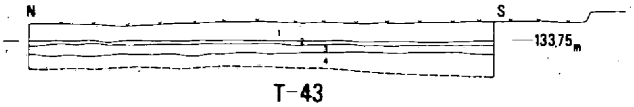


T-37

1. 耕作土
2. 灰褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 灰黄色粘質微砂混り土層
6. 砂礫層

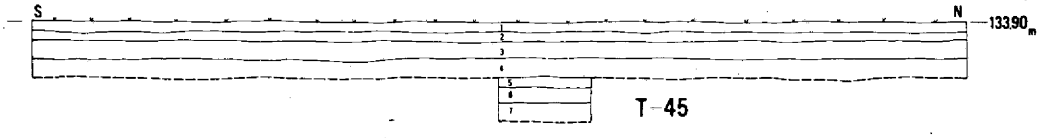
T-38

1. 耕作土
2. 暗灰色粘土層
3. 茶褐色円礫混り粘質土層
4. 灰色粘質土層
5. 灰色粘土層
6. 黄褐色粘質土層
7. 砂礫層
8. 暗渠



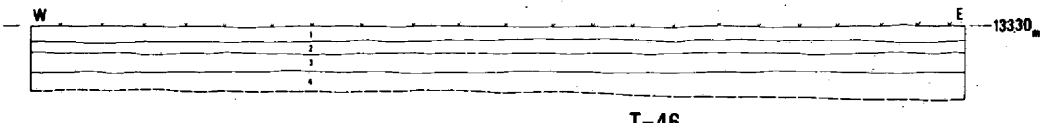
T-43

1. 耕作土
2. 灰黄褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黒色粘質土層



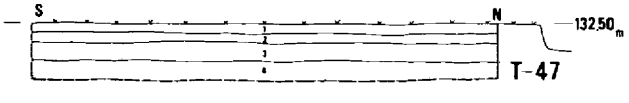
T-45

1. 耕作土
2. 灰褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 暗灰色粘質土層
6. 灰黄色細砂層
7. 砂礫層



T-46

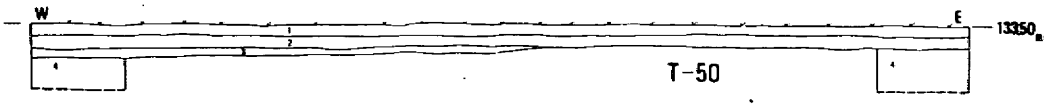
1. 耕作土
2. 灰色粘質土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 礫層



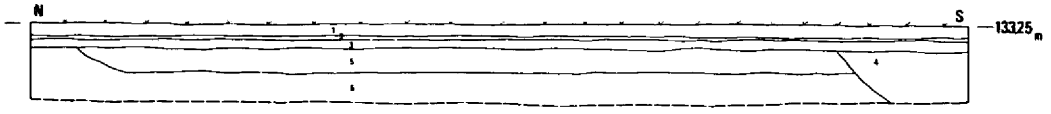
T-47

1. 耕作土
2. 暗黄茶色粘質土層
3. 暗褐色粘質土層
4. 暗青灰色細砂層

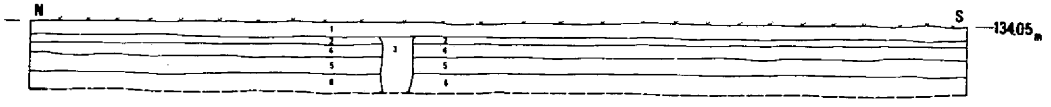
第17図　T－37,38,43,45,46,47の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



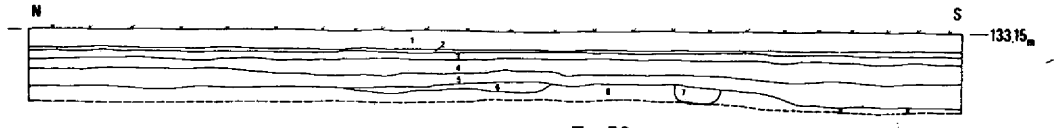
1．耕作土
2．暗灰褐色粘質土層
3．茶褐色粘質土層



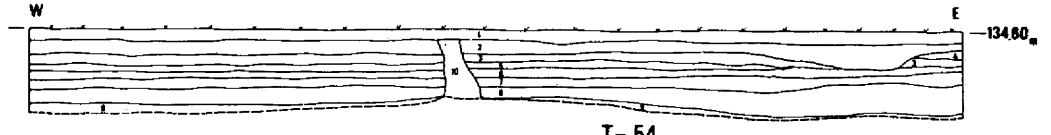
1．耕作土
2．黄褐色粘質土層
3．暗褐色粘質土層
4．砂礫層
5．暗灰色粘質微砂層
6．灰青色粘質細砂層



1．耕作土
2．黄灰褐色粘質土層
3．暗渠
4．暗灰褐色粘質土層
5．暗褐色粘質土層
6．砂利層

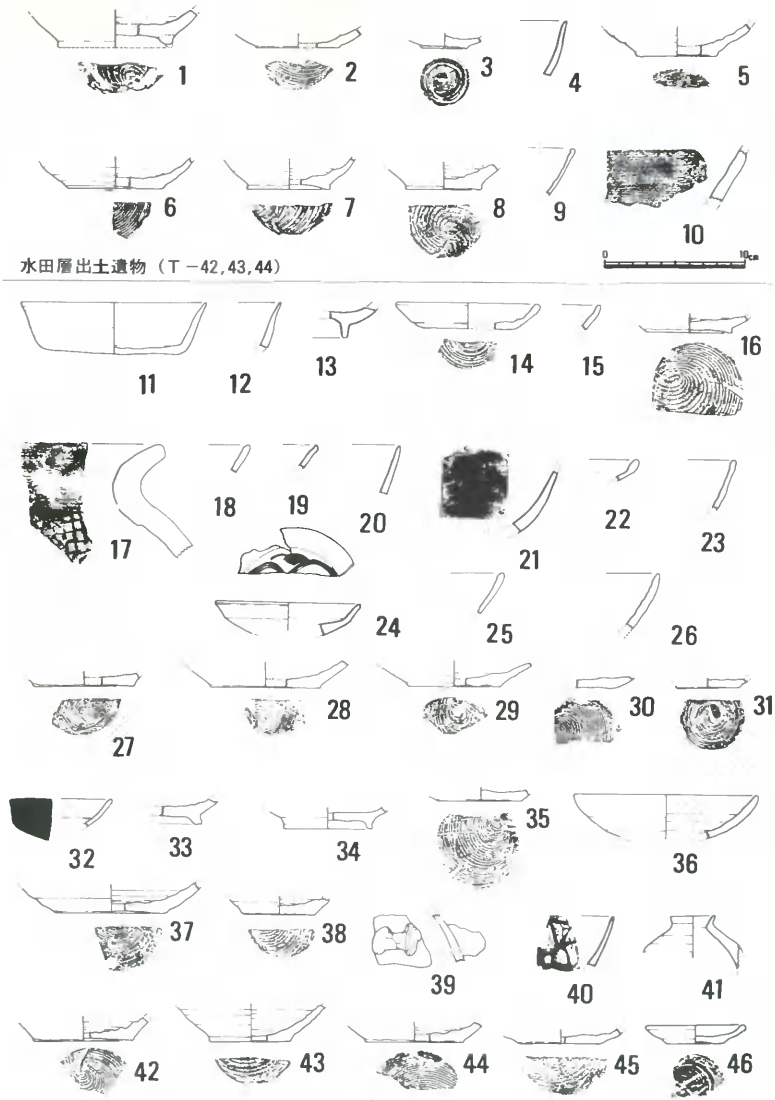


1．耕作土
2．黄灰褐色粘質土層
3．灰黄褐色粘質土層
4．暗灰色粘質土層
5．暗褐色粘質土層
6．暗灰色粘質土層
7．灰色細砂層
8．砂利層



1．耕作土
2．造成土
3．青灰色粘質土層
4．灰色粘質微砂混り土層
5．黄灰褐色粘質土層
6．灰茶褐色粘質土層
7．暗茶褐色粘質土層
8．黒色粘質土層
9．砂利層

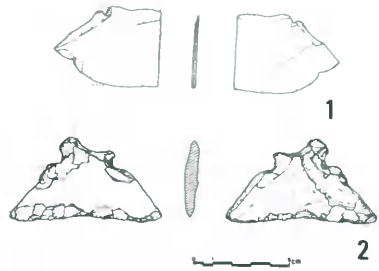
第18図　T－50,51,52,53,54の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



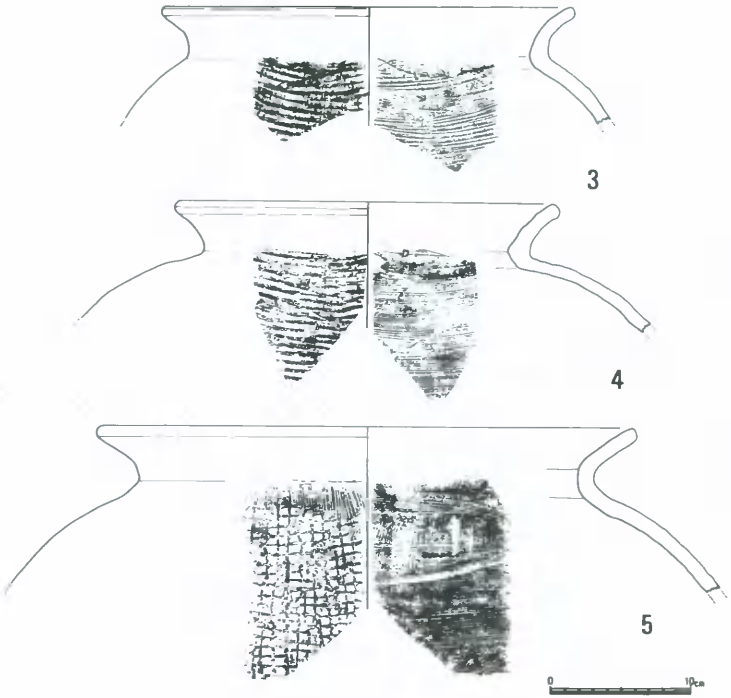
水田層出土遺物（T－42,43,44）

水田下層出土遺物（T－1,10,11,13,14,17）

第19図　水田層，水田下層出土遺物（S＝$\frac{1}{4}$）

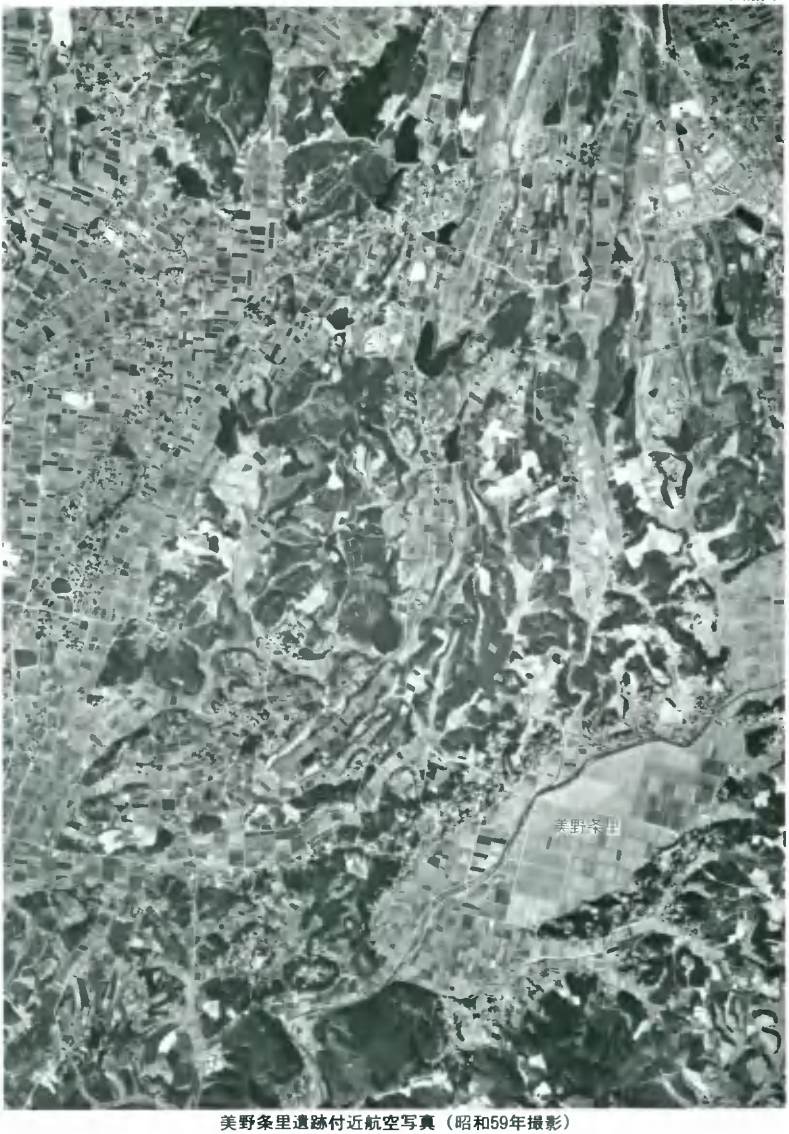


1. T－4第2層出土
2. T－27第3層出土
3. 4. 5. T－44付近採集



第20図　出土遺物（S＝$\frac{1}{3}$，$\frac{1}{4}$）

図版 1



美野条里遺跡付近航空写真（昭和59年撮影）

図版 2

1、遺跡遠景（南西から）

2、遺跡遠景（南西から）

3、遺跡近景（南西から）

図版 3

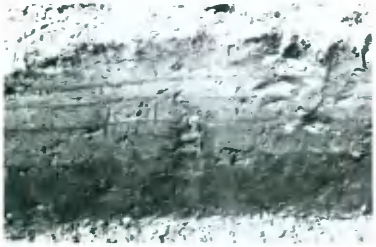
1、遺跡近景（南から）

2、発掘調査風景

3、発掘調査風景

図版 4

1.　T－1（南西から）



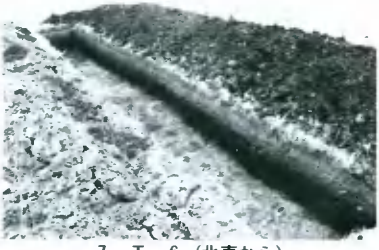
2.T－1近景（南から）

3.　T－2（南西から）

4.　T－2（西から）

5.　T－4（西から）

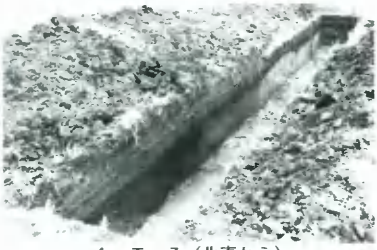
6.　T－5（北東から）



7.　T－6（北東から）

8.　T－6近景（東から）

図版 5



1.　T－7（北東から）

2.　T－7 近景（北から）

3.　T－8（南東から）

4.　T－9（南東から）

5.　T－9 柱穴（東から）

6.　T－9 近景（南から）

7.　T－10（南西から）

8.　T－11（南西から）

図版 6

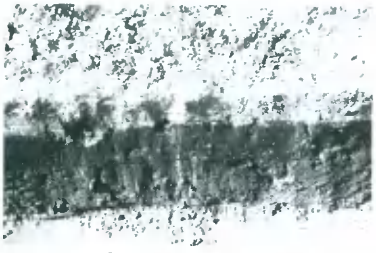
1. T－12（左），54遠景（右）（北から）

2. T－12（南東から）

3. T－12近景（南から）

4. T－13（南西から）

5. T－14（南西から）



6. T－14（南から）

7. T－15（南西から）

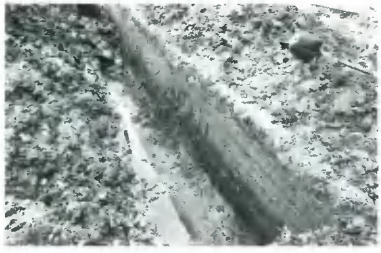
8. T－15近景（西から）

図版7

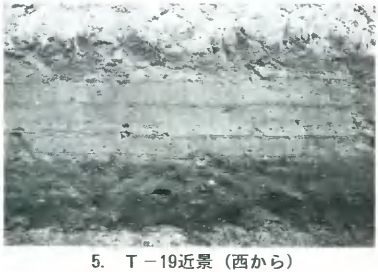
1.　T－17（南東から）

2.　T－17（南から）

3.　T－18（北西から）

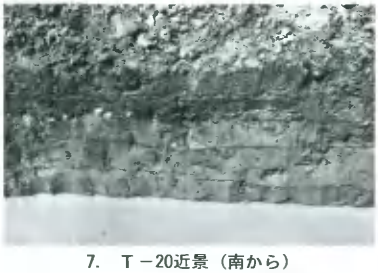


4.　T－19（南西から）



5.　T－19近景（西から）

6.　T－20（南東から）

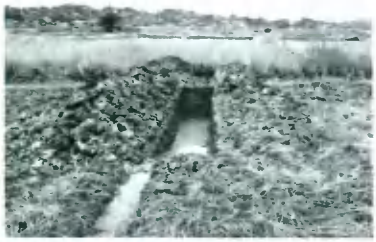


7.　T－20近景（南から）

8.　T－22（南東から）

図版8

1.　T－23（南西から）

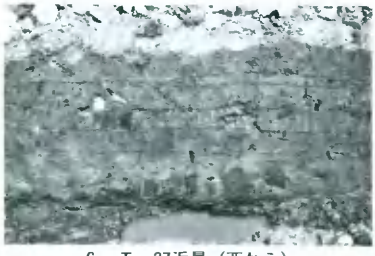


2.　T－24遠景（南から）

3.　T－24（北西から）

4.　T－25（南西から）

5.　T－27（北西から）



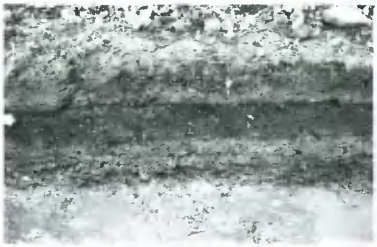
6.　T－27近景（西から）

7.　T－28（南西から）

8.　T－29（南西から）

図版 9

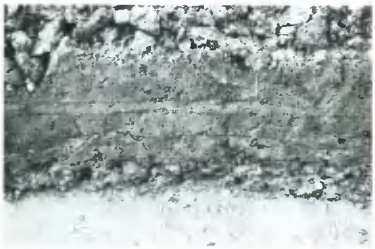
1.　T－29近景（南から）



2.　T－30近景（南から）

3.　T－31（北西から）

4.　T－32（南西から）



5.　T－32近景（南から）

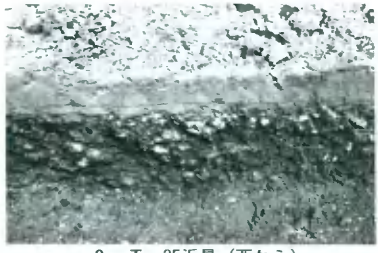
6.　T－33（南西から）

7.　T－34（南西から）

8.　T－35,36の遠景（北西から）

図版10

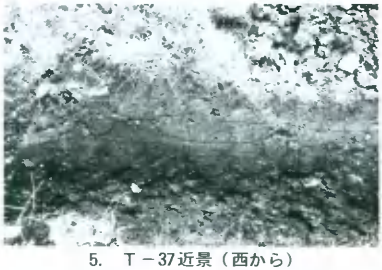
1.　T－35（南西から）



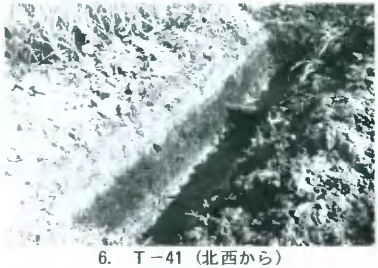
2.　T－35近景（西から）

3.　T－36（北西から）

4.　T－37（南西から）



5.　T－37近景（西から）



6.　T－41（北西から）

7.　T－42（北西から）

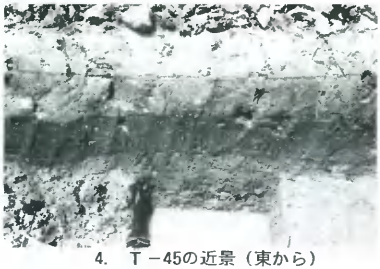
8.　T－43（南西から）

図版11

1.　T－44（南西から）

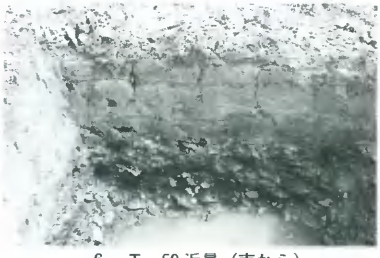
2.　T－44近景（南から）

3.　T－45（北東から）



4.　T－45の近景（東から）

5.　T－40，41の遠景（東から）



6.　T－50近景（南から）

7.　T－51（南西から）

8.　T－51近景（西から）

図版12

1.　T－52（南西から）

2.　T－53（北西から）

3.　T－53（西から）

4.　T－54（南西から）

5.　T－54（南から）

6.　T－56（北西から）

7.　T－57（南東から）

8.　T－58（北東から）

図版13

1　2　5～20
水田下層出土

3……T－27第3層出土
4……T－4第2層出土

出土遺物

図版14

1

4

2

1～3……勝間田焼
T－44付近表採
4　南側丘陵付近採集

3

出土遺物

二反田（にたんだ）B遺跡ほか

例　言

1．本書は岡山県教育委員会が昭和60年度国庫補助を受けて実施した「二反田(にたんだ)B遺跡ほか」の発掘調査概要報告書である。

2．遺跡は二反田B遺跡が苫田郡鏡野町原、野元(のもと)遺跡は同町高山に所在する。

3．発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員河本　清、松本和男が担当し、専門委員の指導、助言を得て「野元(のもと)遺跡」を昭和60年７月１日から８月７日まで、「二反田(にたんだ)B遺跡」を昭和60年11月13日から昭和61年１月20まで実施した。

4．発掘調査にあたっては鏡野町役場、鏡野町教育委員会、地権者等関係各位より絶大なる援助を受けた。

5．本報告書の執筆、編集は野元遺跡を河本、二反田B遺跡を松本が行った。報告書作成にあたって、野元遺跡出土遺物の実測、トレース及び遺構トレースはセンター職員宇垣匡雅が行った。遺物写真は岡山県古代吉備文化財センター職員井上　弘が撮影した。

6．出土遺物、実測図、写真等は文化財センター（岡山市西花尻1325－３）において一括保管している。

7．本書に使用したレベル高は海抜高である。方位は第１～４、６、７、22、23、30図が真北、他は磁北である。

8．本書第２図に使用した地形図は建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図（津山西部、香々美）を複製したものである。

目　　次

例　言

目　次

第１章　地理的、歴史的環境 …… 185

第２章　調査に至る経緯 …… 188

二反田B遺跡

第１章　調査の経緯 …… 189

第２章　発掘調査の概要 …… 192

第３章　まとめ …… 197

野元遺跡

第１章　調査の経緯 …… 223

第２章　発掘調査の概要 …… 225

第３章　まとめ …… 235

図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 185

第２図　遺跡の位置と遺跡分布図（S＝$\frac{1}{25,000}$） …… 187

第３図　原地区小字図（S＝$\frac{1}{7,500}$） …… 192

第４図　二反田B遺跡トレンチ位置図（S＝$\frac{1}{3,000}$） …… 193

第５図　T－20遺構平面図（S＝$\frac{1}{200}$） …… 195

第６図　第１地点形成発達図（S＝$\frac{1}{7,500}$） …… 197

第７図　圃場整備予定地内における遺跡範囲（S＝$\frac{1}{5,000}$） …… 198

第８図　T－１～５、８の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 199

第９図　T－６、７の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）、T－９、10の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 200

第10図　T－11、12の平、断面図（S＝$\frac{1}{80}$）、T－13、14の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 201

第11図　T－15、18の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）、T－16、17の平、断面図（S＝$\frac{1}{80}$） …… 202

第12図　T－19、23の平、断面図（S＝$\frac{1}{80}$）、T－24、26の土層断面図
（S＝$\frac{1}{80}$）…… 203
第13図　T－21、23全体図（S＝$\frac{1}{800}$）…… 204
第14図　T－22平面図（S＝$\frac{1}{80}$）…… 204
第15図　カメ棺出土状態（S＝$\frac{1}{20}$）…… 204
第16図　T－20、21、22の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）…… 205
第17図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$…… 205
第18図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）…… 206
第19図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）…… 207
第20図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）…… 208
第21図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）…… 209
第22図　遺跡位置図 …… 224
第23図　トレンチ配置図 …… 226
第24図　トレンチ平面図・断面図（T－7・8・S＝$\frac{1}{100}$）…… 227
第25図　トレンチ平面図・断面図（T－3・T－4・T－5；$\frac{1}{100}$）…… 229
第26図　トレンチ平面図・断面図（T－13；$\frac{1}{100}$）…… 230
第27図　トレンチ平面図・断面図（T－15；$\frac{1}{100}$）…… 231
第28図　トレンチ平面図・断面図
（T－9・T－11・T－14・T－16；$\frac{1}{100}$）…… 232
第29図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）…… 233
第30図　遺跡推定図 …… 234

図　版　目　次

図版1　二反田B遺跡、野元遺跡付近航空写真
図版2　1．遺跡遠景（南西から）
2．遺跡近景（南東から）
3．遺跡遠景（西から）
図版3　1．T－1（南東から）
2．T－1近景（東から）
3．T－2（南西から）

4．Ｔ－３（南西から）

5．Ｔ－６近景（東から）

6．Ｔ－６近景（東から）

7．Ｔ－６の柱穴（南から）

8．Ｔ－８（南東から）

図版４　1．Ｔ－７全景（東から）

2．Ｔ－７の溝断面（南から）

3．Ｔ－10（南西から）

4．Ｔ－10近景（南から）

5．Ｔ－12（南西から）

6．Ｔ－12全景（西から）

7．Ｔ－13近景（西から）

図版５　1．Ｔ－11全景（北から）

2．Ｔ－11近景（西から）

3．Ｔ－11の柱穴（北東から）

図版６　1．Ｔ－17全景（北から）

2．Ｔ－17全景（南から）

3．Ｔ－17土層断面（北西から）

図版７　1．Ｔ－14（南東から）

2．Ｔ－15近景（西から）

3．Ｔ－16（東から）

4．Ｔ－19（北東から）

5．Ｔ－20の第１遺構面（南西から）

6．Ｔ－20の第２遺構面（南西から）

7．Ｔ－20断面（南から）

図版８　1．Ｔ－20断面（南から）

2．Ｔ－22の甕棺出土状態（西から）

3．甕棺の内蓋検出状態（西から）

図版９　1．Ｔ－23（東から）

2．Ｔ－23（南西から）

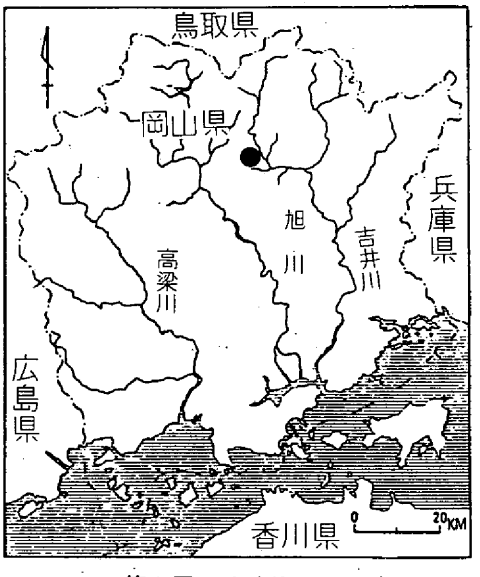
3．Ｔ－24（南西から）

4．Ｔ－25（南東から）

5．Ｔ－26（北東から）
6．発掘作業風景（南東から）
7．発掘作業風景（西から）
8．埋めもどし作業風景（東から）
図版10　1．Ｔ－22出土の土器棺
図版11　1．出土遺物
図版12　出土遺物
図版13　1．発掘区遠景（西北から）
2．発掘区遠景（西北から）
図版14　1．Ｔ－1（南東から）
2．Ｔ－3（北西から）
図版15　1．Ｔ－4（南東から）
2．Ｔ－5西端部（南東から）
図版16　1．Ｔ－7（南から）
2．Ｔ－8（西北から）
図版17　1．Ｔ－9・10（西北から）
2．Ｔ－11溝断面（東から）
図版18　1．Ｔ－13柱穴群（南東から）
2．Ｔ－13柱穴材検出状態（Ｐ－1）
図版19　1．Ｔ－13柱穴材検出状態（Ｐ－2）
2．Ｔ－13南東端部断面（東から）
図版20　1．Ｔ－14（南東から）
2．Ｔ－15（東から）
図版21　1．Ｔ－16（北西から）
2．Ｔ－16板材検出状態（東から）
図版22　1．出土遺物

第1章　地理的・歴史的環境

鏡野町は、県北最大の都市津山市の西辺に接し、岡山県の三大河川のひとつ、吉井川がほぼ中央部を貫流する山あいの町である。町域の過半は山林に占められているが、南部に至ると香々美川と吉井川が合流する肥沃な沖積平野がひろがっている。町域は南北に細長く、北西側に富村、久世町、北側は奥津町、南側に久米町と接し、山稜・丘陵で囲まれる。古来、吉井川の河川交通はもとより、現在では国道179号線となっている旧伯耆街道が通じ、陰陽を結ぶ交通路が発達しており、鳥取県倉吉市に至っている。また、南側の久米町境の丘陵を越えると、奈良時代の久米郡衙と推定される宮尾遺跡（註1）や久米廃寺（註2）が出雲街道沿いに並存しており、東西あるいは北の交通路に極めて近い位置を占めていることがわかる。



第1図　遺跡位置図

原始、古代の遺跡は、主に町域の南半部に集中し、香々美川や吉井川を見下ろす低位台地や丘陵陵上には、集落遺跡をはじめ数多くの古墳が築造され、県下でも有数の古墳分布地帯として特筆される。香々美川を東に見下ろす丘陵上には、縄文時代早期の住居址が発見された複合遺跡、竹田遺跡（註3）が存在し、県下でも最古の住居跡として注目される。弥生時代の集落跡も、平野をとりまく低丘陵やその縁辺部を中心に形成され、資料館に所蔵されている採集遺物では、土器・石器を中心とした出土遺物が目立つ。また10数年前には、北西部の吉井川中流域の東方丘陵縁辺で2個の銅鐸が発見されたが、現在その所在は不明である。古墳時代では、前述のとおり、県北有数の古墳が数多くみられ、第2図－48の観音山古墳や、土居妙見山古墳、あるいは竹田妙見山古墳、赤峪古墳など前期古墳（前方後円墳）の存在が特徴的である。奈良時代には、713年（和銅6年）に備前国より分国して成立した美作国苫田郡の西方の一画を占め、南の久米郡北縁部の中心地域と接する。美作国の中心、美作国府は、直線距離で東方約6㎞に位置する。中世以降から戦国時代にかけては、目崎城（第2図－41）や葛下城・桝形城・日上城・小田草城などの山城が数多く築かれ、戦国時代の争乱の史実に対応している。近世では、主に北部では、タタラ製鉄が盛んに行われ、良質の砂鉄の産出を背景に、古代以来、「美作の鉄」の

産地として栄えた。

二反田B遺跡は吉井川に注ぐ郷川流域の海抜約132ｍの沖積平野に位置するが、第２図に渇げるように遺跡分布の濃密な地帯ではないが、弥生式土器が多量に出土したことが伝えられ、吉井川水系の弥生時代集落の存在が推定されていた。遺跡の北西方および北東方の低丘陵上には河本古墳群が散在し、小平野を見下ろしている。近隣の妙丹田A遺跡では弥生時代の土器、石器等が採集されている。野元遺跡は、郷川上流の谷に北面する低丘陵上に位置し、調査前の現地踏査においても若干須恵器が採集され、海抜約154ｍ前後の谷水田より数ｍ高い水田一帯に遺構の存在が予測された。北西方の溜池の南辺部には奈良時代の須恵器片が散布する鍋峪遺跡が知られ須恵器蓋が採集されている。丸山遺跡（第２図－12）では、花崗岩製の石錘が、鍛冶屋林遺跡（第２図－34）では砂岩製の石斧が採集されている。また上長野A遺跡付近では扁平片刃石斧が採集されるとともに、昭和59年度の確認調査において縄文時代から中世の遺物が出土するとともに、遺跡の西側丘陵縁辺部において弥生時代中期から後期を中心とする集落址を確認している。（註４）このように、遺跡をとりまく丘陵上には少なからぬ石器、土器出土地点や古墳が存在しており、その周辺部には集落址の存在が十分に予想されるのである。

註

註１　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告４（中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査２）岡山県教育委員会　1974年刊

註２　註１文献。岡山県埋蔵文化財発掘調査報告24（中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査－補遺編－）岡山県教育委員会　1978年刊

註３　土居徹ほか「竹田墳墓群」（竹田遺跡発掘調査報告第１集）鏡野町教育委員会　1984年刊。

註４　岡山県埋蔵文化財発掘調査報告60「上長野A遺跡」岡山県教育委員会　1985年刊。

本章は「註４」の第１章を加筆、修正したものである。

第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（$S=\frac{1}{25,000}$）

1．二反田Ｂ遺跡	2．野元遺跡	3．まかべ古墳群（1～15号墳）	4．鴨津の構	5．ふるや遺跡
6．牛の子窯跡	7．広瀬古墳群（1～3号墳）	8．広瀬古窯跡	9．妙丹田Ａ遺跡	10．原古墳群（1～10号墳）
11．原古墳群（11～14号墳）	12．丸山Ａ．橋本Ｂ遺跡	13．旧福泉寺跡	14．河本古墳群（6 7号）	15．鍋峪池尻遺跡
16．鍋峪古墳群	17．鍋峪尻1号墳	18．道上古墳	19．西ケ峪遺跡	20．後谷遺跡
21．正田池西岸遺跡	22．高山古墳群（1．2号墳）	23．大谷遺跡	24．高山古墳群（3～19号墳）	25．松木林遺跡
26．キリゴ谷遺跡	27．庄田遺跡	28．天満遺跡	29．あみだ堂跡	30．高山古墳群（20～23号墳）
31．植上寺	32．高山古墳群（24～28号墳）	33．高山古墳群（29～32号墳）	34．鍛冶屋林遺跡	35．河本古墳群（3～5号墳）
36．上長野Ａ遺跡	37．三反田Ｂ遺跡	38．丸山遺跡	39．森原古墳群	40．下原古墳群（63·64号墳）
41．目崎城跡	42．下原古墳群（57～62号墳）	43．下原古墳群（44～55号墳）	44．金剛寺跡	45．下原古墳群（36～43号墳）
46．下原古墳群（1～7号墳）	47．下原古墳群（27～30号墳）	48．下原観音山古墳	49．下原古墳群（32～34号墳）	50．辰尾池東南散布地
51．新池東散布地	52．芭蕉古墳群（1～4号墳）	53．鴻の池遺跡	54．鴻の池古墳群（1号墳）	55．鴻の池2号墳
56．三成古墳群	57．三成古墳	58．農試古墳群（4～9号墳）	59．農試古墳群（10～13号墳）	60．農試古墳群（1～3号墳）
61．足田口散布地Ｂ	62．足田口古墳群	63．足田口散布地Ａ	64．伏尾古墳群（1～3号墳）	65．下原構跡

第2章　調査に至る経緯

鏡野町河本地区で圃場整備事業が実施されたのは昭和58年からではある。その内、事業との競合関係にあった上長野A遺跡は、昭和59年度国庫補助事業として確認調査を実施した。その結果、当初予測された遺跡の中心部では、遺構は発見できなかったが、西方調査区では、竪穴住居跡、土壙、溝、柱穴などが検出された。この成果に基づいて、ただちに事業施工者である鏡野町部局と保存協議し、遺構検出面と工事掘削深度との調整を行なったところ、工事掘削面は遺構に達しないとの結論に達した。

この上長野A遺跡の確認調査実施中に次の圃場整備事業計画地として鏡野町原地区の計画が知らされ、同地内には二反田B遺跡が周知されていることから、文化財保護法に基づく協議をおこなうことになった。昭和60年2月7日付をもって、鏡野町から同法第57条の3の通知がなされた。

一方、野元遺跡にかゝる高山地区については昭和60年2月に入ってから突然知らされたものである。しかも、工事は通年施行ということであった。文化庁とも急拠協議し、二反田B遺跡と同時に調査することになった。昭和60年5月24日付をもって文化財保存法に基づく第57条の3の通知がなされた。

こうした経緯により、昭和60年度国庫補助事業として遺跡の規模、範囲、性格等を把握するための確認調査を行うこととなった。

確認調査は、岡山県文化財保存審議会専門委員の指導、助言を得て岡山県古代吉備文化財センターが実施した。

野元遺跡は昭和60年7月1日から8月7日まで、二反田B遺跡は昭和60年11月21日から昭和61年1月20日まで現地調査をした。

発掘作業にあたっては地元有志の方々にご協力を得た。記して深甚の謝意を表わす次第である。

二反田（にたんだ）B遺跡

第1章 調 査 の 経 緯

二反田B遺跡は弥生時代から中世の複合遺跡である。

本遺跡周辺一帯で「団体営圃場整備事業」の計画があることを昭和59年に鏡野町河本で上長野A遺跡を確認調査中に鏡野町教育委員会から報告を受けたため、県文化課で計画予定地内を現地踏査を行った。その結果、遺物散布が広範囲にみとめられるため早急に遺跡の規模、性格等を確認し、遺跡の保護、保存対策を講じる必要性が生じたため、県教育委員会では昭和60年度国庫補助を受けて発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は岡山県文化財保護審議会専門委員の指導、助言を得て岡山県古代吉備文化財センターが昭和60年11月21日から昭和61年1月20日まで実施した。調査にあたっては鏡野町役場、同町教育委員会をはじめ地権者等関係各位には多大の御協力を得た。また、発掘作業に従事していただいた地元有志の方々にも協力を得た。

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　松元昭憲（昭和60年12月15日まで）

　　高橋誠記（昭和60年12月16日から）

次　　長　　橋本泰夫

総務課長　　佐々木　清

調査課長　　河本　清（野元遺跡調査担当）

文化財保護主査　　松本和男（二反田B遺跡調査担当）

発掘作業従事者

二反田B遺跡

杉谷登喜夫、谷　里志、谷桃四郎、小山貞夫、浅山武夫、岡西盛男、小山英男、堀川純、竹井豊子、稲岡艶子、小山幸枝、小山美代子、村上　兆、河原崎子、浦矢よしの、

小山久子、小山高江、浅山すみれ、小山　恒、村上さち子、浅山夏子

日誌抄

昭和60年

11月21日、22日　プレハブ事務所の建設、トレンチの設定。T－1～5の発掘。T－2の断面写真撮影と実測作業。

11月25日、26日　T－4～9の発掘。T－3～7の断面写真撮影と実測。T－6の平面プランの実測。

11月27日～30日　T－6の補足調査。T－10～15の発掘。T－8～12の断面写真撮影。T－8～10の断面実測。T－7の遺構発掘。

12月2日、3日　T－13、16、17の発掘。T－7の遺構発掘。T－12の遺構検出作業。T－13の断面写真撮影。図面整理。

12月4日～7日　T－16や23の発掘。T－13の断面実測。T－14の第5層とT－17の遺構発掘。

12月9日、10日　T－20の遺構発掘と全景写真撮影。T－21の遺構検出。T－22の遺物とり上げ作業。

12月11日　T－20の平面プラン実測とレベリング。T－21の土層断面写真と実測作業。T－22の遺物のとり上げ。カメ棺（？）の写真撮影と平面プランの実測。

12月12日　T－20の基盤層までの掘り下げと遺構検出作業。T－21の土層断面観察用畦畔の除去。T－22の遺物のとり上げ。カメ棺（？）の写真撮影と断面図の作成及び遺物のとり上げ、T－16の遺構全景。断面写真の撮影。鏡野町教育委員会、鏡野町文化財保護委員長らの来跡。

12月13日　T－20の下層遺構の発掘と全景写真撮影。平面プランの実測とレベリング。断面の実測。T－22の遺物のとり上げ。

12月17日、19日　T－1拡張区、T－19の発掘作業。T－18の断面写真撮影と実測。T－4の埋めもどし。

12月20日　T－4、8の埋めもどし。T－1の断面写真撮影と実測。T－14の補足調査。

12月23日　T－2の埋めもどし。T－16の平、断面実測とレベリング。T－17の遺構全景写真撮影。T－19の遺構発掘。全景、断面の写真撮影と平、断面図の作成とレベリング。

12月24日、25日　T－1、5、6の埋めもどし。T－7の遺構全景、溝断面の写真撮影、平面プランの実測とレベリング。T－12の遺構発掘と断面の補足調査。T－15の断面写真撮影と実測。

12月26日、27日　T－8、9、10、15、19の埋めもどし。T－12の遺構全景写真撮影と平面プランの実測とレベリング。T－17の住居址発掘と全景写真撮影及び平、断面図の実測、レベリング。

昭和61年

1月6日～9日　T－3、7、12、13の埋めもどし。T－11の遺構発掘。図面整理。

1月10日、11日　T－11、23の発掘、全景写真撮影と平、断面図の実測とレベリング。T－24の発掘、断面写真撮影後埋めもどし。

1月13日、14日　T－11、16、23の埋めもどし。T－25、26の発掘。岡山県文化財保護審議会委員一行の来跡。

1月16日、17日　T－25、26の発掘。T－25、26の断面写真撮影後実測。T－17、25の埋めもどし。

1月18日、20日　T－26の埋めもどし。

第２章　発掘調査の概要

トレンチ調査の方法と概要

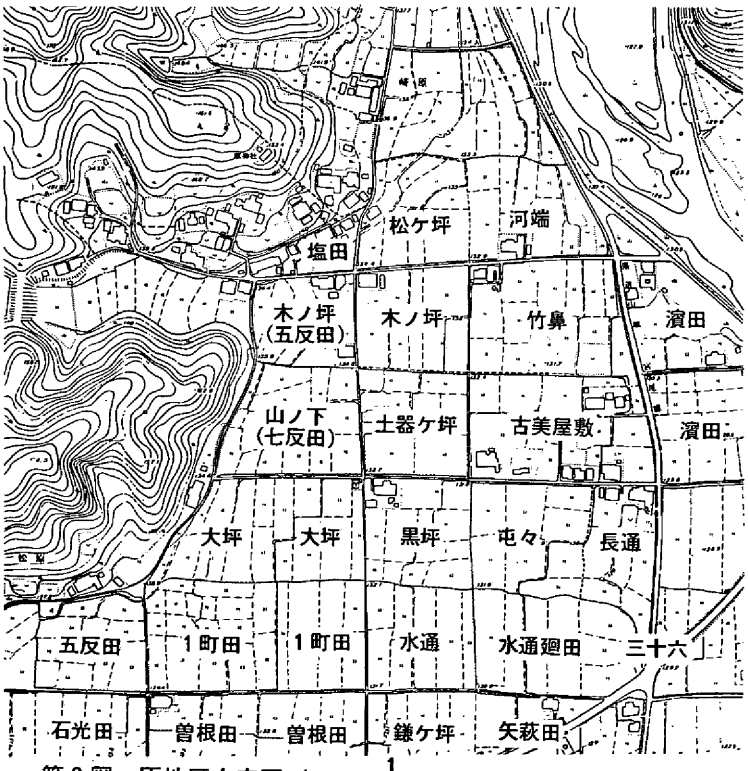
発掘調査は、圃場整備を計画している範囲内に限定されるため、現地踏査を行い、土器片の散布が認められた地区と、周知の遺跡として範囲が確認されている地区を調査対象地区とした。この地区は、吉井川右岸に形成された大きな微高地であり、明瞭な条里制地割が認められるところであるとともに、昔から遺物の出土が知られている地区である。

発掘調査は、２×５ｍ、２×10ｍのトレンチを基本とし、調査可能な地点に26ケ所設定して実施した。検出した遺構は完掘することを原則とし、遺構を検出できない場合は基盤層ないし自然堆積層を確認した。

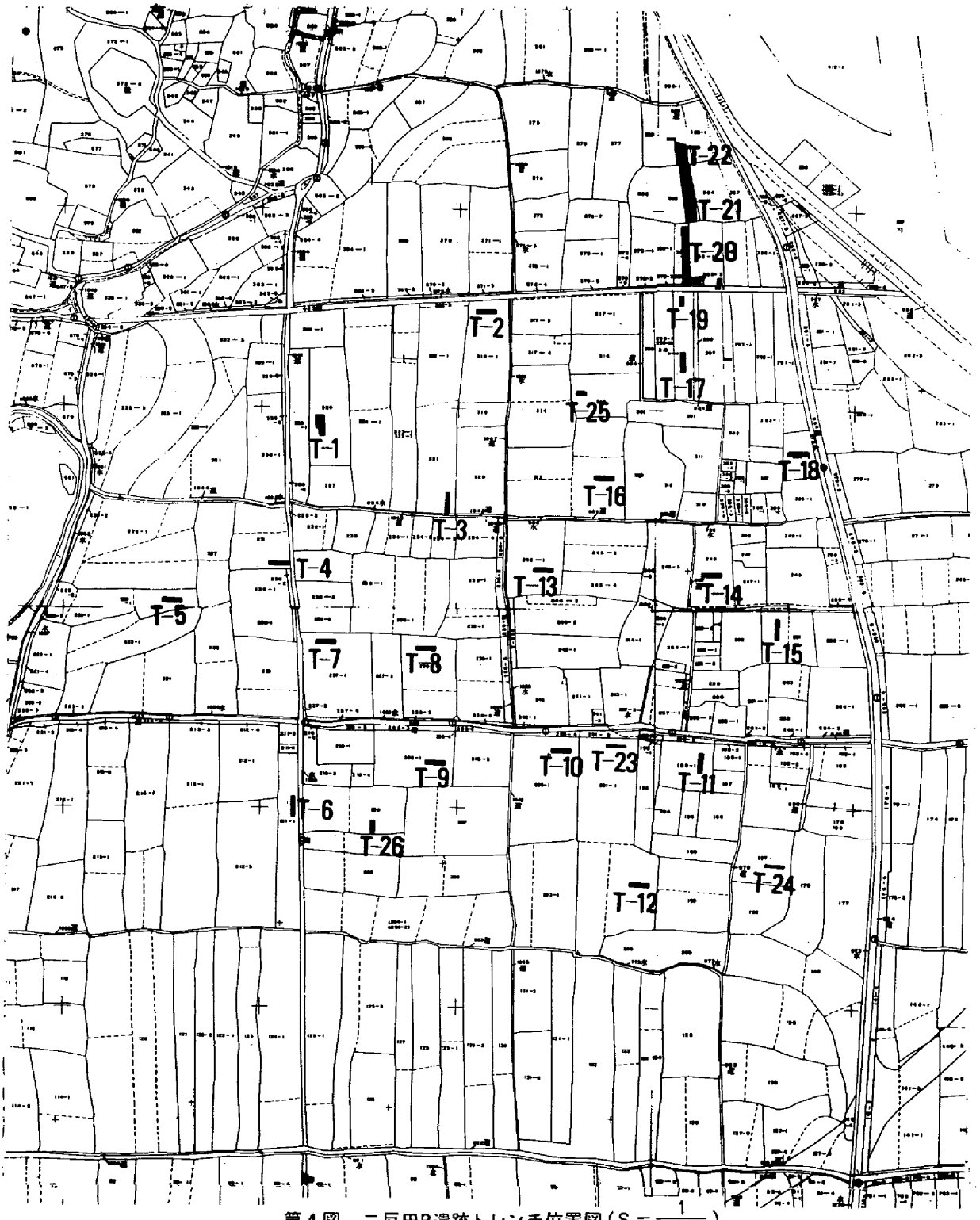
その結果、遺構が存在しない地区、包含層だけの地区、削平されているが遺構が存在する地区などに細別することができる。

以下トレンチ発掘調査の概要と成果について記したい。

Ｔ－１～３は方１町四方を区画する坪内（「木の坪」地区）に設定したトレンチである。Ｔ－１では現在の水田造成土層が第４層に認められたが、第５層以下は自然堆積層と考えられる。Ｔ－２では第３層を遺構面とする土層が確認されたが、この土層内には近世陶磁器、備前焼等が包含されているため近世の遺構面と考えられる。その下層（第８層）で水田層が確認できたが、時期については不明であった。Ｔ－３では水田層が、第３層、５層において認められた。特に下層水田である第５層内から中世陶



第３図　原地区小字図（$S = \frac{1}{7,500}$）
永山卯三郎「岡山県農地史」昭和27年より



第４図　二反田B遺跡トレンチ位置図（S＝$\frac{1}{3,000}$）

器片が出土しているため、中世以降のものと推察される。

T－4、5は「山ノ下」地区に設定したトレンチである。水田層は認められなかったが、T－4においては中世土師器、青磁等が出土する土層断面で柱穴状の遺構が確認された。

T－6は「大坪」地区に設定したトレンチである。遺構は地山の黄褐色粘質土層において柱穴が検出されている。出土遺物が無いため時期は不明である。

T－7、8は「土器ケ坪」地区に設定したトレンチである。かって大量の土器が出土したことから、このような名称がつけられたと伝えられている地区であるが、戦前からこの地区一帯は瓦粘土の採取が行なわれており、ほとんどの遺構は既に消滅しているようである。T－7では表土直下から溝状遺構、柱穴等が検出されている。溝状遺構はほぼ南北に走行する幅100㎝、深さ約90㎝を測るV字状の遺構である。出土遺物が無いため時期は不明である。その他に溝状を呈する遺構が検出されているが、時期、性格等は不明であった。T－8は瓦粘土採取のため遺構は削平されていた。

T－9、26は「黒坪」地区に設定されたトレンチである。この地区も瓦粘土を採取されたところである。T－9では第3層で中世土鍋片、備前焼等が出土するが、遺構は検出できなかった。T－23では第4層に水田層と思われる灰色粘質土層が認められたが、時期は不明である。

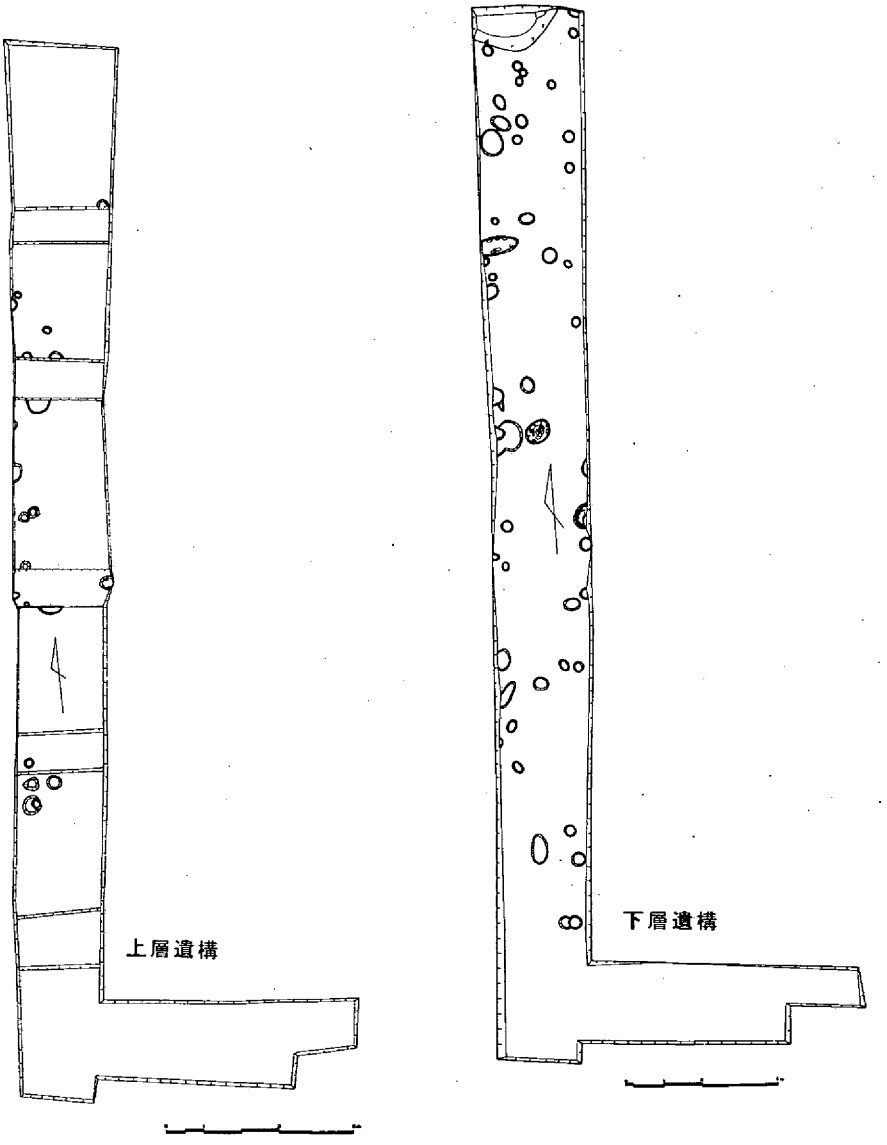
T－10、11、12、23、24は「屯々」地区に設定されたトレチである。T－10では第3層、4層において水田層が確認されたが、第5層以下は自然堆積層と考えられる粘土層が認められる。T－11、12、23、24は基盤層が微砂層であり、吉井川によって形成された微高地であることを示している。T－11では表土直下から遺構が多数検出された。検出された遺構は大部分が柱穴である。最も大きな柱穴は、掘り方が約60㎝、深さ約73㎝、柱痕径約25㎝を測るものが数個認められ、さらに面的調査を実施すると掘立柱建物群が多数検出される地点である。遺物は表土層と遺構検出面上層において出土している。

遺構検出面上層から勝間田焼、中世土師器、鉄釘等が出土しているため、これらの遺構は中世のものと推察される。T－12では、基盤層がT－11より約16㎝程下がる。遺構としては方形プランを呈する土壙と柱穴が検出された。土壙は1辺が約1.5m、深さ約30㎝を測り、中から勝間田焼、中世土師器椀が出土した。出土遺物から中世の遺構と考えられる。T－23では表土直下から遺構が検出された。遺構としては柱穴がある。その他に人工的なものであるか否かは不明であるが、幅約2m、深さ約80～100㎝を測り、断面がV字型となるものが二条検出されている。この中には黒色粘質土が充塡していた。柱穴がこれを切っているため、中世以前のものと考えられる。T－24では遺構が検出されていないが、基盤層が確認され、勝間田焼が出土している。

T－13、14、15は「古美屋敷」地区に設定したトレンチである。T－13では水田層が第4層、

6層、8層で認められた。第4層の水田はT－3の第3層に対応するものと思われる。T－14では遺構は検出できなかったが、第4層の黒色粘質微砂層において須恵器、土師器が出土している。T－15は基盤層が黄茶色粘質微砂混り土層である。遺構は桑畑開墾のためか検出されなかったが、土師器、中世陶磁器が出土している。

T－16、17、18、19、25は「竹鼻」地区に設定したトレンチである。T－16では第8層の黒色粘質土層を切る柱穴と不定形土壙等が検出されている。遺物は第8層内から弥生中期の土器が出土しているため、柱穴は弥生時代のものと考えられる。T－17では第3層から切り込んだ



第5図　T－20遺構平面図（S＝$\frac{1}{200}$）

住居址が2軒検出された。1号住居址は規模が不明であるが、方形プランを呈する竪穴住居址である。床面からの壁高は約40cmを測り、周囲には幅15～25cm、深さ約5～7cmの壁帯溝がめぐっている。なお、この住居址の北西床面上層には多量の黄色粘土が認められた。出土遺物としては、土器、土製の紡錘車がある。2号住居址は規模、プランとも不明である。断面観察による床面からの壁高は約35cmを測り、周囲には幅約20cm、深さ約4～5cmの壁帯溝がめぐっている。なお、床面は固く叩きしめられていた。出土遺物は無い。弥生～古墳時代の竪穴住居址と考えられる。T－18は吉井川の氾濫原であり、表土直下から砂利であった。T－19では南側が削平を受けているが、第7層の黒色粘質土層内から、古墳時代後期の須恵器（甕）、土師器（甑）が出土している。遺構は基盤層である第8層から柱穴が検出された。共伴遺物はないが、古墳時代の遺構と推察される。

T－20、21、22は「河端」地区に設定されたトレンチである。T－20では上層と下層に遺構面が認められた。上層遺構面では柱穴、下層遺構面では柱穴、方形プランの住居址状遺構が検出されている。遺物は上層、下層とも、遺構に伴うものが無いが、下層遺構面においては、弥生時代中期～古墳時代後期の土器が出土しているため古墳時代後期頃の遺構面と考えられる。T－21では北端部で柱穴が検出されている。このトレンチの北端部からT－23にかけては、地山面が東に急傾斜となり、この斜面を造成するため、多数の土器を投棄して、造成したことが考えられる。時期的には弥生時代中期から古墳時代後期の遺物である。特に古墳時代の遺物としては、土師器、甑、須恵器等が出土した。また、T－23の東端部付近で古墳時代のカメ棺と思われる遺構が出土している。この遺構の周囲には、多量の遺物が認められたため、プランは確認できなかったが、底面の規模から80×90cm程の楕円形プランが想定される。土壙の中に埋納されたカメ棺と考えられる。カメ棺は斜めに置かれ、土師器高杯の杯部で内蓋して、さらにその上をカメ胴部で覆っていた。内部には人骨片がみられなかったが、小児カメ棺を想定させるものである。

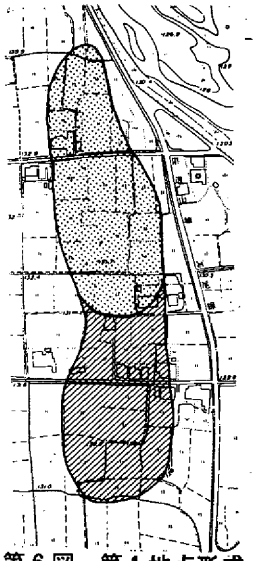
出土遺物（第17図～21図）

遺物はほとんどのトレンチで出土したが、特にT－21、22において多量に出土した。出土層位は耕作土層、造成土層、水田層、遺構内であるが、大部分は造成土層である。主な遺物としては弥生式土器、石庖丁、紡錘車、須恵器、土師器、カマド、土製支脚、勝間田焼、中世土師器、備前焼、青、白磁、中～近世陶磁器がある。最も古い遺物は弥生時代中期のものである。古墳時代のものは6世紀後半の遺物が中心となっている。なかでも、土製支脚の出土例は県内においても数少ない出土例であり貴重な資料といえる。中～近世陶磁器では発掘調査例が少ない常滑焼（図版12－11）が注目される遺物といえよう。

第3章 ま と め

今回の発掘調査は、合計26ケ所のトレンチを設定して実施した。確認調査であるため、遺構の規模、時期等を推察せざるを得ない部分もあったが、遺跡の範囲、内容についてはかなり具体的に把握することができた。

発掘調査の結果、原地区では大きく2つの遺跡群（第7図）を明らかにすることができた。吉井川の右岸側の遺跡を第1地点とし、西側の遺跡を第2地点と仮称するならば、第1地点で約43,000㎡、第2地点で約4,500㎡におよぶ遺跡の存在が明らかになった。特に第2地点は、第3章で記述したように、この地区一帯が瓦粘土の採取地であったため、遺跡規模が少さくなっているが、本来は、大規模な集落址であったと予想される地点である。弥生時代中期の土器片から始まり、古墳時代のカメ棺、住居址、中世の土壙、柱穴などの遺構を確認していることから、本遺跡は古墳〜中世の集落址が存在していることが判明した。



第6図 第1地点形成発達図（S＝$\frac{1}{7,500}$）

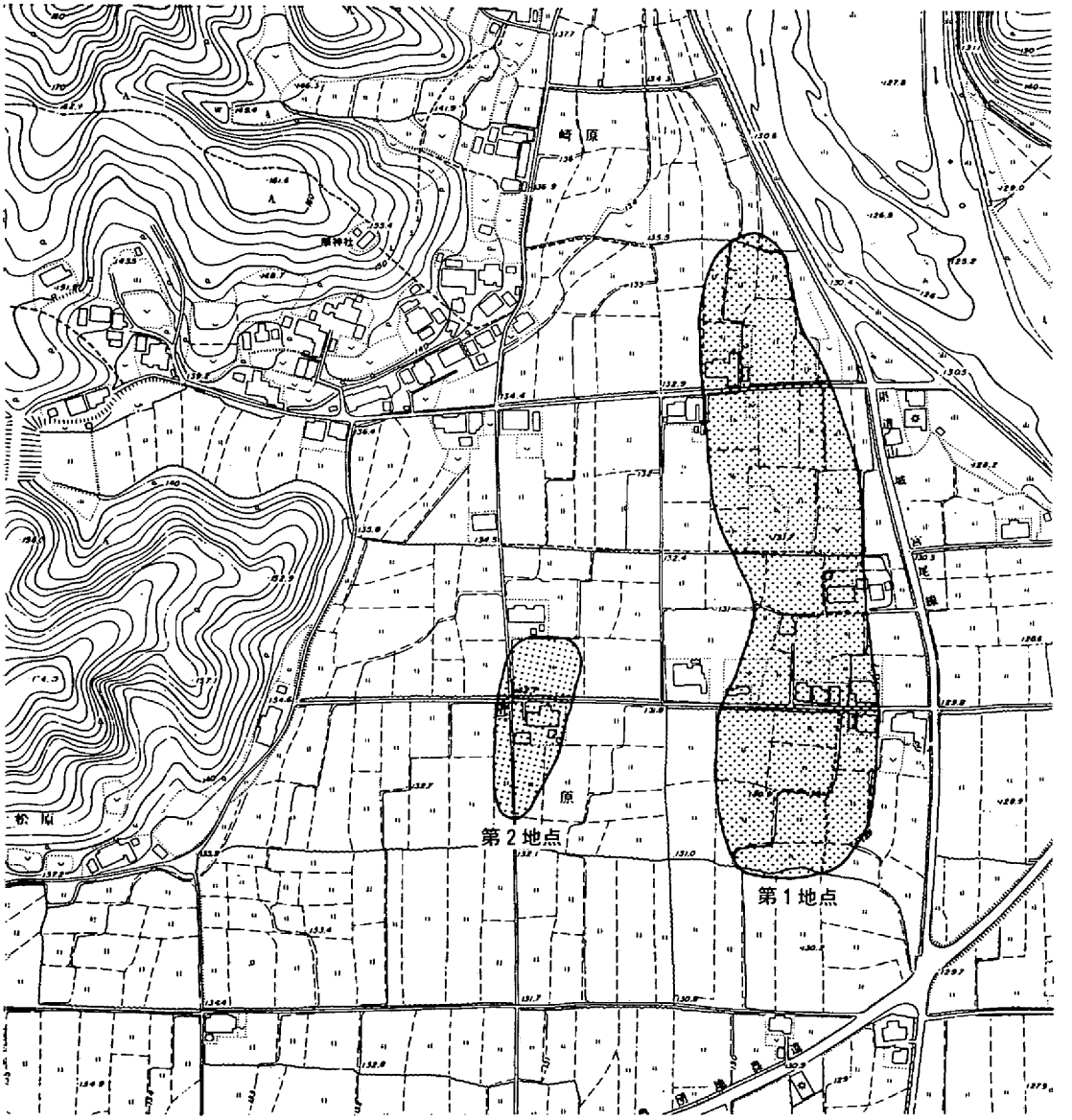
第1地点は今回の調査の結果、第6図で示したように遺跡の立地する古地形が復元可能であった。すなわち、第1地点のほぼ中央部で土層が大きく異なることである。上流部では基盤である砂層ないし砂礫層の上層に黒色粘質土が堆積し、この墾層上面ないし下層において遺構が確認されるとともに、遺構の年代が弥生、古墳時代が中心であるということである。これに対して、下流部では表土直下の微砂層や粘質土層で遺構が検出されるが、これらの遺構は中世が中心を占めることである。このことは上流部に形成された微高地が古代〜中世前半頃までに徐々に拡大されていった結果を示している。第2地点は中世の遺構は確認されたが、他の遺構については時期が不明である。恐らく弥生〜中世の遺構が存在すると考えられる遺跡である。出土遺物の中では、T−21、22、から多量に出土した須恵器の再検討が必要である。須恵器の大部分に焼きヒズミが認められるため、窯址からの投棄とも考えられる。現在のところこの遺跡付近には窯址は確認されていないが、この丘陵付くにおいて窯址が存在していた可能性が極めて高いと云える。また土師器は甑、カマドが多量に出土している。まさにT−21、22付近の傾斜はこれら窯址と集落址の遺物によって造成されていたことが推察されるのである。また、永山卯三郎氏によって「苫田郡郷村條里跡」（註1）として紹介され、条里遺構がよく残っといる地方として著名であったため、埋没条里の検討も併せて試みた。しかしながら、中世の水田層は確認されたものの、古代にまで遡る水田関係の遺構は確認することができ

なかった。特に第2地点付近は瓦粘土を採取している関係で埋没条里の検出は当初から困難であったが、第1地点については前述した如く、下流域の大部分が中世に形成されたと考えられる平野であることから、この地区の条里制地割は中世以降になって行なわれた可能性を示唆しているのである。

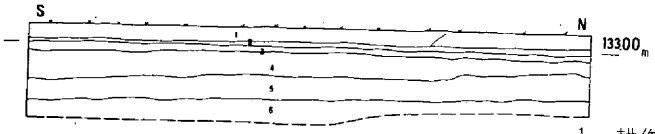
今後の圃場整備事業の実施に当っては、関係者間で充分に連絡、協議の徹底を希望するものである。

註

註1　永山卯三郎著　「岡山県農地史」　昭和27年刊。

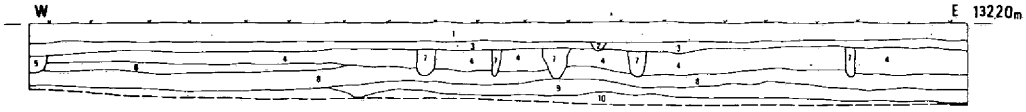


第7図　圃場整備予定地内における遺跡範囲（$S = \frac{1}{5,000}$）



T-1

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質土層
4. 黄色粘質土層
5. 暗灰茶褐色粘質微砂混り土層
6. 暗灰褐色粘質土層

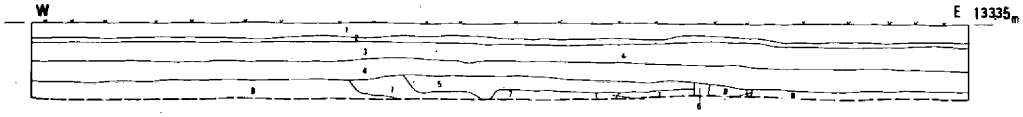


T-2

1. 耕作土
2. 暗灰色粘質土層
3. 灰色粘質土層
4. 灰青色粘質土層
5. 茶褐色粘質土層
6. 暗灰色粘質土層
7. 茶褐色粘質土層
8. 暗灰色粘質土(旧水田)層
9. 黒色粘質土層
10. 黄灰色粘質土層

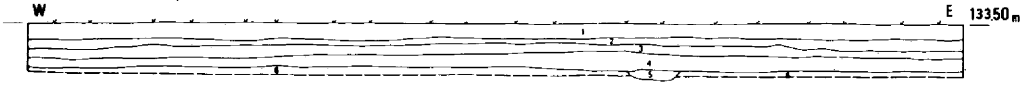
T-3

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 茶褐色粘質土層
5. 灰茶色粘質土(旧水田)層
6. 灰褐色粘質土層
7. 黄褐色粘質土層



T-4

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 茶褐色粘質土層
5. 暗灰色粘質土層
6. 灰黒色粘質土層
7. 黄褐色中細層
8. 灰黒色粘質土層
9. 黄灰色粘質土層

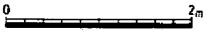


T-5

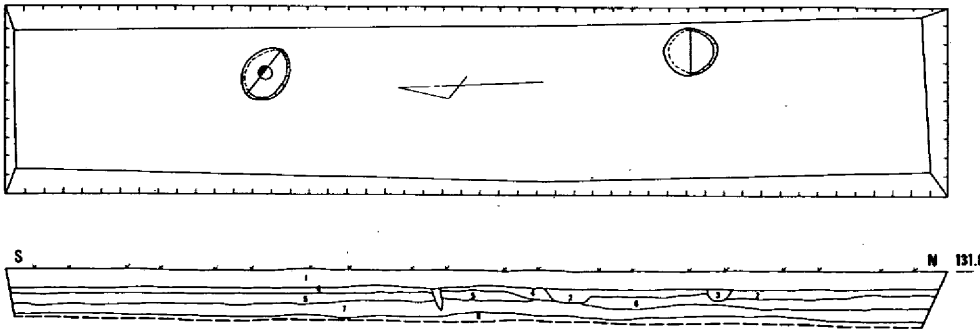
1. 耕作土
2. 灰色粘質土層
3. 黄灰褐色粘質土層
4. 灰茶褐色粘質土層
5. 灰色粘質土層
6. 黄褐色粘質土層

T-8

1. 耕作土
2. 黄灰褐色粘質土層
3. 黄褐色粘質土層
4. 黄茶褐色粘質土層
5. 暗褐色粘質土層
6. 黄灰褐色粘質土層

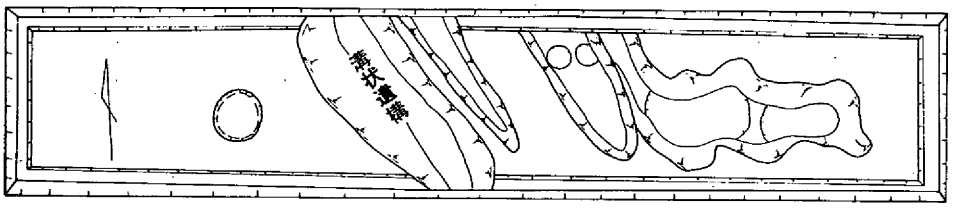


第8図　T－1～5，8の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



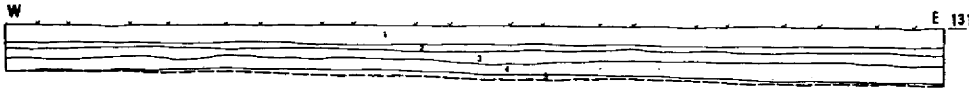
T-6

1. 耕作土
2. 灰黄色粘質土層
3. 暗灰青色粘質土層
4. 灰色粘質土層
5. 暗灰色粘質土層
6. 灰褐色粘質土層
7. 灰褐色粘質土層
8. 黄褐色粘質土層



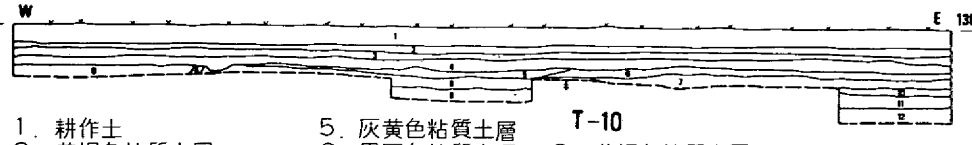
T-7

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗褐色粘質土層
4. 暗黄褐色土層
5. 暗褐色土層
6. 暗灰色粘質土層
7. 黒褐色土層



T-9

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 黄灰褐色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層
5. 黄茶褐色粘質土層

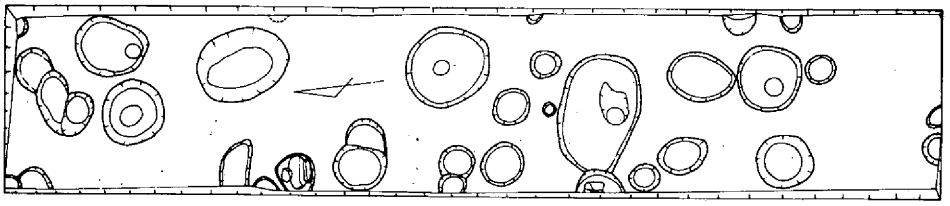


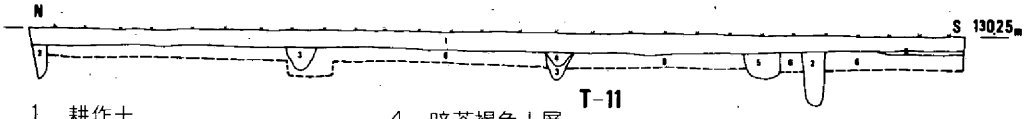
T-10

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層(旧水田)
4. 暗灰色粘質土層(旧水田)
5. 灰黄色粘質土層
6. 黒灰色粘質土層
7. 茶褐色粘質土層
8. 灰黄褐色粘質土層
9. 黄褐色粘質土層
10. 暗色粘質在土層
11. 灰褐色粘質土層
12. 暗灰色粘質土層

0 2m

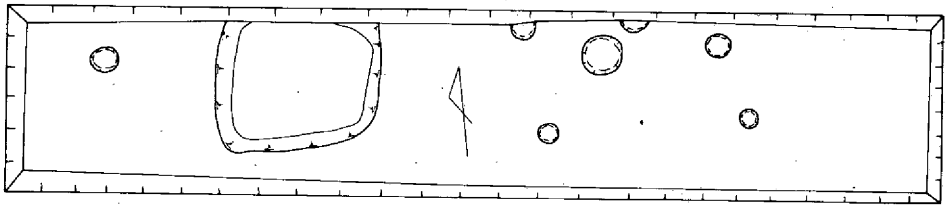
第9図　T－6,7の土層断面図，T－9,10の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）

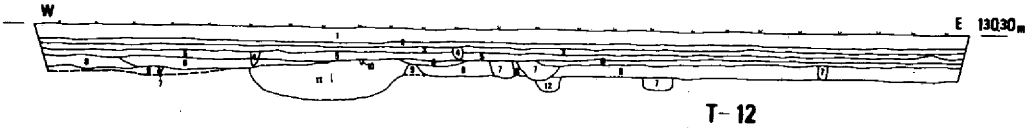




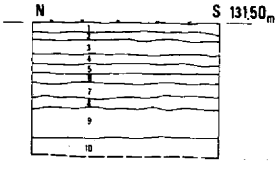
T-11

1. 耕作土
2. 暗褐色粘質土層
3. 黄色ブロック土混り粘質土層
4. 暗茶褐色土層
5. 暗灰褐色粘質微砂混り土層
6. 暗茶褐色微砂層





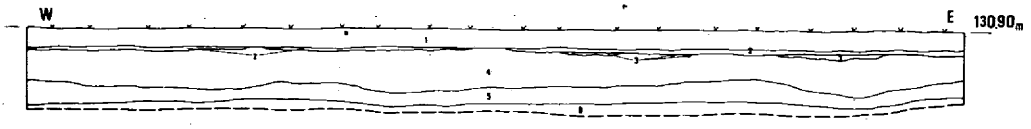
T-12



T-13

1. 耕作土
2. 灰黄褐色粘質土層
3. 灰茶褐色粘質土層
4. 暗灰色粘質土(旧水田)層
5. 暗灰色粘質土層
6. 暗灰色粘質土層
7. 暗灰色粘質微砂層
8. 暗灰色粘質土層
9. 黒灰色粘質土層
10. 灰色微砂層

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質微砂層
3. 灰褐色粘質微砂層
4. 灰色粘質土層
5. 黄茶褐色粘質微砂層
6. 灰褐色微砂層
7. 黒色粘質土層
8. 黒色微砂層
9. 黄灰色微砂層
10. 灰褐色粘質土層
11. 暗褐色粘質土層

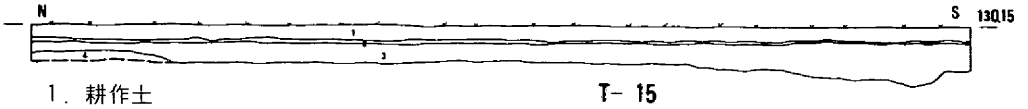


T-14

1. 耕作土
2. 暗茶褐色粘質土層
3. 暗灰色粘質微砂層
4. 黒色粘質微砂層
5. 黄茶褐色粘質微砂層
6. 黄茶色粘質微砂層

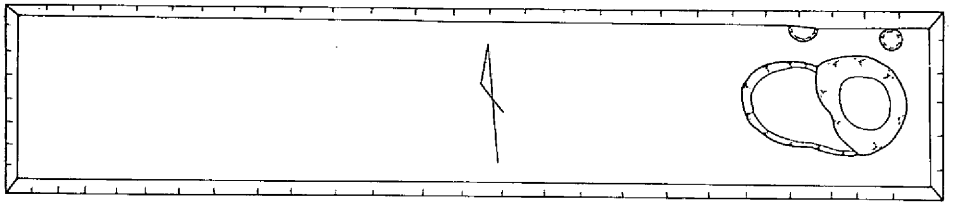
0 2m

第10図　T－11, 12の平，断面図，T－13, 14の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



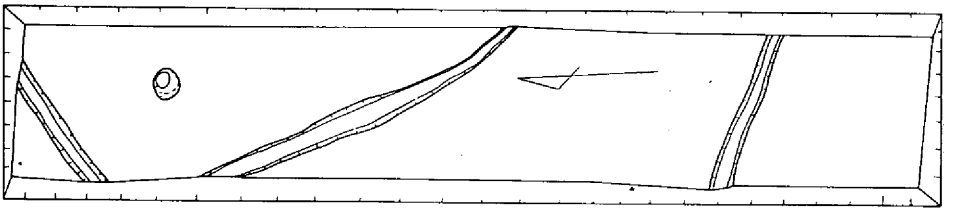
T- 15

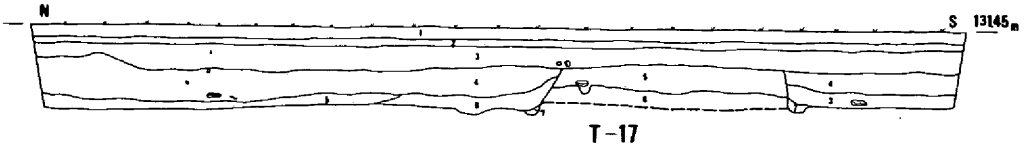
1. 耕作土
2. 暗褐色粘質土層
3. 黒褐色粘質微砂混り土層
4. 黄茶色粘質微砂混り土層



T - 16

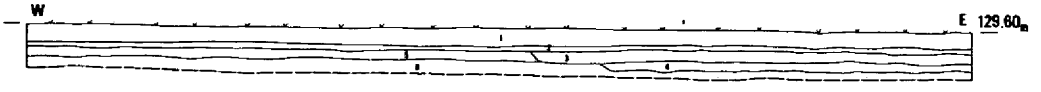
1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰褐色粘質土層
4. 茶褐色粘質土層
5. 暗茶褐色粘質土層
6. 暗褐色粘質土層
7. 黒褐色粘質土層
8. 黒色粘質土層
9. 黒色粘質土層
10. 茶色粘質土層





T-17

1. 耕作土
2. 灰色粘質微砂混り土層
3. 黒褐色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 暗褐色粘質土層
6. 暗茶褐色粘質微砂混り土層
7. 茶褐色粘質微砂混り土層
8. 茶褐色粘質微砂混り土(基盤層)層

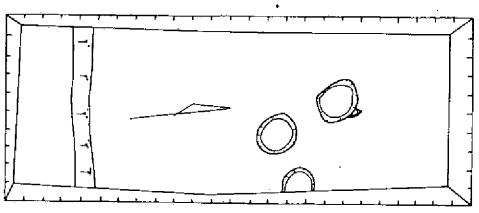


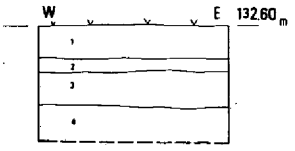
T-18

1. 耕作土
2. 暗茶褐色粘質微砂混り土層
3. 暗灰色粘質土層
4. 黄灰褐色粘質微砂混り土層
5. 黒褐色粘質微砂混り土層
6. 砂礫層

0 2m

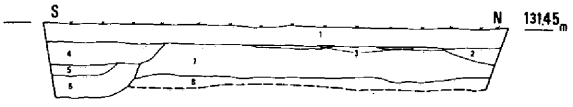
第11図　T－15, 18の土層断面図, T－16, 17の平, 断面図（S＝$\frac{1}{80}$）





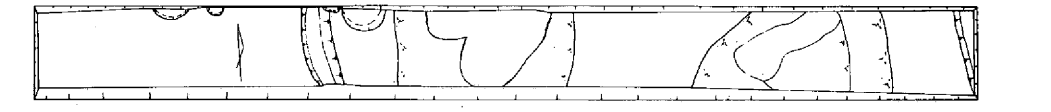
T−24

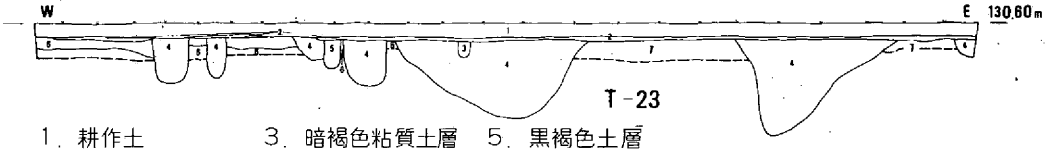
1. 耕作土
2. 茶褐色粘質微砂混り土層
3. 茶褐色微砂土層
4. 黄茶色微，細砂層



T−19

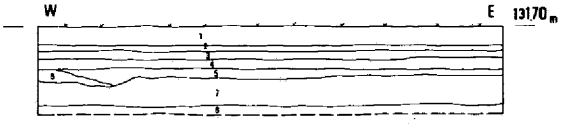
1. 耕作土
2. 灰色微砂層
3. 暗褐色粘質土層
4. 暗茶褐色粘質土層
5. 灰褐色粘質土層
6. 黒褐色粘質微砂混り土層
7. 黒色粘質土層
8. 茶褐色粘質微砂混り土層





T−23

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 暗褐色粘質土層
4. 黒色粘質土層
5. 黒褐色土層
6. 暗黒色粘質土層
7. 黄色粘質微砂層



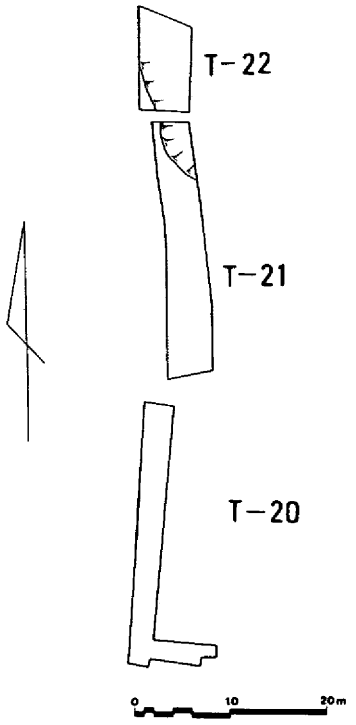
T−25

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰色粘質土層
4. 灰褐色粘質土層（小円礫混入）
5. 暗茶褐色粘質土層（微砂混り）
6. 暗灰褐色粘質土層
7. 暗褐色粘質土層
8. 茶褐色粘質土層

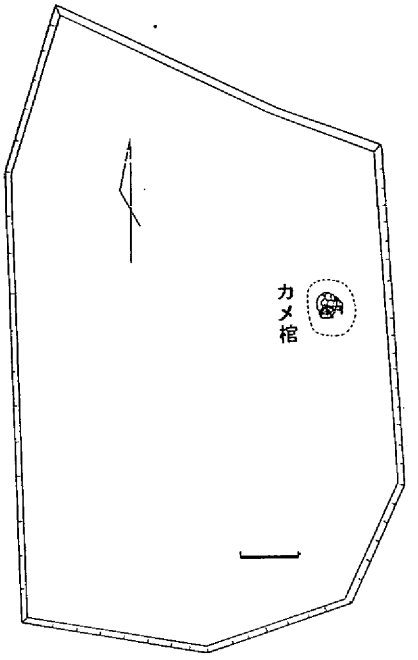
T−26

1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土層
3. 灰黄色粘質微砂混り土層
4. 灰色粘質土層
5. 黄褐色粘質土層

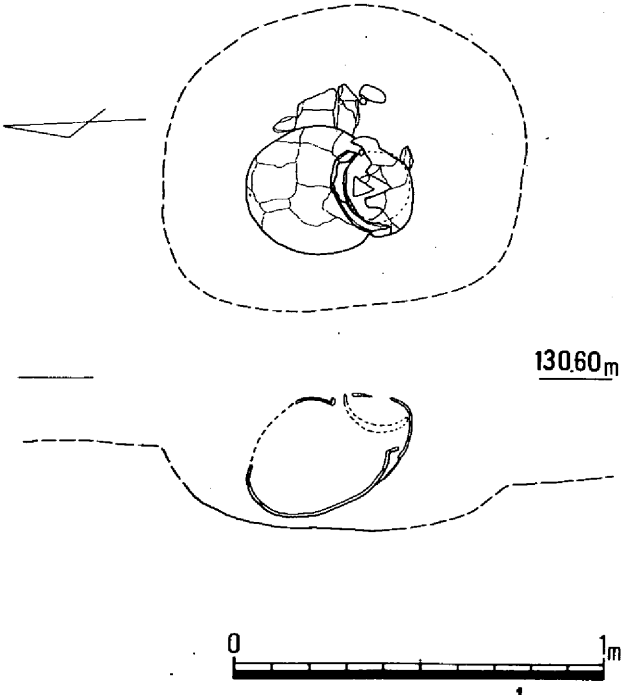
第12図　T−19,23の平，断面図，T−24〜26の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



第13図　T－21～23全体図（S＝$\frac{1}{800}$）



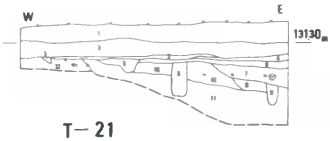
第14図　T－22平面図（S＝$\frac{1}{80}$）



第15図　カメ棺出土状態（S＝$\frac{1}{20}$）

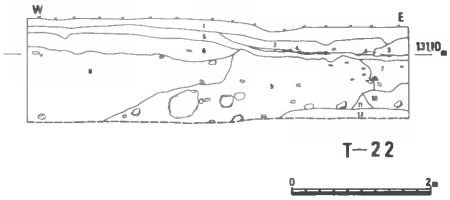
T−20

1 耕作土
2 茶褐色粘質土層
3 黒褐色粘質土層
4. 暗灰色粘質土層
5. 暗茶褐色粘質土層
6 暗褐色粘質土層
7 黒色粘質微砂層
8. 暗褐色粘質微砂層
9 暗褐色粘質土層



T−21

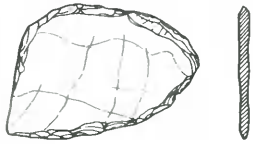
1. 耕作土
2. 暗灰褐色粘質微砂混り土層
3 灰色粘質土層
4 黒色粘色土層
5 茶褐色粘質土層
6 茶灰褐色粘質土層
7 暗褐色粘質微砂混り土層
8 暗褐色粘質微砂混り土層
9 暗灰褐色粘質土層
10. 黒褐色粘質微砂混り土層
11 黒褐色粘質土層
12 茶褐色粘質微砂混り土層



T−22

1 耕作土
2 暗茶褐色粘質微砂混り土層
3 黒褐色粘質微砂混り土層
4 灰色微砂土層
5. 灰褐色粘質微砂混り土層
6 黒褐色粘質土層
7 暗褐色粘質微砂混り土層
8 黒褐色粘質土層
9 黒褐色粘質微砂混り土層
10 暗黄茶褐色粘質微砂混り土層
11 暗褐色粘質土層
12 砂層

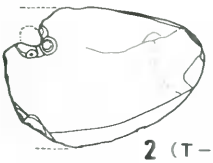
第16図　T−20, 21, 22の土層断面図（S＝$\frac{1}{80}$）



1（T−4）

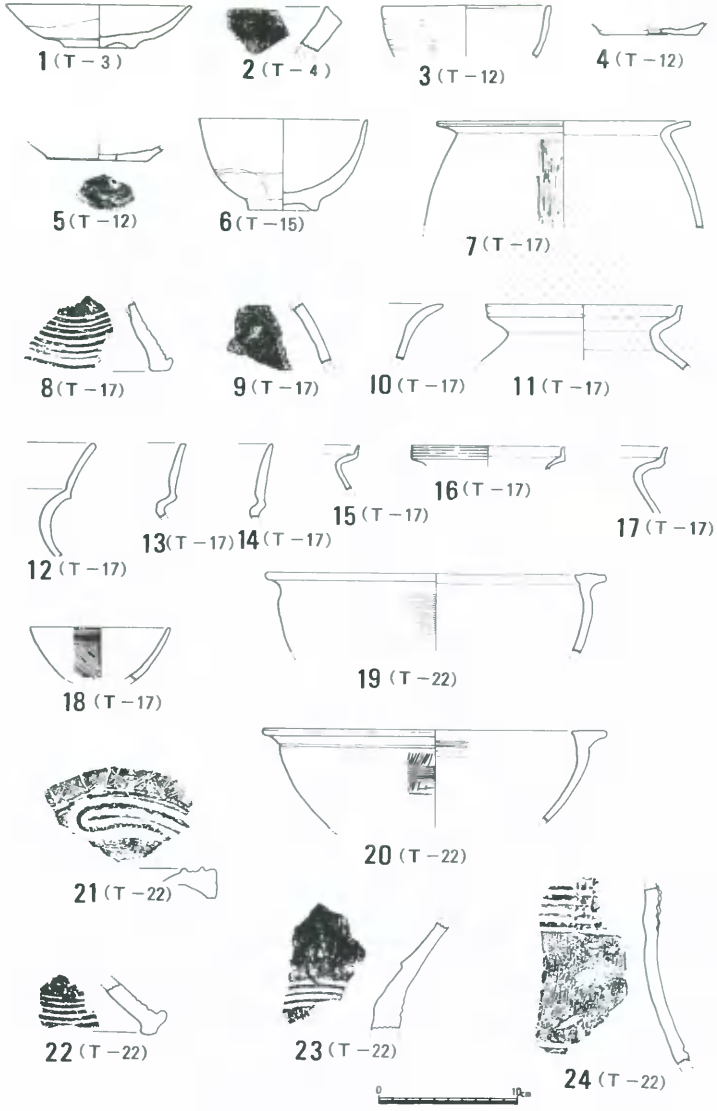
3（T−17の1号住居地内）

4（T−22）

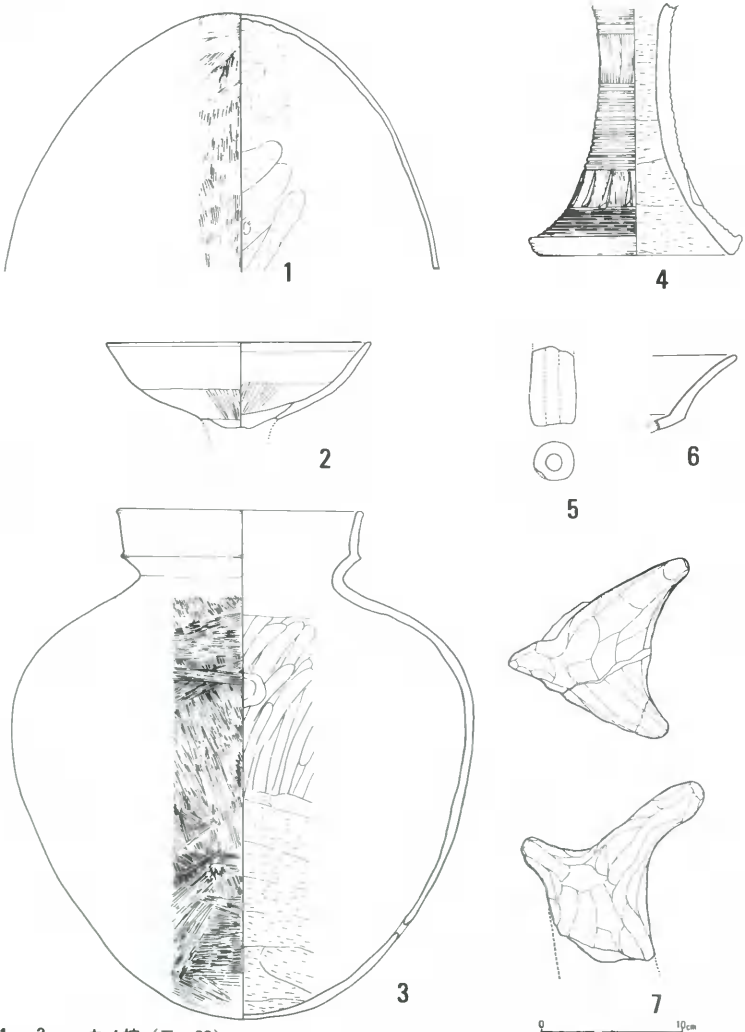


2（T−22）

第17図　遺物実測図（S＝1, 2…$\frac{1}{2}$, 3, 4…$\frac{1}{3}$）

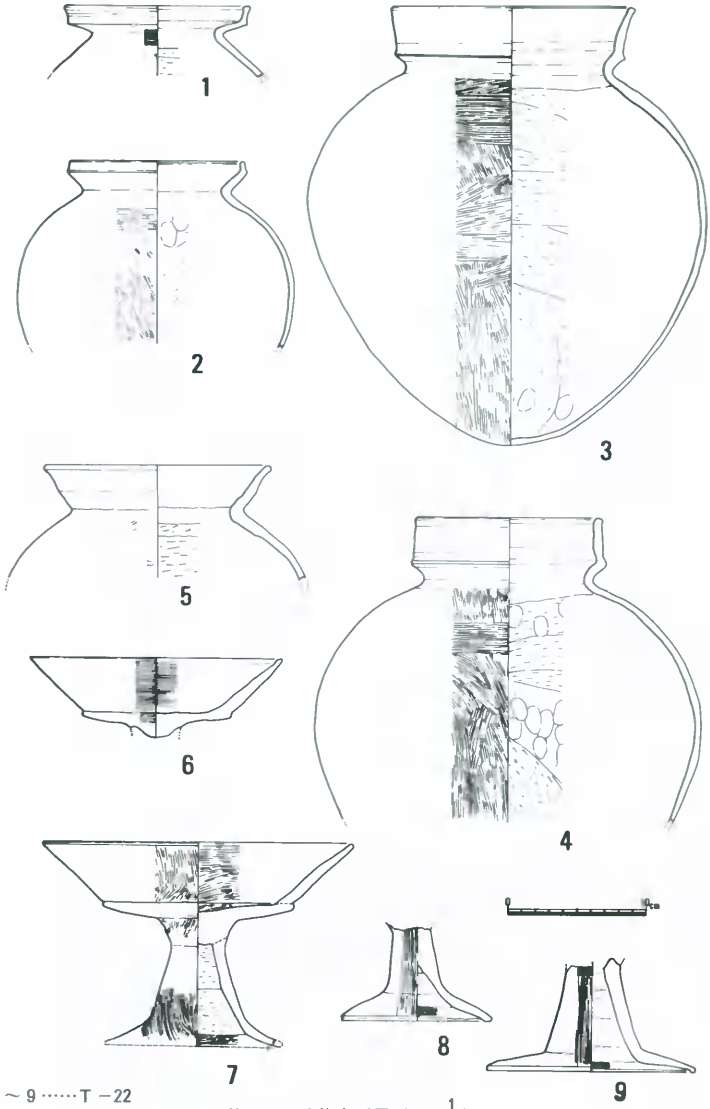


第18図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）



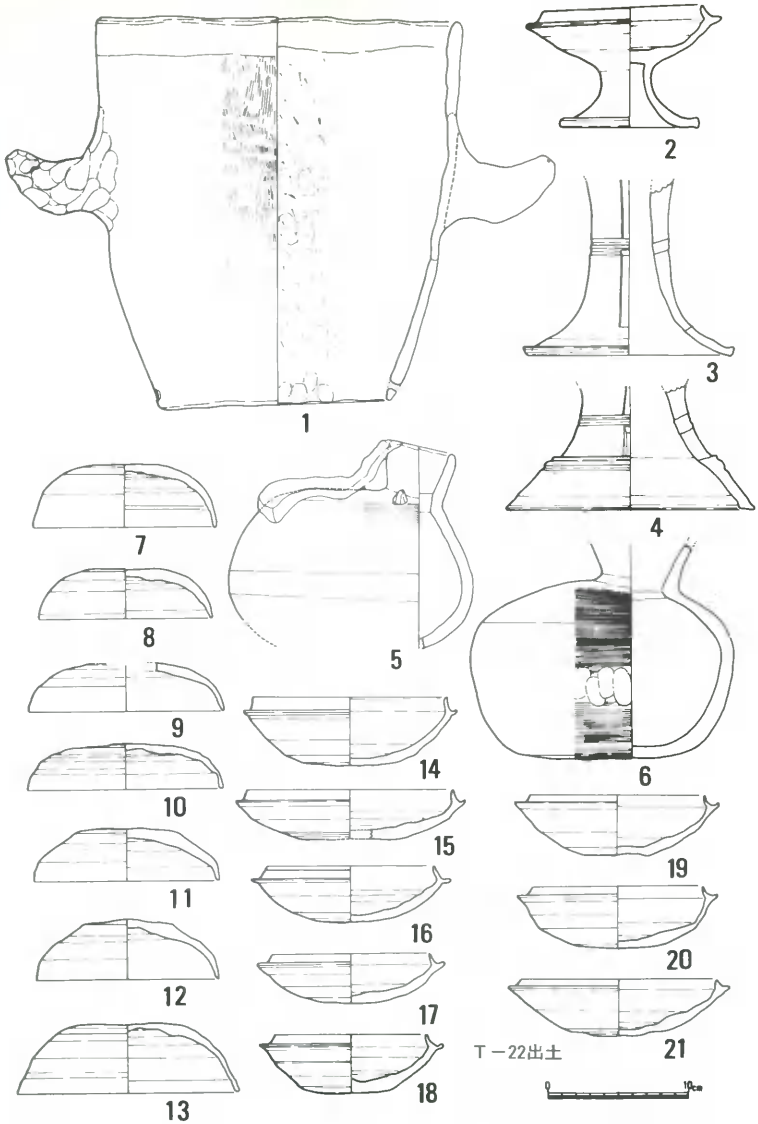
1～3……カメ棺（T－22）
4……T－14
5～7……T－22

第19図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）



1～9……T－22

第20図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）



第21図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）

図　　版

図版 1

二反田B遺跡，野元遺跡付近航空写真　（昭和47年撮影）

図版2

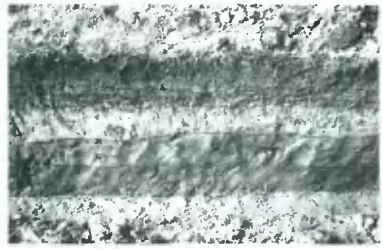
1、遺跡遠景（南西から）

2、遺跡近景（南東から）

3、遺跡遠景（西から）

図版3

1. T－1（南東から）



2．T－1近景（東から）

3. T－2（南西から）

4. T－3（南西から）

5. T－6（北東から）

6．T－6近景（東から）

7. T－6の柱穴（南から）

8. T－8（南東から）

図版 4

1. T－7全景（東から）

2. T－7の溝断面（南から）

3. T－10（南西から）

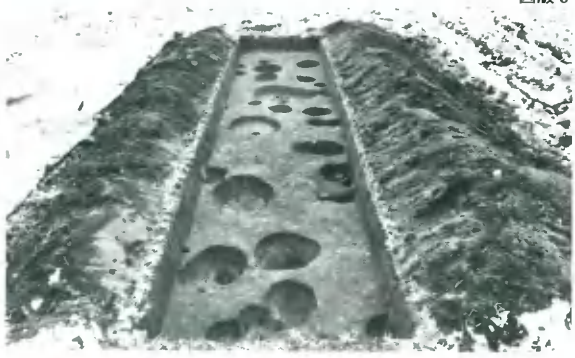
4. T－10近景（南から）

5. T－12（南西から）

6. T－12全景（西から）

7. T－13近景（西から）

図版5



1、T—11全景（北から）

2、T—11近景（西から）

3、T—11の柱穴（北東から）

図版 6

1. T－17全景（北から）

2. T－17全景（南から）

3．T－17断面（北西から）

図版 7

1. T－14（南東から）

2．T－15近景（西から）

4．T－19（北東から）

3. T－16（東から）

5. T－20の第 1 遺構面（南西から）

6. T－20の第 2 遺構面（南西から）

7．T－20断面（南から）

図版8

1、T－20断面（南から）

2、T－22の甕棺出土状態（西から）

3、甕棺の内蓋検出状態（西から）

図版 9

1、T－23（東から）

2. T－23（南西から）

3. T－24（南西から）

4. T－25（南東から）

5. T－26（北東から）

6. 発掘作業風景（南東から）

7. 発掘作業風景（西から）

8. 埋めもどし作業風景（東から）

図版10

1

2

3

T－22出土
カメ棺（1.外蓋，2.内蓋）

1．T－22出土の土器棺

図版11

T－14出土

T－19出土

3～6……T－22出土

1．出土遺物

図版12

1～4…T－22出土
5～13…各トレンチ
出土の陶磁器

1．出土遺物

野元遺跡

第1章　調査の経緯

野元遺跡は鏡野町高山に所在する、弥生時代の散布地として遺跡地図に記載されている周知の遺跡である。

当核遺跡一帯の圃場整備事業が計画されていることを知ったのは、昭和60年に入ってからである。このため岡山県教育庁文化課は急ぎ文化庁と協議し、同町内に所在する二反田B遺跡と同様に、昭和60年度国庫補助事業として遺跡の規模、性格等を確認し、遺跡の保護、保存対策を講じる資料を得るための確認調査を実施することとした。しかし、現地調査については、野元遺跡にかかる地区は圃場整備通年施行予定地となっていることから、昭和60年夏期に実施することとした。

発掘調査は岡山県文化財保護審議会専門委員の指導、助言を得て岡山県古代吉備文化財センターが昭和60年7月1日から昭和60年8月7日まで実施した。調査にあたっては鏡野町教育委員会、鏡野町建設課をはじめ地権者等関係各位には多大のご協力を得た。また、発掘作業にあたっては地元の方々の暖かいご協力とご援助を賜った。記して感謝の意を表わす次第である。

調査体制

専門委員

鎌木義昌（岡山理科大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

近藤義郎（岡山大学教授、岡山県文化財保護審議会委員）

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）

岡山県古代吉備文化財センター

所　　長	松元昭憲（昭和60年12月15日まで）
	高橋誠記（昭和60年12月16日から）
次　　長	橋本泰夫
総務課長	佐々木　清
調査課長	河本　清（調査担当）

発掘作業員

藤本　斉、藤本和男、藤木　正、藤本正行、永滝民男、小谷貞夫、柚木貞美、小谷俊子

日誌抄

昭和60年

7月1日（月）　発掘開始。トレンチ設定作業。T－1・2・3掘り下げ。

7月8日（月）　T－4掘り下げ。黒ボク上面に須恵器を包含。T－5掘り下げ。

7月9日（火）　T－6・7掘り下げ。

7月10日（水）　T－7掘り下げ。

7月11日（木）　T－8掘り下げ開始。

7月17日（水）　T－4断面図作成。T－9・10掘り下げ。

7月18日（木）　T－11に発掘完了。T－13発掘。

7月20日（土）　T－13・14掘り下げ中。T－15掘り下げ開始。T－11・1・4・10平板実測完了。断面実測T－1・9・10。

7月23日（火）　T－16掘り下げ。T－12平板実測。T－11断面実測。鏡野町文化財保護委員来跡。

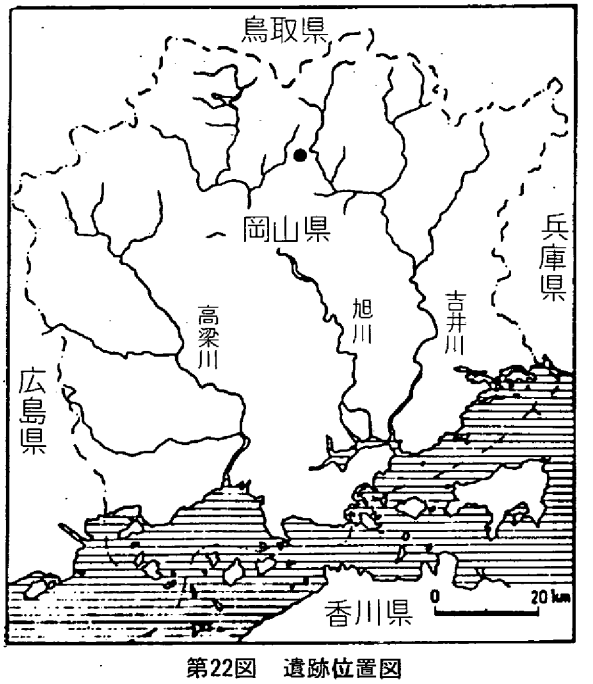
7月24日（水）　T－14・15掘り下げ。T－15断面実測。

7月25日（木）　T－14断面実測。T－7拡張トレンチ掘り下げ。

7月26日（金）　埋め戻し開始。

7月29日～8月1日・5日～6日　各トレンチ平板実測。

8月7日（水）　埋め戻し。遺跡遠景写真撮影。発掘資材整理。本日で現地調査終了。



第22図　遺跡位置図

第２章　発掘調査の概要

トレンチ調査の方法

発掘調査は圃場整備計画の内、郷川上流の右岸に形成された丘陵部の東西約400ｍ、南北100ｍの範囲を対象とした。昭和60年５月20日夜調査についての地権者説明会を開き、調査の概要を説明し、大多数の地権者の了解をえた。また、この会議において調査対象地は通年施行予定地であること、したがって、大部分は稲作の作付は行わないことを確認した。しかし、発掘調査は水田の床土を抜くことでもあり、水田１枚に多数のトレンチを設定することなどは、色々な点で難しいこともあった。このためトレンチは丘陵部の１水田（あるいは畑地）面に１本を原則に実施した。しかし、遺構の検出されたトレンチは一部拡張トレンチも行った。また、旧地形をみるために谷部に実施したトレンチもある。トレンチの規模は幅1.5ｍを原則としたが、長さについては最長のもの19.5ｍ、最短のもの1.9ｍと地形に応じてさまざまである。

こうしてトレンチ総数16本を実施し、約315㎡の発掘を行って遺構、遺物の検出に努めた。

発掘調査の概要

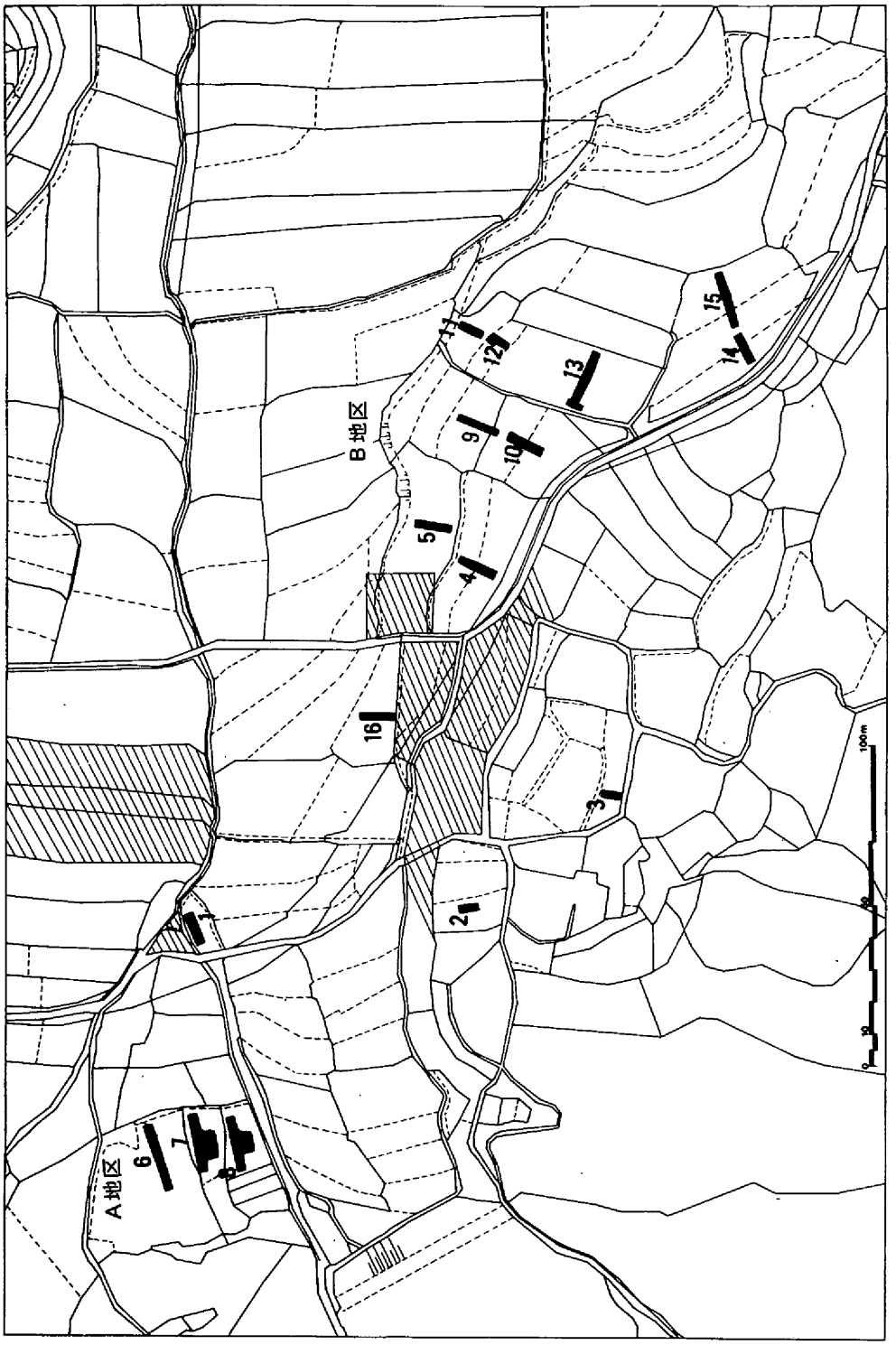
発掘調査実施地区は狭小な谷水田をはさんで二地区に分けられる。ここでは調査区の西側をA地区とし、東側をB地区として記述する。

A地区

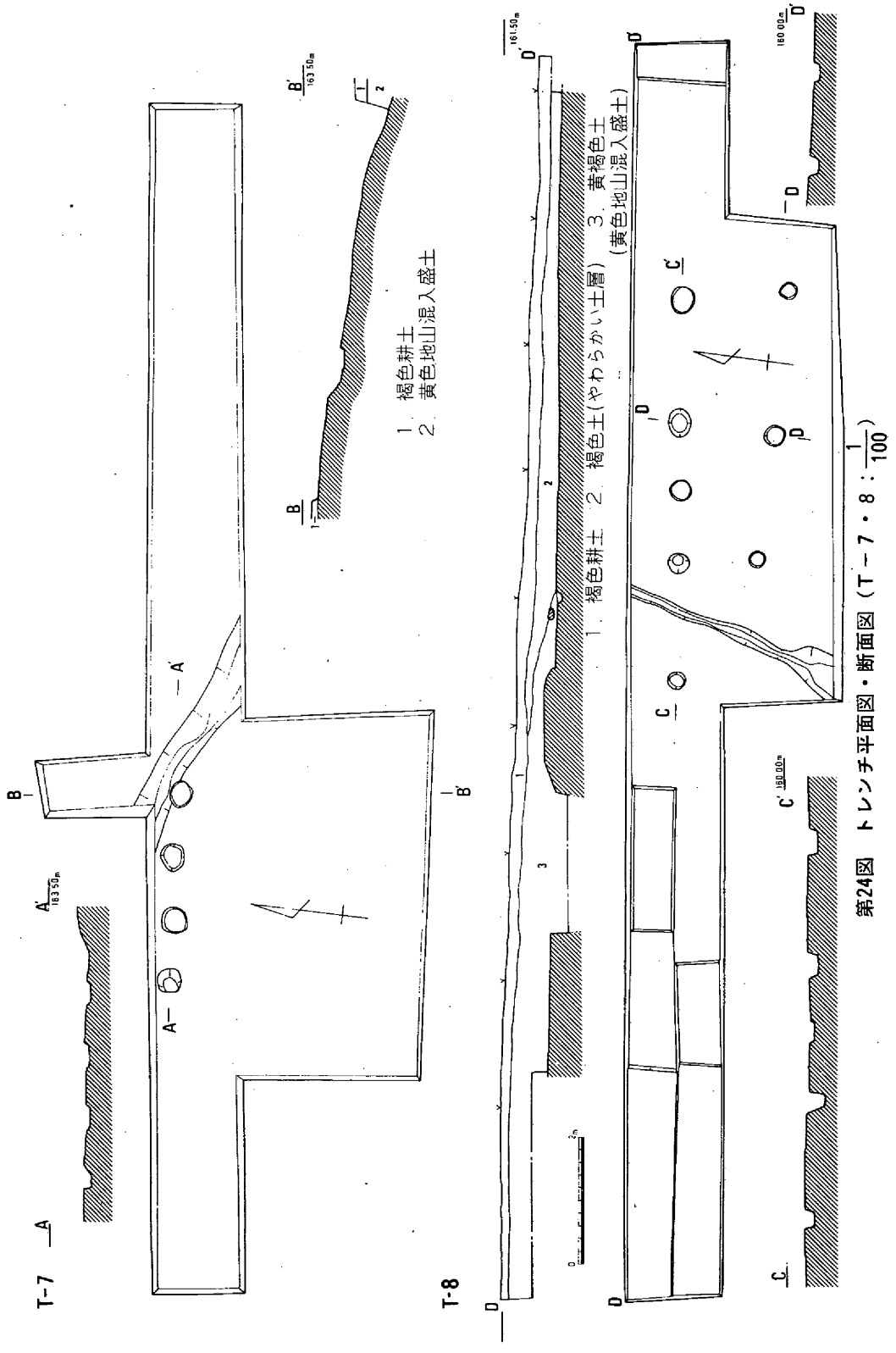
西南部から派生した丘陵端部にあたる地形で、T－１、T－６～８により確認調査を実施した。

T－１は耕土直下に黄褐色地山土が露呈し、すでに旧地形が削平されていることが知られた。

T－６～８は現況が畑地となっていて、東に面する斜面を二段に造成している。トレンチはいずれも等高線に平行する方向でおおよそ東西方向を基本にして実施した。T－６では耕土直下で地山土となり、その地山を掘り込む近・現代と推定される円形ピットがみられたが、この地点においても原地形は、若干削平されていることが知られた。T－７では、谷側に緩く傾斜する粘板岩系の岩盤を浅く掘り込んだ４本の柱穴と、同様に岩盤を掘り込んだ斜めに走る溝を検出した。柱穴は径17～21㎝の規模で、深さ６～11㎝を計測する。柱間の芯々距離は１ｍ間隔で狭い。柱穴列の総距離も３ｍと短い。溝は柱穴の西端に沿って検出されたもので、上幅約50㎝、底部幅５～25㎝、深さ３～20.5㎝の規模のもので検出長約1.3㎝ばかりである。この柱穴列と対になる柱穴の検出を試みたが、一部拡張した斜面下方部は基盤層自体が傾斜している上、柱穴が浅いこともあってか、柱穴の検出はできなかった。また、斜面上部については、柱穴列



第23図　トレンチ配置図



第24図　トレンチ平面図・断面図（T－7・8：$\frac{1}{100}$）

西端の個所において同様な目的で試掘したが、この個所においても検出されなかった。T－8では、東西に長い旧畑地のほぼ中央に、地形に沿って、等高線に平行するトレンチを実施した。その結果、調査区の西よりの耕土下約45cm強の部位で柱穴列を検出し、一部拡張区においてこれらに対応すると思われる柱穴を検出した。柱穴群は黄褐色の地山を浅く掘り込んだ径25～45cmの円形のもので、掘り込みの深さは最も深いもので25cm、浅いもので2cmと、平面規模、掘り込みの深さにおいてもバラツキが目立つ。建物の基本となる柱間については、P－3を束柱と考えてそれぞれの芯々距離を計測すると、P－1～2が185cm、P－2～4が210cm、P－4～5が190cmとさまざまである。また、対となる斜面下方柱穴との関係はP－5とP－8は少し角度を開くが160cm、P－4～7は同様にやや東に振って150cm、P－2～6は120cmである。

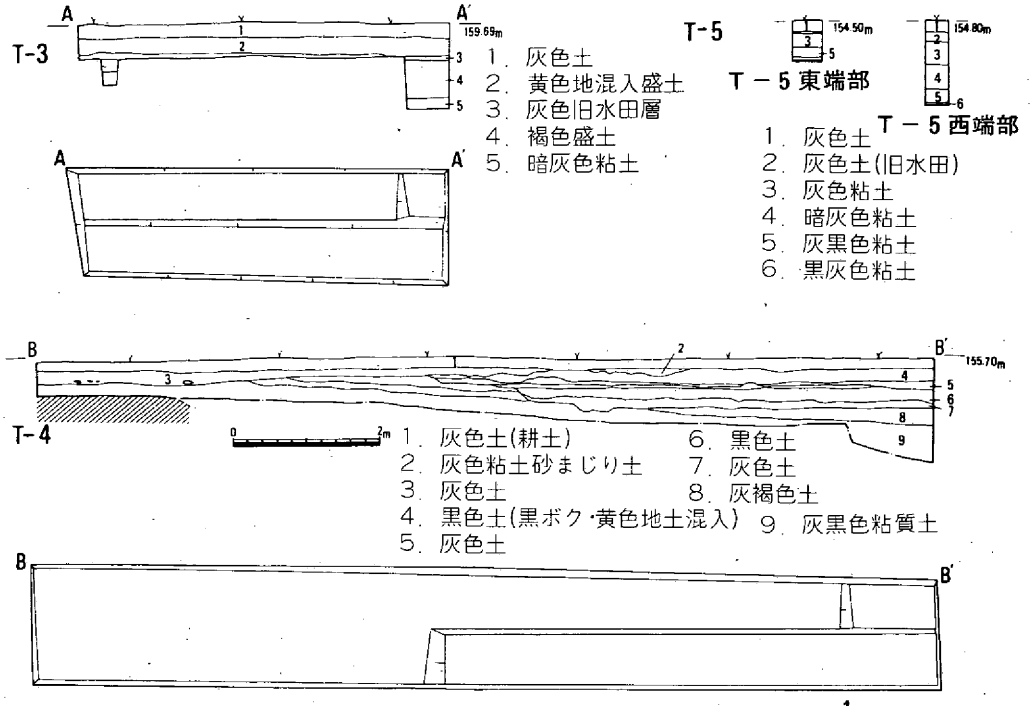
以上の計測によってもこの柱穴群から建物規模を規定することは難しい。出土遺物は弥生式土器片1、須恵器若干、陶磁器多数が出土している。しかし、遺構の時期を確定する遺物は定かでない。この調査区は地元郷土史家の話によれば、畑地の奥、つまり東側は「お堂」の跡といわれ、終戦前後までお大師様をまつるお堂が建ち、法印も住んでいたとのことである。もちろんこの話と検出された柱穴群は直接には結びつかない。しかし、法印が住むお堂跡であればそんなに新しい時期の土地造成ではないと考えられる。

このようにA地区の南斜面に、現在畑地として利用されている平担地はT－7、8で検出された柱穴の時期に造成されたものと想定されよう。その時期については確定できないが、出土陶磁器から近世以降として仮定しておきたい。

B地区

遺跡地図に記載されている野元遺跡の中心とされる個所である。遺跡の立地する地形は、A地区の東南方向に形成された台地状の地形であるが、こまかく観察すると緩斜面をなす山裾から町道を傾斜変換点として、低位の段丘状のほぼ平坦な地形が東北方向に張り出している。この平坦部水田において従来から土器が散布していたところである。

トレンチ調査はこの一帯にT－2～5、T－9～16と12本のトレンチを実施した。この内、T－2、3調査区は、圃場整備工事が飛び地状に離れた山裾部にあたるため、B地区にあっても他の調査区とは少し離れた山よりに位置する。また、この調査区の南数10m入った山林中には植山寺跡という寺跡があったという。T－2はこの寺跡にもっとも近い所に設定したトレンチであるが、関連する遺構、遺物は認められない。T－4、5、9、10、16は町道の北西から東南にかけての水田地帯に実施した調査区である。T－4は、B地区の北西部にあたる位置で、水田のほぼ中央部に等高線と直角に交わる状態で設定したトレンチである。町道の下端では、表土下約30cmで灰黒色をなす黒ボク層となり、さらに10cm下部では黄褐色地山土となる。反対

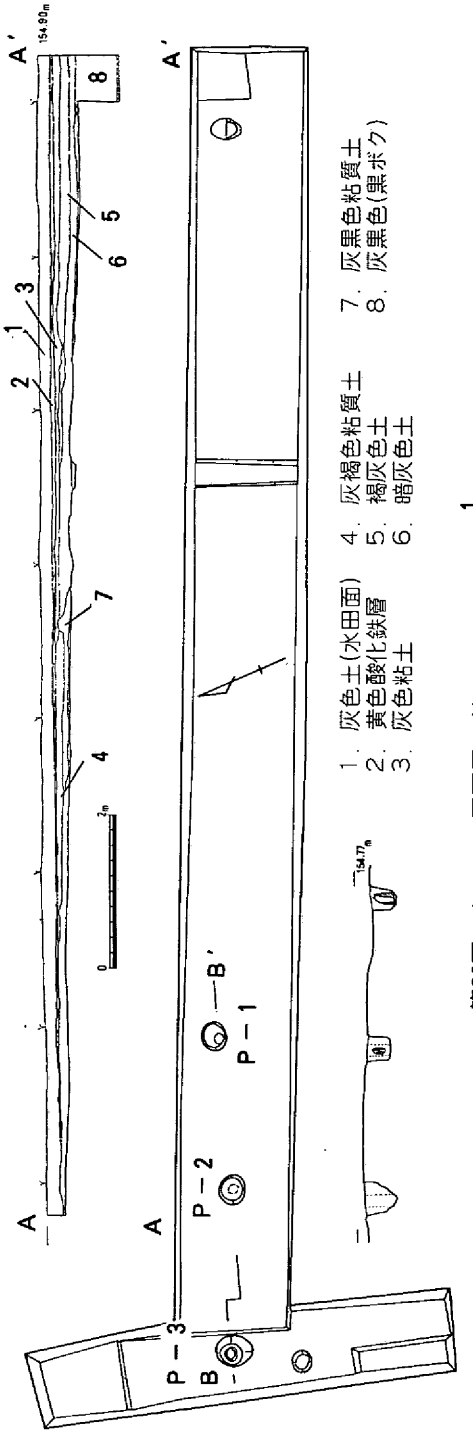


第25図　トレンチ平面図・断面図（T－3・T－4・T－5：$\frac{1}{100}$）

のトレンチ西端部では黄褐色地山は検出していないが、灰黒色黒ボク層の上面は表土下約87cmで、旧地形が緩く西の谷側に向って傾斜している。遺物包含土層は第8層の黒ボク上面である。出土遺物は弥生式土器、須恵器、土師器、鉄滓などがある。T－4に続くT－5のトレンチでは黒ボク層は確認されたが、遺物は包含されていない。黒ボク上面の包含層は、すでに削平されたものと考えられる。T－9、10にかかる水田は、所有者の話ではもと5区画あった水田が1区画とされたもので、トレンチ結果からもその状況が推察された。つまり表土層下は厚さ約30cmばかりの黄色地山土、黒色土のブロックを含む褐色の造成土であり、地山土は黄色粘質土であるが、この黄色地山土はかなり削平されていることが看取される。しかし、トレンチ設定前の表面踏査では、かなり多数の須恵器が採集された。T－11、12では、溝状の遺構が検出されたが、性格や時期は不詳である。T－13は、B地区の東よりにあたり、南北に細長く造成された水田に設定したトレンチである。調査によって、トレンチ全体で5本の柱穴と浅い溝状遺構を検出した。その内、調査区西よりの柱穴群のうちP－1、2は当初の掘り下げで確認されたもので、耕土下約30cm強の比較的浅い部位で基盤層となる灰黒色土を掘り込んだものである。この二個所の柱穴は同巧同大で、しかも柱材の材質を残しているが、建物規模や時期が不明なため、地権者の了承を得られた西側部分を一部拡張した。その結果、P－3の柱穴を検出した。P－3はP－1、2に対して少しずれているが、検出レベルや掘り方の埋め土等から判断して、

これらは一対になるものと考え、一応２間×数間を予測して、さらに調査区を南北方向に少し拡張したが、Ｐ－４の細い柱穴を除いて他確認できなかった。各柱穴の柱間（芯々）はＰ－１～２は200cm、Ｐ－２～３は210cmである。柱穴掘り方は径37cm～42cm、深さ30cm～41cmである。Ｐ－１、２は柱材が残っていたが、Ｐ－３は暗灰色粘土の柱痕跡を確認した。柱材がもっともよく遺存していたＰ－１の柱は、現存高29cm、径15cmであるが、木芯部は腐食していて周辺部約7.5cmの厚みを残すのみである。材質はおそらく広葉樹と思われる。Ｐ－２の柱材は現存長14cm、幅7.5cm、厚さ２cmである。材質はＰ－１と同様である。調査区東方で検出された溝状遺構は幅約35cm、深さ４～８cmばかりの浅い溝状のもので、性格、時期とも不明であるが、検出状況からしておそらく調査区西の柱穴群と同時であろう。

ところでこれら柱穴群の時期であるが、柱材を検出した調査区西側では、耕土下にほとんど包含層がかぶっていない。反対の東方は基盤層となる灰黒色土（黒ボク）が徐々に低くなっているので、その上に暗灰色土からなる土師器、須恵器の包含層を残している。須恵器の中には高台付坏もある。また、遺物整理中に出土部位は不明だが、中国輸入陶磁器の「口禿皿」が出

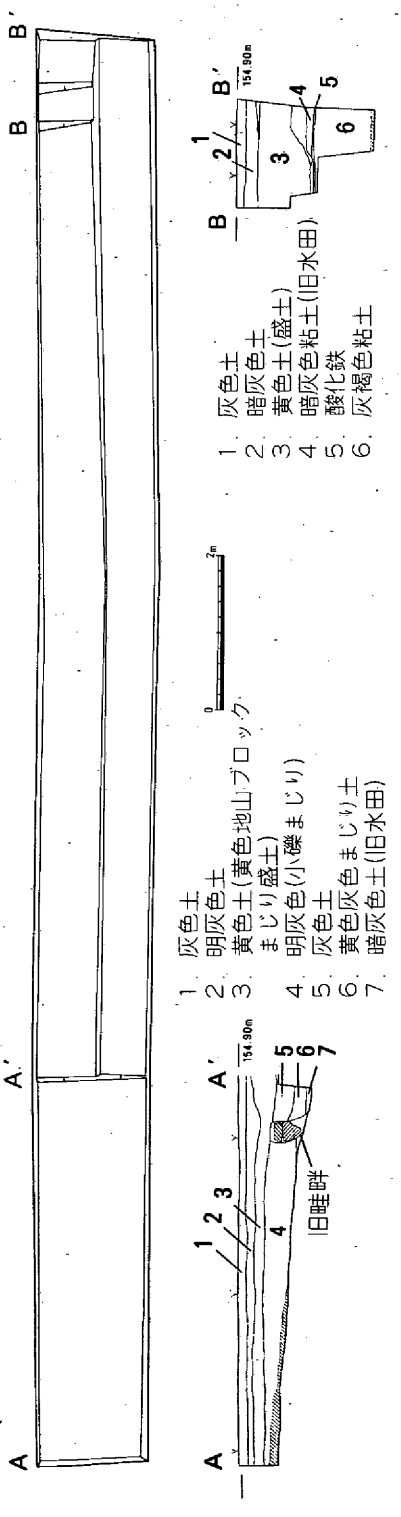


第26図　トレンチ平面図・断面図（Ｔ－13：$\frac{1}{100}$）

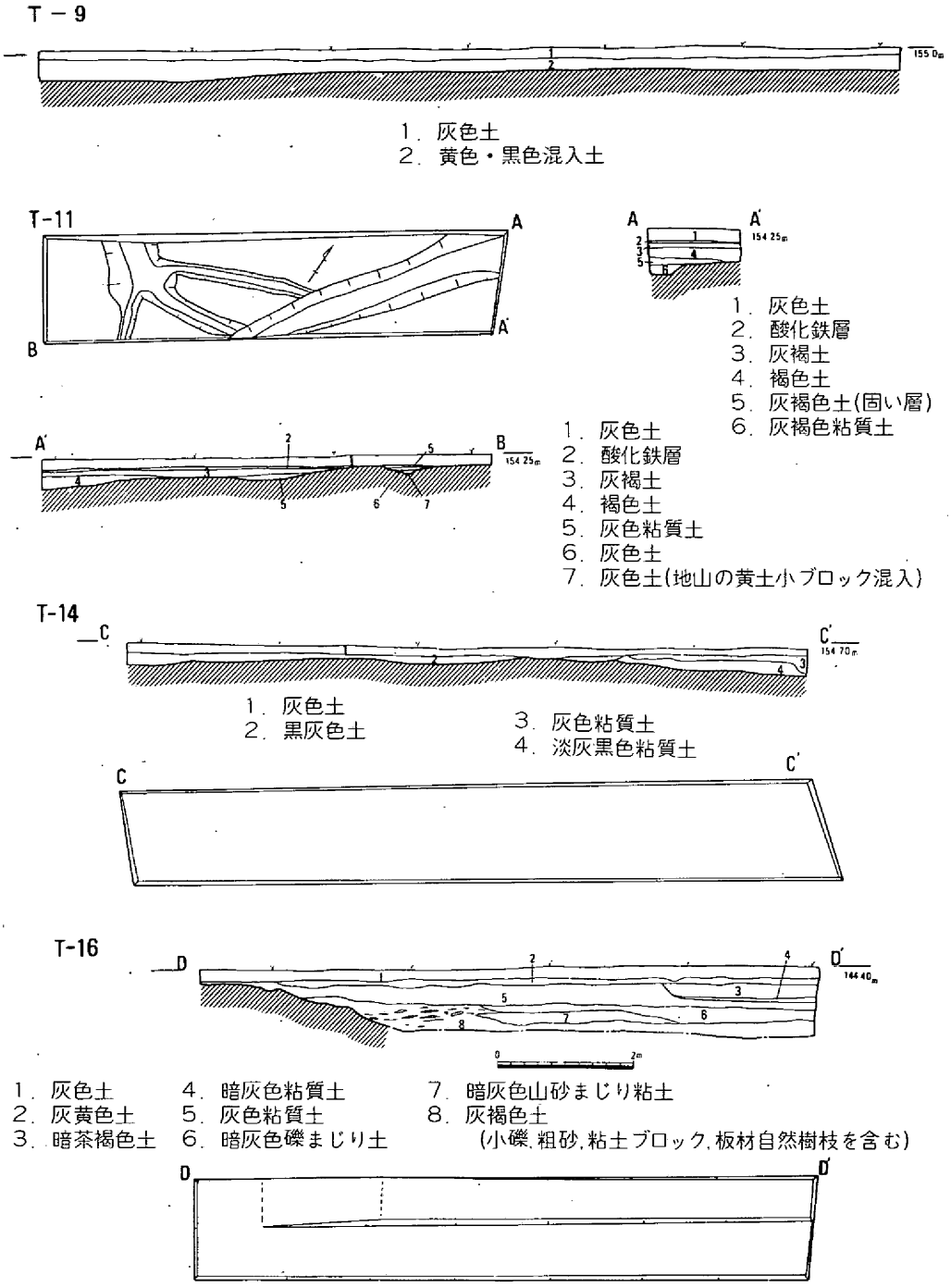
土している。したがって柱穴群の時期は、奈良時代から中世にわたる一時期としておきたい。T－14、15は、調査区の東端部水田に設定したトレンチである。この水田は現在は1枚の田面になっているが、以前は数区画あった水田を切盛造成したとのことである。土層断面の観察ではそのことを裏付ける。遺物はT－14の第2層で須恵器を採集した他表面採集においても少し採集されている。T－16は、地元の人の話で、以前この付近で須恵器が採集されたということもあり、さらに谷水田の状況を調査するために設定したトレンチである。

調査では、まさに丘陵部から谷底に向って下降する自然地形の谷部肩口が確認された。しかも、肩口部の地形が傾斜して下降した最下端は、小礫が堆積し、上流からの流れを予測させるが、その上には厚さ約37cmの灰褐色をなす自然堆積土である。この堆積中の岸よりには、レンズ状の粘土ブロックや自然木の堆積にまじって細片であるが、2片の須恵器長頸瓶や板材が出土している。現在、この谷頭は吹上(ふきあげ)池が構築され農業用の溜池となっているが、古くは、上流からかなりの水量の水路があり、後に流路の変更等によってこの部分は谷筋に沿ったよどみとなったことが推察される。

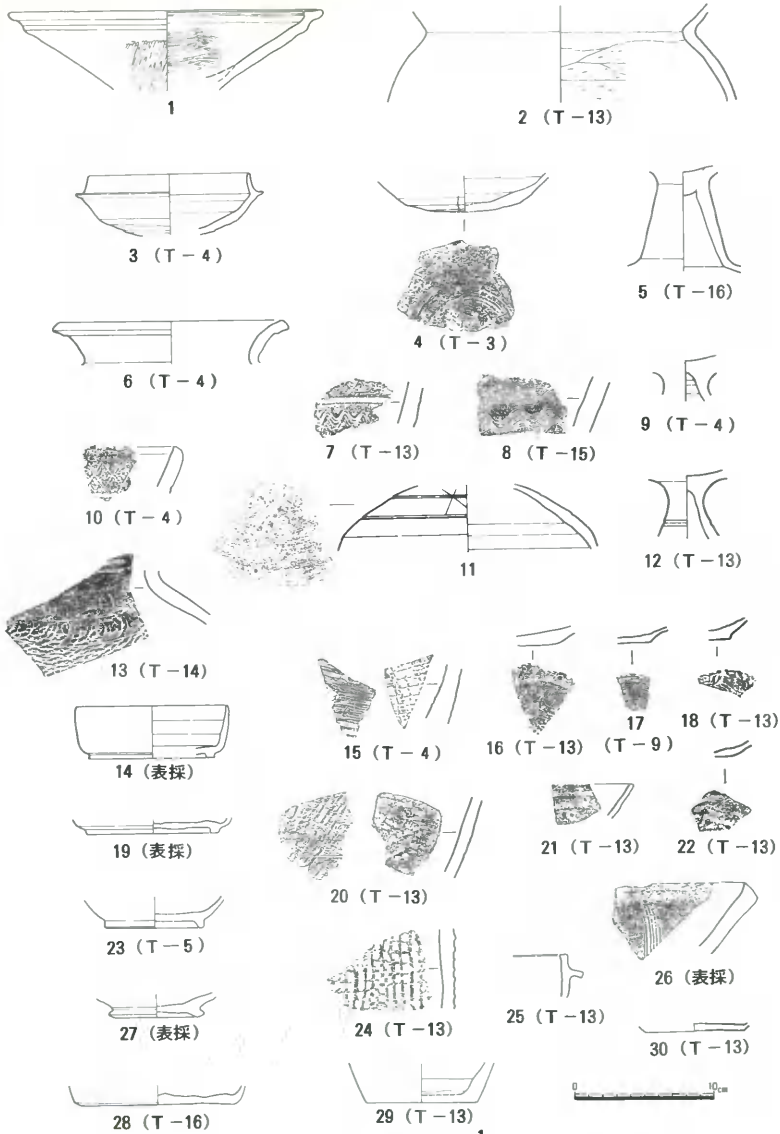
出土遺物は、全体で整理箱1箱程度で出土量は少ない。最も古い遺物はT－4出土の弥生式土器の高坏で後期初頭のものである。古墳時代のものは土師器甕、高坏、須恵器坏、甕、壺、高坏などがあり、坏身の1点を除いて後期後半の中でも新しい時代のものが多い。中でもT－4からは邑久古窯址群の寒風窯のもので壺か甕と推定される細片が注意される(註)。奈良・平安時代のものは須



第27図　トレンチ平面図・断面図（T－15：$\frac{1}{100}$）



第28図　トレンチ平面図・断面図（T－9・T－11・T－14・T－16：$\frac{1}{100}$）



第29図　遺物実測図（S＝$\frac{1}{4}$）

第30図　遺跡推定図

恵器高台坏、台付長頸瓶と推定されるものや糸切底の坏などがある。この時期のものでは緑釉陶器の皿と推定される3㎝×1.5㎝の小破片が出土している。現在の所鏡野町内では野元遺跡を除いて出土例を聞いていない。平安時代末から以降のものでは先の輸入磁器の口禿皿の底部がある。遺物は底部を含めて内外に釉を残す白磁の小破片で、13～14世紀代に比定されている遺物である。以上の外T－4では鉄滓片が出土している。

第3章　ま　と　め

今回の調査は圃場整備事業に伴う事前の確認調査であって、合計16本のトレンチを実施した。その結果以下のことが判明した。A地区では、東南斜面に二段に大別される造成面があり、いずれの段においても地山を浅く掘り込む柱穴群が確認された。また、下段部は柱穴群以外にも調査区内で大きな掘り方も確認されていることからこの地区は近世ないし近代頃になんらかの施設があったと考えられる。B地区ではT－4、T－13の水田で良好な柱穴遺構や遺物包含層を検出した。とりわけT－13の柱穴群はこの水田一帯に遺構が広がることを予想させるとともに、その遺存状態も大変良いものと推察させる。出土遺物中の緑釉陶器はこの柱穴群とも関係をなす遺物かもしれない。ともあれ、野元遺跡は弥生土器の散布地として把握されていたのであるが、今回の調査では遺跡の主体は掘立柱建物群をなす歴史時代であることが判明した。しかもその中心はB地区の町道から北側に造成された低位の段丘であることが知られ、一部「マチ倒し」で破壊されている所もあるがその広がりは0.63ha以上であることが予測される。

註

（註1）西川　宏　「備前の古墓」『古代の日本』　4　角川書店1980

図　　版

1.　発掘区遠景（西北から）

2.　発掘区遠景（西北から）

図版14

1.　T－1（南東から）

2.　T－3（北西から）

図版15

1.　Ｔ－４（南東から）

2.　Ｔ－５西端部（南東から）

図版16

1.　T－7（南から）

2.　T－8（西北から）

図版17

1.　T－9・10（西北から）

2.　T－11　溝断面（東から）

図版18

1.　T－13　柱穴群（南東から）

2.　T－13　柱穴材検出状態（P－1）

図版19

1.　T－13　柱穴材検出状態（P－2）

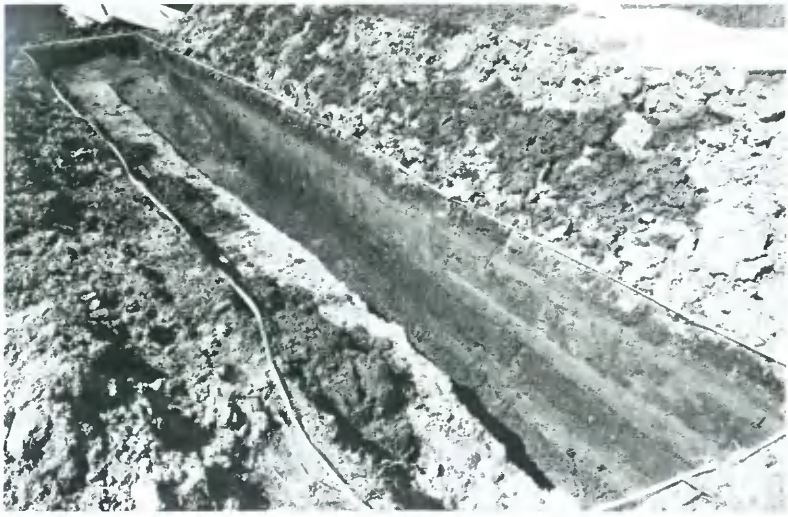
2.　T－13　南東端部断面（東から）

図版20

1.　T－14（南東から）

2.　T－15（東から）

図版21



1.　T－16（北西から）

2.　T－16　板材検出状態（東から）

図版22

1（T－4）

2（T－3）

3（T－16）

4（T－4）

5（T－13）

7（表採）

6（T－4鉄滓）

8（T－4邑久古窯址系須恵器）

9（緑釉皿底部）

（表）

10（T－4）

（裏）

11（T－13）

12（T－13口禿皿見込）

13（T－13P－1柱材）

1．出土遺物

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　62

蓮池尻遺跡
新庄尾上遺跡ほか
美野条里遺跡
二反田B遺跡ほか

昭和61年3月15日印刷
昭和61年3月30日発行

編集　岡山県古代吉備文化財センター
発行　岡山県教育委員会
印刷　柳本印刷株式会社